

## 【日記翻刻】 奥田八二日記（連用）（1968～70年）

藤村，理紗  
九州大学法学部：学生

金丸，敏昭  
九州大学：事務補佐員

藤岡，健太郎  
九州大学大学文書館：教授

<https://doi.org/10.15017/4774148>

---

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 8, pp.49-341, 2022-03-31. 奥田八二日記研究会(九州大学大学文書館内)

バージョン：

権利関係：

【日記翻刻】

奥田八二日記（連用）（1968～70年）

翻刻 藤村理紗

金丸敏昭

校訂 藤岡健太郎

凡 例

1. 本翻刻は1968年から1970年までの三年連用当用日記を年ごとに翻刻したものである。
2. 原文は一部を除き縦書きであるが、横書きに直した。
3. 漢字の旧字体および異体字は固有名詞等を除き、常用漢字体または印刷標準字体に直した。また原文に「𠄎」と記されたものはすべて「経」とした。
4. 明らかな誤字・脱字については適宜修正した。疑問のあるものについては「ママ」を付した。判読できなかつたものは「<sup>(不明)</sup>□」とした。
5. 踊り字のうち「くの字点」は文字に直して表記した。
6. 原文の振り仮名はそのままとした。
7. 原文では句点と読点が明確に判別できない書き方がなされているため、本翻刻においては文脈等から適宜句点・読点を判断した。また、句読点が打たれていない場合も多いが、その場合についても文脈等から判断して適宜句読点を追加した。
8. [ ] で記されたものは原文の記述である。
9. 日記本文記入欄以外に記入されたものは【欄外記入】とし、原則として各日の末尾に掲載した。
10. 原文中に差別用語等がみられるが、歴史資料としての意義に鑑み、すべて原文のとおりとした。
11. 日記に貼付または挟み込まれている新聞記事等については、その記事名・掲載紙の情報等を【 】で記し、文面については掲載しないこととした。
12. 翻刻は原則として日記全文を対象としたが、研究会の判断により省略または「○○」とした部分がある。
13. 【 】内は研究会による註記である。

## 1968年

1月1日（月）

平凡に元旦を迎える。

「社会主義」二月号の原稿のための資料読み。

賀状の整理。

1月2日（火）

「社会主義」二月号への原稿が重荷。二〇枚ほど書く。

境夫妻があいさつに来る。

賀状の整理。

1月3日（水）

初登校は午後二時になった。

みいけ20年史資料篇の解説の一部を書いてみた。明日は三池で積もっている問題を片づけねばならぬ。夕食をしていると、珍しくも岩永幾夫君がやってきた。三年ごしぐらいではなかろうか。ねっちりしている男だから午前三時まで話して帰った。私塾を開いているという。それを企業化しているようだ。

社青同や協会の話もした。

正月三日間の天気は上々。

岩永君と話しながら考えたことだが、青年のさまざまな欲求を対象とする運動の仕方を考えてみたらどうか——わが方にも。

1月4日（木）

八時の電車で大牟田へ。嶋崎、衣笠、八丁の四人。大坪はこなかった。三池労組の本部は人も少なかったが、大津留など、われわれに対する態度は冷い。「社会主義」再建号や、「唯物史観」五号、向坂先生の訳「資本論」が書記局のあちこちに目につく。

三川支部に行く。CO問題大詰めの主婦たちの構内への動員がある。協会の名で集まっている主婦たちにメッセージを送ったあと、CO問題についての主婦の声を録音。十二時半頃からの東門でのみみ合いをみる。宮川組合長には会えないまま帰福。「みいけ20年史」関係のことは又もや未解決。

午後四時～十一時、拙宅で支局常任委員会。名田、中西欠席。

1月5日（金）最良

原稿を書く気もせず、身边を整理し、北海道ゆきの準備をする。

二一時一七分の「平戸」で上京。

1月6日（土）

新幹線で東京駅ホームに着いたら誰かを迎えに出ている古賀秀則氏とあった。ホームでしばらく立ちばなし。浜松町のモノレール駅で待ちあわせていた協会の久本君と原稿のことなど打ちあわせ。三時半の羽田発で札幌へ。

定山溪のユースホテルに着いたのはもう午後八時を過ぎていた。

全林野の集会の第一日目はすでにはじまっていた。ムンムンする青年の息の中でしばらくあいさつを行ない、明日を待つ。

1月7日（日）

朝から夕方まで私の講演。夜、分散会で討議——これが第二日。私のテーマは体制的合理化と目標管理というもの。

あとの質問で、合理化反対運動の中にどうして社会主義運動が入ってこなければならないのかという質問が集中的におこった。組合主義の中で反合理化運動が可能なはずという気味でいるのが一般の空気。年齢も若いし、運動、思想の経験も少ないので無理はないし、従来の日本の労働運動の中で、政党支持で議論は沸くことはあっても、労働運動の中の党活動というものが問題になる事が少なかったので、この質問も無理なかならうと思う。

1月8日（月）

午前中は昨日の総括。

午後札幌市内へ。

全林野共済会館で、札幌地本の青婦活動者会議で、学習活動をどう進めるかについて講演。この種の講演ははじめてだが、かなりうまくいったように思う。学習ということをもっと理論的にまとめる必要を感じた。

この共済会館に二泊する。夜は原稿書き。『社会主義』の「春闘の土俵としての人手不足と資本の対応」というのをほぼ書き上げるほどに筆は進んだ。

雪がどんどん降っている。

1月9日（火）

ゆうべはよくねむれなかった。原稿の能率は進んだものの健康のためには全くよくない。今日も書き進める。昨夜から今夕まで五〇枚あまり書いた。ようやく東京で渡しうるまでこぎつけることができる。

夜、札幌の協会員たちの会合。全林野松田君が集めたもの。13名。小樽、赤平からも三〜四名ずつ来ている。北海道協会の全員総会となる。だが、支部なしに各班として本部に直轄という変則の形をとっている。私は協会の任務、活動のあるべき姿などについて話した。この内容は後に原稿にしたいと思う。七日に旧協会の姿で全員総会があり、松井、葛西、森尾、山崎（参議）ら脱落派の人達がリードしていたようだ。二〇名集まったという。これらと競争することが当方の当面の任務である。

#### 1月10日（水）

乗りつぎながら札幌から福岡まで空路帰ってきた。それでも九大にたどりついたら午後二時半にもなっていた。福岡は雨。

三時から教授会。緊急学生対策が主たる議題。

学生の動向をあまりに神経質にとらえすぎてはいないだろうか。対策を厳重にすればするほど不祥事件がおこりやすいのではないか。「第三の羽田」を呼号している三派系全学連と秋山の指導の動向が注目の的。警官を大学に導入しないことそのためにどうするかが大学として最低限の要望であるが、ここがむつかしい。

羽田空港では酒井君にあえなかったの、帰福してから原稿（「すくらむ」「社会主義」）を送る。

#### 1月11日（木）

正午から学生会館運営委員会。学生側は正式には参加せず、秋山（三派系）の集会には学館を使用させないという問題、集会室の不当使用解消の問題、学生側に責任をとってもらう事をふくめて警告。早急に運営委員会が開けるよう準備する事を学生側へ要望。

一時半からエンブラ関係九大対策会議。引き続き寮務委員会。学生部参与会。寮生募集と寮にエンブラ関係者の宿泊をさせない事を申し入れる。参与会は一八日に入港する時の現地佐世保に出張する問題について。

八時半にそれが終わったあと若松旅館で開かれている九大 SP に出席。私から学生対策を報告。十時から三時間ほど、嶋崎、山田の二人と若松で呑んで話しあった。

#### 1月12日（金）

講義は大義だった。それほど疲れていた。保健室で下痢止めの薬と安定剤をもらう。疲れがひどいようだ。睡眠がとれないのがいけないのだろう。

秋山勝行三派系全学連委員長を入れた講演会が遂に学校側の制止をききいれずに午後四時から開かれた。各派それぞれに別の会場で集会をもっていたが、報道関係が刺戟する結果、秋山系の集会は三〇〇人ぐらい（一〇六番教室）集めて最も盛大だった。

三時から専売寮で公労協の合理化研究会（問研援助）があったので一時間ほど出席。あとは

学生関係ばかり。

1月13日（土）

十時から三回目の対策会議。（本部）昨日から報道関係者にまじって私服や公安調査官が相当教養部内外に出没している様子だし、少し騒々しすぎるのではないか。

一時半から緊急教授会。主として警官導入、当日（一六日）学外の三派系、民青系学生がおしよせた場合にどうするかについて根本的態度を協議。

学生の集会、マイク合戦もいよいよ盛んである。

三派系でないもう一つの学生集団のデモが校門の前の道路をデモしているとき、警官から一名逮捕された模様。

新聞報道によると文部省は各大学に管理体制の強化を指示している。

1月14日（日）

今日も登校。身辺整理。学生運動の関係での待機なんだが、問題はなさそうだ。

朝から藤本氏ら五人で造園の工事。工事といえば天気が悪い。今日もみぞれが相当に降っている。風と雪の夜になった。

あす朝、三派学生が九大に入構するというので徹夜の警戒態勢にはいる。

1月15日（月）

雪深い中を五時登校。

成人の日休日だというのに朝六時四五分着の西海号で下車し教養部学生会館に一直線に入ってくる。三派系学生に対し門は内から開かれてしまった。しかし、この「暴力」学生によって占拠される方が警官隊によって阻止されるよりはどれだけましだろうか。開門は正しかった。が、これをきっかけに学内世論は半ば硬化した。

全学的にテンヤワンヤ。

闖入者をめぐって苦悩の連続。しかしこれが自治というものであろう。退去勧告もむなし。秩序を守っている限りこれ以上の手の下しようもない。

1月16日（火）

池田教養部長が午前〇時二〇分に、六時までに退去せよとの退去命令を出す。ゆうべは二時間ほど眠った。

講義は平常通りやったが闖入者の妨害はなかった。かれらは学内で集会やデモをやった。

1月17日（水）

闖入者たちは午前三時頃から動き出し、六時四五分の「西海」に乗れるよう行動をとって、

構内から退去した。あとは昨夜来の説得の一部をよく守り掃除もよくやって出て行った。学内の警備態勢は平常にもどった。朝九時～午後二時休眠。学内の学生たちは授業放棄。ところが午後になって、闖入者たちが帰還するというので非常呼集評議会の決定ということで、とうとう午後六時柵に有刺鉄線がはりめぐらされ、全学教職員九〇〇名が警備に動員され、学生会館も臨時休館となった。六時四〇分頃校門は突破され、八時すぎ、学館も開館、平常にかえった。闖入者は各部屋を占拠したまま。

#### 1月18日（木）

ゆうべは二時帰宅。九時半に起きてゆっくり登校。久しぶりに骨休めをする。五時から臨時教授会。それは教養部が独自の力で、今夜帰館するであろう三派系全学連の学生にどう対処するかをきめる会議である。昨日は、まだ率先躬行者が足りなかった。学長、学部長が先頭に立たなかった。各学部が来援してもさほど成果をあげえない。評議会や対策会議は尻ぬぐいしないではないか、教養部が独自にやるべきだとの意見が強く表明され、今夜の警戒はその線でおこなわれる。私は体の調子など他の理由もあって、午後九時帰宅。その後は休んでしまった。

#### 1月19日（金）

昨夜は学長、部長率先で大学の防衛にあたり大変だったらしい。二〇〇名が帰ってきたからである。佐賀大に行った一〇〇名は今朝早くから佐セボに行き現地で警官と乱闘をやっている。こちらの全学連も九時すぎには佐世保に着く。エンタープライズは九時半やってきた。

“暴力学生”をとというが、エンブラを帰し、警官の暴力をやめさせることが併せて必要である。

講義は平常どおり行なった。佐世保で行動した連中が続々この学生会館に帰って来て組織を整備している。かれらの総勢は三〇〇名ぐらいだろうか。田島寮に泊る模様である。

#### 1月20日（土）

学生たちは資金カンパに出ていった。平穏である。教養部長は責任感からか、若干いらいらしているように思える。ひる頃、寮に侵入した者は出て行けという意味の退去勧告を出した。午後二時から本部で寮務委員会、参加会があった。寮での退去勧告を追認するのが目的。この中で、羽田事件に関し、育英会資金打切りの問題が出され、九大としては育英会のやり方には賛成できないという態度から、資料提出は期限までにはできないことにきめた。終って五時半から一時間、対策会議。教養部の自主性を尊重する線は堅持。帰校し、部長室で夜半二時頃まで雑談した。

1月21日（日）

二十一日は自宅待機ということながら（対策会議の決定）どうして、早朝用務員の人が私を呼び出しに来た。八時すぎだった。学生会館に捜索の手がのびたのである。急ぎかけつけた時は学館はごったがえしていた。捜査班の奴らが過剰捜索しているので、押収に手間どり引き揚げたのが十二時頃だった。

学生たちはトラブルをおこさなかった。主力は出ていった後だったからでもある。その代わり佐世保では第三回目の乱闘となり、三～四人は遂に米軍キャンパスに突入したりした。昨日の資金カンパの成績のよさからみてもわかるように、今日は市民の応援も目立っていた。われわれの説得の甲斐もなく、約三五〇が寮に帰ってきた。（午後十二時）。

1月22日（月）

十時すぎに登校。昨夜寮に泊った学生たち二百数十名が学生会館に集結し、資金カンパのため市内へ繰り出す準備をしている。十二時頃校内をデモりながら、あと出て行った。ゆったりした昼間だった。長い長い学生運動対策の日々だったので、体が綿のように疲れている。虚脱気味でもある。

学生委と学館委の合同会議で、明日あるかも知れぬ寮の強制捜査にそなえた対策をきめる。

1月23日（火）

寮に対する捜査があるかも知れぬというので、部長も川口氏も泊りこんでいて、私も早朝出勤したが事はなかった。三派系の学生二〇〇名余りは早朝佐世保に出向き、追出しデモをやったあとまた九大に帰ってきて、夕刻から学内デモや総括をしていた。夜十時の急行西海号で離福すると全部帰るわけである。四時からの人事委の席上、部長は辞意表明。一つの論法をもってなかなか頑固つまり、処置は誤りではなかったが、事実に対する責任があるという。われわれは部長がここでやめるという事はやった事の正当性の主張、大学自治防衛上甚だ困るといふのだが・・・

みゆき、歯の治療を本格的に始める。

1月24日（水）

庭師の藤本さんが教養部の土堤にあるつつじ（淀川）がもらえるならよいというので、白水教授を通じていただいた。

昨日からの、教養部長辞任の問題が、今日も十一時からの人事委、二時半からの教授会にかかった。池田教養部長の辞意はかなり固いとみられる。新旧評議員が総長と会見し、この問題を善処するよう要望。総長は明日上京して文相とあう。

教授会の意をうけて、事後対策会議が構成された。記録作成や佐世保事件に対する教養部の態度表明などの仕事をする。学生との接触強化策も。本日から学生会館は平常に復帰した。



1月25日（木）

久しぶりに何ごともない一日だった。事後対策会議のメンバーとして資料づくりは大仕事なので、午前中に、事務レベルで、可能な資料づくりを早急にやってくれるようにたのんでおいた。このことで時間をたくさんとられるようなことがあると、目前の山積する仕事が全くできない。

講談社の炭鉱整理に関する原稿が気になってきたし、前期の試験の答案も採点してしまわなければならない。これらは二月まで持ちこせない仕事である。学生が一〜二、催促するので今日から少しずつ採点することにした。

昨日、橋口建設から風呂修理にきた。なんだか気が抜けたような話だが、ケリをつける意味がある。支払いが残されているので。

1月26日（金）

講義。

前期の試験、レポート採点。

上田教授の要請で正午から学生会館運営委員会を開く。三派系の学生がまだ残っていて、学館運営が非平常だということである。学生側委員には、学生処分のこともあるし、とくに留意するよう伝えておいた。もう少し、統制力をもち自覚を高めてほしい。

学長が文部省に行って、文相が事態にケジメをつけるようにというのと吻合させ、門のカギをこわした学生、授業を妨害した学生を処分するとか、いつているが、そのような学生は九大の学生としてはみつからない。安うけあいをしてくれるとこまる。

1月27日（土）

朝ゆっくり。

佐大の講義。これは何だか<sup>フツ</sup>実がはいらない感じ。つづけていた社青同の学生たちの集りも、行って見たが、誰も来ていない。特別の集会をやっているらしい。

佐賀に行く前に朝日新聞から記者が教養部長辞任説や、学生処分について電話で問い合わせがあった。いい加減に答えておいたが、毎日新聞には夕刊に小さいスペースを作って書いていた。新聞報道なんか、無責任だから事あれかしと願っているようで感じが悪い。

1月28日（日）

今日のように一日中在宅のことは珍しい。住宅の環境整理である。フスマなおし、ゴミヤキ。昨日から造園の藤本氏が来ていて渡口氏が手伝い、辻氏も午後おそく来て、三人で築山と池を。

みゆきが約束があるといってひる前から出て行き夕方帰ってきたが、中食、夕食の準備をしなければならぬので、私が賄方。

夜はみんなで飲みかつ談じた。佐世保事件の三派系学生への同情論やわが方の戦術指導の拙劣などが歎ぜられた。ゆっくり話しみんなが帰ったのは十時すぎ。今日は協会九州支局の理論戦線グループの定例会があるし、前期試験の採点を早くせねばならぬ頃になっているのに時間が惜しかったが、住宅周辺のことでも時間をを使うのも久しぶりに有意義であった。

1月29日（月）雨

午前中おそく出校。

住宅貸付金の交付がまたおくらせているので、事務長を通じて担当者に事務渋滞を自覚してもらった。

午後、事後対策会議。

部長辞任申出に関する明日の全学協議会に対する態度、教養部内事後対策。講談社への原稿がおくらせている。そろそろかゝらなければならない。月末が締切り。二十七日の夜決定したということで学生の一部で佐世保事件救援五〇〇万円カンパ運動が全九州的におこっている。学生会館がその事務局になっているが、それがまた一つの頭痛のタネである。

1月30日（火）

講義。

学生部長が辞任するということが読売新聞に出ている。十二時半から緊急参加会があり、百瀬部長からその説明をうけて討議。

この頃（二時半）本部前で教養部長辞任反対の学生の集会があり、民青系（学友会系）以外の学生が三派系を中心に、折からそのことを中心議題として開かれていた全学協議会に圧力を加える意味で、本部廊下にデモをかけた。

学生部長辞任問題は一応全学協議会にかからないことになっているが、果してどうだろう。参加会では、内田、矢野両教授を立てて、慰留するよう学長に働きかけることになった。福銀県庁内支店の借入金二五万円につき一ヶ月期限延長の手つづきをとる。

1月31日（水）

福銀六本松支店の七〇万円借入の延長手続きをする。

憲法教官選考委員会、横田氏を採用する原案可決。

学生会館運営委（教官側）

学生会館の運営の正常化について、明日の運営委に提出する教官側提案の検討。

教授会（四時～八時）

教養部長辞任問題と事後対策会議について。

一月はとうとうエンプラさわざに明けくれてしまった。しかし、われわれにとって何の収穫

もなかったわけではない。学生運動という客観的存在を改めて考えなおすチャンスが与えられ、一歩前進した考え方が可能になってきたように思えるのである。

## 二月予記

目がまわるような忙しさのうちに一月は終わった。エンタープライズ寄港の余波はまだ高い。春闘をひかえての労組の動きも活発。二月はさらに輪をかけた忙しさになりそうだ。

## 2月1日（木）雪

直美が誕生日にランドセルを買ってくれという。この約束はずい分以前からのもので、今日はその履行日である。朝から降り出した雪はぐんぐん積もり、近々最低の気温にさがったのではなかろうか。みゆきと直美が研究室に来て正午少し前に新天町に買物に行く。直美のうれしそうな顔動作は忘れられまい。

夕刻、学生会館で学館運営委員会が正規に開かれ、私が座長をつとめ、運営の正常化について一歩進めた話しあいをもった。

夜、一彦は帰ってこずばらばらな夕食、誕生祝となりそうだったが九時頃に阿部夫妻が来訪、こよなき誕生祝賀の夕べとなった。

## 2月2日（金）

みゆきはボリショイバレーが市民会館に来ているのをみに行った。

講義。終ってすぐ教養部事後対策会議。教養部の基本的見解を出すことについて。

すぐあと参加会。一時半より。学生部長辞任についても討議があった。

一時半から招集されていた県婦人会議有志の集まりに出席したのは五時半。那の津荘。午後一〇時以降は拙宅に行く。今吉、安武、藤原の三人。他の五人はそれぞれの都合によって夕食後適宜帰宅。社会主義協会婦人組織がはじめて出来るわけである。就床午前二時頃。

## 2月3日（土）

昨日からサイゴン、ユエに反政府革命連合政権樹立される。旧正月休載破棄の代償としておこった全面的反攻ゲリラの集約でもあろう。

学生会館大ホールを中核の講演会に使用許可を与えるかどうかで緊急学館運営委。結局許可したが、おかげで今日もまた佐賀大学の講義は休まざるをえなくなった。

## 2月4日（日）

全通佐賀東唐津の郵政クラブで春闘講座。委員長の杉光氏を発見したことは収穫であった。講談社の原稿「炭鉱の整理」に着手する。

2月5日（月）

全通佐賀、佐賀会場、葉隠荘、春闘講座。東唐津同様に組織攻撃があっている割合にはのんびりした感じの聴講者であった。夕方講義のあとで——県評の大島君と打ちあわせていて佐賀に協会の組織を作ろうとしたのだが、佐大の小柳君を連れて来ただけで、結実しなかった。それでも佐賀には一〇名近くの協会支部ができそうな話。なるべく早く発足することを申しあわせ帰福（喫茶店ナンバーワン）。全通の杉光氏は唐津の方がいそがしいということでは来なかった。

今夜は九州支局の常任委員会がある日だが私は欠席した。

2月6日（火）

講義。これで今学期は終り。

講談社の原稿「炭鉱の整理」（ペラ二〇枚）を仕上げて発送。

2月7日（水）

一〇時から倫理学の後任教官選考委員会。何回もやったが四六才にもなる人物を第一候補にもってこようとするところに大体無理があるが、すったもんだのあげく、西南大学の猪城という第一候補にとうとう落ちついて、ケリがついた。すっきりせぬ。

国鉄労組の労働講座で阿蘇へ。途中熊本に下車して田島君とあう。科学研究費の申請についての下うちあわせ。

2月8日（木）

国労の労働講座。朝の九時から正午まで。（西部本部、春斗について）夕方博多着。

2月9日（金）

やっと住宅貸付金が出たので、福岡銀行の二口、東京高橋先生へ返済の手続きをする。共済組合の事務の怠慢ぶりにはあきれれるが、一区切りがついたのでホッとする。

午後六時から折尾の福祉事務所の森山、林田君らを中心とする集会があるというので呼ばれて出席。教師、学生、主婦らとりまぜて二三名。話は一般的な政治の話や組合運動をはなれてわれわれは地域の社会で何をなすべきかに進んだ。ベ平連の人もいて、二月十五日には黒崎駅前平和デモをやろうということになった。来集した人々の層が広いので、今後どうやってこの会を維持していくかが問題である。中核を作ってそれを協会に入れていく仕事はぜひやらなければならないと思う。

2月10日（土）

学生会館の件で事務長らと相談。他大学の学生が入り、同一の集会室を不当に長期にわたっ

て占拠しているというけれども、学生の立場にもなってみると、にわかには追い立てる手もない。

佐大講義。寒い。

夕方帰博。

中央常任委員会は、佐大の講義を休まれないために、欠席することにした。

2月11日（日）

佐大の補講。朝九時から午後三時半まで。今日もまた大変寒い。帰りは学生の下宿に立ち寄り、三月一日の講演についてうちあわせを行う。佐世保事件をめぐる、核武装反対と大学自治についてほり下げてみようということである。

国労の通信講座の執筆が気になる。昨日がしめ切りである。

三池労組が、「みいけ20年」の原稿料不払い、資料篇編集に非協力の態度をとっている。これが気になる。明日はまた催促をしてみよう。

藤本氏（造園）が来ている。

2月12日（月）

朝一〇時半から夜の十一時まで熊本から田島君、その他相原、船木の三氏が集まり、研究室で科学研究費の申請書作りに集中。テーマ「自動車・電機・鉄鋼・造船・炭鉱における系列下請企業の生態に関する比較研究」というもの。一〇〇万円近くの研究費の要求。作業時間だけでも大変だが、申請書を清書するのはまた大変。

2月13日（火）

四～五時の未明に、学生会館内で反帝反戦両派の乱闘があった模様。第1、第2、第3の集会室、とくに第3集会室の破損がいちじるしい。また、西南の酒井という学生が重傷を負って鳥飼病院に入院中という事件である。学生会館運営委員会が終日開かれた。両派のおこしたこの二つの事件はかなり決定的な意味をもつと同時に、内容としては学生運動の将来、大学の自治に大きな波紋をなげかけるであろう。

2月14日（水）

教授会が遂に深夜午前一時にまで及んだ大変な日だった。

警察から被害届を出せとってきているのにどう対処するか、学館使用制限について、学生処分について、の三つが中心議題。被害届を出さず出さないで論議がつづいた。結論なしということになる。使用制限と処分については明日具体的な作業に入ることになった。

大雪。二〇センチぐらいつもる。

十四日夜半から十五日午前中にかけて、ベタ雪

何年ぶりかの大雪で、樹木の被害大きそう。

2月15日（木）

きわめてしんどい一日だった。

昨日の教授会の空気をうけて、会館使用の制限とその執行について、また、反戦、反帝両派に対する処分案の作成について会館運営委員会の作業は一日中におよんだ。

午後五時から九時頃まで研究室で休んだのち、一〇六番教室で集会をやった中核（反戦）派の会館使用を拒否する仕事にかかる。いわゆる「説得」というのを午後十時から一時間、さらに十二時から一時間あまりおこなったが、第七集会所にこもっている連中は結局出て行かない。文学部の滝沢先生もこられていた。われわれだけでしばらく事後処理を話しあう。帰宅三時半。

2月16日（金）

十時すぎに起床。まだ頭がさえない。登校して、泉さんに、しばらく学館問題にた<sup>ま</sup>ち<sup>し</sup>ない旨を電話して、すぐ別府へ。

どうしてよいかわからないのと、ムシクシしているのと。

中核派に対しては警官導入しかないのではないかと考える。

別府海観寺観光ホテルにて大分県労評の春闘講演会。私は四時～六時。総評の岩井事務局長がさきにやっていた。

別府に泊る。

2月17日（土）

別府から佐賀へ。博多経由。博多まで岩井総評事務局長と同道したが、一言も話さず、眠ってばかりの旅行だった。

佐大の最終講義。列車がおくれ九大に帰ってきたのは七時半。

一時から開かれていた教授会が丁度終わったばかり。私が二日間雲がくれしていたという評判しきり。教授会では昨日きまった評議会の池田教養部長辞任受理の問題や、事件の捜査で警官を会館に入れる件につき、任意捜査に協力することに関して、これは条件つき受諾。明日の捜査につき学生側との了解をとりつけている評議員——警察側は結局十九日の八時半以前に入ることになるとのこと。

2月18日（日）

直美に引かれてはじめて田島小学校に行く。

ひな壇を作る。少し高すぎたので後日あらためて低くしよう。

午後三時半～六時、水光苑で自治労福岡県本部の労働講座。（労働組合とは何か）

ゆっくりした日曜とはなったが身辺何も解決していない。

- 前期試験の採点、レポート読み。
- 国労の合理化反対斗争に関する原稿（通信教宣）
- 三池問題（二〇年史原稿と資料篇のこと）
- 九州文化史関係執筆。

2月19日（月）

二〇日からの伊東における自治研組織集會に出向くための身辺の整理をして登校したが、学生問題がまだまだ紛糾しているため、出張は取り消しとなる。

反帝、反戦の両派は官憲による学館任意捜査を阻止するといつて学館にこもっている。衝突は必至か。鍵のかかっている部屋に不法に侵入している。

池田教養部長の辞任は評議會に引きつづき、一七日の教授會でも認められたが、川口事務代行態勢は必ずしも安定していない。これをどう支えていくようにするかが一つの課題。また次の教養部長候補をどう選ぶかがあと一ヶ月の課題。

学生の処分問題も歯切れが悪い。

2月20日（火）大雪

新京時代（八一五部隊、経理学校）の区隊長の梶原氏から電話あり。多々良で歯科医をやっているとか。

直美ちゃんのため、雛壇を完成する。今年も五、〇〇〇円ほど人形にかけたらしい。

相変わらずの学館問題のため、大学に詰める。昨夜のようにストーブの火の不始末あり、職員組合が會議を開いて苦情の申込みもあり、われわれは処置に困るのみ。今日は、第三集會室のこわれたドアがつけかえられる（現状保存の変更）という事件があつて、問題が追加されるばかり。

五時から教官會議。つづいて事後処理委員會。（六時～九時半）

會館の使用現状について説得をどこまでつづけるか、警官を呼ぶかについて相当つっこんで話してみた。

旬報社の木桧氏から資料篇さっそくの電話あり。三池と交渉してくれといつておいた。

2月21日（水）大雪

強制捜査があるという緊張がまだつづいているが、ない方が勝っていると思つて朝はゆっくり出た。学生会館の被害を模様がえ問題とともにたしかめた。午後一時からの教授會では学館の使用状況の現状打解について、説得のため、教官と宿泊するというこゝと、学生会館運営委を臨時に増員することなどが決つた。教授會のあと、事後処理委員會、ここではとくに処罰問題を審議。會館運営委の出した原案が、学生委員會で大幅に修正されたが、再び学館

運営委の案に近いようなものに結論が近づいてきた。

三池労組の宮川氏と、旬報社の木桧氏の両方に連絡がついた。20年史問題が、原稿料、資料篇ともに解決をつけるところに話がまとまりそう。

2月22日（木）

午後一時から寮の浴場工事に関する解決に関する委員会。

三時から寮生との会談。二六日の寮生大会で工事をすませるよう努力してもらうことになる。

直美が折紙をたくさん作ってみせようという。一ぱい箱に入れている。

2月23日（金）

二五日の日曜にいよいよ捜査があるというので、その対策を若干練る。

国労本部のための合理化講座の原稿を書き始める。

2月24日（土）大雪

博多発七時の列車で三原市へ。大変な雪だったが、柳井あたりは残雪があちこちみえる程度。三原市の文化会館で、広島県自治労の自治研集会の基調講演「合理化と自治体労働者」。夜行列車で山をこえて松江へ。

【「合理化と自治体労働者」に対し「あとで活字になる」との鉛筆書きあり】

2月25日（日）

早朝松江につく、やはり一寸した情緒がある。九時～四時電通労働者のための講演会。「合理化と経済について」

夕刻の列車で浜田へ。協会支部の人達五～六人と歓談。国労浜田支部の事務室で。山崎亮氏の社会党除名問題が大きな話題になっている。三月一〇日に中央から統制委員が来て問題の決着になるそうで、そのあと、協会活動が本格化するということであった。地域の問題を早速とりあつかうということで意見一致。

深夜の列車で博多へ。

2月26日（月）

早朝七時半博多につき、早速新聞を買って、昨日の教養部学生会館強制捜査の様様を読んだ。学生の若干の抵抗はあったが難なく終わったようである。次の問題は「処分」をどうするかである。

一時から人事委員会。

夜黒崎の青年の家に行く。集った者は六人。協会が分裂した理由、党づくりをどう考えるか



奥田八二日記（連用）（1968年）

など議題をきめないで話が進んだ。

職場斗争と党活動ということをもっと掘り下げて考えてみることだと強調した。

帰りの車中、西鉄労組の力丸要助氏にあった。十五年ぐらい前の話をし、私は福岡県の労働運動二〇年史を書くつもりのあることを話し、共感をえた

2月27日（火）

小倉労働学校。五時半から。

国鉄労組のための原稿を進める。

2月28日（水）

一〇時から夜の六時半まで教授会。池田教養部長が辞任のあいさつ。

ひるは新旧評議員と参与が池田さんと中食会をした。お別れ。

教授会では寮の風呂燃料負担の問題と学生処分の問題で時間がかかった。

後任の教養部長の選出について早急に考えなくてはならなくなっている。部内にも部外にも早速これという候補者がみつからない現状。だがぶつかれば誰かうまくやるだろう。

参与の仕事も大変だ。倫理性を疑うとか越権行為だといわれてもなおやっっていくことはない。

明日は早く三池に行かねばならぬ。

2月29日（木）

早朝大牟田、三池労組に向う。

白秀で三池20年史関係の整理事務打ちあわせ。——衣笠も。

立山、古賀、宮川の三氏来る。資料篇の完成について、20年史本篇の原稿料について。原稿料はほぼ現金で解決。資料篇も完成のみとおしつく。

私だけは午後一時に三池を辞し、田川に向う。田川労政事務所の労働講座。六時～八時。

田川市立図書館の永末さんと研究資料について事務打ちあわせをおこなう。永末さんには納屋制度についてまとめていただくことにした。彼は筑豊の近代史をまとめることを手伝ってくれということだ。

三月予記

全く追いつめられた。

1. みいけ20年資料篇の完成（解説を二〇〇枚程度）
2. 国労教室資料執筆（あとペラ九〇枚）
3. 答案採点
4. 九州文化史（二〇〇枚）

この仕事を三月中にどうこなしてゆくかである。参与辞任はこれとは関係があるわけではないが、実は参与を辞任すれば少しは助かるだろう。

3月1日（金）

学館委のための打ち合わせ。

参与につき辞表を提出した。中村君に相談したらはじめは出さん方がいいようないい方だったがやってみたらということになった。寮問題はもう少し手を入れて改善したいという心残りはある。しかし、一身上の都合というほかない。きわめてしんどい参与の位置から早く去りたい。先日池田さんが教養部長を去るについてあいさつに来られたが、この二カ月は二年分ぐらいの仕事が一度にふりかかったようだと言った。参与もその通りである。午後三時から本部で学館委員会。——学館運営の正常化について。これが終って五時半から十時半まで参与会。——学生の懲戒処分について、教養部原案の提示。

3月2日（土）

国労、動労五万人合理化に対する半日スト、順法斗争のため列車混乱、ために今日の諫早ゆきは若干予定が狂った。

諫早地区労労働講座。

のち、佐大に寄り、夜、教育会館で学生運動の一環としての講演会。衣笠君も。

核武装をどう阻止するか。

衣笠。

佐世保事件と大学自治。

奥田。

帰宅は夜十一時半。

3月3日（日）

鶴崎市。住友化学の労働講座。日がえり。

佐大のレポート採点おわる。

直美ちゃんがひな祭りに友だちをつれてきてごちそうなどしてもらってはしゃいだそう  
な。

九大入試はじまる。

3月4日（月）

入試監督。

学生部参与辞任問題で慰留の動き。上田、白水、それに裏西先生も夜わざわざうちまでたずねてこられた模様。私は、協会九州支局常任委出席のため留守中だった。

奥田八二日記（連用）（1968年）

常任委では主として「社会主義」の編集案について論議集中。協会の当面の任務について、党づくりはいかにあるべきか。

「すくらむ」の創刊号着く。大坪君、八丁君ら表紙で勝ったようなものだと。これからが大変だろう。

常任委のあと九時から深夜まで作業して、みいけ20年資料篇のゲラ一部労旬社に返送。四～五日のうちに仕上げよう。

3月5日（火）

「みいけ20年」資料篇、昨日につづき三袋目発送。

小倉労働学校五時半～八時。

3月6日（水）

朝八時半という早さ。博多パラダイスで昨日からおこなわれている県公労協の春闘討論集会の分科会に出席。ひる頃、総括的講評のなかで、反合理化の姿勢が崩れているということと、とくに行動面が不足しているということを強調したら、異議ありげな声が一般席から出た。既成幹部の日和見がよくあらわれていると思ったし、社会主義協会の存在意義をここで主張するのは当然だとも思った。

夜、白水、上田の両氏をさそい、裏西先生が拙宅に来て下さった。マージャンもし、ウイスキーも飲み、学生部参与のことを話し合った。

3月7日（木）

昨夜は夜ふかししたので大変ねむい。それでも「みいけ20年」の資料篇完成のため出向かざるをえない。

折尾の集まりにも、悪いがことわった。森山君に電話したら、五の日デモは三回ぐらいすでにやっているとのこと。今日私が欠席するのはよくないけれど、資料篇の仕事の重さがつらい。

3月8日（金）

みいけ20年資料篇の仕事。

午後教室会議、部長選挙や参与の問題。

小倉労働学校へ。

3月9日（土）

大木町役場の組合へ。はじめて行く田舎の自治労組織。

午後六時頃から十時半まで資料篇の原稿検討。吉瀬君が書いてくれたのとあわせて、明朝は

三袋発送できるようになった。

3月10日（日）

早朝の「はと」で下関日通労組の労働講座へ。池田という書記長が、組織者としてよさそうだ。話がおわってから、協会というものについて若干意見をのべておいた。松田君と協力してくれればよい。

四時すぎ帰福。資料篇の原稿点検を一つすませたら、夜の九時になってしまった。

東定君が手伝に来てくれたし、中村君も出勤してくれた。

3月11日（月）

学生会館運営委員会。

学生側は五名しか参加せず。学館の正常化につき、両派はやや開きなおった感がある。後日を期して結論をえることにして問題点だけを討議する。

教授会。一時半。

学生処分についてその参与会の模様を報告。

西原、武谷氏停年退官、佐藤文樹氏ら転職のあいさつ。

3月12日（火）

法学部、文学部の参与を迎え、教養部は事後処理委学館運営委、学生委の合同会議。両学部の学生処分に関し実情、意見交換。

労政事ム所。

3月13日（水）

ゆうべ衣笠君は徹夜した。私は三時頃までかかった。私の分は啓二が早起きをして航空便の一便で投函してくれた。衣笠君の分は私が朝九時頃に登校し、みなおして一一時頃に投函した。これで長い間懸案だったみいけ20年資料篇の初校もやっと終わった。お祝いものだが、衣笠君と二人では興ものらない。いずれ問研の連中とゆっくり歓談することにしよう。

国労常岡君のための原稿が大変おくらしているのが気にかかる。

3月14日（木）

直方、協会主催春闘講座。陵江会館6～8時。

国労教宣部の原稿を書き次ぎはじめる。

3月15日（金）

小倉労働学校（反合理化闘争）五時半～八時。

奥田八二日記（連用）（1968年）

小倉労働学校はこれで終り。  
九大の入試合格発表の夜だが別段の関心はない。

3月16日（土）

一〇時から学友会協議会。引きつづき参与会。夜六時すぎまで。  
百瀬部長の辞任は認める方向。後任は薬学部が補充するようになる。

3月17日（日）

一日中原稿書きやら庭の手入れ。のんびり書きかつ動いた一日だった。それでも半ペラ四〇枚も書き進んだ。みっちりやっていたら今日で終わったのにと後悔する。国労常岡君が待ちわびている原稿なのに。  
自宅にいるのもいいものだ。直美がよろこんでくれる。

3月18日（月）

一一時から問研の企画委員会。丸べに。  
教養部長候補をどう選出するかについて教室会議。選挙権者の会議。部内の岩崎教授を推す声強い。  
やっと書き上げた国鉄労組教宣資料二〇〇字の一五〇枚は正月以来唯一のまとまった原稿である。  
午後四時半から点検に入るが、なかなかひまがかかった。深夜一時に至って発送できるまでに至る。

3月19日（火）

早朝郵便を出しに行く。  
啓二が修学旅行に行かないということをめぐって高校から連絡があり、友だちの鬼山さんからも連絡がくる。みゆきが午後高校に行く。  
とてもねむい。文学部関係の採点をやっとすませて報告。夜は戸畑明治製菓の労講。  
吉瀬君が米騒動関係の仕事を手伝おうとって資料をもっていった⇒数ヶ月後に断ってきた（後述）  
学生処分決定の評議会。

3月20日（水）

午前中に旬報社の後藤君が来るといっていたのに来なかった。  
午後は「社会主義」のための座談会をするということでポロポロ集まった。大坪、八丁、嶋崎、秋吉、吉瀬。

七〇年問題と協会の任務というテーマで一三〇分ぐらいテープにふきこんだ。あとで一彦が復元してくれることになった。松田、松原があとで来た。それに加えて女性の中山、山田の両君が手伝ってくれて、みんなで夜おそくまで懇親会。

一月以来のかたまったものが流れたような感じ。

みんなが帰ってから、深夜三時頃まで、啓二の怠学について説教。立ちなおるかどうか不明。若干の期待は残っているが。

### 3月21日（木）

四時から学生部参与会。新三浦。学長招待の懇親会がひきつづきおこなわれる。

学生処分発表（三月一九日）後の意思統一について。百瀬学生部長の辞任にともなう後任学生部長の選出——薬学部の浜名教授に決定。

午後七時頃に終り、あと、久綱君と土井仙吉氏宅に行き、十一時半頃まで飲んでた。

### 3月22日（金）

教養部長選挙。

岩崎教授が当選。教養部から部長を出すのははじめて。あと一年停年であるので、来年はまた選挙になる。

### 3月23日（土）

全通、行橋、市民会館。午後一時～三時。（実際は一時間ずれていた）気合いのはいらない集会だった。

フェニックス号（四時）で津久見へ。いさみ旅館。中小労連の幸、柳川、地区労の後藤市議らが接待。地域の主として石灰石採掘についての労働事情、合理化についてきく。

全通では、ゴールドラッシュについて質問が出た。

### 3月24日（日）

津久見中小労連。

朝九時半から十二時半まで。合理化、賃金について講演。素朴な人ながらみんなよくきいてくれたという感じ。こういう地域の方が都会よりも革新的な重みが強いようだ。民社的なものがあまり育たない。

佐大の学生（社青同）斗争に関し昨日の佐大入学試験妨害の方針が変更されたときいてよかったと思う。変なことをすると、一定の効果はあるが、全運動に大きなマイナスを与えてしまうこの方がかえって不利。しんぼう強くやっていくほかないのに。

3月25日（月）

中村文子君がやっているエンタープライズ関係九大事件にまつわる資料あつめも大づめに来た感じである。あとは日誌の整備がこれにつづく仕事。

安部靖弘夫妻が夕方遊びに来る。一品香で夕食をとりうちに招き入れて、マージャンをして遊ぶ。何となくちぐはぐで落ちつかない。

3月26日（火）

九州文化史の原稿を書く姿勢になる。大正九年の「溶鉱炉の火は消えたり」から着手することになる。ともかく書きはじめてみないと、どうなるか全く見当がつかない。

午後三時頃、田川図書館の永末氏が香椎工高の佐々木さんをつれて来室。筑豊の石炭史の資料編纂についていろいろ話しあう。やりはじめるとなると大変大きな仕事になるだろう。

夕方、マツダ自動車のセールスマンが来訪。東洋工業の井田君に紹介をたのんでいたの、広島から連絡があったという。うちに案内して一彦もまじえて話してみる。

駐車場問題を片づけないと車をかうところまでいかないことが判った。今後どうするかだ。

3月27日（水）

「溶鉱炉の火は消えたり」を若干勉強。

午後一時から学生委員、学館運営委、事後処理委の合同委員会。私からは資料整備、白書作成につき提案。上田氏が提案した学生会館の正常化問題が中心議題だった。

五時半から新旧委員の交代引きつぎの宴会。エンブラ事件をめぐる諸問題に話題の花が咲きなごやかにぎやかだった。

九時すぎて中洲に二次会。これに参加したのは十名ありなしだったが、とくに山川さんは今後副参与として大いに張り切るといってメートをあげておられたのが印象的。私もとうとう辞任の意思は撤回せざるをえない空気になっている。あと一年短気をおこさずにやってもよい。十一時半退散。山川、白水両氏をかい護して宅に送りどける。

3月28日（木）

昨日に同じ勉強。二日酔い気味。

午後六時から全通保険支部の労働講座。

住宅の抵当関係手続きがややこしく、みゆきが奔走している。

3月29日（金）

一〇時から学生会館運営委員会。来年度予算の件、および学館正常化の件。

上京（京都）。客が多くて寝台券が予約できず、国労の石田君を介して、「月光」に乗せてもらった。嶋崎君と。

3月30日(土)

新大阪でのりかえ京都に着いたらまだ七時前。食事をしてタワーの風呂に入り、会場の「静の家」に行く。午前中は嶋崎君と宿の一室で改憲阻止運動の組織などについて論議。

午後一時からは立花事務局長を除いて全員集合。——出席者——

渡会、奥田、水原、嶋崎、吉田、丸山、萩尾、大坪、松本、本部の橋本君。

組織報告、組織点検で、関東関西の立ちおくれが問題になった。関西は社会タイムスにエネルギーをとられるという実態。四月以降の伸びに期待する。九州支局では三池の今後についてが問題とされた。また福岡の県支部が党のような機能を果たすことについては問題がおこらないようにという議論が出た。財政問題は千円カンパが四月上旬のうちにうまくいけば何とかかなるという見透しである。

3月31日(日)

中央常任委員会はひきしまつてよくまとまっている。渡会氏が早朝帰京したので、私が代わって会の議長をする。六月までの組織拡大目標は三〇〇。その点検をするとやはり関東その他が弱点。六月号は社会主義二〇〇号記念ということで、それに執筆者として協会員を多量に動員することとしその名を点検した。九〇名ほどあげてみた。

午後は一九七〇年問題を討議。水原君から口頭で出したものを素材として、よく煮詰まった感じ。

五月上旬の中央委員会(三～四日)対策も討議する。

中央常任委はこの夜でおわる。

4月1日(月)

午前中あいていて、近くの東寺の境内を散歩。水原、嶋崎、大坪、それに早朝到着した衣笠を加えて、午後一時からテーゼ小委員会。前記メンバーのほか、秋沢、岡、松本。この三人のうち、秋沢、松本は夕刻に来る。

社会主義六月号(二〇〇号)の具体的内容審議。

七〇年問題細論。

ジョンソン大統領が、大統領選に出馬せず、ベトナム戦につき、北爆を制限するとの重大発表。

委員会もこのニュースをめぐりやや興奮。

4月2日(火)

前日に引きつづきテーゼ小委員会。

七〇年問題について。

テーゼの扱いは、第二部を追加することはせず、一部も二部もあわせて、従来の第四次草案



を要綱風にしたものを六月頃に出し、協会員必携とする。

第二協会が別冊社会主義で出したテーゼは第一部のままで相当書きかえている。両団体のちがいが実に明瞭になってきた。

社会党をマルクス主義党として希望的に高く評価し、学習団体としての協会の立場を強調している。

その他。……

午後早く小委員会を解散、わたしと衣笠君は、帰福へ。

夜十時半帰宅。

#### 4月3日（水）

一〇時から若鶴で森田氏を中心とする全教互の厚生会設置運動の法案研究会に出席。

四時頃から教授会出席。岩崎教養部長最初の教授会である。稲石事務長は農学部へ転勤で不在。

夕方泉氏らとマージャンをやって大敗。

#### 4月4日（木）

山口県下総評主婦の会の講座「内職とくらしの問題」。下関、国鉄の日和山荘、一時～三時。内職をしなければ食っていけない事態をどう考えどう対処するかの問題。春闘では夫の賃金の一万円上げを是非実現させ、家内労働法の制度促進、工賃の一時間九〇円を実現させるという運動である。

会が終わった頃下関協会の松田君がやって来て、日通下関分会の池田氏とあってみた結果、あまり乗り気でないのではなかろうかという報告をした。気永に工作せよとっておいた。あとで二人で馬渡君の寓居をたずねた。五時半の列車で帰るとき二人が駅まで見送ってくれた。

#### 4月5日（金）

いろいろ雑用はあるもので、午前中は身の整理。午後は少し原稿書きを進めたが、みゆきが家具の買物につきあえというので中州あたりに出向いていくと、途中で植木屋に寄ってみようということになったりして時間を費してしまった。沈丁花が枯死しつつあるのではないかということで警固町の広場で市をしている植木屋に責任をとってくれという話であった。

（労働旬報社からの電話。資料篇は少しおけると。）

アメリカの黒人運動の指導者キング師が殺されたと夕刊に報導され、センセーションをまきおこしている。ウミが出るか恥部がさらけ出されるか。ジョンソン大統領がベトナム戦縮小のためのハワイ行きをとりやめてキング暗殺問題にとりかからねばならぬほど、これは

重大。

4月6日（土）

緊急参与会一〇時より。

八日の入学式に反帝学評の入学式阻止行動があるというので、それにどう対処するか。——混乱がおこれば総長告辞はとりやめ印刷して新入生に手渡すこと、当日八時二〇分までに記念講堂（初めて使用）に集まるということで散会。

十二時の列車で岡山へ。

夕刻無事着。河野正輝君のうちで宿泊。

4月7日（日）

一〇時から午後五時まで、岡山社青同主催の反合理化講演と討論会。

社会主義協会系の社青同で気持ちのよい討議ができた。将来たのもしい民間労組の人が多い。井戸君がリーダーで河野君が顧問役のようにみえた。

夕刻の後樂園を見物し桜花満開。いい景色だった。目の保養になる。県議の水田氏が案内してくれたのであるが、社青同諸君のよき後見者であるらしい。夕食を、飲みつ語りつすませ、十時二〇分の夜行寝台列車で岡山をあとにした。

4月8日（月）

早朝博多に着いて直ちに九大へ。箱崎で下車して本部に行く途中、管崎宮あたりを久しぶりに見物してみた。十年以上もみなかった。相当かわっているともいえるし、相変わらずともいえる。

学生部参与は午前八時二〇分に記念講堂前に集合とのこと。教養部の学生関係教官も同じ時刻に多数集まることになっている。それは今日の入学式を反帝学評の連中が阻止しようということなので、これに対処するため。

九時半頃、反帝の学生二〇～二三名がビラをはったりデモをしたりで新入生に訴えていた。大学側が不当処分をしたということ、反戦運動の大切なことなど。だが案じられていた入学式は中断されることなく、多数の協力の下に無事、午前中の行事を終えた。

直美ちゃんの入学式。

4月9日（火）

福高の久保田先生から電話があった。啓二が朝のホームルームに欠席しているのは、クラス全体に悪い影響を与えるということ、家庭でもっと厳格な注意をしてほしいとのことであった。

午前中は新入生オリエンテーション中の指導教官との面接、正午まで。午後三時から教室会

議。

吉瀬君が来て、米騒動の研究に関して話していった。米騒動の問題を地方自治問題、救貧、社会保障問題の処理という観点から、そのスタートとしてみなおすということ。市町村の対応として、潜在的なものの顕在化。

4月10日（水）

一時から定員配分委員会。六名の新定員のうち一名が経済学に配当になった。

四時から学生会館運営委員会。

福高の久保田先生から啓二につき連絡。登校常ならずという状態につき、末が案ぜられる。

今日も先生をつれて来る予定になっていたのに教室にあらわれなかった由。

夜本人がやや神妙に、今後、規則正しくやってみるからという。つづいて就学の意味はあるようだ。いつでも退学するといっていたが、いざ退学するかどうかとなると、本人は躊躇している。

4月11日（木）

中村文子君が来宅（二日目）新聞スクラップづくりの作業をする。

夕方、安川労組の講堂で、八幡地区青年労働学校。

合理化のはなし。

青年たちは生き生きしている。

4月12日（金）

午前中「社会主義」の原稿を進めたがあまりはかどらず、庭の花や新芽をながめる時間の方が多かった。

午後、若松地区労働学校第一回。（労働運動史）

4月13日（土）

社会主義の原稿をやっと発送できるところまでこぎつけて、拙宅での姫高会となる。

久綱、岡田、土井、山村、牧坂、野村それに土井夫人。那須さんは外国帰りだというので期待していたが用件のため欠席。三木医師もこれないといって清酒三本を届けて下さった。岡田先生は木彫りを実演して寄贈して下さいました。

十一時すぎに散会した。

4月14日（日）

昨日からつづきの社会主義協会福岡県支部の幹部学校（黒田荘）で体制的合理化の講義。（九時～十一時半）

終って大牟田労働会館での国際婦人デー講演。(二時半～四時)ソ連から三女史が大牟田に、同行。

アンナ・ペトロフナ(レニングラード市長)

リッタ・アレキサンドローナ(アジア民族研究所)

ヴィラ・ワシリーエフナ(通訳)

三人ともソヴェト婦人委員会の関係者。アンナさんは議長。大牟田でのレセプション(ロイヤルで)につきあい、福岡日活ホテルまで送っていった。

明日は佐世保に行かねばならず同行できなかった。

三人の案内役、社会党婦人局河野嘉子。

4月15日(月)

新学期初講義。例によって教室は満員。立っている学生をどう処置するか、教室変更の交渉。一時半の急行出島で佐世保へ。時間があるので途中下車して有田へ。中西氏宅は忍君出張中。

橋口建設に印鑑証明をもらいに行く。また、森氏の新宅に案内してもらう。ここは拙宅と材木が兄弟分であるからなつかしく見学できた。

佐世保では六時から八時まで産業会館で経済学の講義、終列車で帰宅。

4月16日(火)

旬報社からみいけ20年資料篇の第二校が来る。(一部分)。手紙によると印刷屋の都合で、発行は四月末の予定が五月中旬になるとのこと。

住宅の担保設定のための書類作りで市役所、市税事務所、司法書士など、経理の吉村氏を伴ってぐるぐるまわって時間がたつ。一応の手続きは終わった。

夜折尾の則松会。夜間高校の問題を提起した高校生の報告、それをめぐる討議、方針の決定などが中心だったが、大変よい会になった。出席者は十五名ぐらい。五の日デモは二月中旬以来欠かさずやって来た由。かなり立派な会である。楽しみである。

4月17日(水)

新開君来宅。全硝労の運動史をまとめてくれるよう要請があった。九州文化史の仕事が気にかかるが、できればやってみようと思う。こちらの方は八月末に締切りが延期になったという(西尾教授のはなし)。

教授会、新築の第一会議室の初使用である。

42年度前期の成績発表を仮にした。レポートを私が多数紛失しているらしい。若干やっかいな問題になってきた。

午前中は旬報社、みいけ20年資料篇の第二校。

4月18日（木）

夜、安川での八幡地区青年労働学校。学校運営の今後について自治会を作るという事で話しあい帰りがおそくなった。この学校を恒常的施設にするのが話し合いの目的。八幡あたりにそのような労働学校が一つあってもよい。学校新聞への私の投稿にはそのような意味のことを書いた。

4月19日（金）

講義。

午後一時半から参与会。おそくなったので、若松労働学校は休むほかなかった。

文部省が羽田事件関係学生の処分や奨学金停止を熱望していることに関して討議された。

帰りに学生会館に寄った。反帝学評が学館を不当に使用している事に関して、心配の種がふえている。どう処理するかである。

みいけ20年資料篇再校第一便を発送する。

4月20日（土）

支局委員会、六時より黒田荘二〇三号室。

経過報告につづき第二次組織拡大方針について意見交換。深夜に及び午前〇時半に散会。熊本、長崎、山口等からの人々は黒田荘に宿泊。

社会タイムスから企業合併に関する原稿依頼が来ていて、今朝来書いておいたが、深夜帰宅後仕上げた。八幡富士の合併が主たる素材である。

支局委員の熱心な討議をみると、一年前とくらべ大へんな変わりようである。前進著しい。

4月21日（日）

協会支局委員会、教育会館二階中ホール。当面のスケジュール、財政方針、一九七〇年問題。

四時半頃委員会終了。あと、名田重喜氏の車で名田宅を訪問。天草の有江さんほか、嶋崎、八丁が同行。彼の息子が持って帰ったというアルメニアコニャック、沖縄の泡盛、ブランドーナポレオンなどが披露され、七時すぎに退散。

サボテンの蒐集家であり、その他珍しい草花を作っていて、目の保養になった。ほろよい加減で帰宅。夕食後、学生会館の宿直応援に行く。事もなさそうだったので午後十一時帰宅。運営委員室で学生らと語る。

4月22日（月）

講義、青森へ（自活研）。

特急寝台「みずほ」。

車中で「みいけ20年資料篇」の校正をする。

4月23日（火）

ひる少し前東京着。

旬報社、社会主義協会に立ち寄り、所用をすませ、切符も特別券をとれなかったので、普通急行に乗って青森に向かう。「第二十和田」。

4月24日（水）

朝九時頃青森に着く。

自治研全体会が午後一時から。午前中は助言者団会議。宮本憲一氏がヨーロッパの都市計画のこと、小川政亮氏が沖縄訪問のことを報告した。

全体会の記念講演は福島要一氏。あまりまとまりのない話だった

ひるの休みの時に山本順一氏と中食をともにする。第二協会の話は全くしなかった。

4月25日（木）

自治研分科会第一日。

社会教育分科会の助言者森田氏と協会のことなどについていろいろ話しあう。同室のゆえに。

同室のもう一人公害分科会の助言者四日市の市議前川氏は無口な人だ。

4月26日（金）

自治研分科会第二日。

4月27日（土）

正午頃自治研分科会閉会。

二九日に上野に着く約束をしていたので、一日を消費すべく、十和田湖を見学する。同じ分科会の塩谷アイさん、共産党都区議の丸山氏の三人が道づれとなって、私が入った奇妙な三人旅。奥入瀬の溪流は美しかった。二度三度来てみたいようなところ。十和田ももちろんよかったが、まだ春浅く木の芽も十分でなかった。湖畔の旅館も今日から開業したばかりといていた。残雪を惜しんでスキーを楽しんだらいい。スキーをかついだ若者の姿がみえるくらい。

4月28日（日）

朝九時、十和田を国鉄バスで十和田南に出る。この道中も美しかった。盛岡を経て私はあとの二人と分れ、平泉に下車。中尊寺なるものを見学。こんなものかというほどの感慨しかないが、ゆっくり参拝客の間を縫いながら平泉の風光を味わった。衣川の古戦場も高い所からながめてみたが、昔のことは想像する力はない。できたら松島に行こうと思ったがすでに陽

も落ちて夕やみ迫る頃に列車が通過するのであきらめ、仙台に下車し乗り継いで上野に向う。

4月29日（月）

早朝六時、上野着。時間を待って旬報社の佐方氏に出てきてもらい、社に行き、校正の仕事をする。

夕方になり、中村屋旅館に三泊することにしてここでできるだけ校正を進めることになる。

「みいけ20年資料篇」は、五月下旬に出版される予定となる。

4月30日（火）

みいけ20年資料篇の校正（中村屋）。

5月1日（水）晴

心配したが晴天のメーデーになった。川崎氏の運転する車で会場近くに行き、佐方君の案内で会場付近あちこちを見てまわった。カメラにカラーフィルムを入れてデモ行進をとってまわった。代々木の公園は雨上がりでぬかるんだが、一日中人間でごったがえした。ゴミの山が問題にされそう。

そんなに派出なメーデーデコレーションではないが、それでも多くはお祭りさわぎで、斗う労働者という気概が感じとれない。中央メーデーに出くわすのははじめてだが、地方でも同じで、少々ゆるんでいる感じ。共産党の宣伝力がアドバルーンなどに示され目立っている。メーデーのあと、川崎氏の運転で相模原の山村ガラスに見学に行く。協会支部があり、田倉君ががんばっているところ。山村労組の斗争史を書く約束をしている。中村屋旅館まで帰ってきたら十時過ぎだった。

5月2日（木）

中村屋旅館を出たのが午後一時半。午前中は資料篇の「あとがき」の原稿を仕上げるのに時間がかかってしまった。

午後二時半の「こだま」で京都へ。

西本願寺前の旅館はせ川が会場。水原君が物資センターを訪ねれば会場がわかると聞いていたのだが、物資センターをたずねるのに骨が折れた。

午後八時から中央常任委員会開催。七〇年問題と財政問題が当面の主要課題である。水原君の起草した七〇年斗争方針に論議が集中した。

5月3日（金）

午前中は財政その他の問題を少々討議して中央常任委員会を閉じ、十一時から第一回中央委員会に切りかえる。

一九七〇年のたたかいが主たる議題。労働運動の総路線をやったようなものだ。中央委員会の冒頭は中央および各支部支局の情勢報告だったが、組織は各地でかなり立ちなおってきたことが報告された。ひるの休みに岡山の河野君、大阪の宮原君の二人が訪ねてきたので、旅館の外に出て二時間ほど歓談した。河野君は組織のためよくやっている。宮原君もだが。

#### 5月4日（土）

昨日のつづきの中央委員会。

一九七〇年問題。

中央委員補充問題。

テーゼ第二部の取扱いについて（テーゼ要綱を作ることをふくめて）

財政問題。——借入金をどう整理するかが問題。後日早急に検討することになった。二〇〇万円ぐらい。協会事務局を引き払うことも話題に出たが、それほどしなくてもよいだろう。午後四時中央委員会終了。

明日は社青同協会の全国集会在この同じ旅館であるが、大坪、水原、松本、榎本の四専従で運営してくれるだろう。

夕方の「夕月」で帰福へ。

#### 5月5日（日）

早朝帰宅できた。

子供の日なので、なおみちゃんと遊んで多くの時間をついやした。

問研のパンフ作成のための原稿に着手する。合理化要綱である。

みゆきが石垣の下の空地を利用してナスやトマト、スイカ、ウリなどの苗をうえている。うまく育つかどうか。

附近の山を散歩したとき、小笹の方で水しょうぶがあったので一かぶ二かぶ抜いて来て、わが家の池の中に生かし植えてみた。

#### 5月6日（月）

朝早く出かけて講義のための若干の準備をしたのち講義。

三時まで雑用のようなものが一ぱい。

三時から八時半まで、寮生の対学交渉という会議。寮祭の予算要求と寮施設の改善要求が主たる内容。民青の諸君だったので話はこじれなかった。

夜帰宅していると雨になって洋服をぬらしてしまった。

少し頭痛気味。旅行中何か感染したのかあちこちが痒い。

予定の協会支局常任委員会は延期。



5月7日（火）

社会党をよくする会の福岡県総支部結成準備会が午後五時から丸ベニ桧の間でおこなわれた。東京のこの会の事務局長である高橋正雄先生が宮崎の支部結成に出席の後こちらに空路こられる予定だったが、会の終り頃遅参された。がともかく成功裡に終わった。社会党の豊瀬、篠原、渋谷その他が参加。座長に小林栄三郎氏。私らは嶋崎君と二人だが第二協会からは川口、小島、近江谷、荒牧、原田、小林、松隈らが顔を出していた。この会の呼びかけ人は小林（栄）、私、川口、徳永喜久子さんの四人だった。各派均衡というかつこうである。八時半頃終り、あとで、豊瀬氏の首唱で嶋崎、私、篠原の四人が県庁裏の「やぶれがさ」で一時過ぎまで飲みながら、協会問題を中心に論議した。

5月8日（水）

午後一時からユネスコ関係原稿の進捗につき日立ファミリーセンターで高橋正雄先生らと会合。そのあとで高橋さんが話そうというので協会のことについて若干話した。大屋、荒牧両君は協会運動にいや気がさし、この際手を切ろうということであったが、近江谷らが執拗に名を貸せというので、第二協会の方に名を借しているとのこと、また、奥田は実践に首を突込みすぎて研究をやってない、自分らは大学院もあるので、そういうわけにはいかないと言っていたとか。また第二協会のあの連中は川口氏には信をおいていないとか。——いろいろあろうけれども私は一切彼らに秋波をおくらないつもり。今日大屋君と同席したが、関係事項は一切話さなかった。

四時から八時半まで学館運営委員会。反帝の会館不当使用について。

5月9日（木）

朝から反合理化斗争のパンフのための原稿を進めた。（問研用）

午後三時すぎ登校。

あと、みいけ20年資料篇の再校。

大西孝子さんが土井仙吉夫人喜代子さんと女学校時代の同級生だったと大西さんの話。

——不思議なめぐりあわせもあるもの。

5月10日（金）

講義の日にもう一つ労働学校をもつのはつらいもの。

夜は若松の労働学校。

ひるま、労旬の木桧氏から電話があり、私の「資料篇」へのあとがきには三池労組への感謝が書かれてないからつけ加えてはどうかということであった。御忠告もともとという返事をしておいたが、あとでよく考えてみると、三池労組編ということであるのに、宮川組合長に謝意を表明するのはおかしいものである。

5月11日（土）

今日は九大の開学記念日とのこと。

中央から水原君が来て、「社会主義」二〇〇号記念号に発表する一九七〇年闘争方針および六月中に仕上げるテーゼ要綱パンフにつき、こちらの理論戦線の者と討議することになっている。私はテーゼ要綱の改憲阻止反合理化の部分のレジメを作ることにしていたので、午後二時頃までかかってそれを作成。午後四時頃から拙宅に集って討議開始。討議は十一時頃まで夕食をはさんで熱心にやった。

出席者、水原、嶋崎、大坪、吉瀬、衣笠、八丁、松田の諸氏。二、三日のうちに討議したものを分担して原稿にする。（吉瀬、松田を除く者で）七〇年闘争問題は先日の京都における中央委員会に提案されたものが骨子となる。七〇年闘争をどうとらえるかがやはり問題である。

5月12日（日）

馬渡君が先日寄せてくれた「社会主義」の原稿。田中勝之君を批判した「党変革抜きの反合理化」について、私の文章が俎上にのぼっている関係で私がこの原稿を手直しすることになっている。ひる間はこの仕事に時間をとられた。夕方から「七〇年闘争」の日本経済の動向をどうみるかの部分について執筆準備に入る。

昨日から雨が降ったり止んだり、全く申し分のない五月の気候だ。にわの木の芽も順調に。

水原君は昨日は嶋崎君宅に投宿している。

5月13日（月）

講義。

何とはなく時間がたってしまう。

午後五時からの「社会党をよくする会」福岡県総支部結成準備会に出席。丸ベニ。六月八日の記念講演のこと、発起人、予算案等を審議

活動方針、事業計画がないので、やり方いかんでは、いい加減な団体に終ってしまいそうではない。方針、計画を作るよう強く主張しておいた。

終ってから徳永喜久子さん、今吉まさえさん、藤原テツさんの三人の出席者と別室で婦人運動について語りあった。「よくする会」にとってはなければならぬ人達だし、やり方によっては協会が「よくする会」にはまり込むことも必要であろう。

5月14日（火）

急がれているのに、七〇年問題の原稿が出来ない

夜、折尾の則松会に出席。今日は朝鮮人学校問題を話しあうため朝鮮総連と連絡をとって八

幡中学の校長金竜九氏に来てもらった。集りは十二、三名で多くなかったが、面白い集会になった。十一時半帰宅。

5月15日（水）

午後一時四十五分の列車で天草本渡へ。

教育会館で憲法講演。

衣笠君が先にやり、十時半頃に終わった。衣笠君は田代氏宅へ私は若木さん宅にそれぞれ分かれる。衣笠君は協会支部会議、私は高校の先生四、五人を交えての懇談。入会候補者だ。組合運動の外側で党的活動が是非必要なことを強調した話になった。

組合主義の枠内では、三池のような場合ですら、支部交流がうまくいかないではないかという事を指摘した。協会活動があってはじめて熊本の高教組もよくなるのだとっておいた。

5月16日（木）

天草を見学。午後八代へ。

朝一〇時若木氏宅へお迎えが来る。衣笠君、田代君、有江さん、それから運転手は誰だったろう？

富岡や下田温泉をドライブ。伊勢エビをおみやげにいただく。

午後一時の船が八代に着いたのは四時半だった。中村氏らが迎えてくれた。夕食をいただいて講演。

演題は「憲法と地方自治」（横手会館）

このあと嶋崎君。

私は明日の講義もあったので八時すぎの急行列車で博多へ。

5月17日（金）

講義が終わって、四時三〇分の列車で熊本へ。福祉会館にて講演。

電信電話会館に宿泊。電々会館に協会支部員一二名が集って反省の会合をやったが、私の話は新鮮で感銘深かったということであった。

春闘の反省から、賃斗、合理化のたたかいを論じ、社会主義者が組合運動に入りこまなければいけない、組合主義ではだめだという話であった。「社会主義」五月号の私の論文「党変革と協会の任務」というのが割に人気がよくさそうであったので、その精神をこめて話したのであった。

この精神を進めば協会も拡大していくと思う。

八代も熊本も協会支部独自の主催。ひとりでやってみて自信がついたとっている。

5月18日（土）

朝八時半熊本駅を出て、昨日の東郷駅の貨車脱線の影響により若干遅延し、十二時少し前研究室に着く。ひる少しすぎ、高馬が突然たずねてくることになった。土井君を呼び、三人で帰宅して歓談する。四時すぎに二人はひきあげる。ビールが少しはいていたので、原稿のことが気になりながら二時間ほど休眠。夜八時、学生会館の宿直をかねて登校。別に問題もないようなので、十一時頃まで研究室で原稿を書く。

右肩が少し痛い。高馬は元気だ。学館には反戦と反帝の連中が残っているので気になる。

5月19日（日）

一日中、わき目もふらずに原稿書き。腕が折れるように痛い。

直美が絵の勉強に行っているが、えのぐを使いかわいい絵をかいている。

サツキ満開。

5月20日（月）

講義をすませて早速佐世保地区労の労働学校へ。車中はねむった。

昨日の原稿をかえりの車中で読みかえし、十一時頃博多に帰りついたところで駅前の郵便局で投函。半ぺら一〇九枚になる。題は、

改憲阻止反合理化をどうたたかうか——七〇年闘争にむけて——

ひる、森田氏から電話があり、社会党の福岡市長選候補に豊瀬氏をとりやめ、県文化会館長城取文男氏を立てるといふ。前教育長だった人。民生部長をしていた時代から知っている人だが、あまり泥縄式だ。最初からやる気がないのはいけない。社会党をよくする会が問題をとり上げてくれとのことだが、このような泥縄式でどうなることか。

5月21日（火）

寿美子さんが峇子さんの結婚問題で話そうというので、ひるすぎにマルベニで応待した。峇子さんも一寸かわいそうだが、どうしてやる事もできない。できたら有田まで行って両親や忍君にあい、話をきいてみようと思ったが、明後日の結婚式と私の日程には無理があつて実現しなかった。なりゆきを静観するほかはないだろう。

夜、若松の労働学校。

水原君に早く七〇年闘争に関する原稿を送ってやらねばならないだろうが、（電報による催促もきている）明後日になりそうだ。出まわる日程がこうも多いといけない。

5月22日（水）

朝五時半に起きて日向神溪仙荘でおこなわれる全電通福岡支部の合理化反対斗争学習会に出席。午前九時から午後五時までの講義。二二、三才の男女の集まりでたっぷり時間をかけて説明できたので、疲れたが楽しかった。日向神といえば景色のよい所だろうと期待して行

ったが実はその手前の方が会場だったので期待通りではなかったが、それでも会場付近は山も川もよかった。野苺がたくさんあって、子供の頃を思いながら満腹するほどつんで食べた。

大牟田から来ているのにいい活動家が二、三いるようだ。

ネコの子をもらってきてみんなの注目をあびている。

#### 5月23日（木）

在宅して原稿を書く。

二〇〇号の特集一九七〇年闘争と協会の任務（共同執筆）関係

二〇〇字四八枚。

夜啓二が投函しに行ってくれた。

夕方、五時すぎから国民健康保険組合連合の労働組合に講義。

労政事務所関係。七時半まで。（労働組合運動とは何か）

#### 5月24日（金）

講義がすんだとき、福岡高校の久保田先生から電話があり、啓二のことにつき、私が福岡高校に出頭した。出席常ならず、クラスの勉学熱をさまし校風をそこなうのをこれ以上がまんできないので退学してくれとのこと。若干意外な点もあったが、私は承諾して帰った。夜おそくまで今日も外出していた啓二だが、私も小田武氏が来福して在福同窓会をすることになり土井仙吉氏宅で飲んでおそく帰ったのだが、夜半になって、午前三時半まで啓二に、退学のやむをえないことを説明。仕事を見つけるをすすめた。啓二は大学に行きたいから、私立高校にでも転学する道をのぞんでいるようだが、福高に歎願して退学を取り消してくれるように努力するほかは私立に転校することの無意味であることを私は主張した。

#### 5月25日（土）

ゆうべはほとんどねむれず、朝七時起床。七時三三分の列車で別府へ。西日本全国一般労組の合理化問題討論集会の講師。一～四時。

福岡総評の大久保氏、大分の山亀氏が世話役。話は体制的合理化。

四時の特急富士で帰福の途に。博多に着いたのが八時少し前。

九大法経大講義室で開かれている生協第一六回総代会に出席。熱気むんむん。代々木系と反代々木系に対立して議事はおくれにおくれ、終わったのが午前二時半。今日もまた大変な一日であった。生協理事に私が当選したが、これからが大変だろう。

#### 5月26日（日）

三池宮浦支部の学習会。

合理化の話をしたが、三池労組は今 CO 斗争の借金のとしまつで内部が混乱分裂状態にあるようだ。それを社会主義協会の分裂のせいにしてしようという本部派の考えに、宮浦支部の者は、三川支部とともに反撥しているという。本所支部がとくに再建協会派で固めて偏見がいちじるしいようである。

別府から買ってきたサボテンを鉢にうえかえる。

5月27日（月）

講義。

午後四時半から社会党をよくする会福岡総支部発足（六月八日予定）につき、活動方針、規約、予算案、記念講演会などに関する準備審議。（マルベニにて、八時半まで）

生協の魚屋、川本の二人が私の部屋にたずねてくる。理事長になってくれるといいがという空気がにおわせられている。共産党、民青の「のっとり」策を封じる必要があるという。工学部の内田一郎教授をかつぎ出していて、内田理事長の線がどう動くかが微妙なところらしい。

みゆきは、あんまり仕事がふえるのはよろしくないと注意する。

5月28日（火）

一〇時から大眺閣。昨日からおこなわれている社問研主催の教宣研究集会の第二日分科会。教養部で事後処理委員会がおこなわれるのでその間を往復。事後処理委員会はこれで解散することになった。夜の大眺閣は打ち上げの宴会。

教宣集会は大成功だったという。

佐方に住宅借入金六〇万円のうち二〇万円を利子三万六千円とともに送金。

5月29日（水）

学生の処分解除についての話が煮つまって来たが、（昨日の事後処理委員会など）反帝学評の〇〇を解除することについては賛成しかねる。

啓二の退学問題について高校に出頭。休学をしてはどうかの勧告に対し、啓二は一札を入れて背水の構えになっても休学するよりはよいといいはり、結局は通学をつづけることになる。

ほんとうに勉学する決意があるかどうかはまだうたがわしいが、私たちも彼の言い分を理解してやっていけるところまでいってみるのもよいだろう。退学になってしまえば、本人も必ずかわってくるだろう。退学せずに変わる方法もあるのだから。

5月30日（木）

終日在宅。合理化に関する社問研の原稿を昨日につづいて書く。夕方は庭木に打水したりし

てよい一日だった。池の鯉が全く勢がよい。

5月31日（金）

講義したあとまもなく参与会に出席。今日の参与会では二月一三日事件にともなう学生処分解除の問題が注目された。教養部は〇〇君と〇〇君、法学部は〇〇君の三ヶ月停学解除。両教授会をパスしてきた問題ではあるが、反帝学評に属する〇〇と〇〇については解除の理由はなく、条件はととのっていない。ただ、大学側が全面後退ということで解除のほかなしということであるだけに論議が交錯、反対意見もかなりあったが、やむをえず了承ということになった。あとで問題が残ることは間違いない。

参与会のあと、浜名学生部長、久綱厚生課長と私の三人でアサヒビール園に行く。

若松の労働学校は欠席のやむなきに至った。

6月1日（土）

問研の反合理化斗争に関する原稿を書く。

島津君がたずねてくる、拙宅まできてもらった。鯉をもらう約束をした。

社会党をよくする会の話である。

二日間の試験が終わったら早速、友達の家に行ったのか外泊までする啓二である。困った奴だ。つまづく危険が大きい。寿美子さんにいわせれば親の愛情の谷間だからそうなるというが、あたっているかも知れない。

フランスのゼネスト下火になったという。選挙で争うことになる。

6月2日（日）

直美ちゃんの運動会に行く。

問研パンフ、反合理化の原稿ほぼ書きあげる。半ペラ二〇〇枚以上にふくれ上がった。

気温ひどく上昇。スコール。

6月3日（月）

米軍板付基地のF4ファントム機九大電算センターに墜落（昨夜十時）。学生が立ち上がり午後はデモになった。三〇〇名以上が街頭に出たもよう。

講義のあと帰宅。

原稿をよみかえし訂正をはじめ

みゆき頭に裂傷。炊事場の出窓の角で。五針ぐらいぬうたらしい。

6月4日（火）

参与会。学生、総長会見申込みに関する件。

原稿よみかえし。

生協理事会、役員選挙。私が理事長に選ばれた。逃げるわけにもいかないのを受けてみようと思う。当面の運営方針を協議。

午後七時頃から始まって十一時頃に終る。帰りに六本松で河野氏らと四人で六本松で一ぱい。帰宅は一時。民青系、反民青系の票が全く固定的に割れている。これをどうさばくか。五時半～七時頃は、総長先頭に板付基地撤去のデモがおこなわれた。私は出なかった。

6月5日（水）

問研のパンフ原稿、吉瀬君に渡す。

午後三時から緊急教授会。午後五時から総長、各学部長、を先頭にした板付基地撤去を要求するデモについて。

今日のデモは教官職員および民青系全学連、教養部、本校あわせて五千人をこえる大規模なものとなった。別に板付基地には西鉄バス五、六台を貸切りで学生四～五百人が向かいデモを行ない、警官ともみ合っている。（三派系）。民青系は市内デモを教官とともにやったあと、職組と一しょに大濠のアメリカ領事館までデモっている。

アメリカ上院議員 R.ケネディ狙撃され重体。

みゆきの裂傷その後順調に経過。

6月6日（木）

午後参加会。明日は学生の統一行動日。スト決行につきどう対処するかが主な議題。二重指導にならないよう、そうかといって、教養部（拠点）現場だけの独走にならないよう、ともかく参与は全員現場に来てなりゆきをみておいてくれという事を特に要望した。

五時前後、学生部長とともに県警本部長とあう。学生の自重を望むとのことであった。

教養部の教官会議に出席して県警との会談につき報告。

明日はストがどういう模様になるかわからないので、事務系は午前七時に出校ということである。

学生会館には午後十時すぎに他大学の学生四、五〇名やってきたとのこと——一彦のはなし（泊るだろう。）

R.ケネディー<sup>ママ</sup>死去。

6月7日（金）

朝八時に登校。学館前には久綱氏が来ていた。昨日のうちあわせの通り学生部職員及び全参与が来て朝からのごたごたを見守った。三派系の学生は校内にバリケードさえ築いた。トラブルをさけて講義は自由という事になったが、学生側のコントロールがきいて、クラス毎に教室を指定してしまったので、講義に最初からならなかった。かくて、午前中二回とも講義



は自然休講の形となり、クラス討議になってしまった。午後若干時間を経て、学生たちのデモ先である板付空港基地に行く、約一〇〇〇名の三派系。別に三〇〇〇の学友会系がこの日基地にデモした。広島、西南の両大学が他大学としては目立った行動をした。五時半～八時過ぎまで。学生委の人より一足先に帰る。林屋に高橋先生を訪問。明日の「よくする会」人事の件につき。

6月8日（土）

昨日は協会中央委に出席するはずであったが、学生運動の盛り上がりがあったために、切符をキャンセルして上京を見合わせたのだが、その代わりに、今日は午後一時から社会党をよくする会福岡県本部結成総会に出席。会場の市民会館小ホールは約三〇〇人の入り。記念講演会には小林栄三郎氏、（政治と市民生活）松岡洋子氏（ベトナム平和と日本の立場）の両氏。二時半から五時頃まで。松岡氏の話ははじめてだが、大変よくまとまって面白かった。座長は大屋君と徳永喜久子さん。講演会のあと日活ホテルで松岡さんを囲む懇親会。同じ時刻に一彦らの九大マンドリンクラブの演奏会があり、みゆきと中村文子君が出席した。演奏会は大変よかったそうだ。

国労の「合理化」（通信講座）（中）を執筆する準備にはいる。

6月9日（日）

一日中在宅、身のまわりの整理と休養。

松原寮々祭、教養部運動会など、学生は休みなく動いているが、見学に行かなかった。

6月10日（月）

講義。米軍機九大墜落事件について、学内では安全問題基地撤去問題と米軍機残骸の撤去の問題が評議会、各部教授会の議題として緊急にとりあげられ、米軍との折渉に向けられている。学外では昨日も一万人の労働者デモがあり、本日も一〇の日デモ、ベ平連の運動がもり上がっているところである。基地撤去一てんぱり。

十二時半から勤勉手当支給に格差をつけることに反対する教養部組合の集会。三時から米軍機問題について教授会。

午後六時協会支局常任委員会。八、九両日東京で開かれた中央委員会の報告と今後の対策。中央の体勢がよろしくない。関東は四月以来二人しかふえない。関西は社会タイムスにかかりきりでこれまた伸びなやんでいる。九州が僅かに伸びている程度で全体としては意気上っていない。

6月11日（火）

生協理事会。

遠賀福祉事務所の皆さん。（則松会）九大への米機墜落問題。私のソ独訪問スライド。

6月12日（水）

三時から学生委員会。七日のストライキについて学校側の態度をどうするかについて意見が分かれた。授業をうける教室に行かないで自治会が割りあてた教室に行き、授業ができなかったという問題。

6月13日（木）

生協理事会。（福岡旅行センター）（午後五時から夜十時まで）  
国労の通信教育「合理化」の第二分冊の原稿を書きはじめる。

6月14日（金）雨

講義。

夜はレコードでもきいてゆっくり時間をすごした。

梅雨に入った感じ。

6月15日（土）

熊本全専売地本労働講座。午後一時～五時。合理化問題。

朝島津君が早朝来宅し、社会党よくする会福岡県総支部の役員について、十三日に私が欠席した世話人会において、川口氏の事務局長自薦が強引すぎたということはどう処理すべきかにつき相談あり。森田則一氏も同意見の電話があったが、懸念されるのは、川口氏が個人的に不適ではないかということ。また、第二協会の指導者が自ら買って出て事務局長をやろうという事ではよくする会は伸びないのではないかという事である。徳永喜久子さんはその点気づいているが、小林栄三郎氏は妥協を考えている。やりたい者にやらせてお手並拝見ということしかないだろうと答えておいた。

6月16日（日）

国労教宣部の合理化に関する原稿を少し進める。

夕方、みゆき、直美と買物かたがた散歩に出る。安部さんところを訪ねてみたが留守中。

九大祭で学生たちが喜々として催物をたのしんでいる。

6月17日（月）

佐世保区労働学校。

大学は大学祭のため休業。

6月18日（火）

若松地区労働学校。

6月19日（水）

教授会。

あと、社会党をよくする会福岡県本部第一回運営委員会。

役員選考がヤマで、小林栄三郎氏を会長とする事には異論はないが川口武彦氏を事務局長とする事には反対せざるをえない。理由は社会主義協会の派閥がもちこまれること、および川口氏には事務局長的才腕がないという二点である。この事務局長人事が自選立候補であるため、これをもみ消すための事前工作が大変であった。島津君と連絡の上、小林、豊瀬その他と予備折渉をおこなった。本日の運営委員会の司会は党書記長の篠原君がやり、役員人事は棚上げすることに成功した。

6月20日（木）

馬渡君が行っている下関の水産大学校での大学祭記念講演。（後一時～五時）

現実の社会変化に目をそむけることなく反応すること。学生運動、大学自治、大学とは何かなどにふれる。一月以来の教養部の学生運動の経験をキソにして話す。

あとでの懇談会で、話がよくのみこめなかったとの声があつて一寸がっかり。大学生生活の体験がないために、考えてみれば話は少々程度が高かったかも知れぬ。

みいけ 20年資料篇出来。旬報社から送本着荷。一年ばかり延び延びになった出版なので、新しい感慨なるものはない。が一つの記念、後々のためになるだろう。（四十三年六月）

6月21日（金）

講義。

若松地区労働学校。

「社会主義」二〇〇号記念号出来。私の「改憲阻止と反合理化をどうとらえるか」——七〇年闘争に向けて——は今後の論調の基本にしたい。

中央常任委員会名で出した「七〇年闘争の性格と協会の闘い」は九州で、私、嶋崎、衣笠、大坪、八丁、東京の水原、この六人が共同執筆（五月十一日に拙宅で討議したもの）。まとめ方がやや不統一の感があるのと、焦点が浮きぼりにされてない感がある。これからの討議によってもっと具体的に展開すべきだろう。

6月22日（土）

下関全通貯金局の労働講座。（合理化の問題）

夜、みゆきと白水さん宅を訪問する。深夜になる。婦人たちの集まりをもったらどうだろう

という話と、マージャン遊び。

6月23日（日）

ゆっくり休養。庭いじり。

夜、原稿を書く。

雨がなかなか降らない。水不足が訴えられている。

6月24日（月）

講義。

原稿を少し書く。

夜、若松会議。

ドゴール大統領が結局選挙で勝利しフランスの五月危機がこれでおさまるということになるが、これはどう解釈すべきなのか。フランス共産党の政策はどう批判すべきなのか。議会主義をとる社会主義政党の立場政策というものはむづかしいものだという事がわかるし、毛沢東がソ連を修正主義呼ばわりする理由もわかるような気がする。

昨年の今日から協会の分裂大会が始まったわけだ。

6月25日（火）

山口での山口自治労講習会。

若松地区労働学校最終日。早朝から夜おそくまでくたくた、になった。

後期の試験につき、レポートの採点が進まないのが気にかかる。

米軍機墜落問題残骸処理について、九大の立場がだんだん困難になってきた。

6月26日（水）

県職労の講座に黒田荘へ。

昨日から本格的な梅雨もよう。

県職労では、大牟田の共産党員橋本君に久しぶりにあう。

三時半頃終って協会支局に行く。編集会議が流れたのでゆっくり時間があつた。

昨年の今日は協会第八回大会第三日目の冒頭、午前一〇時向坂代表の辞任声明があつた。あれから一年、時間は長く、世界も、私もずいぶん変わった。わが協会の前途必ずしも楽観できないが、選んだ道は進まねばならない。ここの事務局の若い連中がしっかりしているからよい。

六時から「よくする会」の市民集会準備会（県議会党控室）。七月一日の集会の具体策を検討。

6月27日（木）

原稿を少し進める。

生協理事会流れる、学生デモのため。

経済学部大屋君と三池二〇年史の原稿料の配分について、こちらが作った案を説明、了解をえる。

6月28日（金）

講義。

社会問題研究所編集委員会。月報八月号について。

6月29日（土）

一時から臨時教授会。米軍機の残骸撤去につき、政府や米軍から安全飛行や基地撤去につき何ら具体的な保障がえられぬままに機体を下におろすことだけはしなくてはならない羽目におちいつている点についてどうするかを審議。結論はやむをえないということになったが、——国家機関の一部としての大学が行政折衝をやるということと、市民運動の一翼として基地問題に対処しようとしている点の混同が、今や「九大窮地に立つ」という情況を作り出しているのだから、この混同から抜け出ることを考えるべきではなかろうか。

6月30日（日）

二月の、後期試験の採点につきレポート分の採点がとくにおくれていたので、今日はその作業を完成することに時間をとられた。

長雨のため、夕食をしていると東側の隣接地の土崩れがあってその処理に当惑。

7月1日（月）

講義。

長雨がつづいている。

「みいけ20年」の原稿料配分の仕事。

啓二が麻雀荘に行っているとの連絡が守田家からあり、そのことで夜ごたごた。

国労本部から原稿の催促あり、一週間ほど待ってくれと返事した。（電話）

7月2日（火）

「社会党をよくする会」の市民集会があったのに、昨夜はすっかり忘れてしまっていてうちに帰っていた。島津君からの電話でやっと気がついた。

『みいけ二〇年』原稿料分配の仕事で協会事務局に行く。

今日もしっかり雨が降った。

今日も啓二のことで夜ごたごた。

7月3日(水)

教授会3時。

生協理事会5時半～11時。

午後三時までの時間に、みいけ20年史関係の原稿料の発送終る。

7月4日(木)

午後、高校、倫理社会の教材研究会に参加。那の津荘、一～三時。

三時～五時半、学友会保健部協議会。薬学部会議室。

7月5日(金)もどり梅雨、大雨

講義。

国労の教宣パンフの原稿が気にかかりながら、今日は問研のパンフ「反合理化斗争」の初校があがってきたのでその校正に時間をさく。こじんまりしたものができているので、かなりいけるのではないかと思う。

九大は米機残骸処理の問題でまだもたついている。

倉富さんが生協理事長手当をもってきてくれた。

7月6日(土)

国労教宣パンフの原稿のつづきがようやく軌道にのる。

問研の反合パンフ初校終る。八丁君に渡す。

夜、安部夫妻が来てマージャンをたのしむ。

7月7日(日)

参院選挙日。

投票が終わって世界長ビルでの支局理論戦線集会。市内関係分だけの集まりなので九名。久しく開かれていなかったのと、議題山積していたのとで期待がもたれたが、雑誌社会主義の事実上の編集部を担当しなければならない点で頭が重い集会だった。

世界長ビル五階31号室は私をはじめて行くが、一ヶ月程前から設定したアジトである。

参院選では社会党の凋落がいちじるしいであろうと予想される。合理化攻撃が労働者を体制的に組み入れてしまう点と、社会党の日常組織活動の点に問題があると思われる。

7月8日(月)

休講にしようかと思いつきながら、やはり教壇に立つ。

国労の原稿を若干進めた。

夜はつつい参院選の開票。速報や解説につられて深夜におよぶ。

7月9日（火）

朝ゆっくり休もうとしていたら教養部から呼び出しがあり、評議会を妨害して米機ひきおろし決定をさせまいとする三派系学生の行動につき説得する役目をもった学生部参加が十二時半から評議会と併行しておこなわれる。午後一時半にはわれわれの努力にもかかわらず玄関をおし破って評議会が開かれている第一会議室に約五〇名ぐらいの学生がなだれこみ、大衆団交になってしまった。西南の学生（中核）も二〇名ばかりこれに混っていた。私は四時から開かれる田島寮生の対学交渉に出席のため六本松に帰る。これがまた九時半までに及ぶ。本学での三派の大衆団交が終ったとして引き上げてきた教養部長らと合流したのが午後十時近かった。

7月10日（水）

また雨が降っている。

トマトをちぎって来て朝食に。先日ナスを一本とってきたのにつづいて二度目の自家菜園での生産物である。後続があるのがたのしみ。

十時から執行君の教授昇任選考委員会。

7月11日（木）

国労の教宣パンフ「合理化」の第二分冊の原稿を完成。二〇〇字の一五〇枚。「合理化攻撃の歴史」。

明朝発送しよう。

7月12日（金）

午後、学生会館運営委員会。二月十五日の館長告示取り下げ、学館集会所破損箇所修復の件。問研発行の合理化パンフ三枚。難解箇所の修正。

みいけ 20年資料篇、寄贈

土井、嶋崎、大坪、八丁 四冊

7月13日（土）

在宅して、互助会の森田氏からたのまれた福利厚生と賃金との関係に関する原稿を書いてみる。（二〇枚）

7月14日（日）

最低賃金法の改正につき、問研月報の原稿を書く。

高教組から呼び出しの電報があったので夕方行ってみる。林副委員長に大量に関する情勢をきく。(夕方)

明日文化人の対策をねることにする。

7月15日(月)

月報の原稿を書く。二〇〇字×四〇枚。

午後、十三日におこなわれた高教組の五〇名の処分に対する大学人の対策会議。教育会館事務局。声明文案を作り、教授陣の署名を集めること。

教育大から三名ぐらい、土井仙吉氏も。久留米大の門田見、嶋崎衣笠ら。中村正夫氏も都合で中座。午後十二時まで作業をする。

7月16日(火)

早朝出校し、署名簿など印刷。署名者一三九人。西南の古賀学長ら五人で教育庁に行ってもらう。午前十時半。土井氏がつきそってくれたので助かった。あと署名者にあいさつ状を送付する作業。ガリ切り、封筒あて名書き、社会の教室の人達が手つだってくれた。

生協の学生諸君とビールを飲みに行く。(夜)

午後十時半から参議になった上田哲氏が来福し席をもうけるというので、西中洲の山喜志に行く。衣笠君も。ここで十二時半まで歓談。話題は社会党の再建問題と九大ジェット機事件。市民的発想の人である。

7月17日(水) つゆあけのようだ

教授会、一〇時。

教室会議、一時。

県職北九西支部学習会。

皿倉山国民宿舎

反合理化問題

皿倉山に一泊

ようやく盛夏となる。

7月18日(木)

夜、生協理事会。

帰りに河野理事とビールをのむ。共産党、社会主義協会のことなどいいたい事をいいあった。



7月19日（金）

午後三時から教授会。

米機引きおろしにつき、教官の寄金による九大独自の作業をすることについて、昨日の評議会  
会の結論を承認せられたいとの問題。

不満ながら了解というところにおちついた。

啓二の一学期総括の父兄会に行こうとしたが、彼はなるべく来させまいとして、十七日の父  
兄会を正確に伝えなかったことが判明。（福高と連絡）

7月20日（土）

理論戦線に関する討議。（拙宅）午後一時から。

衣笠、八丁、松田、嶋崎、相原らが出席。

「すくらむ」がまだ出ないのはどうしたことか、やっぱり第二協会がよろこぶようにスクラ  
ップになる運命なのか、どこかに致命的な欠陥がありはしないか。

それに、東京の水原陣営の活動も甚だあいまい、お粗末のようだ。一年たってみて、水原氏  
の孤立ぶりがようやく出てきたようにも思える。九州支局が物心両面とも支えなければなら  
ないのかも知れない。関西も社タイで力量一ぱいのようだ。空中分解しそうな協会になっ  
ている。

7月21日（日）

在宅。

大正九年八幡製鉄の争議に関する読書。

眼病らしい。目やにが出る。

7月22日（月）

うだるような暑さがつづいている。今日は、以前私がけしかけた事からねだられて、応接机  
を買うのに博多中を歩きまわるおともをさせられたかっこう。古道具屋をかなりみてまわ  
ったが一軒も売っているのに出くわさなかった。先日西尾さんらと行って見つけた山崎慶  
雅堂しかなかった。そこでは二時間ぐらい話しこんだあげく、その机と、花台と、山水画一  
幅を求めて帰った。

7月23日（火）

朝、眼科病院に行く。（六本松梅野）

十時から参与会。

夜、折尾の則松会。NHKの岩崎氏も来てくれていて、マスコミ問題をとりあげ、おもしろ  
かった。

宅の出口の坂道の工事。関係住宅の人たちが賦役に出たらしい。みゆきが一日中重労働だったといていた。

7月24日（水）

午後、水俣へ。

夜、水俣支部の「社会主義読者の集会」。七〇年問題と労働運動について話す。支部役員の小松君のうちに投宿。

7月25日（木）

午前中は協会水俣支部の学習会。水俣国民宿舎。テーゼ学習。

午後四時水俣出発水へ。出水市役所会議室で昨夜同様の講演。横山市議グループ。あと動労の今林君を前に協会支部づくりについて説得。あとは小松君のオルグ力にまかせる。

夜行で福岡へ。

7月26日（金）

福岡着、朝三時半。ひるまで休養。

7月27日（土）

高教組総学習会。

福岡国際ホテル。

7月28日（日）

高教組総学習会。

那の津荘。

社会新報、社会党敗北に関する意見交換。県、党控室。（午後二～四時）

あと、旅館喜巽にて、福岡市長候補ひき出しに井上正治氏に対する工作中的の檜崎、豊瀬、林武彦氏らと話しあう。

7月29日（月）

九時～十二時

水光苑にて自治労賃金の合理化について。

二時～五時

甘木の医師会館にて、同じく自治労甘木市職の賃金講座。

7月30日（火）雨後曇

柳河市母親大会。

十時～十二時、物価とくらし。

午後、生協理事長会。（婦人会館）

生協運動のあり方についての放談会のようなもの。きまった議題なしで話しあう。

雨が四～五日つづいている。

7月31日（水）

山村君がくれた映画の招待券は本日がしめきりなので、すすめてくれているアンナ・カレーニナを見に行く。（スカラ座）

米軍機処理について反帝系の学生十数名が作業を妨害したので、引きおろし作業は中止された。八月二日には引きおろし作業をおこなうこと、それに伴って全教官が学生説得にあたることになる——評議会、教授会。

本日の学友会協議会は流会。

8月1日（木）

直美とみゆきが板付までおくってきてくれた。九時の便は二〇分ほどおくれたが、快調に宮崎に着いた。

宮崎商業高校で、九高連の教研集会。全体会議講師、分科会講師。

十時から——六時。

私の講演は合理化の話をしたのだが、なかなか評判がよかったようだ。高校の先生たちの平素のものの考え方を破るような話し方であったせいだろうか。

8月2日（金）

昨日のつづき分科会。（進路指導）午後十二時終了。

あとで、委員長中小路氏の仲介で社会主義協会の黒岩氏（県職）を呼んで、宮崎の協会の情勢をきく。あと一押しで支部結成にまでこぎつけられるのに、今は会員五名しかない。高教組が中小路以下特殊事情があって見送ってきていることが一つの問題。第二協会である県職坂田氏の勢力は三〇名ほどで、小グループ学習会をつづけているという。実際の運動ではとるに足らぬことであるという。

午後二時半頃、列車で別府に向う。観海寺の白雲山荘に投宿。

8月3日（土）

一日中ホテルで暮す。夕刻五時半、待っていた九大生協の慰安旅行の連中が到着、これに合流する。六時半から宴会。夜は理事の学生たちとマージャンをする。

8月4日（日）

別府を立って博多に着いたのは正午少し過ぎ。世界長ビルで昨日以来開かれていた協会支局委員会に出席。昨日からの論議は、社会党変革と協会活動の反省ということであって、協会自身がまだ十分変革されていないことが問題である。協会の日常活動、問題に即応する支局の指導性をどう強めるかという事に議論の焦点がしばられた。「別党コースといわれても」という気持がみんなの間に強まってきたのは事実。五時に閉会。天草の有江さん拙宅にとまる。

8月5日（月）

有江さんは九時半頃立った。旅行中たまっていた身辺整理。九州文化史関係の原稿が気になるが、まだまだおちつかぬ。

有江さんが帰ったあと、登校しようかと思ったが、暑いので、止め、明日松江に行くための講演の準備をした。

朝顔が咲きはじめた。

各所からきている暑中見舞の返事を書く。

東ドイツの酒井君からも来たのでこれには社会主義協会の分裂問題をふくめた返事とした。

8月6日（火）

登校。

労働旬報社に「みいけ20年史」の著者買上げ分につき代金送金。

生協の購買契約につき印鑑証明。

米機引きおろしにつき教授懇談会あるも出席せず。教室会議でもいい案は出なかった。

夜行列車「しまね」（九時四〇分発）にて松江に出発。

8月7日（水）

朝六時半に松江に着く。母と女教師の会中国地方ブロック集会活動者会議は午後一時から開かれた。それまで宿に案内され読書していた。全体会で私は講演「子どもをとりまく教育の現状」というテーマ。村松喬の「教育の森」を主たる参考として話した。

夜七時まで分科会。

山口大の上妻氏が助言者として来ていて、夜は松江大橋上で涼をとった。

8月8日（木）

松江。母と女教師の会つづき。全体会。

二時三分発の「まつかぜ」で博多へ。

奥田八二日記（連用）（1968年）

教壇の体験からくる発言はかなりあったが、それが教壇、地域を通しての運動体験から出た発言は大変少なかった。運動が日常的に封じられていて、単に不満となって積っている様子があらわれているとみられる。

8月9日（金）

中核派全学連の関東関西勢が四〇〇人ばかり佐世保、長崎での集会から、九大の米機墜落現場の集会にやってくるというので、教授会や学生部参与会の開催。三時すぎに彼らがやってきてその集会、バリケード補強活動をわれわれは見守るばかりであった。機体撤去に対してはげしい口調で抗議し、バリケードをめぐらして撤去作業をさせないというのである。すでにあったバリケードは八月一日に九大内の同派が作ったもの。電算機センターの建設がたとえ不可能になっても、平和にはかえられぬというのである。教養部ではこの日、電算機センター建設工事を急ぐので機体撤去作業開始のやむをえないことを了解してくれとの全学生への訴えについての案文を、教授会で決めた。

8月10日（土）

在宅。八幡製鉄の大正九年の争議関係の研究。  
島津夫妻がミヤちゃんをつれて来宅。

8月11日（日）

在宅。昨日と同じ。その関係の原稿を少し進める。

8月12日（月）

糸島郡教組の学習会。協会による。明日から盆休に入るという態勢。盆明けに三池労組の新執行部を激励に行こうということになる。宮浦鉦坑口閉鎖合理化にどうたたかうかという問題。

今日未明、松原寮で革マル派と反帝学評がなぐり合いをしている。警官が入ったようだ。教養部での自治会執行部の指導権争いのようだ。民青系を執行部から追い出してあとの指導権争い。

8月13日（火）

月報の原稿を書く。穴埋め用のもの。  
収集切手の整理を試みる。案外まとまりがかった。

8月14日（水）

在宅。

月報の原稿を書くための準備。

夕方、名島の浜に行く。

直美を海に泳がせたり貝を取ったり。八時すぎ帰宅

8月15日（木）午後五時にわか雨

寮務委員会で午前中、松原寮における乱斗事件について。警察側の追及に対して大学としてどう対応するかというのが主たる議題。

学生の乱闘。三派の考え方行動は現実の秩序外にあるので、いいところでごまかしておかないと筋の通ったまとまった策はない。ウヤムヤに限る。

西鉄名店街の切手売場で収集した切手をまとめて売ろうという男があらわれたので、もっていたカタログをもとに計算し、売価の約三割、一万円で買い受け、深夜までかかってまた切手の整理をした。主たる切手が大略集まったと思われる。

8月16日（金）

在宅して原稿を書く。

地方財政の現状について。32枚。

台風の関係で大雨。

8月17日（土）

昨日の原稿のつづき完成。

研究室の大西さんが浜の町病院に入院という。

若松の観光タクシーの一労働者が研究室に来る。

昨日、池を空にして水をかえたことに起因して、鯉が十尾のうち八尾まで死んでしまった。十ヵ月も育てたのに全く惜しいことをした。以前六月にも同じことをしたのにどうして今回は死んだのか。水の問題だろうが原因はよくわからない。

8月18日（日）

所得政策について原稿を書く。16枚。月報用。

夜、市民会館小ホールでの反戦基地撤去市民集会に出席。（みゆきも）

十時すぎに帰宅。

東大の日高氏らが来ていた。

8月19日（月）

みゆき、直美一しょに彦山の鷹巣原高原ホテルへ。福教組の田川郡支部の労働講座があるので、ついでに彦山に行こうということになった。

三時頃に着いたが、彦山も暑さは劣らなかった。

8月20日（火）

早朝彦山神社まで散歩。ぐるりと一周するのに一時間以上かかっていた。

福岡に着いたら一時半だった。直ちに箱崎の九大記念講堂にて行なわれている四者共闘（学友会、教職組、院生協、生協労組）と教官団の全学集会に参加。三派系の演壇占領によって集会は不成立。墜落現場横広場に会場をうつして集会をおこなう。（約千五百人）三派系とすぎまじいマイク合戦も。今日は徹夜でバリケード内にこもっている三派系学生（約一二〇名）を説得するということがあったが、午後十時頃には「説得」を中止した。バリケードを解体し、機体引きおろしが大学側のねらい。三派系はこれを阻止する態勢。

8月21日（水）

早朝七時半教養部発のバスで現場へ。教官団は教養部は一日二交替四直に分けられており、今日は二直目ではなかったろうか。

（途中で思いついて、飯塚に行く。県職の労働講座。飯塚文化センター。反合理化の話。十一時から午後三時まで。）

機体ひきおろしについて大学側はバリケード撤去を学生側に通告。流血の衝突がおこりそうな気配があつて、嶋崎、中村正夫君らと衝突をさける方法は反戦青年委員会の主張をきいて全学集会を開き、機体引きおろしをあとしばらく見合わせるほかはないのではないかの意見をまとめる。

帰って寝たのが午前三時。

ソ連軍、チェコ プラハに進入。

8月22日（木）

労大とは縁が切れていたかと思ったが、通信講座中級テキストの原稿料一万八千円を送ってきた。

箱崎につめる。夜十時散会。

明日がヤマだという。毎日ずれているようで気が抜ける。

流血の衝突になることがいけない。

大学側が四者共闘とベッタリだという批判が多く聞かれる。正田一上滝（九大連合執行部、正田教室助手）ラインが出すぎるというもの。共産党一民青ライン。

四者とは、九大教職組、九大生協労組、九大学友会、大学院生協議会をさす。このうち、生協労組は四者の中に完全はまりこみではない。

8月23日（金）

早朝から七時までは田川郡教組の労講。教育課程の問題。

七時に招集がかかっていたので、田川から帰りざま箱崎の現場にかけつけたところ、四時頃に暴力衝突があつて、理学部の梶原助教授が四者共闘側で組合の先頭にいたところ、（委員長だから）革マル系学生に角材でなぐられ、病院で四針縫うたという。その他二〇名ぐらいの負傷者が出た。機体保管庫の建設をめぐる衝突。この事件で大学側は引きおろし工事を一両日中止。銭高組も工事を拒否した。警官導入か工事見送りかのどちらかしかない。

8月24日（土）

熊本県評の地区労研究集会出席をことわる。（本明日の分）

午後一時から学生対策協議。（部長室）午後三時から教授会。とにかく全学集会を開けという反戦青年委員会の要求の線にもどるほかはないようだ。教養部では大学側主催の全体集会を早急に開くよう学生を招集することになった。（九月一日）

警官を使わないで暴力的に阻止をはかる三派革マルらをどう説きふかせるかということだから、やってみなければわからないが甚だ困難。

夜、新聞スクラップ作業。（近頃は学生の記事が多い）

8月25日（日）

大変暑い。在宅して月報の原稿の準備を進める。

8月26日（月）

三池宮浦坑口閉鎖につき、午前十一時半三池の新三役（宮川、谷端、古賀）が斗争協力申入れのため支局に来訪。マルベニで一時間ばかり協議。出席、奥田、嶋崎、大坪、八丁。協会分裂以来、こんなことはなかったことだ。CO斗争について、一億八千万円、否二億円以上の借金を背負いこんだという無謀ぶりは後世、強い非難をうけよう。「守る会」方式にあらわれたカンパニヤ斗争方式の絶頂。むしろ乞食斗争といってもよい。それが明確に破産し、執行体制が崩壊した（灰原、塚元、山下の本所勢力の瓦解）のは当然のなりゆきだが、宮川組合長もすでに動脈硬化した指導者になっている。（三池二〇年史資料篇につき全く文字通り、全作業過程を通じ、また今日でも、一言のあいさつも無いのはどうしたことであろう）今度の斗争に際して三池の根性を入れかえさせねばならない。

8月27日（火）

参与会の前に、朝八時半に待ち合っていて田中光夫氏にあう。新天町。囚人労働について原稿がほぼ完成しているとのこと。彼の姪村岡英美子さんのことも話題に出る。三池二〇年史資料篇を贈呈して分れる。

一〇時から参与会。二三日の革マル派暴行事件の官憲捜査に協力するかどうかの主たる議



題。結論をえず、併行して開かれていた教養部教授会も、こちらから告発しないということ  
は確かだが、明確な線は出なかったようだ。午後一時からの評議会も名案はなかろう。  
午後、社会主義協会支局常任委。（世界長ビル）社会タイムス九州総局設置および三池対策  
についての対策に態度を決めた。夜になって名田県評事務局長の誕生祝の会。西中洲の小  
林。十一時帰宅。

#### 8月28日（水）

台風一〇号の影響で、一時大雨。登校して身辺整理。「社会主義」が人事院勧告に関する原  
稿を書けとやってきたが、さしあたって材料がないので当惑。  
ソ連軍を中心とするワルシャワ機構のチェコ入りは評判が悪い。中国の文化大革命といい、  
ソ連のこの出方はわれわれの身辺での反社会主義宣伝に有効に利用される種になってい  
る。社会党の中央部の収賄代議士、私行をとわれた山本書記長、党にとっては悪材料ばかり。  
これで党が真に実力の限度まで落ちぶれるところからしか再建の目途はつかない。総評も  
いよいよ、ガタガタになってきた。完全に右傾化してしまったとみてよい。協会運動の試練  
もこれからだろう。

#### 8月29日（木）

台風の余波をうけて今日は大変低温。一週間ばかり前の台風で屋根瓦が二枚動いていたの  
で屋根にのぼって修理。  
月報の原稿ほぼ書きあげる。

#### 8月30日（金）

月報の原稿仕上げ。  
「労働力不足時代に青年労働者の賃金は果して改善されつつあるか」46枚。  
大変涼しい日だ。  
午後一時から教授会。

学生運動の重点がだんだん教養部に移りつつあるという情勢の中で、来る九月一日に予定  
されている教養部の全学生集会を教養部学校側主催でなくて学生自治会主催とせよという  
学生側（三派系）要求に対してどう対処するかで七時半まで討議。学生側の要望をいれた方  
がトラブルが少なく、前途容易であるということと、それに譲歩することは原則をまげ底知  
れぬ破目に直面するという二つの意見。

#### 8月31日（土）

午後五時頃緊急教官会議。集まり得たのは三〇名ばかり。教官側の譲歩案（教官全員を入れ  
て体育館で自治会主催の討論会とする）を自治会側（三派系）が拒否したというのでどうす

るかが議題。しかし、昨日の決議通り、学生側が拒否すれば学校側が最初考えていたように、各クラス毎の教室に入って学校側主催のクラス討論会をするほかないということになった。

自治会側が呑めとってきた条件

- 1.自治会の同意なしに全学生を招集したことについての謝罪。
- 2.学生を処分しないこと。
- 3.警官を導入しないこと。

学校側がこれを拒否したため、明日の集会は自治会独自の集会と学校側集会との対立となった。

9月1日(日)

十時から教官会議。学生との話し合いの教室ごとの配置、教官としての発言心得などを討議。

十二時頃からは正門付近で教官との話し合いをさせまいとする反帝学評派の学生と、配当教室のクラス分け一覧表をくばる教官とややこぜり合い。しかし、一時すぎには七〇〇名ぐらい集まった学生のうち四、五〇名を除いてはほとんどが指示された教室に入ったので学校側の行事は遂行された。反対派学生も遂に教室に入場、一般学生との討論に参加した。

午後四時半から五時にかけて約三〇の教室の討論はほぼ完了。五時に集約教官会議を開いて散会。心配していたトラブルもなく、まず安心。

9月2日(月)

登校して「社会主義」の原稿の資料。人事院勧告の全文を事務局から借りてコピー。

みゆきが一昨日から歯がいたいといていたが、医者に行ったら治療した歯の根が化膿。今日は顔半分がひどくはれてきた。寝こまれたので、午後からは、私が主婦役。

反対派(自治会執行部三派系)は昨日のこともあり、今日はバリケード(機体現場)が破壊されたとあって意気銷沈のもよう。墜落三周月のデモを各派でやるようで、バリケード破壊問題をめぐってひょっとすると三派系と四者共闘系の衝突があるかも知れないということである。

9月3日(火)

社会党をよくする会の第三回市民集会。午後六時から教育会館。私は板付基地問題について九大事件を軸に報告させられた。三派系の運動が機体処理、電算センター建設の障害になっているが、これには電算センター建設断念か警官導入かのいずれかしか道がないが、九大は辛抱強くかれらの説得をつづけている。しかし見込みは薄いとしか思われない。三派系の暴力手段と警官導入へのタブーが相いれない論理なのだ。三派系の存在は党の市民運動不在

に根ざしているから、市民運動を盛り上げる以外に警官をいくら使っても三派系はなくな  
らないだろうという事を主張した。警官導入タブーでなくて警官導入効果なし論である。  
岡山の河野正輝君来訪。夜、拙宅に泊る。彼先月二九日に女兒誕生。

9月4日（水）

河野君と裏の山の上ホテルまで散歩。彼が十時半頃岡山に出発したあと、研究室にいたら馬  
渡君が研究室にやって来た。両者の行きちがい。

夕食の準備などしていたら若干頭痛がしたので、夜八時頃に就床。

午後一時～二時、執行君の教授昇任選考委員会。最終投票満票で可決。

河野君はよほどうれしとみえて、女兒（陽子ちゃん）の生誕直後の写真を胸ポケットに大  
切にかかえている。

9月5日（木）

早く起きて原稿を書く。（人勸問題）

市長選挙の投票に行く。奥村前市長二期、阿部現市長二期と合計四期社会党は大変だらしな  
い選挙をし、今回もまただらしな選挙になった。投票に行く気になれなかったくらいだ。  
NHKに行く前に大学に一寸寄ったら十一日新学期が始まってからの学生集会対策の話が  
出た。早速問題になるだろう。NHKでは午後一時から三時半まで停年問題での話について  
録画。

四時の特急で大牟田市職の労働講座。勤評と合理化の話。保守市政の合理化攻撃の一つ。  
みゆき、快方に向う。暑い一日。

9月6日（金）

河野（和正）氏が機体処理問題にからむ板付基地撤去斗争専門委員会委員として意見をひっ  
さげて部屋に来たため、そのことについて話しあう。

夜、生協理事会。

ふくおか生協（板付生協と糸島生協の合併）および三池生協応援についての議題も出た。生  
協が理事会として機体処理問題にどういう態度をとるかも論議された。九月再度理事会を  
開く。

前の坂道の工事を始めた。

9月7日（土）

十時から米軍機問題対策委。一向にはっきりしない大学の方針。学年暦を若干修正して十  
二、十三、十四日を全学討論の日にしようということ。見とおしも目標もない。

午後一時から高教組教研対策の集会。教育会館。

「社会主義」の原稿が一週間もおくれてしまったが、人事院勧告を批判したもの六三枚をようやく完成、発送のはこびとなる。

日大、東大、学園紛争の極に達している。

9月8日（日）

福岡県母親大会。

博多二中。社会保障と老後の問題分科会に出席。午前九時～午後二時。

脇元君から日田へ転勤したというあいさつ状来る。

9月9日（月）

午後教授会と重なって参与会。松原寮における学生暴行事件につき東福岡警察署から寮の自治機構その他につき照会状がきているが、これをどうするかが主たる議題。照会事項に一々回答をしないで学生部長が出向き口頭で事情をのべるということになった。

教授会は対策委員会がきめた新学期早々学生と教官の討論集会、試験期日をふくむ学年暦の修正につき討議、原案通りきめた模様。それで機体引きおろしがうまくいくかは未だ疑問。しかし打つ手はすべて打とうということである。

東大医学部は抜打的にこっそり卒業試験をやった。これでなおこじれるだろう。

9月10日（火）

大分県玖珠地区公務員共闘の第九次賃闘総決起大会での講演。午後一時半—四時。

帰りに最近日田に転勤した脇元君にあうため日田で下車し営林署に電話したが、あいにく出張中。彼のために、東ドイツの林政資料を東から取りよせてやろうと思う。

9月11日（水）

午後三時から九時すぎまでの定例教授会だった。人事問題があれこれ山積していてとくにひまがかかったが、もう一つ明日の教官と学生の話し合いをどう運営するかにも相当の時間がかかった。

9月12日（木）

午後一時から五時まで、クラスごとの教官と学生の話し合い。

午後五時から九時まで寮生の「対学交渉」。風呂の重油を校費負担と、電水料金負担問題が主たる議題。学生は相かわらず受益者負担の二・一八通達を問題にして執拗にくいさがった。全学の寮務委員会の問題にすることでこの場はのがれた。

9月13日（金）

講義。

午後一時からクラスごとの教官と学生の米軍機引きおろし問題をめぐる話し合いの会。昨日に引きつづき今日は二年六組の会に出席。この会には革マルが二人いて討論は終始それにひきずられた形。自分の主張ばかり執拗にくりかえす革マルにはうんざりさせられた。議長のさばきもよくなかった。しかし革マルの主張点がよくわかっただけとりえだった。午後六時までかかった。

9月14日（土）

朝、西日本新聞の政治部の記者が来て、社会党大会が書記長人事をめぐり行きつまったこと（江田氏に対し佐々木派が反対）に関してインタビュー。

午後登校。昨日、一昨日の学生との話し合いの結果集約のための教官会議に出席しようと思っていたら、本部バリケード破壊をめぐる応用化学学生と反帝学評の学生のイザコザにつき緊急参与会招集があり、それに出席。紛争は大事に至らずにすんだ。

高教組の教研検当会議に出席。（三時から四時半）

教官会議の結果は学生大会開催の開催を希望することが大筋。

電話架設通知が来る。

9月15日（日）

朝ゆっくり。

午後、黒田荘。協会理論戦線学習会。社会党の現状に関する八丁君の報告を中心に、協会の近況を加えて討論。六時まで。

衣笠、嶋崎、八丁、松田、吉瀬、相原、奥田。

社会民主主義的政党とレーニン主義の党との間の問題が根本の課題。それに最近の資本主義の傾向。

チェコに対するワルシャワ条約軍の進入の問題も「社会主義」に発表せざるをえまい。協会の中央の指導体制が相当おくられている。

9月16日（月）

講義。

午後帰宅していたら生協の谷君が来て種々連絡。

教養部から呼び出しをうけて午後四時半また登校。学生が学長との交渉を要求していることに対する対策検討のための機体問題対策委員会である。

学長は学生の交渉要求に応ずべきであるとの基本態度を出す。あとで委員有志が残り学長の態度につき要望事項を数項目にわたって起草し、午後九時散会。明日教養部長にその要望書を手渡すことにする。明日の評議会でも説明してもらうため。

9月17日(火)

今日もまた学生対策でくれた。ひる頃、教養部長に対策会議に出るためのわれわれ教養部の対策会議の決意のあるところを伝達。教養部長が立腹するかと心配したが快く、われわれの申出を引受けてくれた。

午後四時四〇分から明日の学長と学生との話し合いの会についての打ちあわせ。

未採点の答案(後期分)があらわれたのには驚き。午後の時間をさいて採点する。

学長が学校側の学生対策の不備を認める雅量なくては明日の会は成功せぬ。

9月18日(水)

午後一時から四時半まで婦人会館でみいけ生協設立問題につき、三池の宮本氏を招き九協連の会議。斗争資金を作りたいので生協を作るという三池労組の発想について九協連側はこぞって強く反撥。三池労組側の反省を求めることになった。

午後一時からは学生会館において教養部自治会主催の水野学長との討論会が開かれており、学館全体が緊張した空気に囲まれ、午後七時まで討論がつづいた。自治会執行部と学長側の機体処理をめぐる見解は終始併行して解けず、学生一般の集まりもそう大きくなく六〇〇名ぐらいで、前望的な何も見出せないかの如くであった。が、問題はすでに解決への下り道になっている。午後七時半から拙宅にて生協常任理事会を開く。

9月19日(木)

午後一時から学生大会。昨日の学長との討論の結果を学生自身でどう集約するかである。昨日今日、そのため大学として休講としてある。反帝、カクマルがにぎる自治会も遂に機体引きおろしには阻止行動をとらないと提案。反戦青年委と中核は実力阻止を考えている。委任状をふくめて九〇〇人しか集まらず大会にはならなかった。

午後の参与会で私が次期学生部長候補に選出された。

あと、午後五時から七時すぎまで寮生交渉。例の受益者負担、女子寮建設、入退寮権、教養部から本学への田島寮管理の移管、が主たる議題。

久綱氏と飲む。

9月20日(金)

前期最終講義。

中核と反戦青年委は革マルと反帝が機体引降し阻止はせぬとの声明をしたのに対し非難をあげている、十数人が校庭でそのことについて言い争っていた。

帰宅して休んでいるとフクニチ社の記者がインタビューに来宅。次期学生部長のプロフイ

ールだそうだ。

9月21日（土）

十時から教養部の対策委員会。学生の「大方の同意」をどこに求めるかについて討議。何とはなく、一つ一つ条件を作るというような、原案のない会議がつづく。

午後は戸畑文化ホールで開かれた戸畑区母と女教師の会で講演。学生運動についてふれ、少数者のいい分の中に多数者が学ばねばならぬこと、親や教師も子どもから学ばねばならぬことのあることを強調しておいた。公害、生活保護、保育所、受験生、非行児などいろいろの問題の当事者はつねに少数者であるかも知れぬが、多数者がこれに無関心であってはならない。多数者もやはり特定の問題では少数者であることに気づかねばならぬ。このことの克服なしにはよい社会はできないと強調した。

9月22日（日）

九州文化史関係の原稿が気付きであるのに、国労の合理化講座原稿も十月二〇日の締切を守った方がよいと考え、一〇月の多忙を考えると、今から手がけた方がよいと思ったので、今日はゆっくり休みながら、その方面の原稿を書いてみる。

全くよい気候。曇ってばかりというよりは霧雨の一日だった。

9月23日（月）

革製品の安売り新聞広告をみて散歩をかねた買物と思って出かけたが、夕方まで時間を費し、ゆっくりした祭日になってしまった。夜、国労合理化講座の原稿を進める。

9月24日（火）

原稿を少し進めただけ。

教室会議。参与などの後任人事につき論議。明日の教授会には物理の上田氏を推すことで工作を進めることとする。

台風、宮古島に大被害。

9月25日（水）

今日の教授会で参与に上田氏が決定。

五時半から箱崎本部事務局医学部前をへて市役所コースの九大教官の板付基地撤去を求めるデモ。約五〇〇人参加。教養部からはスクールバス利用で四〇人ぐらいの参加。小雨が降ってむし暑い夕べだった。台風の余波がまだ去らない。

教授会がすんだところで朝日新聞の藤井氏が学生部長就任の「人」ということでインタビューを求めてきたので応じた。

教官デモには疑問が残る、なぜ市民運動にならぬのか。

9月26日(木)

問研運営委員会、同総会。

夜、問研懇親会。

〇〇夫妻来訪。

夜の懇親会は三池二〇年資料篇完成祝賀の意味をこめたものになっている。イギリスから帰った遠山君も出席してくれた。〇〇夫妻の別れ話はこれで何度目か。ここしばらく別居してみることに、こんどは〇〇君の方が外泊すること、気持が固まれば離婚にふみきるのも一方法であることなど話し合っただけで帰ってもらった。——二時まで。

9月27日(金)

一日中たっぷりの試験監督。

夜則松会に出席。十一時半帰宅。少しづつ大きくなろうとしている則松会ではあるが、五の日デモと共に若干行きづまりが感じられる。

則松会、五の日デモ、これらはもっと同類の幅広い他の運動と重なり合わなければならないと同時に、核部分の結成をそろそろ考えてみなければならない。

社会主義協会折尾支部に向けて努力すべきことを勧告したい。

9月28日(土)

四・五日も雨が降りつづいてまだ今日も残っている。カビが生えている。

試験監督をすましたあと、一時半から寮務委員会。三時から松原寮で寮生代表と話し合い。水光費の受益者負担、寮自治、女子寮建設問題などが議題。浜名学生部長最後の仕事だが、問題はすべて次期にもちこした。

学生の言い分は大部分正しいと思われる。これに対して大学側は旧来の体制をつくろうのみにきゅうきゅうとしているようにみえる。大学側の答弁はほとんどがみっともないものにみえる。学生との間にガラス張りの寮運営ができれば信用も出来てうまくいくだろうと思う。

話し合いは午後七時まで。

9月29日(日)

玄関の金モクセイが一斉に咲き強い香りを座敷に送ってくる。十日ほど前に入れかえた鯉が時々勢よく音を立ててはね上がっている。すっきり晴れた一日を採点に費した。大変できが悪く、欠点は何十枚あるのか。のん気な学生が多すぎる。今年の今日、こちらに最初の荷物を運んで一彦が荷物番にここに泊ったという話を夕食の天ぷらをつつきながら妻が話題



に出した。一年間いろいろなことがこの住宅に関してもあったが、まあ一応不満がないというべきであろう。午後三時頃、約束通り船木君が来訪。この付近の宅地のあき具合をみたいというので、妻と一しょに近隣の山地を散歩しつつ評論した。よさそうな土地がまだたくさんありそうだ。船木君もあれこれ気に入っていたようだ。

9月30日（月）

また雨が降る。

学館運営委員会の交代申しつぎ。

夕刻五時から、機体引降しにつき条件をととのえる学友会との交渉。（学生部長室）

「たちばな」で執行君の壮行会（社会科教室、大原氏のみ欠席）大原氏は高血圧とか。

昨日は二年生の答案を採点してしまったのでせいぜいしている。

十月予記

機体引降しがどう発展してゆくか、すんなりおろることを望む。中核派の諸君だけが強い反対の意思表示をしているようだが大学の出方にどう反応するかだ。

九州文化史の原稿が気がかり。問研の月報、国労の講座、きまったものだけでも二つの原稿をかかえている。学生部の仕事とこれらをどう併行するか。

10月1日（火）

生協の「くさび」の原稿二〇〇字六枚を書く。

午後は医学部地区をはじめとする各学部長、研究所長へのあいさつまわり。

それが終わって学生部全職員を集ま<sup>ママ</sup>ってもらい旧新部長交代のあいさつ。そのあと係長会議。

午後六時から社会党をよくする会の運営委員会。主題は第四回政治と生活市民集会の開催方針、会報発行方針。九時半帰宅。

江頭夫人来訪二年半ぶり。

10月2日（水）

原稿を書きさしにして芝生を手入れしていたら、厚生課長と学生係長が来訪。正午頃まで要談したが、教養部に行ってみると、学生が暴力的な衝突事件をおこしている。与那原が頭に裂傷入院。革マルと中核の、運動方針をめぐる争いのようなのだ。昨夜、やはり暴行事件あり、それとからんで学内にいた中核派に対し、革マル系が角材などをもってめぐりこみをかけようとする寸前にパトロールに発見され、三名の革マル分子が逮捕されている。正午頃の暴行事件はそれのあおりである。

午後一時からの教授会も機体引きおろしの討議よりも、正午の暴行事件をめぐる問題の方が主要議題になった。学生部に行かなかった。厚生課長も終日教養部にいた。

10月3日（木）

午前八時半から十時まで油山青年の家で九州生協連の学習会。私が講演。あと正午までは東京からの生協組織部の人講演。

午後学生部へ。雨の中を本部関係課長連中に対するあいさつまわり。

福岡学生相談所の荒木所長が来訪。相談所活動について報告をうける。

五時半から学友会が各学部代表者会議を開いたので、これに期待をかけ、七時半頃まで在室して見守る。

〇〇夫妻別れ話を取消すといって夜、来宅。

10月4日（金）

十時からの対策委員会（部局長会議）は延々夜の七時半まで。

機体引きおろしの日程を組むのに苦慮しているところ。学友会中央部を扱いかねている。二十一日の全国反戦統一行動のあとに、平和裏に機体引きおろしができるといふようなタイムテーブルをもつかが問題。中核派が機体引降し絶対阻止といっているのが一つ気がかり。

啓二の怠学につき担任より電話。

10月5日（土）

学徒援護会福岡支部幹事会。学生部長室、一〇時より。

生協常任理事会。三時より。

10月6日（日）

三池労組が宮浦坑口閉鎖問題をめぐる第四次合理化反対で三川坑周辺ですわりこみをつづけている。協会九州支局は現地に激励に行くべきだということで、大坪、八丁、嶋崎、吉井と私ほか全部で七名が大牟田に行った。第二協会がオルグ二名を常駐させていることに対抗する意味もあるのだが、私はピケ小屋であいさつをして間もなく帰福した。三池の固い労働組合主義を打ちくたく必要がある。

夕刻から田中光夫氏が九州文化史関係の原稿をもって来訪。夕食を共にしながらしばらく歓談。

10月7日（月）

啓二がまた退学問題をおこしているの、早朝高校に出向き、話をつけてきた。ソフトムードで対応してみる必要があると思った。友人だという鬼山君にもあえたので、これを機に鬼山君とも接触してみようかと思っている。

相当はげしい雨。

奥田八二日記（連用）（1968年）

午後三時、歯学部運営委。四時、基地対策委員会。

夜、拙宅にて支局理論戦線グループ会議。衣笠、八丁、吉瀬、松田、嶋崎。大学問題の話題が多かった。七〇年問題に関するパンフレットを作ろうという話で、割りあてをきめ、十一月に出版する予定でいくことにする。

10月8日（火）

一〇・八行動。中核派は山崎君追悼のデモ。反帝派のデモのとき正門前で警官との小ぜり合いがあり、山田弾薬庫前事件にからむ地裁の法廷前での小ぜり合いとあわせて今日は反帝系学生が四名ばかり逮捕された模様。正門付近の小ぜり合いのとき、警察側のハンディトーカーが学生に強奪されたということで、午後一時以降は機動隊が教養部の要所を警戒する形で包囲し、今にも学内捜査にふみこむという気はい。われわれも問題を重視し、警戒しながら深夜に及んだが、試験中ということもあって学内捜査はさけられるようだ。

中村正夫君、来宅して泊る。

10月9日（水）

学生（反帝系）が教養部正門に門柱ぴったりとバリケードを築いて警官の学内捜査を実力で阻止する構えを明らかにした。（本日前六時）

九時から一時間補講。明日再試験。

正午学生部へ。一時半から法文系一〇七番演習室で対策委員と学生自治会大学院代表との話し合い。反民青系はほとんど出席せず、した二人も途中で退席したので、内容は四者共闘の線で進めたようである。

午後六時からの小倉地区労働学校。賃金のはなし。

今日も教養部捜査はない様子。

10月10日（木）

再試験。

牧坂氏宅新築記念姫高会。和白の海岸に広い宅地をもち、モダンな建て方をしたこじんまりした新居。十一月におこなわれる寮歌祭が話題の中心になった。出席者は八名。

那須、三木、田中、久綱、私、土井、野村、それに主の牧坂。

午後七時散会。

10月11日（金）

インドネシア大使館から賠償留学生関係の九大に対する感謝の使節来学。（午前十時）

時事新聞の大学紛争に関するインタビュー。

参与会。（最近の学生問題など）

学友会定期協議会、このあと懇談会。

あすの広島行きの列車がきまらず思案の時間ばかりが経過した。

10月12日(土)

夜半午前三時二五分の列車で広島全電通労働講座に出向く。湯来温泉は廿日市からタクシーで四〇分ぐらいのところ。午前十時から二時半までの講義で、合理化問題を話した。今はマツタケが最盛期のように、八幡川をはさむ山々はマツタケのにおいがしているようなたたずまいだった。行きの列車は冷えこみが甚だしく、帰りの列車はひどくこんでいて大変疲れた旅行だった。午後八時半帰宅。

電話が開通した。

10月13日(日)

警察による教養部捜査。

朝五時に上田さんからの連絡。六時頃登校。七時頃捜査班入校。十時半頃捜査終了。この間機動隊の学内侵入、学内における逮捕状執行など不当と思われる事件がおこり、大学としてはこれに抗議の強い意思表示をした。警察不信に壁は一枚厚みを加えた。捜査の結果は何も出なかったようだ。副産物のようだが、正門のバリケード机を警察が除去してくれた。主目的だったハンディトーカーはでてこなかった。

10月14日(月)

部局長会議と評議会。

夜、社会党をよくする会の第四回市民集会。教育会館中ホール。物価問題、中央青果市場をめぐる大同青果、仲買、小売などの立場から説明あり、のち討議。土井さんが司会。みゆきも来た。なぜ青果物上がるかの原因がよくつかめなかったのではないか。物価問題は市民にとってもやはり難物のようだ。過密過疎にあらわれるような高度成長策にこそ問題があることがわかる必要があると思う。

みゆきとテンプラを夕食にして帰宅。

10月15日(火)

一昨十三日の教養部捜査に関連して、教養部長および学長名の抗議文をもって県警の警備部長(室伏氏)に会見。(川口、岡田、私、学生課長)県警側は抗議されるような非はないと高姿勢。ハンディトーカーを奪われたということで余程頭にきているようであった。それにしても学内での学生逮捕、機動隊導入などはよほど慎重を期してもらいたいという大学側の気持にはかわりはない。会見は二時半から四時まで。

夜、小倉労働学校。

10月16日（水）

本部ゆき。事務処理後。

一時の特急で三池へ。生協問題で川本君も同行。三川支部で主婦会役員と懇談。労組の者とくればると主婦の方は組合主義が稀薄で、これなら生協も将来やれるのではないかと思われる。ある主婦会役員は、生協についてはじめて開眼しましたといった。

六時から久留米地評の労働学校。賃金のはなし。

10月17日（木）

入試追跡調査（世話人）委員会。一〇時から教養部で。

午後一時から緊急常任対策委員会。

夕方天神町かどに立つ。

板付基地撤去を訴える新聞広告をするためのカンパ

九大教官有志〔ニューヨークタイムズ〕

午後七時から十時まで。

山ぎしで西南大の遠山君の帰国歓迎会一問研関係。

10月18日（金）

後期講義はじめ。今年は米軍機問題をめぐる学生集会などで予定より四日おくれた。

夜、久留米労働学校。

10月19日（土）

部局長会議一時から。電算センターの仮設場所の第一候補を理学部会議室とした。

併行して行なわれていた教養部教授会では、裏西評議員辞任の後を野田教授とした。学部進学査定において、今年の留年者総数は三〇一名となった。率にして一七%、例年より多いという。学生運動の影響も若干あるが、学生々活での落伍者が多いようである。

月報十一月号に公害の原稿を書く。半ペラ 32 枚書き上げておいた。

10月20日（日）

川口氏が昨夜来、県警が九大の抗議文をつっかえしてきたことを盛んに問題にしている。今日も研究室でその対策の緊急性を大げさに主張していた。どうもそのはりきり方がよくわからない。今後どうするかが問題で、新聞が書いたかどうかをあまり気にしてはじまらない。大学側がつっかえしを甘受したという印象ならとりかえすほかはない。

午後労福協の講演。黒田荘で。荒尾の久保田氏が来ていて久しぶりに話した。荒尾の社会党の再建について。

10月21日(月)

いわゆる一〇・二一の国際反戦デー。朝から教養部も三派系中心にがなり立て、午後はさっ  
と出て行った。竹下駅と板付がかれらの目的地。東京では新宿駅で深夜まで大混乱。三〇〇  
余名の逮捕。福岡では三一人が逮捕されたい。

今日は教養部にいて様子を見ていた。学生部にいかず。

10月22日(火)

講義を半分して学生部へ。入試実施委員会。

午後は入試審議会小委員会。

四時半から田島寮生の対学交渉。(学生委員会室) 警務員の配置反対と負担区分撤廃が主た  
る要求だが、大学側の答弁は保守的でチグハグだ。

途中で退場して午後六時からの福岡地区労の労働学校へ。

擾乱罪適用にふみ切ったので学生事件は新事態を迎えた。

10月23日(水)

福高の校長に呼ばれて朝八時半に出頭。敷島太郎といういい名の校長で、みゆきが前に一度  
会ったとき柔和そのものと評していたが、その通りで、啓二のこともあと三ヶ月そらのこ  
とだから担任にも我慢してもらって、何とか卒業できるようにということであった。

あと学生部へ。

佐世保の国際経済大学の学生が来て、十一月十日に学園祭の講演をたのむという。(学生問  
題について。)引きうけることにした。

10月24日(木)

文学部自治会では反帝学評系学生の指導のもとに、二一日のストライキを二五日にすると  
いい、研究室、事務室を封鎖し、廊下にバリケードを築くという事件がおこった。(午後四  
時半)これに対し、学友会、教職組は憤激し、民青系の学生たちを動員。反帝系学生が食事  
に出ている間に文科系研究室の玄関その他の入口を占領した。その数約一五〇名になった。  
反帝系は約四〇名。両者は夜ふけまでに入口の扉をはさんでしばしば対立したが、午後十二  
時頃には民青系は廊下内部に角材、ヘルメットを持ちこみ武装をととのへ、衝突必至の中  
で、民青系の手によってバリケードが完全にこわされ、反帝系をさらに刺戟した。関係教官、  
(参与、評議員はもちろん)は緊急に動員された。理学部会議室事務室が連絡、会議のため  
に開放された。寒い夜が眠るひまもなくふけていった。風と雨が冷い。台風余波らしい。

10月25日(金) 風雨シケ

五時から評議員会。三時頃に招集されたもの。部長室で仮睡した私は六時前になってから参

加した。

猛烈な破壊と流血が——九大はじまって以来、最近になってから最大の事件がおこった。警官導入は避けられた。二〇人あまりが、両者の間に、相当程度の負傷をした。昨夜職組、学友会が学内に立てこもり、角材とヘルメットを用意したことがこのような大事件になるとは思われなかった。籠城派が優勢なので反帝側は無鉄砲に近よるまいと思ったのは予想ちがいであった。九時過ぎには事態はおちついた。

午後入試審議会。以後私は入試関係の会議には欠席することにした。啓二が高校三年だから。

午後三時から六時まで寮務委員会と参与会。主として本日の総括。民青が武装しはじめたこと、これは大学側との協同の問題。今後の学生運動に重大な変化をもたらすこととなろう。ガラス破損その他の損害約一〇〇万円という。

#### 10月26日（土）

午前中、東福岡警察署からの出頭要請の五項目につき総長室で検討。

午後二時からそれにつき評議会。

午後五時、指定されたシティホテルに出頭して東署々長と会見。

五項目の被害届を出してくれ

- 現場検証に協力してくれ
- 負傷者の氏名を出してくれ
- 現認教官の氏名を出してくれ
- エスカレートする今後の情勢に総長はいかに対処するか

のうち、第五項目を中心に署長の見解が展開され、大学は警察との協力によって学内の治安を維持すべきではないかとの意見を拝聴して帰った。

後、エレムで水波氏らと会合。八時～十時。

#### 10月27日（日）

九重研修所。月懇。

朝七時出発、列車で、正午前到着。

しばらくこなかった九重はまず道路事情が大変に改善されているのに驚き。共同研修所は立派（七月開所）だが、俗化の中心になりそう。十三曲りのもみじはもう少しのところで華麗さ絶頂というところ、研修所のながめは実にいい。合頭山ももみじに包まれ全貌をみせる。

午後一時から四時半まで懇談会。夜懇親会。

#### 10月28日（月）雨

九重から帰ったのがひる前、

直ちに町村会館での第二回消費者大会に出席。講演。

あと教養部教授会。（午後四時から八時まで）

警察から文学部事件の被害届を出せとの要請があった事に対して土曜日の評議会では各教授会に持ち帰って討議するという事になり、そのための今日の教授会。被害届は出すべきでないという意見ばかりが出た。

10月29日（火）

午前中講義。

午後評議会、東署要請の五項目のうち第一、第四の項目について各教授会の意見集約。第一項目はおおむね拒否。第四項目は関係各学部長が自ら出頭して事情を積極的に説明する、ということになった。

評議会のあと学友会、教職組は学生部長室に十数名来襲。暴力の両者を非難するのはけしからんと抗議した。

六時からの福岡労働学校には八時寸前に着くという遅刻ぶりであった。

10月30日（水）

私たちの結婚二五周年。夜ささやかなパーティ。東定、中山、山田、の協会事務局の三人の女性、安部夫妻が来てくれた。島津夫妻は所要あって欠席。そのほかは呼ばなかった。

啓二が行きづまってしまっているらしい。勉学の気持を失ったような気がする。今日も気分が悪かったからといって七時半頃まで帰ってこなかった。怠学の彷徨から足を洗うことができない。退学した後がさらに心配。

今日は学生部に行かないで、教養部の研究室で身辺整理をして時間を費した。

中村文学部長引責辞任につき文学部教授会了承する。

10月31日（木）

一日中会議の連続であった。

学生対策についての基本的態度の参与会における検討。（暴力的行為がエスカレートすることを予想しての大学としてとるべき方策）結局は各学部に学生委員会のようなものを各学部の実情に即して組織して日常及び緊急時に対処し、全学教官がいつでも動員できるような態勢をととのえること。暴力が予想されるときは教官が動くこと。警官導入については従来の方針通り。

参与会は十時から二時まで。直ちに寮務委員会に切りかえ三時半から寮生交渉。（六時半まで）主題は、

- 1.田島寮の警務員問題。



- 2.二・一八通達負担区分の問題
- 3.〇〇管規ないし寮自治問題
- 4.各寮の統一管理の問題

11月1日（金）

講義。

学生部ゆき。昨日の会議のあと整理。

夜、新旧学生部長歓送迎会。サッポロビール。

東京へ出発。

11月2日（土）

社会主義協会中央委員会。

11月3日（日）

中央委員会第二日。

すくらむの再建で一ぱい。午後顧問団との会合。（合化の談話室）。太田、岡、秋沢、高岩の四顧問出席。冒頭、太田氏から思想を異にする常任委員が専従をしているのは双方にとってよくないことだから、明確に辞任すべきだと水原君に言明。水原君からは意見書を出す予定だったと間をおこうとしたが、太田氏が切りかえし、水原君は直ちに辞任すると明確に答え、処置は中央常任委に一任するとして席を立つ。私、嶋崎、大坪の三人が水原の気持をたしかめるため、別室で水原に会ったが、水原は協会解体論を主張し党も協会もやめるといい、三人は水原と袂別した。

仙波恒徳君（平和経済）と連絡。高橋正雄先生宅で待ち合わせてしばらく歓談。私はここで泊めてもらうことにする。

11月4日（月）

東京大学見学。

午前九時半頃から一時半頃まで駒場の教養部。七月初旬以来授業がおこなわれていないバリケードで封鎖されたキャンパスを見学。全く荒れてしまった広々とした見るかげもない学園。大きい取りえ、しかし大なる廃墟である。一口に言って大きすぎたといえるだろう。二時半頃に本郷、経、教育、文学、法学、医学、工学の各学部。これも荒れるにまかせ、行きかう学生の心も空虚。

学生部長病気とかで学生部次長が案内してくれた。夕食も学士会で共にしたが、何と表現してよいかわからない。一般の社会ではありえない無秩序の世界である。九大はまだましなのだ。

高橋正雄先生宅に投宿。

11月5日（火）

文部省に就任あいさつ。九時半。のち、旬報社木村社長にあい、出版の計画など話しあう。合化労連副委員長室ですくらむ再建につき協議。学習運動中央会議の債務などあとは引きうけないことになる。どうということなのか、経理が乱脈だ。田中君が出版編集など一応引きうけることになる。太田色、合化色が強くなるからと試みてみたところで学習活動中央会議があつたまでは、読者を裏切らないことを第一とする限り、自かからを絶つか、身売りするほかはない。社会主義者としての資格はゼロだ。

高橋正雄先生宅に投宿。

11月6日（水）

全国学生部長会議第一日。

於東京農林年金会館。

一〇時から五時まで。宮地学術局長は皮肉をこめて、大学紛争の現状は社会に対して申し訳ないから何とかならないかということ強調した。学生参加にも、責任のない者が決定権をもつにはおのずと限度があると指摘。三班に分かれて各大学の実情を交換。夜は懇親会を七時まで。

協会に行つて赤間君がいたので彼女から少しばかり事情を聴取。経理が乱脈になっていること、水原、橋本、久本の三人は必ずしも思想を同じくしていないことなどがわかつた。彼女は、水原君と連袂辞職というのではなく、プロ専従をこの際やめたいということで辞意を表明。

合化の宿舎に投宿。

11月7日（木）

全国学生部長会議第二日。

11月8日（金）

出張一週間でしんが疲れた。朝博多に着いたときは、いやだったが、講義を二つした。西日本新聞がひる休みに写真をとりに来たりしたので一そう忙しかった。午後の対策会議にも出席した。機体引きおろしの最後のチャンスをつかもうとする秘密会議。決め手はない。夜、福岡地区労々働学校へ。

11月9日（土）台風気味の風雨

学生部で学友会の記念講堂使用につき協議。

うちで一年六組のクラスコンパ。二〇名ばかりが集まった。学生補導費を使つての集会だが、補導というにはあまりにも幼い連中ばかりである。これから大人になろうとする時期で純粹そのもの。

午後六時から評議会。十一時までなので、学生の集会を途中から抜け出て出席。全学集会を開き、月末までに機体引降ろしの見とおしをつけたいとするので、その日程の論議。

11月10日（日）

朝ゆっくりする。

十二時の列車で佐世保へ。

国際経済大学の学園祭における新聞会主催の講演会「大学は考える」というテーマ。一時間あまり。

現在の学生運動のなかから大学は何を学びとったか、大学は何をとわれているかを明らかにしつつ、暴力的学生運動について批判し、これを克服するためには、学生や教授が自己のタコツボから出て事にあたるべきだと強調した。

午後十二時帰宅。

11月11日（月）

社会党福岡総支部の市政研究会発足準備会。午後六時黒田荘。

学者関係委員に小島、八丁、小林晃の三人を推せんする。

同時に開かれた社会主義協会九州支局常任委員会、（協会集会所）に九時出席、十二時まで。主として支局委員会にかけるべき議題の討議。

水原問題には同情的である。福岡に呼んで支部や組合をまわらせたらよいという意見が強かった。しかし、水原君には事務局を託するに足る手腕はなく、その点社会主義者として欠けるところが大きい。

11月12日（火）

講義。

午後一時～三時、福岡高教組のために、教研集会を成功させるための講演。那の津荘。

四時から本部へ。教育学部の遠藤先生に来てもらって、入試の追跡調査につき話しあう。

午後六時～八時半、福岡地区労の労働学校。

水原君が真に別党コースを歩もうという主張は理解できるが、なぜあのチャンスに辞任までして協会を去るような別党論を主張したかについては背後にすくらむ、協会の双方の会計の混乱が限界に来ていたからだとみるのが正しいと思う。九州支局の者にはその点の危機感がない。もっとも説明不足なのだが。

11月13日(水)

会議ばかりの一〇時間。

十時～十二時半 生協との会議

十二時半 } ~~X~~ 学友会との会議

午後三時 } ~~X~~ 寮生との会議

その後教養部へ帰り教授会を午後八時まで。

生協 中央購買部、図書部の建物建設の件、光熱費学校負担の件、校費納入の件

寮生 補充入寮者募集の件

学友会 記念講堂使用の件、使用料について

教授会 主として、機体引降ろしを目ざす学生の全学集会を開いて大学の立場を明らかにし訴えることについて、全学集会かブロック集会かの問題。

大学側は三派系学生の主張をすこしでも譲った方がよいのに、それがない。

11月14日(木)

呼び出されて登校、対策会議。

教授会の結果を持ちより、全学集会の開催や機体引きおろしについての条件など討議。——午後六時まで。会議の途中に、九時二〇分頃米軍機が小郡町の田んぼの中に墜落したとの情報が入った。夕刻には教養部でも本学でも、学生が直ちに抗議集会にあちこちで立ち上がっていた。機体処理に一つの困難な条件が付加された。

午後二時頃、隣の浩君が田島の踏切りで列車事故で死んだ。自転車に乗れるようになって、下校後は自転車遊びにぶちこんでいたのが、そこにすきを作ったのだろう。直美ちゃんと肩を組んで一年生仲良く学校に行っていたのに、全くかわいそう。

11月15日(金)

講義。

寮務委員会。三時。

松原寮で寮生交渉。五時～八時すぎまで。

六時頃には、米軍機の小郡墜落につき教官、学生、などの抗議デモが行なわれ、寮務委員の他の人達はこれに参加。

寮交渉は少しづつ進んでいるが、懸案はまだ残る。

- 田島寮の暖房、石油ストーブの件。
- 女子寮建設及びその管理人室の件。
- 松原寮暖房石油代負担の件。負担区分につき論争。

隣の浩君の祭壇は記念に写真をとっておく。

近頃は夜寝るのが精一ぱいの生活。

11月16日（土）

浩君の葬儀は無事すんだそう。学校のクラスの子供も来て弔辞をよんだという。親はたまらなかつたろう。

午前中に本部へ。

午後は一時半から六時半まで評議会。二十五日午後二時から記念講堂で全学集会を開くという方針がきめられた。東大でも事態收拾のため同じ日に全学集会を開くということである。

全学集会のあと、機体引降ろしに着手するが、小郡に米軍機が再び墜落したことが、マイナスの条件を大きくしたとの見方が強い。前途はまだ多難。

今日学生部職員の小棚温泉へのレクリエーション。評議会のため行けなくなった。

11月17日（日）

学生部の旅行に行かなかつたので幸いに時間がとれ、一日中原稿を書くことができた。久しぶりのことなので、能率は上がったとはいえないが、それでも、国労の教宣資料を三〇枚ほど書けた。

のどかな秋の陽だまりは午睡にも適している。上の山を切り開いて宅地を造成するブルドーザーの音は、金銭欲に動かされている破壊の音に聞こえてにくらしくもある。

11月18日（月）

入試実施委員会。

入試審議会小委員会。

ひるの時間に、総長からの伝言を四者共闘側に伝える。四者側は二十五日に予定される全学集会は拒否するとの態度であったが、説明をきいてやや軟化したようである。

夕方からの実行連絡委員会は、「説明会」にするという案が全学集会にかえられたといって不満をもらしている。これがどうなるか。

夜、県庁内、社会党控室でよくする会運営委員会を開く。第五回目の政治と生活市民集会について。

11月19日（火）

講義。（午前中）

昨日来、私が総長に代わって四者側と会ったことに対して実行連絡委員側から多くの不満がでていいる。また全学集会になったことについても、実行連絡委員は最初の原案が単なるブロック別説明会でしかなかつたのに違つたものとなつてしまつたので、全学集会について

も責任はもてないといっている。

五学部自治会が反対派で共闘をはじめ、大学側にせまっている。実行委、常任委が五学部自治会と合って話をきいている。（午後）

門司小野田化学の学習会。四時～八時。十時帰宅。

11月20日（水）雨

登学せず。国労の「合理化」の原稿を進める。

夜は行橋地区青年労働学校。

11月21日（木）

勤労学徒表彰式。学生相談所。（幣原賞、支部長賞授与式）一一時より福岡支部にて。

永年勤続者表彰式。九大、記念講堂、三時より。

外国人留学生指導委員会。五時より。とくに寮問題につき。

対策委員会。六時から一一時まで。四学部自治会申入れ、及び学友会申入れをめぐって。二五日予定の全学集会開催は不可能となる。

徹夜で（午前四時まで）国労教宣部通信教育「合理化」（三）の原稿整理、完了。一七三枚。

11月22日（金）

講義。一〇時二〇分～二時二〇分。眠い。

評議会。三時～。

六時から福岡労働学校。基地問題に関するシンポジウム。

11月23日（土）

全国学生経済ゼミ福岡大学大会第一日。（社会思想史担当）午前九時～午後五時半。

百姓一揆の問題、金日成の政策の問題。

旧制高校寮歌祭九州大会。市民会館大ホール（午後）は今年もまた出席できず、午後六時からの打ち上げ会（やま利）には出席。今年の出席者が多くなかったので姫高の意気あまり上がらなかったという。東中洲に二次会。（三次会は鳥山先生宅に十一時頃からおしかけて、午前二時までに至った。最後までいたのは私と土井、久綱の三人）全く疲れてしまう。

11月24日（日）大雨

全国学生ゼミ第二日。

日本ナショナリズムと社会主義という共通テーマ。昨日は一五人ぐらいだったのに、今日は五五人ぐらい参加。論議は活発だった。ナショナリズムの掘り下げが足りない。ナショナリズムと社会主義を単に併列させて対抗させるといけないのではないか。

小林学生課長がアーヘン大学のメーネルト教授を迎えて空港から電話。教養部の受入れがよくない。岡田さんに連絡したが岩崎さんが軽い返事をせぬという。——事なかれ主義。疲れていたのので夜は何もせず寝る。

11月25日（月）

メーネルト氏と総長との会見。中食会（ニューハカタホテル）で午前中を過ごし、午後は二時から三時まで、メーネルト氏を嶋崎研究室大学院授業に紹介することに費した。メーネルト氏は世界の学生運動、紅衛兵運動についてのうんちくを傾けて説いていた。六二才というようにはみえぬ若さ。巨大な産業社会が生み落した問題であるにちがいない。三時から総長室で常任委員会を開いたのち五自治会（三派）の学生と、全学集会についての予備折衝をどう開くかについての交渉（第一会議室）。学生側は公開の大集会として予備折衝をもちたいという。大学側は代表とのみ会うという。七時前に決裂。全学集会への道は閉ざされた。学友会側も独自の要求を出しているし、両者の矛盾は解けそうにない

11月26日（火）

講義。

午後一時から拡大常任委。

昨年<sup>マ</sup>の三派系に対する交渉打切り、全学集会の展望中断の状況のもとで明後の四者共闘との交渉にはいかにのぞむかについて協議。四者側からは全学協議会方式の機体処理問題提案がでてい。それは全学集会に限らず今後の大学運営全体にかかわる民主化要求もふくんでいる。また、三派系には暴力排除の方針をもうち出している。四者系との交渉においては四者の提案そのものを呑むわけにはいかない。全学集会をその線でおこなうことは、問題をますますこじらせることとなるとの意見になった。当面の展望はこんとん。

11月27日（水）

朝、月報のための原稿を、昨夜にひきつづき少し書く。

ひる前に、本部に出頭。四者側と窓口折衝。二八日の予備折衝の時間等について。

生協の事務部をのぞいて四自治会系の意見をきく。

四時から、明日の四者共闘との折衝に関する検討のための対策会議。午後八時まで。

こんなことで、体の調子が少し悪い、よく眠れない、体がだるい。

11月28日（木）

登校して月報の原稿を若干準備したが、気のりがせず、十一時すぎ、医務室で薬をもらって休養室に入る。眠ったのか眠らなかつたのかよくわからないが四時頃起き出して研究室にもどり、学生部と連絡。入試のことや四者共闘側との団交のこともあったが、今日は本部に行

かないことにする。

研究事務室で横田君と社会保障の問題等について話していたら帰りがおそくなってしまった。

のんびりした一日にしたため、体がずいぶん休まったような気がする。明日は寮生を相手にせねばならない。

11月29日（金）

講義。二時二〇分まで。

三時から略式寮務委員会。四時から八時半まで寮生交渉。寮の暖房重油代、入寮（補充）手続き問題等。

結局学生側も譲ったので、入寮志願者選考手続きを完了することができた。重油代の問題も解決の見とおしがついた。

問研月報、原稿書き終る。

11月30日（土）

午前一〇時から対策会議。四者との七・九確認四項目について、再確認のための文書交換をするかどうかについて——二八日の交渉のあとの懸案事項。

基地と公害の公開講座（午後一時から）記念講堂。これに出られなかった。

一時から生協理事会。引つづき二時から秋の総代会。理事長としてのあいさつをしたのみで退席。

四時頃、母子会館で開かれていた社会党福岡地方議員団会議に出席。社会党をよくする会代表としてあいさつ。

午後八時、一時から開かれていた社会主義協会九州支局委員会に出席。黒田荘二〇五号室。十時半まで経過報告と活動方針の提案。のち、若松旅館にて支局委員宿泊者と懇談。

12月1日（日）

支局委員会第二日。九時半より電々会館会議室。四時終了。

研究室に寄り、「社会主義」の原稿に着手。午後八時帰宅。

佐方の父来る。

有田の中西君より久しぶりに電話あり、啓二のことが心配だという。一ヶ月ほど前にその旨の手紙を書いてやったので。

12月2日（月）雨

ひるまで原稿を書き、午後は定期検診。受検しそこねていた胃の透視。

午後二時からの評議会、四者共闘の文書回答要求にどう答えるか、この問題は拒否の意見が



圧倒的だが結局教授会にもちかえることになった。生協に寄って、魚屋専務から去る三〇日の総代会の様態をきいた。九六：六七ぐらいの票差で与党の方針が貫かれたという。とことん対立である。

評議会が終ったのは五時半だがその頃に雨は本降りになっていた。今日は米ファントム機墜落六ヶ月というので九大あげての夜のチョウチンデモだ。雨の中を総長も学部長も参加した。提灯は途中でつぶれた。列は長々と参加者は一五〇〇ぐらいだったろう。教養部も学生教員三〇〇ぐらいだから。八時頃市役所前で流れ解散おわる。

#### 12月3日（火）

講義。

あと「社会主義」の原稿を進める。

中旬に原子力潜水艦が佐世保に入港するので中核系学生が動いている——この問題について、谷口係長、安東氏、学生部からは次長、課長補佐が来校するなど、学生の動向を確実に知るために人が出入した。

六時から福岡労働学校。破防法闘争をめぐる。

#### 12月4日（水）

「社会主義」の原稿を仕上げるのがやっと。四時の列車で行橋地区労働学校へ。前もそうだったが雨がひどかったので苦労した。講義が終ってから同志の若者十人ほど集まり、夕食を共にしながら運動のことを話しあった。

午後十一時三分の特急「彗星」（門司）で上京。

近頃睡眠がよくとれない。この車中も同じ。

#### 12月5日（木）雨

新大阪で新幹線のりかえ。東京着は十一時一〇分。ここでも雨にたたられた。全教互の集会で（社会文化会館）「福利厚生と賃金」と題する講演をするのが上京の目的だったが、（午後一時～四時）講演のあと全教互の幹部たちと夕食をし、帰路についたときはげしく雨が降り、タクシーを拾いそこね、指定の超特急に乗りおくれてしまった。そのため全旅程を変更し、宮崎に急ぐために、大阪から宮崎までは空路にした。京都のステーションホテルに投宿。

#### 12月6日（金）

六時半に起き出て大阪空港に行き、八時五五分の宮崎行きの搭乗券を入手。一〇時頃、快晴空の旅五〇分の後宮崎市に着く。市内見物。

午後三時から大淀川畔のホテルフェニックスで九州地区国立大学学生部長会議。何とはなく最近の学生運動のことが話題となっただけ。

自治会館に投宿。汚いところ、安いから。

学生部の次長、厚生課長、学生課長補佐も投宿。

12月7日（土）

午前十時から宮崎市婦人会館で九州地区大学厚生補導協議会。午後四時半まで。

あと、昨日もそうだったが、この日も、フェニックスで懇親会。民謡おどりなど余興を見せてもらった。子供のする「いもがらぼくと」がよかった。

夜は何となく市中をぶらついた。社会主義協会の宮崎支部は陥没しているようで、私の三日間滞在中に協会員に連絡し会談するよう申込んでおいたのに、宮崎支部からは何の応答もない。（里岩、中小路、ら）

12月8日（日）

午前中厚生補導研究会。同じく婦人会館。

午後あいにく雨になったが、宮大の好意で見学団三一名。青島とサボテン公園へ。

サボテンを買って帰る。急行えびの3号で帰博は十時半。

今朝、佐方の父は一彦が駅まで送って行って、帰ったという。

胃の調子が妙に悪い感じがつづいている。下向きになってみたり寝ぐるしい。睡眠も十分とれない。旅行中（その少し前から）、そんな状態がつづいている。

12月9日（月）

研究室に行くと、川口氏などから生協の要求について苦情がきかれたので、魚屋君と連絡。生協の要求の仕方にも問題があるが、大学当局もてんで問題の所在がわかっていない。

三時から入試小委。入試の科目をどうするか、各学部のエゴを丸出しにしながらいつまでつづくも知れぬ論議。理科と社会についての問題、選択か抽籤か指定か、どの科目かということの論議。

五時からグループ懇談会（一の六、二回目）拙宅でおこなう。今日は一〇人しか出席しなかった。八時半まで。

入れかわって問研から録音をとりに来た。（大平君）初任給問題について新年号の原稿とするために。

12月10日（火）

講義。

午後一時半から評議会。十二月中旬に機体引降ろしの目途をつけるための全学集会を提案することについて。

午後六時から評議員全員が四者共闘側および反代々木系側と別個に、同時に、全学集会の提案のための会合をもつ。あと評議会を開いてこれを集約する。

奥田八二日記（連用）（1968年）

私は午後六時から福岡地区労働学校最終回の講義に出席。

胃の調子が気になる。

正午、朝日新聞の記者が中村正夫氏の研究室にたずね、炭鉱の資料保存などについて話し合いがあり、これに出席。

12月11日（水）

胃の調子が気になるので、教養部教授会など休み、在宅して前期試験の答案の採点をする。夕方、教養部から電話があり、寮生交渉に是非出席してくれとのこと。大平君が一昨日の録音をおこした原稿を見てくれと行って来訪してきた。その仕事をすませたあと、教養部の寮生交渉に出る——午後六時。

交渉は結局、上へもち上がることにして午後十二時前になって終わる。

定期検診の結果胃は悪くないと中村次長が伝えてくれたのだが。

12月12日（木）

一〇時から生協交渉。校費による直接間接の援助増大について。

一時から留学生古賀寮の完成にともなう募集要項の決定について。（留学生指導委専門委）

三時から略式寮務委。

腹ごしらえして、六時から松原寮での寮生交渉に臨む。

四時から予定されていた交渉が六時に始まったので、冒頭に寮生側から非難をあげてきた。だまり戦術をとって一時間半ほど時間を空費した。二・一八通達不当声明その他原則論のやりとり、女子寮青写真問題、暖房重油代公費負担、田島寮暖房器具など交渉は延々とつづき、終に徹夜。終わったのは十三日午前三時すぎ。

12月13日（金）

やっこさで講義。

午後四時から経済学担当教官選考委員会第一回。

六時から戸畑労働学校。（合理化）

午後十時半帰宅。全く疲れた。

松原寮生には、十九日予定の交渉はとりやめた旨を電話連絡。規則は認めないとの理由で一方的に誓約書の提出を拒否したので、平和な話し合いは当方も拒否すると昨夜（今朝）言明して松原寮を引きあげたので、それをたしかめるために電話しておいた。寮生がこの交渉拒否をどう受けとるかが今後の問題である。

機体問題をめぐる三派系と学長との交渉もゆうべから今朝の五時すぎまでかかったという。

12月14日(土) 小雨と風

朝ゆっくりしていたら、やっぱり本部から電話がかかってきて、今日も御出勤の必要がでてきた。午後三時から対策委、実行連絡委、機体ひきおろし技術委の合同会議、六時まで。二十一日を期して引きおろし作業を開始することとなる。三派系も四者側も全学集会を拒否し、本日、総長名で機体処理に関して学内の疑問に答える文を全学内に発表。ガス切断方式で反対者に対しても柔軟戦術がくめるというもの。ただし、二十一日が原潜が佐世保に入港する日であれば、三派系とくに中核は全部佐世保に行くかも知れぬ。明日の対策委でこれをさらにくわしく検討することになった。機体がうまく降りるかどうか、今もって定かではない。ともあれやってみないと積極派をおさえられぬ時点にまで来ている。

久しぶりに直美らと夕食を共にすることができた。急に寒くなる。これまで異様な暖かさだったので。

12月15日(日)

サボテンの鉢かえをした。

午後二時から対策会議。二十一日の引きおろし作業開始を目ざして諸案件のつめをどうするか。午後七時まで。

風が吹いて冬型になってきた。

12月16日(月)

田島寮の暖房問題を主題とする寮務委員会。午前十時より。石油ストーブの線で原案をえる。防火、消火の体制を十分にするということが条件で。

午後六時から「かわさき」で九大関係新聞記者との忘年会。総長、庶務部長らと学生部関係から出席。平素のことを忘れてさわいだ。

支局常任、協会の財政再建組織再建につき話し合う。私は途中参加。水原君が抜けた事件は案外な大穴だったということが、みんなにわかってきた。十一月のはじめに、そのことがわかっていなければならなかったのだが、しかし今からでもおそくはない。本気になって再建に努力することだ。九州のみが主力であるほかはない。

12月17日(火)

講義を半分すませて本部へ。十時半からの対策委、部局長会議。田島寮の暖房問題をこの席で是非解決せねばならなかった。結果はほぼ成功。午後一時からの評議会が始まる前、生協理事たちが総長に団交を求めてつめよる、私が中に入り、二五日までの会見を約し、生協の諸要求につき、さらにくわしくきき、事務局長とも会見して学校側の事情をたしかめておく。

午後七時半から十一時半まで反代々木系の学生の総長交渉、第一会議室。評議員多数出席。

石頭が多すぎて、あるいは機構の中で縛られすぎて学生の諸要求に十分に対応しえていない。これなら平和な機体引きおろしは見とおしえない。

12月18日（水）

研究室に来て答案の採点をしながら、昨夜来考えてきたことを上田参与に伝えた。機体引降ろし作業をはじめるとあって大学当局は四者共闘、理科系の若手研究者の引降ろし早期実現の熱意の方ばかりを気にして、三派系のいい分をきこうとはしないが、暴力事件発生を憂えるなら、四者側が実行をはやるのをおさえ、三派と対決するのをおさえることばかり考えず、そのほかに、三派の言い分をこの際もっとすなおにきいてみることに、譲るべき点があるかないかを検討し、譲るべきは大胆卒直に譲ることが肝要だと思う。二十一日予定の三派系との団交においてもその姿勢が肝腎であるのに、大学側は硬直した態度でかたくなに譲ろうとしないだろう。この点こそが問題なのだ。

午後七時から十時半まで合同会議。この会の空気はさながら総決起集会だった。

12月19日（木）

本部には行かなかった。

前期試験の採点終る。教養部では十二時二〇分から五〇分まで、第一会議室で、総長が有志教官に機体引きおろし作業に着手するにあたっての決意をのべる会が開かれた。教官の数はあまり多くなく、意見もあまり出ず、期待に反して意気が上がらなかった。

夜、年賀状をととのえた。

12月20日（金）

講義はできなかった。十時から対策会議。一時からは実行連絡委の対四者共闘交渉。二時半から参与会。午後六時半まで。

- 外国人留学生救済制度
- 医学部紛争問題
- 寮燃料問題
- 機体撤収問題
- 佐世保闘争問題

佐世保ではいわゆる「過剰警備」サンドウィッチデモによって学生は完全に行動を規制され、何事もおこらなかったが、うっぷんが福岡で発散し、学生が一〇〇〇名の市内デモをくりひろげた。（夕刻）反帝は姿を消し、中核、革マルが対立をつづけて互に消耗し、反戦青年委が前面に出ている形である。

学生部の忘年会、福寿飯店。

12月21日（土）

午後二時半から若松旅館で社会主義協会理論戦線全国総会を開く。衣笠氏がチェコ問題について問題提起、これを討議。夜は田島氏が体制的合理化について問題提起する予定だったが、私は九大本部に引きかえす。

午後七時から、経済学部自治会を中心とする反戦青年委員会系の学生の総長交渉。第一会議室は事務職員、新聞記者を追出して封鎖。延々とつづいた。

秋沢修二氏来る。岡十萬男氏は予定されていたが参加せず。

会議に参加していた馬渡、河野の二君は拙宅に投宿。私は徹夜団交につきあう。

12月22日（日）

大変な疲労。昨夜からの団交は午前十一時半までつづいた。評議会は団交席にいた学部長、評議員と外にいた者とは二つに割れたので、大学の最高意思決定は麻痺。

午前二時三時には残りの評議員や学生部参与、実行連絡委員など招集したが何かを決定するわけにはいかなかった。

午後、理学部の大会議室で開かれた実行連絡委と対策委の合同会議では、機体引きおろし問題の日程関係部分を再度各教授会にかけることになった。団交結果に対し、実行連絡委の方から強い不満が表明された。各学部ではこのあと教授会が開かれた。

私は午後三時半、黒田荘で開かれた理論戦線懇親会に出席。

夜は七時に就寝。

12月23日（月）

天気はよいが虚脱したような気持で教養部へ。身辺整理。午後本部へ。

今日から作業開始ということだが話にならない。昨日の反戦との団交のあとしまつとして、各学部では教授会が開かれている。二十日の引きおろし作業開始公示および二三日付作業開始新聞広告を撤回するかどうかははかられている。三時半からの評議会ではすべて拒絶とでてきた。当然のことながら、昨日の「暴力団交」はもっての外だと非難する声が一せいにもち上がった。結局、明日は反戦と午後七時から三度目の団交を予定しているが、これにきびしい制限をつけること、それに応じない団交は拒否すること、四者側にも同様の制限をつけることになった。

12月24日（火）

休講して本部へとび出す。学生の動きが急。夕方には反帝学評と革マルが、中門をはさんで対峙。たがいに文系および理系の門をバリケードで封鎖し投石しあい、その前に、教育学部の関教授負傷。（バリケードの中の革マルの投げた石。反帝に対するもの）この夜、中門電車道付近で両派数分間乱斗し、教養部の石井（反帝）は革マルの竹槍に眼を刺された。反戦

青年委は団交（予約は本日七時）に制限をつけた事ではげしく抗議。四者も団交を要求、制限をつけたので、両派の団交なし。四者、反戦の両派とも大学が示した団交制限条項を拒否したので本日困難を予想していた二つの団交は開かれなかった。

啓二、博多駅付近の食堂をうろついていたとかで、約束通り退学処分をうけることになる。若干心残りもないでもないがやむをえまい。将来がまだ案じられて方針がきまらない。

#### 12月25日（水）

中門をはさんだ革マル、反帝両派の対立つづく。大学の神経は機体引きおろしよりも、両派の対立の中に入って激突を防ぐ方に向けられる。

午前一〇時から十二時すぎまで生協と総長との団交。この団交が反戦青年委の強引な大衆団交要求集会にならないように気をつかう。結局心配したようにはならなかった。反戦はあくまで団交をたたかいとるのだといっている。

県警は付近に機動隊を出してうかがっているが、市民に負傷者が出たというので、カンカンに怒っているということだ。警官導入はできない。

夜十二時になって、中門をはさんだ両派の投石対立の中で鼻に石があたって負傷したといわれる西鉄整理員を自宅紅葉町に見舞いに行く。幸い宅が早くわかって仕事はかんたんだった。

#### 12月26日（木）雨

無理をして全九電の福岡支部の臨時大会に出席してあいさつ。全九電との接触は大事だから、破約しないようにとの大坪君からの厳令があったので、学生部からの矢のようなさいそくを押して出席したもの。雨の中を今日も反帝革マルの両派が中門をはさんで対峙している。はげしい衝突はないが、今朝も電車の乗客一人が投石のために負傷したというので警察と西鉄から抗議と嚴重警告をうけた。

二四日中門付近でおこなわれた乱斗の際片眼を負傷した石井真作はどうも両眼とも失明するらしい。（九大病院）

〔＝後に片眼ですんだという＝〕

#### 12月27日（金）

おしつまっているのに、実際は一向に年末の感がしない。一寸ひまをみて午前中研究室に行き、明春一月予定の労働旬報社の大阪における労働講座のレジュメを作り発送。

中門をはさんだ二派の対立は小康状態であるかにみえた。午後三時頃、第二会議室を四者共闘が作戦に使用するため昨夜来フトンをもちこんで泊りこんだ件を反戦青年委のデモ隊が詰問するため学生部にのりこんだが、中核がこれに加わり、四者のヘルメットを奪って出ようとしたことから乱闘になった。これをきっかけに、中門の両派がバリケードを解かれ解散

することになった。（一般学生側の圧力も加わって）

夜は一時頃まで四時間、この第二会議室問題で学生部長室に抗議につめかけた反戦青年委と論議。当方としては第二会議室問題はつっぱねて終わった。

12月28日（土）

御用おさめだが、機体問題が重大なので、連絡班をつとめている学生部としては公休中の勤務割をきめてお別れとなる。

午後三時～五時半対策会議。年末年始の体制について。

ついにわれわれは無休。あわただしい一年だった。学生はバリケードをめぐってまだ活発に動いている。

五時から開かれている社問研の忘年会に出席。（平和楼）

今日の帰りから運転手に休暇を与え、チケット制とする。年末年始の体制は評判がよくない。

「社会主義」二月号の原稿が年内に書けるかどうか、悲観的。

12月29日（日）

九時すぎ厚生課長が迎えにきたので本部へ。

学生がバリケードを守っているが、その数は二〇名前後。中核と反戦。それに文系建物の中に数名、あまり動きはない。

ひまなので、NHK記者とマージャンをする。

12月30日（月）

学生部に着いたのは十二時頃だった。

今日も同様に、引きおろし作業は進まなかったが、私が着いた時は記念講堂前でいわゆる説得をやっていた。頭のどこかが変になってくる話の運びである。対話にはならない。

反帝学評は荷物をまとめて帰ってしまったらしい。中核とそのすそ野をなす反戦青年委らがバリケードの中にいる。

午後三時から対策会議。新年に向けての責任者の勤務割り。東大の入試中止が九大の学生増募にどうかかわってくるか。来月四日に事務局長が文部省に呼ばれて具体的な方向が示される。拒否のほかはない。夕方帰り身辺を整理する。

12月31日（火）

十一時すぎに同様本部へ。

バリケード周辺に大きな変化はない。ラチのあかない対立がつづいているのだが、双方とも倦きと疲労があるのは確か。午後四時半頃帰宅。



火鉢の炭火も今となってはよいものだと思ひその準備をする。山でカヤの枯れたのを焼いて灰を作った。暮れの夜らしく、みゆきが炊事場で忙しそう。夜、火鉢に火を入れて「社会主義」の原稿の準備のため新聞資料などとのえてみる。五日が締切りだというのが、まにあうかどうか危まれる。

何とも妙な大みそかであった。次長が明日出るというので、私は休むことにした。一彦が碁を打とうというので除夜のカネすぎおそくまで打ちつづけた。

## 補遺

### 原稿執筆

#### 一九六八年

1. 一月下旬～三月上旬 みいけ 20年資料篇解説 数齣 二〇〇字×六〇枚ぐらい
  2. 二月下旬～三月一九日 国劳教宣資料 合理化（一） 二〇〇字×一五〇枚
  3. 四月一三日 「社会主義」五月号 党変革と協会の任務 二〇〇字×五〇枚
  4. 「社会タイムス」——企業合併 二〇〇字×一三枚 四月二一日
  5. 「社会主義」六・七月 二〇〇号記念号 「改憲阻止・反合理化をいかにたたかうか」 二〇〇字×一〇九枚 五月二〇日
  6. 私の研究 九大新聞 二〇〇字×一〇枚 五月一〇日
  7. 一九七〇年闘争（社会主義二〇〇号）の国内労働、経済の部執筆 二〇〇字五〇枚
  8. 問研パンフ 反合理化闘争 二〇〇字×二一四枚 六月五日
  9. 国劳教宣資料 合理化（第二分冊） 二〇〇字×一五〇枚 六月十三日より七月一一日
  10. 福利厚生に関する原稿 20枚（教員互助会） 七月一三日
  11. 最低賃金制の改正について「新ニセ最賃」 七月十七日 社会問題月報八月号 二〇〇字×四〇枚  
その他、月報の小記事
  12. 人事院勧告批判 九月七日 社会主義 六三枚
  13. 青年労働者の賃金 八月三一日 月報 四五枚
  14. 教育反動について 福岡県高教組 録音テープからのおこし（7月27日講演）
  15. 公害をどう考えるか 月報 ペラ32枚 10月19日
  16. 合理化と自治体労働者 月刊自治研8月号（講演速記録）
  17. 国劳教宣資料（三） 一七三枚 十一月二二日
  18. 春闘に対する日経連の基本方針 月報一月号 六五枚 十一月三〇日
  19. 大幅賃上げと日本経済 六五枚 社会主義 十二～一月合併号
- 以上昭和四三年中 二〇〇字×一、三〇〇枚

四三年十一月三日 午後のこと。

私と嶋崎、大坪の三人が中常委（九州出身）として事務局に待機していた水原氏の説得に降りて行ったとき、居合わせた橋本らは、逆に私たちに対し、中常委が（顧問団列席の上で）水原を追出したのだという。私たちは、水原が自発的に出たのだといったら、橋本らは、結果としてそうなのではないかと強く主張した。そして、中常委が水原の辞任を認めたのはおかしい、協会の指導性に問題があると斎藤はいった。彼らは水原の提出している路線を中常委がなぜもっと真剣に討議しないのかとっている。水原はこれらのやりとりを横で見ていてとくに否定しなかった。つまり、自分から辞任したのだとはいわなかった。しかし、水原は事実、太田の辞任勧告の意見に対し、その通りだと答えている。追いつめられたからでもあろう。斎藤らは協会解散、協会無用論をさえとなえている水原発言を、路線討議という名目で協会自身が討議せよとっているのだが、中常委はその内容性質を知りつつ、突然にそれを公然と討議しはじめるとはできない。水原はすでに前週、立花氏に対し、協会をやめて「すくらむ」に行きたいともらしている。あるいは協会をやめずに、「すくらむ」で二年ぐらい様子を見たいといったということである。何かかくれた問題があるのだろう。借金か、要するにカネの問題がからみついていることは間違いない。女房と一しょに「すくらむ」に賭けてもいいと中常委では発言している。ともあれこれは、中常委の席では、意見書を出すということになっていたのである。それは水原がやめる一つのクッションの役割を果たすのであろう。顧問団が席上、このクッションのあることを考慮せず、いきなり辞任勧告（太田発言）をしたので、水原は虚を衝かれて直ちにやめると発言してしまった。その点を「追出した」という表現で非難しているのである。水原は、ともあれ、個人的発言に責任をとるべきであろう。意に反して発言しなくてもよいはずなのだから。中常委の席上では「目的意識的に別党コースを追求する」と言明したのだから事は事務局員として重大発言になる。もはや同志とはいえない。この点、太田は「出て行くほかはあるまい」ときっぱり詰めたのである。こうなれば意見書もくそもない。太田は除名の前に脱退勧告をしたことになる。われわれ九州勢は突如のこのなりゆきに何の否定的な発言もできなかった。田辺と橋本は、水原がやめるなら、これまでの水原との関係もあるので、自分たちも事務局をやめたいと申し出た。赤間女史も、水原についてゆくのではないが、太田の考えによって動かされる協会にはついてゆけないので、この際きれいに協会をやめた方がよいと思うと発言した。なお赤間は、今後一切このような専従職員にはならないともいった。事務局の中において、外にもられない問題があるように推測される。

#### 重要事項

43年

|         |  |
|---------|--|
| 住宅費支払完成 |  |
|---------|--|

|   |               |
|---|---------------|
| 大雪  |               |
| 佐世保九大事件   | 一月一二日～一月末     |
| 学生会館暴力事件  | 二月一三日         |
| 直美ちゃんの入学式   | 四月八日          |
| 池田教養部長辞任のあと岩崎教授を部長に選挙、教養部から初の部長                             | 三月二二日         |
| 社会主義協会九州支局委員会   | 四月二〇、二一日      |
| ソ連婦人委員会三名来福<br>(大牟田におけるレセプションに出席)<br>レニングラード副市長、アンナ・ペトロクナ女史 | 四月一四日         |
| ○ジョンソン米大統領ベトナム休戦につき発言、<br>和平交渉の地が前折衝                        | 三月三一日より       |
| 青森における自治研集会   | 4.25~27.      |
| 社会党をよくする会福岡総支部準備会 第二回                                       | 5月13日         |
| 協会九州支局憲法講演会   | (5.15~17 熊本県) |
| 啓二の退学問題   | 五月二四日         |
| 勉学をつづけることに決定  | 五月三〇日         |
| 佐方に住宅借入金三分の一返済  | 五月二八日         |
| フランスゼネスト五月十三日以来つづく  |               |
| みゆき裂傷   | 六月三日          |
| 米軍機九大に墜落  | 六月二日夜         |
| 総長を先頭に市内デモ  | 六月五、六日        |
| R.ケネディ上院議員狙撃  | 六月五日、六日死去     |
| 学生統一スト  | 六月七日          |
| みいけ 20年資料篇でき、着本   | 六月二〇日         |
| フランス総選挙 ドゴール派圧勝   | 六月二四日         |
| 参院選 七月七日 社会党大きく後退   |               |
| 九大米機引きおろし決定   | 七月九日          |
| 応接机を買う。一三万円。山崎慶雅堂   | 七月二二日         |
| 九大米機引きおろしにつき全学集会  | 八月二〇日         |
| ソ連チェコに侵入  | 八月二一日         |
| みゆき歯痛、顔半分はれ上がる  | 九月二日          |
| 学生部長になる   | 十月一日          |
| 電話開通  | 十月十二日         |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 教養部捜査される 十月八日ハンデーターキー事件で                   | 十月十三日                     |
| メキシコオリンピック                                 | 十月中旬                      |
| 学生部長会議（東京）                                 | 十一月六日                     |
| 協会から水原君脱退決定 第一〇回中常委                        | 十一月二、三日                   |
| 東大で乱闘                                      | 十一月十二日                    |
| 板付米軍機 RF101 小郡町に墜落<br>隣の浩君、自転車遊び中踏切列車事故で死亡 | 十一月十四日                    |
| 寮歌祭  | 十一月二三日                    |
| 学生ゼミ全国大会（福大）                               | 十一月二三～四日                  |
| 四者共闘 十五時間の団交                               | 十一月二八～九日                  |
| 支局委員会 黒田荘、電々会館                             | 十一月三〇日<br>十二月一日           |
| 佐方の父来る                                     | 十二月一日                     |
| 反戦青年委案 学生との二度目の徹夜団交                        | 十二月二十一日午後七時<br>～二二日午前十一時半 |
| 協会理論戦線全国総会                                 | 十二月二十一日若松旅館               |
| 啓二、福高を退学に処せられる                             | 十二月二四日                    |
| アポロ8号 月の裏面をまわって帰る                          | 十二月二七日                    |
| 中国水爆実験                                     |                           |
| 東大入試中止決定的となる                               | 十二月二九日                    |
| 九大、年末年始機体引降ろしを試む                           | 十二月二五～一月五日                |

【「人 10月1日付で九大学生部長になる奥田八二」（『朝日新聞』1968年9月29日）の切り抜き挿入】

## 1969年

### 一月予記

機体問題の処理にあけて、ユネスコ原稿に手がつかないだろう。甚だ残念なんだが。

### 1月1日（水）

九時におき出る。年がかわって冬らしい寒さになる。小雪もちらついている。

賀状の整理。こんどは賀状の出した数は少なかったの、返礼的に出す数も多かった。

バリケードに出動した教官が一〇メートルばかりそれを取りこわしたら、中にいた十余人の学生に詰め寄せられ、こわしたバリケードを修理することで釈放されたという知らせがあった。今日は総長が現場指揮なのだが、元旦のこのやりとりは、今年の学生運動と大学の前途を卜しているように思われてならない。賀状に、これにふれたものが若干あった。

佐方へ新年のあいさつ電話。

年賀状の変わり種の一つ。——ボンにいる都留大治郎が例年のような印刷をした賀状を奥さんの手からさし出している。念がとどいている！ ドイツといえば、ベルリンのハルトマンからも今日漢字で書いた賀状が届いた。

### 1月2日（木）

床の掛軸を双松にかえたら、みゆきが前の山水は平凡だったが、今度は味がでていいという。池の横の佗介ツバキが寒い中をよく咲いた。昨年植えた時よりも実質的な、地についての感じがする。

正午前に本部へ。現場はやはり学生の守備が抜けないうだが私どもはなるべく現場に近よらないこととして行かなかった。四時には帰宅。

「社会主義」の原稿の準備を進めていたら、夜十時頃になって、六角の小林善忠親子が車で訪問してきた。創価学会にこっぴどいて、私に創価大学に来て教鞭をといて。もちろん断った。二度目の勧誘。

### 1月3日（金）

ゆうべから荒れた天気、アラレ雪が若干つもった。小林親子は午前十時すぎに、関西に向けて引きあげた。賀状整理。次長が詰めてくれるので今日は本部に行かなくてよい。電話して模様をきいてみると相かわらずという。暴力的に阻止しようというものを説得であきらめさせようというものだから、前進は望めない。何らかの物理的な力が必要なのだ。それとも機体引きおろしをあきらめるかだ。

一彦の友人が来て遊んでいる。

大変疲れているので夕食後直ちに寝る。

1月4日(土)

御用始めというものをはじめて経験した。若い女は花やかに振袖で来ている。総長のあいさつがあったあとで、学生部も別に集って私がいさつ。機体問題で年始年末特別のご苦勞をかけたが、この体制をなおしばらく続けるので協力してほしいということである。

大阪の宮原君、馬渡君夫妻が来る。太郎君は大変いたずらがはげしい。宮原君は後に残り夕食前までいて二人で少し飲んだ。

嶋崎君から電話。十日夜京都市の件切符手配のこと。

1月5日(日)

夜ふかしして就寝したばかりの午前三時すぎ、小林学生課長の電話。低いが大変緊張した声。「機体が落ちましたわ」。中門を押し破りブルドーザーを導入してワイヤーロープでコンクリートタワーを引き倒し機体を引きおとしたのだという。隠密でたった十五分ぐらいの敏速な仕業。専門的計画的作業。午前一時五〇分頃から二時五分までという。

機体引きおろしを何とか実現したいという大学にとって一つの前進のようだが、果してそういえるかどうか今後の学内外の推移をまたなければ何ともいえない。

午前五時から医地区の同窓会館で緊急対策委員会。

一〇時から生協の新年宴会、一〇年勤続者表彰(生協創立一〇周年)＝記念講堂食堂。

この間評議会ないし対策会議は学生集団の圧力をさけて転々。学生部長が唯一の窓口になって学生集団に対応する事になった。バリケード内で年末も年始もなく機体を守っていたのは反戦学連と中核で、当然にもかかれらは大学当局との団交を要求して学生部長室に押しかけてきた。午後二時。以降軟禁状態が延々と続いた。——徹夜——

1月6日(月)

評議員をさしかえることによって団交要求の圧力を支えた。問田、水波、木下、石井、正田、池田ら評議員が交代した。問田、正田、池田の三教授は結局はドクターストップで入院した。まる二四時間経過した午後二時からの正田池田の時から以降、本部首脳は交代要員差出しを拒否したので、この態勢が延々つづき、正田氏は午後九時頃入院。あとに残された池田氏は交代要員なく、結局七日の午後五時最終まで軟禁された。私は池田氏が代わってくれるまで昨日から二四時間近く軟禁されたが健康に別条なく、午後三時頃帰宅して就寝。

協会本部から「社会主義」の原稿督促電報が来たが不可能になったので大坪君を通じて処理してもらった。

本部当局が後にいて、大学全体のなすべき事をなさず、局部的な団交要求現場のことだけに対策の神経をとんがらせ、具体的な作戦にまで口出すことは誤っている。

1月7日（火）

午前二時頃の電話で本部封鎖の懸念のため出校してくれというのだったが、今から出て行ってもと思って床の中で眠りつづけていたら六時になった。あまりおそくてもと思って家を出る。外は吹雪。本部は何事もないようで、多くは椅子の上で仮眠している。

十時から全学教官が本部前に集って池田教授救出の圧力を加えるとか、午後五時には医師と看護婦と救急車を本部前にならべて圧力を加えるとか、隠家にいる本部首脳は団交要求軟禁現場救出のことばかりに神経をとんがらせ、大学としての機能を果たすことを忘れていた。午後二時に反戦が引揚げ、午後五時中核も囲いを解いて軟禁現場は解決した。帰りに教養部教授会に立ちよって事情を説明した。

1月8日（水）

やっと平常の朝を迎えた。

啓二のことを相談するため、高教組に中西書記長を訪問した。待島委員長や互助会の森田氏らが心配してくれた。森田氏と福高の校長にあいに行った。花谷教頭と話してみるということだったが脈はなさそうに思える。森田氏は人工呼吸をするような意味のねばりが必要であると考えている。みゆきには啓二をつれて近くの安東先生を訪問しておくように言っておいた。

六時から学内をさけて箱崎会館で行なわれた評議会は一〇時半に終わったが、帰宅して安東先生訪問のことをみゆきにきいてみると、もう決定済みということがいえそうだった。

1月9日（木）

ゆっくりした朝。賀状の整理。

ひるすぎ呼び出されて登校。

生協に行く。新年からまえの第三学生集会所に事務所を移転していたときいたが、今日訪れたのはじめて。部屋の区切りが多すぎるとは思うが、まとまっていてよらしい。

学生部長室で四者共闘との折衝。学部長として、原、鬼頭、塚元、岩崎の四氏が出席。五日以来の諸問題につき質問がつづいた。結局学長交渉をもちたいという。午後五時に終る。医地区の外人宿舎で大学の声明原案の検討部局長会議。五～七日のいわゆるカン詰交渉を、人道的でないときめつけることには賛成しかねるのだが、あれくらいは当然うけて立つべきだ。

1月10日（金）

講義。——参与会 3時から6時まで。以降参与の懇親会。浜の寮 8時半まで。学生課長と参与会に先んじて大学病院に問田、正田、池田の三教授を見舞う。三人とも元気。

機体引きおろしをめぐり未処理の問題山積。参与会も困惑。参与会が終って浜の寮で、新年

の懇親会。

夜十一時五五分の列車で京都へ。

1月11日(土)

協会中央常任委員会。一時～六時。法華クラブ食堂。財政問題、すくらむ問題、を中心とする第九回定期大会対策。

午後七時～九時半、県支部代表者会議。太田薫氏が終始出席していて有効な助言をした。水原問題が起こって以降、積極的に協会と共に歩もうという姿勢がうかがえる。どの派閥からも財政援助をたよらず独立自主の協会路線を堅持するためには財政破綻の苦しみを何度か味わっていかなくてはならないし、民同、社民とはある程度の妥協も必要だということである。

1月12日(日)

協会第九回定期大会。午前九時半～午後五時半。京都府農協会館。

三〇名に一名という代議員とオブによって構成。代議員三三名出席。大坪君が運動方針、財政方針を提案。各支部から運動の経過など報告され、第八回大会の分裂の傷の深さがしみじみ出ながらも、新しく歩みはじめた協会の姿がよく出ていた。但し、その後のすくらむ問題、水原問題による下部の不信感は中央常任委にとっては拭い難いものであった。組織と金銭の問題は運動にとって大変重要であるという事を示していた。午後九時二八分新大阪発で帰る。

1月13日(月)

特別の日程もなく教養部研究室に来て身辺整理。

「すくらむ」再建のために五〇万円、社会主義協会事務局体制再建のために、五〇万円(臨時カンパ各人二〇〇〇円を除く)が九州支局に課せられた財政再建負担であるため、その金策に労金を訪う。借りること自体は困難ではないが、支払い体制をどう建てるかである。その体制は改めて考えねばならぬ。

社会党県本部の委員長豊瀬氏から電話があつて県庁内喫茶店クイーンで会う。協会の話など織りまぜながら、安保闘争の指導がいかに困難であるかを話し合う。これという自信のある方針はたたない。

東大の紛争まだつづいている。

1月14日(火)

講義をすませて本部へ。若干のうちあわせの後、評議会へ(同窓会館)。

〇〇君処分解除の件。



教養部自治会討論集會に常任対処委員会が出席する件。

民主化委員島案の件。

米軍機保管委員会の件。

この最後の問題で生協労組が問題になり、評議会のすべてが生協というものに極めて無理解であることがわかった。

あたかも、この評議会のある時期に学生部長室で課長（厚生）が学長交渉を要求する生協の学生たちにカンヅメになっている。学長が交渉をさけて逃げまわっているのは生協への無理解を示すとともに不当なことだが、首に綱をつけるわけにもいかない。午後九時半頃、今後とも学長交渉の要求をつづけるから学生部長もその窓口として努力をつづけられたいということで、生協の学生たちは引き揚げた。問題がもつれてくる可能性がある。学生部はなるべく責任逃れでいきたい。

1月15日（水）どんより曇り

朝ゆっくりしていると嶋崎君から電話があり、昨日の評議会の内容につき共同保管委案の内容につき疑点を説明するとともに、明日の教養部における討論集會に参加として顔を出しておいてくれるよう頼んでおいた。

表の部屋にこもって身辺資料整理。寒い。

教養部の指導部や評議会のウルトラ連中の頑迷ぶりがつくづく嫌になってきた。嶋崎君の電話にもあったが、また昨夕考えたことだが、学生部として反旗をひるがえしてやろうかとも思っている。あるいは「何もせず、何も考えず」でいこうか。

1月16日（木）晴

教養部自治会の討論集會に大学側主要評議員が出席することになったので、今日は全学の注目が教養部に集中された。午後二時半からの会は実質三時頃に開かれた。参与も藤川、武谷、嶋崎の諸氏が、また学生部からも次長以下が四名ほど教養部に集まった。中核派学生の低姿勢によって大学側との妥協のもとに開かれたわけだが、秩序も守られ、中核の男をあげる会になったようだ。ただ、反帝、革マル、民青の各派が数日後にせまる自治会中執の選挙において中核に名をなさしめないよう連携して中核を攻めたてて若干混乱したようだが、攻めは成功しなかったようだ。学生側は、一月五日の隠密な機体引きおろしが大学側の陰謀ではないか、総長はなぜ辞意をもらしたか、総長はなぜ学生と会わないのか、七・九声明を白紙撤回せよなどの諸点につき大学側にせまったが、明確な回答がえられぬまま、予定を一時間オーバーして午後七時に無事閉会した。閉会ぎわに生協が井上法学部長を囲み総長が生協交渉に応じないことを難詰。大学は交渉に応ずるということで、一時間後にすべて散会となった。そのあと午後六時から県社党院室での社会党をよくする会の運営委員会にかけつけたが散会したあとだった。

1月17日(金)

講義。

生協理事たちと対学交渉について打ちあわせ。

夜、別府ゆき。

講義は半分しかできず、午後一時半から緊急部局長会議というので午後休講。部局長会議では生協交渉をせねばならなくなったことの打ちあわせ。問田医学部長、原教育学部長が総長に代わって二十二日午後六時からの生協交渉に出席することを生協側に申出ることになった。生協のことについては総長、工学部長らが最も理解がない。この状態なら、相当はげしく攻め立てなければ生協に対する大学側の理解はしばらくまともなものにはならないであろう。四時半～五時厚生課長室で生協代表と折衝。

夜八時半頃別府着。

1月18日(土)

よく眠れなかった。(南明荘)

朝九時から正午まで自治労大分県本部主催三役労働講座。テキストに「体制的合理化と労働者階級」を使用。午後帰福。

東大は入試をすることに踏み切ったが、その条件を整備するために警察力によって封鎖されている安田講堂を中心に早朝から封鎖解除、占拠排除の実力行使に入った。「安田城」の攻防はさながらに内乱、お茶の水、駿河台方向でもゲリラ的衝突。

東大は工学部法学部などの研究施設も廃墟になろうとしている。反対派学生を排除するにしても、内乱的な様相にもっていくのではなく、兵糧攻めのようなやり方があるのではないか、反対学生側は、石はもちろん、火炎ビン、爆発物、硫酸、青酸カリなど毒物も相当にもちこんでいるらしい。

夜、文学部長(鬼頭氏)から電話あり。狭間君の処分解除について文学部自治会が団交要求とのこと。

1月19日(日)

今日も早朝から「安田城」の攻防破壊がつづいている。(テレビニュース) こちらは曇った割合に暖い平和な日曜日。札幌全林野から旅費を送ってきた。昨日東大問題で検挙された者三一人。

電話で数学の河野氏を呼んだら、午後二時頃に来てくれた。生協理事なので、生協交渉のことで話し合っておきたかったからである。話は生協のことだけでなく、広く大学内外のことにも及び、夕方太田氏からもらったウォッカを出したら、彼は口数が多くなり、とうとう十時半すぎまでいた。教養部でも従来の自治懇に代えて、統一戦線的なセクトをこえた話し合えるグループが必要であるということになった。教養部長、評議員、学生部参与、学生委員

など重要な人事問題がここ一ヵ月ぐらいの間に急に話題になってくるからである。

1月20日（月）

朝刊は安田講堂の解除と学生二千人によるお茶の水周辺の道路封鎖事件を報じている。安田講堂は昨日午後五時四六分三七五人全員逮捕によって「落城」したという。

被逮捕者

|     | 東大   | 神田   | 計    |
|-----|------|------|------|
| 18日 | 二五六人 | 五五人  | 三一一人 |
| 19日 | 三七五人 | 七九人  | 四五四人 |
| 計   | 六三一人 | 一三四人 | 七六五人 |

文部省、自民党は東大の入試中止を正式に決定。東大は入試実施を評議会で決定。このくいちがいには東大首脳者の辞任に発展しよう。東大の荒廃ぶりは「外人部隊」によるところが大きいとはいえ、大変なものらしい。

午後一時半登校。学生部掛長以上の会議、懸案の諸問題討議。

夕方、社会党県本部の筋から、神崎清氏、板付基地撤去運動事情聴取のため来訪。

1月21日（火）

一時半から参与会。これは一六日の教養部自治会討論集会のあと井上法学部長がつかまって生協交渉を約束させられた件のあと、生協問題を参与会としてどう扱うかに関して開いたもの。参与は一般に生協に理解がうすく、結論としては参与会は生協問題を扱いかねるので別の委員会を作ってもらってはどうかということになった。

引きつづいて寮務委員会。つづいて第一会議室で松原寮生交渉。五時半から十時頃まで。負担区分、入退寮権、女子寮建設などいつもの問題がむしかえされたにすぎないが、燧房のチームを入れるという結論も出ず寮生はがんばるし、新学期もひかえ入寮募集を学生側が勝手にやろうとしている。

京大で攻防が始まった。東大の関西版である。

1月22日（水）

一〇時から生協交渉に関する打ちあわせ。局長室。原、問田両学部長出席。

ひる間、学友会の記念講堂使用料金支払について学友会側は居直って支払拒否。

午後六時—一〇時、生協交渉。第一会議室。生協に対する理解はずいぶん深まった会議になった。

このあと、教育、経済、文学の三学部自治会系が両学部長を第一会議室前に取りかこみ、総長が責任を明かにしないまま辞任するのは許せない、直ちに大衆団交を開くよう取決めよとせまった。明日返事するとの文書確認をしたのち散る。十二時すぎであった。

京大攻防二日目。東大は開門三日ぶり。東大の入試中止という政府決定につき非難あがる。東大執行部は反対抗議声明。野党各派も。国立主要大学では水増し増募を拒否。九大も本日の教養部教授会は増募拒否。

1月23日（木）

ゆうべはおそくなったので十一時頃に起き出た。午後一時半歯学部会議室で評議会協議会。昨夜の総長団交要求には各学部ごとに対応することになった。総長辞任については——その後の新聞報道によれば、協議会が夜おそくまでつづいたのち、結局、辞任を認めることになった。——

協議会の途中から抜け出て北海道へ。午後四時半板付発、羽田でのりかえ、札幌（千歳）には七時四〇分頃に着いた。零下六度は暖い方だという。頬に冷気がきびしい。市内までバスで来て、全林野の由比、松田の両君が迎えに来てくれ、夕食にすしをたべながら協会運動などあれこれ話しこんだ。林野共済会館、洋室に投宿。

1月24日（金）札幌積雪30センチ、雪は少い方だという。

まだ疲労は重なってゆく。熟睡できない。午前九時から午後五時半まで「体制的合理化」のパンフを使って全林野労組の若い諸君に合理化のはなしを一日たっぷり。（札幌営林局二階講堂）これまた重労働だった。

市内某洋風レストランの二階の奥まったところで組合員に囲まれながら夕食。明日予定の同志嶋崎君も羽田からかけつけて同席。九時半頃共済会館の昨日の部屋にもどりつめかけた人々と論議をかわした。北海道の協会活動も今後は伸びそうだ。松田君のような活動家が媒体だ。全北電の二名が連絡にくる。私のパンフがわかりやすいとあって好評だった。

1月25日（土）

十時から十二時すぎまで労働会館の会議室で全北電集会で講義。ここでも合理化のはなし。全北電は昨年六〇〇人でスタートしたが破壊攻撃にあって今は三五〇そこそこ。しかしこれくらいから再出発して伸びてゆくことが期待される。青年たちが多いので。

午後は赤平へ。滝川駅まで協会員で自治労市職の菅原君が迎えに来てくれた。雪がよく降ったし、やはり田舎は寒い。地区労事務室で夕方まで休み。夜、赤平地区の青年集会で講演。

（安保廃棄、改憲阻止青年集会。社青同主催だ）反安保闘争の意義と青年の任務行動について話す。社会党の反安保実行委の方針を批判。終わってから深夜まで菅原君桶川君の組織する「仲間の会」（12名）に出席。協会などにつき午前二時まで会合。協会支部に編成がえすべき仲間たちだった。

1月26日（日）

大へん起きづらかったが七時に立つ。列車に乗りつぎつつ、倶知安に着いたのは十二時すぎ。若い人が迎えてくれ、早速駅裏の国鉄職員宿泊所に案内される。むさくるしいところだし、中食にはジャガイモを食わされてうんざりした。それよりも眠い。

一時から三時半まで合理化反対運動について話したが、あまり首尾よい成果だと判定できない。しかしこういうところで若い人達が集まっていることに意義がある。この中の斎藤女史、一しょに札幌に引きかえし、夜の社会主義協会北海道支部の全員集会に出席。市内営林署の緑栄荘。六時～十一時半。

第九回大会の報告、意義を討議。七〇年闘争に向けて青年運動をどう進めるかが論議の焦点。この日五名の入会が報告された。われわれ（嶋崎君も出席）の提案は赤平、札幌、小樽に協会支部を作ることだ。そして、具体的な運動を日々積み重ねてゆくことだ。機関紙を発行し、協会中央の関係機関紙誌を拡大することだ。北海道の運動は若い人が中心なので、前途は明るい。

十二時頃林野共済会館に帰る。倶知安の雪は深かった。

1月27日（月）

空港滑走路が雪で条件が悪いということで飛行機がおくれること約二時間。協会本部に着いたら午後四時近かった。全国的に航空各線がこんらんしているらしい。暑いこと、五月頃の気温だということである。協会事務局はがらりとかわった人の配置。田中君と福岡から行った野口女史しか知らない。立花事務局長に連絡してみようと思ったが出張中とのこと。労働旬報社に行く。川崎君が私の論文集の編集がまだ十分進んでいないことを詫びたが、ともかくやってくれるらしい。合理化のパンフを参考までに追加すべく渡しておいた。東京に寄ったのは実は社青同の萩尾君が青年を集めるから話をせよということであったのに、その集会が杉並区から出る山本安治都議候補の激励会に変形されていた。顔を出してくれといふので、杉並産業会館で午後六時から開かれているその集会に出る。帰りの飛行機がおくれたため、帰宅したのは一時半。

1月28日（火）

午前中講義。

夜、六時からの小倉地区労の労働学校。賃金合理化の最近の特徴について。

夜おそく朝早い日がつづいているので疲労がはげしい。

1月29日（水）

午前九時～正午、水光園で自治労福岡県本部主催の組合員教育。組合とは何か。

北海道旅行のみやげばなしもあって協会に立ち寄る。

午後二時半頃本部へ。北海道留守中のこと、今後の対策など協議——わりにゆっくりした一日。

夜は「なか川」で記者二人をまじえ、小林課長、井上総務係長、上田参与、いぬい庶務課長、ら懇談会。

#### 1月30日（木）

朝日新聞の朝刊に一月五日の機体引下し作業をした梅熊組の話が詳報され、学内騒然となる。午後〇時半～一時三〇分、教育学部長室で学友会代表と団交につき会見。（原学部長と私）

一時半予定の入試審議会に先立ち緊急対策会議。（十時より浜の寮）

入試審議会が終わった頃、反戦系の学生が評議員の行方を追求していた矢先で、原、井上の両氏は会場の薬学部会議室の外で彼らにとっつかまり、医学部会議室に連行されてしまった。対策委員らは三鷹に会場をうつした。清水工学部長は後に医学部会議室に自主的に乗りこみ、捕われる。

反戦系には必ず中核系がつづく。機体問題に対する実相糾明の要求は避けられない。対策会議は午後八時以降会場を浜の寮にうつす。医学部会議室の三人が学生集団から解放されたのは午前一時。明日の集会が約束された。

#### 1月31日（金）

第一回目の講義がすんで直ちに呼び出され、あとは休講にして本部へ。今晚の二つの団交、三時～五時の学友会、五時～九時の反戦、この二つをどうスイッチするかトラブルは不可避か、その予備工作。評議員が学生の前に（第一会議室）にあらわれたのは一ヶ月ぶり。二つの学生集会はようやく無事スイッチすることができた。全く曲乗りの感じだった。評議員が二月四日の学友会の集会に応じてくれたからだ。反戦系の団交は予想通り午後十二時まで続いた。機体引降し事件の真相糾明が今後の当面する課題となる。

この団交の途中、大眺閣で開かれた問研県評共催の賃金教宣研究集会に出席して講演をする。

#### 2月予記

昨年と全く同じ感想。

学生運動

春闘

学内では総長選挙

教養部長選挙

入学試験

紛争の種はつきない

五日までに「社会主義」への原稿を書かなければならないし、あちこちから今月中に申出ている労働講座が少なくない。これらが果せるかどうかは疑問。

二月から総長代理（事務取扱）に教育学部長の原俊之氏。水野氏よりは会議のさばきはよいようだ。この体制をどこまで続けるか。

2月1日（土）

十一時十五分板付発で大阪へ。旬報社の浅野支社長の出迎えで車で奈良あやめ池の桃山荘へ。着いたのは午後一時半すぎ。旬報社労働講座。すでに前の講師、星野安三郎氏の講演は始まっていた。私は今日の労働政策と労働運動の特徴と題して午後三時四〇分より六時二〇分まで。

出発可能かどうか危まれたが、昨日の学生対策はまあ成功したので奈良へ来ることも可能になり、前約束が果されてともかくやれやれ。

講義が終わったら、夕食をいただき直ちに帰路に。午後九時二〇分の機は四〇分ぐらいおくれた。空港で直美のみやげにチョコレートを買う。大阪空港は新建設ができ上がったばかりのようだ。万国博にそなえていることもありありとうかがえる。

沖縄の二・四ゼネスト中止に決まりそうだ。

2月2日（日）

冬らしい寒さにもどった。

直美が今日を誕生会にするとあっており、朝からはしゃいでいる。

久留米の労働会館で全通久留米地区支部の労働学校。物価と賃金のはなし。一一時から一時まで。

あちこちからたのまれている労働講座のレジメを作る。

午後こうしてうちに居られるのは久しぶりだ

2月3日（月）

朝十時から参与会。

午後一時半から対策会議。

五時から四者共闘との団交。

文系キャンパスが全面封鎖される。十二時半帰宅。

昨日午後以来調子がよくないので夕方保健管理センターで診察してもらい、薬をもらって帰る。カゼである。血圧をついでにはかってもらったら八〇と一三〇。ふつうだとのこと。

四者共闘との団交の結果は、記念講堂は使わず工学部講堂を使うことになったが、学友会主催でなく四者共闘主催という点は押し切られた形。経済学部自治会から明日のこの会に大

学側が出るのはけしからんという電話があったが、はねつけておいた。

( B52 即時撤去、米原潜寄港阻止、核兵器撤去、総合労働布令 )  
( 撤廃を要求する「生命を守る県民共闘」の二・四統一行動 )

明二月四日の統一行動の内容。

2月4日(火) 小雨

一〇時から評議会。午後の四者共闘の集会に出向いてどう説明するかが主たる議題。

昨夜一時すぎ教養部も封鎖された。今日は沖縄ゼネスト支援の全国統一行動の日。九大は文系キャンパス教養部キャンパスを封鎖する反代々木系の行動と、工学部大講堂での大衆団交、引きつづき本部前で東部住民集会をもつ代々木系の二つの運動に分かれた。前者は後者をスト破り呼ばわりして集会に殴りこんでくるかと思ったが、それもなく一応午後七時頃までにすべては平常にもどり封鎖の後片づけも終わった。

カゼ頭痛のためソファの上でねた。

それにしても教養部では封鎖派は強盗的行為をやっている。(例、事務長室) また廊下らしく書きをやり部長室のジュウタンを汚損していて相当に荒らしているが、このような下品、下劣な行為は許しえないと思う。三派系には一皮むけばこのような本質がある。親のスネカジリ、強盗、乞食、要するにルンペンと皮一重のところがある。

2月5日(水)

在宅。今日しめきりの「社会主義」への原稿に着手。なかなか書き出せない。外は風が強く、ボタン雪が舞っている。昨日、みゆきがシダレ紅梅が誰にも見てもらえないのに満開だという。実際は三分咲きであるが、ボタン雪が紅梅咲く枝を縫うように舞うのもいい。

鋭意カゼをなおすつもりでいる。昨日より楽になった。

2月6日(木)

一〇時から評議会。

電算センター仮設につき、九電側が一年間でよいという建物借用期間の保証をせよということで大学側は苦慮している。

午後六時から反対派学生代表と調査委が合う。調査委が本気で機体引き倒しに関係ある学内者を割り出そうとしているか否かにつき学生側の不信が集中している。それでも、試験が近まっているということもあって、今日の話し合いは大変物静かである。水野学長辞任のあと雪どけの時期が来たようである。関西学院大は入試実施のため妨害する学生に対し警官導入。

長崎大も警官導入。(学館問題)



2月7日（金）

やろうかやめようかと思案しながら、最後の講義をやった。研究室でゆっくりできたのは久しぶり。原稿書きのため夜おそくまで研究室に居ようかと思ったが、みゆきの誕生日（四四才）でもあるので失礼にならないように帰ってきた。別にお祝いするのではないが、家族がそろっていることが大切だろう。

無給医の有給化などの問題をめぐって九大医学部では四日からストライキがおこなわれている。明日は出向いてみよう。

原稿を仕上げたら午前三時になった。「大型景気と体制的合理化」というものだが、すんなり書けたとはいえない。

今年になってはじめての原稿。

2月8日（土）

医学部自治会のいう評議会との大衆団交にいかに応ずるかにつき自治会との予備接衝<sup>マフ</sup>をせよというので医学部に出向く。単自治会と評議会との団交という新しいケースをどうさばくかがわが方の関心の焦点。昨日からストライキに入っており一日まで続けるという。医学部教授会はもて余している。評議会の確認書は無理という事を強調しておいた。

夕方六時四三分発の列車で日奈久へ。国労西部本部の労働講座（日奈久観光ホテル）着いたら十時半になっていた。

広島の協会員大坪、小笠原の両名が部屋に来て一時頃まで話しこんで行った。国労では協会員が大量に伸びそうだ。

「社会主義」への原稿投函。

2月9日（日）

九時～一二時国労西部本部の労働講座。（日本資本主義と国鉄）青年はよくきいてくれる。質問がよく出ているのに打ち切って急ぎ上り列車に乗り熊本へ。自治労熊本県本部の労講。

（合理化と地方自治体）ここも協会の影響力が及びつつある。書記長が若干の青年をつかんでいる模様。天草の人達も紹介してくれたので手紙を書いておこうと思う。五時の列車で帰ろうとしていると、車中に、午前中同所で講義した嶋崎君が居あわせており、久しぶりに原稿も書き上げた解放感もあって、さそわれるままに玉名で下車。彼がアジトと称する十返旅館に投宿。協会本部に行った野口女史の友人の経営する旅館だという、古びてがらんとしたところ。おちついてみると案外よい。

2月10日（月）

十返旅館を九時に立つ。亭主の古川泰龍氏は教誨師で佐賀に寺をもつ人。殺人魔西口をこの旅館から少しはなれた自宅に泊め、娘さんの気転で捕縛するに至ったという。今は平和運動

に家族ぐるみ強い関心をもち、行動的に参加していて、更に死刑囚の再審に関する立法の運動もしているという。

午後〇時半三鷹ホールでユネスコ関係文化史原稿について中食会をともにしながら話し合う（高橋正雄先生来博）。私の原稿は四月中旬まで待ってもらおう。久しぶりに東洋経済新報社の地域経済研究会に出席。沖縄経済の話。（琉球銀行調査部長）墓地に依存する度合いが高いため復帰後は困るという話。

夜は七時から評議会。十一時半まで。地上に落ちた機体の部分が盗難にかかる危険が生じたこと、民主化委員会のこと、明後日の医学部自治会との交渉のことなどが議題だった。工学部長の清水教授が相かわらず勝手なことをいって時間をかけている。

2月11日（火）

暖い。付近を散歩してみる。石段の上の山地はこの半年ぐらいのあいだにほとんど宅地化されてしまった。開発というよりはカネを追っている鬼の仕業のような気がする。空地にゴミを捨てる者がふえてきて、これも不愉快。

東京の林秀氏の息子が九大受験のため当日は来福するというので電話連絡をする。今日発表された国立一期校の競争率は九大に関しては大したものではなかった。理系はなべて少数。（精鋭）

午後五時から八時まで朝日新聞福岡総局長の招待で新三浦へ。大学問題について話し合う。

2月12日（水）

早朝佐賀へ。一面のモヤ。列車がおくれ、鳥栖からタクシー。川上峽竜登園。自治労佐賀県本部の幹部労働講座。物価問題。

風邪がなおらない。頭痛がする。

帰福してから教養部の教授会に出席。例のごとく年度末の膨大な人事をさばく。

教養部長選挙の日程、規則改正を批准。

午後六時から医学部自治会の要求する「団交」予備接衝に出席。今日は温和な話し合いだった。八時終了。

早く寝る。

2月13日（木）

入試実施委一〇時より。

試験妨害があるかどうか問題となる。予備問題が一通り準備してある。第一会議室では願書整理事務が進んでいる。（受験番号返送）

理論戦線の打ちあわせ会議。集会所、午後。

午後六時からの福岡支部全員集会（警固神社々務所）は欠席。

七〇年問題についてパンフを問研が発行することになって（共同執筆）、初校ができています。現在、相原君が経済部門についてまだ原稿を書いていないので私に是非書いてくれという。三〇枚ぐらいのものではあるが一寸荷が重い。しめ切りは十七日だという。夜、それに関する資料をさがしてみはしたが。…

2月14日（金）

一〇時参加会。

一三時三〇分対策委員会。大学制度調査委員会の話。（評議員以外の各学部 2）具島教授が中心。

機体管理委の方はうまくゆくまい。実行連絡委の任務をどうするか評議会の態度があいまいなままでは。

牧坂君が突然連絡してきて、土井、久綱、私の四人で牧坂宅におじゃまになり、午後六時から十一時すぎまでごちそう歓談。

早朝京大で学生対立、二五〇人負傷したとの報。あちこちで期末試験ができなかったり、入試実施が危まれたり。

2月15日（土）

朝から借金対策に出かける。労働金庫で五〇万円のうちとりあえず三〇万円だけ二年間の契約で借用し、「すくらむ」対策費として東京に送金。あと二〇万円は別途考えることにする。

正午頃、学生部の入試事務動員計画の説明会に出席。

一時半から例の連中で生物教室でマージャンをする。また大いに負けた。

藤本（植木屋）が来てくれて松の手入れをして帰っている。

夜は問研パンフ「七〇年斗争」の相原君に代わる原稿に取りかかる。

2月16日（日）雨

原稿書き。（相原分担執筆分）何とはなくゆっくりしてよい日曜だった。原稿は今日仕上がれば上々だったが、明、明後日にもちこしそうだ。

春雨が音もなく地面をぬらし芽をぬらしている。

サツキが大変弱っている。藤本さんが昨日肥料をやってくれているので、花をつける頃までに元気な枝を出してくれそうに思える。松の木の下になってしまったヒバは植え直した方がよいように思う。

2月17日（月）

ひる頃まで原稿書き。

正午後から教室会議。教養部長選挙など今春の教養部の主要人事について。

午後一時半から対策会議。

夕方、比較的早く帰宅できた。

夜、原稿を書いていたら、啓二が二、三日どこかへ気ばらしのために出かけるからこれを認めよという。半信半疑だが拒否する必要もないので黙認。大きな黒い紙袋にいくらか物を入れて、バイクをもって出て行ったのは八時過ぎだったろうか。

原稿を書いて深夜になる。午前三時。

2月18日（火）一時小雨

午前中、原稿の点検。七〇年安保の背景としての日本独占資本の現状という題にした。

午後車が迎えに来たので、途中教育会館に寄って原稿を渡す。気分晴やか。

入試の用紙印刷校正の第一日。西洋史の問題のエンクロジャーに関して疑問を解く。久しぶりに早く帰れたので周辺を整理する。

ノドが少しはれている由。カゼがなおらず声がずっとおかしい。保健センターで薬をもらう。

すごく暖いと思ったら小雨になった。

2月19日（水）

協会の特別寄付金五万円と臨時カンパ四千円を登校の車を利用し事務局にいた吉井君に届けておいた。

入試の校正作業室へ正午につく。

夕刻より、経済学部自治から、東大共闘会議の山本議長を迎えた講演会を開くから記念講堂を貸せという問題をおこしてきた。電話しきり。

夜、教養部学生係関係者の慰労会。（しばこ、午後六時～十時）

だるくて、ノドが痛くて調子がよくない。岩崎教養部長が浜の町病院に十日間入院してあちこち検査してもらって快調になったという話をきいて、それも一つの方法だなと思った。

午後とくに夜は雨になった。

2月20日（木）

夜行列車で関西へ。

午後六時～九時地区労幹部に対する春闘説明。

新開君が山村硝子の資料を昨年もちこんでいて歴史を書いてくれといていたのに、書けなかったのだが、その資料を至急送り返せというので、上京のついでに手荷物にしてもって行った。

2月21日（金）

早朝神戸着。午前中神戸大の入試実施体制視察。

午後京都大学へ。三時着。この日京都では反代々木系の労学集会があり、京大、立命館大では大さわぎ。京大は入試どころのさわぎではなさそう。

京大をそうそうに引きあげ立教の両者対峙の大群衆をしばらくみたあと、予定の通り勤労会館五階で開かれる学習運動京都府会議の学習講座に出席。六時～九時。「春闘と合理化」。終ってから野地君らと夕食をいただいたあと、パレスサイドホテルに投宿。気持のよい講座であった。でも合理化という事はやはり理解しにくいらしい。京都市電のレール部分撤去の問題がでた。

2月22日（土）

十時頃大阪に着く。バスで中之島阪大本部（封鎖中）に行く。ここは神戸ほどこまかい入試対策はたててないが、会場を二つ準備したり、万一のときの移動バスを考えている。あまりよい方法だとは思われぬ。昨日の神戸大と同じく中食は学生部の方でごちそうになり、新幹線で東京へ。六時頃着。

社会主義協会。中央常任委員会が午後一時から開かれている。社会党がどうにもならぬほど分解をしているという話には、ショックを感じた。七億近くの借金をかかえている社会新報の経営のまずさ。総評もまた総評。沖縄の二・四ゼネストを新労働布令ととりひきによって中止させた岩井、堀井の話。まともに聞けないような話ばかり。

夜も十時半になって宿がないので私はひとり葵会館に投宿。

2月23日（日）

九時半再開。昨日は全硝労の事務局だが今日は合化宿泊所の談話室。協会、すくらむ社（創設）の財政問題と青年運動問題。

「すくらむ」は五、六月頃までに株式会社として発足することにするが、協会事務局同様に中心になってドン坐る事務長格の人がいない。

青年運動については、八丁君がいいことを指摘した。すなわち、社青同が社会党の縮図のようになって混迷をつづけているが、協会は青年運動の母体を社青同に偏せず、労組の青年部にも注目すること、古い指導部の批判者としての青年を見直してゆくこと、そのためには合理化問題をひっさげて職場の運動の主導権をとりもどす運動に力点をおくこと、それが青年政治運動の土台でもあるというのである。

午後一時半に中央常任委員会を終わる。嶋崎、大坪、八丁の九州組は「社会主義」の編集委員会を午後もやるという、私は電話連絡により、二十数年ぶりに林秀氏宅を訪うことにした。車で田町駅に迎えに来るといふ。息子が九大理学部を受験するので宿をたのむという連絡を前から受けていたので。午後六時五〇分の「あさかぜ」で帰福。

2月24日（月）

ひる頃博多着。

借金カネ作り。

次長も課長も上京している。医学部自治会、経済学部三派系、四者共闘などと次々に学生を相手に集会に応じなければならぬスケジュールが待っている。

関西に移って来た反代々木系のゆさぶりが九大にもやってくる。入試ができるか否かひやひや。

午後四時半から経済学教官選考委。従来の手が行き詰って選考を白紙にかえしたと報告あってこれを諒承した。

河野和正君の奥さんが板付ゲート前に毎週土曜日に坐りこんでいることで、夫婦仲が険悪になっている問題。奥さんの筆で朝日ジャーナルにそれがのっていることについて、教養部で社会の連中が話題にしている、そういえば一月末に彼がそのような悩みをいっていた。

2月25日（火）

教養部で身辺整理。

午後本部へ。四者共闘との交渉の件打ちあわせ。原教育学部長とともに。

午後一時半部局長会議。

夕方比較的早く帰宅。

夜島津君来宅。

社会党が全国的に、本部も県本部もどの支部も救いようのないほど崩れていることについて話し合う。私の希望としては、島津君がそういう社会党県議会事務局から退き、社会主義協会本部事務局か、同じ場所のすくらむ社専務のポストについてくれることを希望すると申出てみた。彼は生活上のことはさておき、嶋崎君らが快く思わないだろうといった。十二時頃まで話した。

2月26日（水）

医学部自治会の「大衆団交」のための打合わせをしたのち、六時から一時まで「団交」（医学部中央講堂）。国大協路線、七・九評議会決定がおかしいという点を鋭く追及してきた。教授会・評議会決定による大学自治ではその決定に誤りあるときはこれをチェックする方法がないではないか、七・九評議会決定はこの誤りの最たるもので、これをゴリ押しされたのではたまらない、というのが主な論点であった。出席評議員は原事務取扱いをはじめこの点に十分こたえてないようだった。おそくなるのでその点を明かにすべく「団交」を改めることで集会を終った。

2月27日（木）

教養部長に岡田武彦教授、選挙される。

経済学部自治会が記念講堂で東大・日大斗争勝利労学集会で開く。昨日から大講堂だけでなく許可されない会議室をもこじ開けてふとんなど持ち込んで準備した不穏なものであった。明らかに何か前もって準備されており、集会に参加した中核派は午後十二時頃ついに本部に暴力的に侵入（指導者、佐藤裕彦）破壊の限りをつくして本部を封鎖。これによって折から開かれていた九大教職組の大学当局との団体交渉、（第一会議室。主として期末手当一律支給原則の確立）は中止され、組合側は同会議室に閉じ込められ、一時は大変だったが（組合側は女子職員も多数閉じこめられており）午前二時頃までに二階の窓から梯子を利用して外部に脱出して難をのがれた。向いの工学部応用理学教室（反戦学連のアジト倉田研究室があるらしい）をめぐる反戦学連系と民青系がはげしく対立、両派に二～三名の負傷者が出た模様。工学部事務室、工学部長室に集まった大学幹部は入試の実施にも暗影が生じたとして封鎖事件とあわせ対策を練った。

2月28日（金）

ゆうべは午後二時まで封鎖行動を見守りながら本部内に居り、帰宅したのは午前五時だった。八時半には迎えの車でまた出勤。入試事務は応用力学研究所の会議室に移された。中核派が本部を封鎖するとのニュースが入ったのは昨日午後六時頃だったので本部は主な書類を予め運び出す時間はあったが、昨夜の本部事務局各室の破壊はすさまじくも戦慄すべき狼籍ぶりであった。反戦学連系は記念講堂の自主管理を叫んで昨夜は居坐ったが、今日午後三時頃には退去を開始した模様。一月五日～七日の方法を用い、交渉委員を編成して本部の封鎖を解除させるべく努力がつつけられたが中核派は応じなかった。

中核派は九大学生を中心に、久留米大、西南大、九産大その他の学生が加わっている模様。各部屋に施錠していたことが破壊を大きくした一因であることが反省される。

#### 【欄外記載】

昨日の問研の運営委員会は欠席。嶋崎君に協会本部又はすくらむ社への島津君派遣問題を提してみたら、島津君が予想したとおり、嶋崎君はまず反対の気持をあらわした。

岡田さんが教養部長に選出されたことには異議はないが、線が固く細いように思われる。二人の評議員、学生委員らがどう援助協力するかが問題。七〇年闘争をめぐる学生問題をさばくのに不安が残っている。勿論誰が部長をしても大同小異ではあろう。

三月予記

島津君のことを衣笠君に話してみたら一案だが私から嶋崎、大坪両氏に話してみる必要があるというので、私が嶋崎君に電話してみた。

大坪君に電話してみたら「ホー」といって案外な表情のようであったが、よく考えてみようといった。しかし嶋崎君とちがい、すくらむ社の方に中年の堅実な事務屋が必要であることを強調していた。嶋崎君は、すくらむ社は今のスタッフで何とかやっていける、すぐ欲しいのは協会本部事務局の会計を担当する若い女性だという。だいぶん認識のずれがある。若い女では協会運動の事務局は全くしまらない。すでに九州支局でも、本部では和気、赤間の両氏がこれを実証している。事務局員に対する認識を改めないと、協会組織の前途は展望がつかめなくなる。

### 3月1日（土）

一〇時から教養部教授会。評議員に野田、西尾の両氏が、図書分館長に浜氏が、学生部参与には大久保氏が決まったようだ。教授会を中坐して、一一時から薬学部会議室での評議会。本部封鎖に対する非難声明、学生との交渉委の交渉結果報告。中核は入試妨害しないと思うがまだはっきり態度を打ち出していない。

午後、正門付近で学友会四者側に反戦中核系の学生がつかまって封鎖事件についてつるし上げをうける事件があった。受験生も心配そうにつめかけて学内の様子をうかがっていた。午後六時半から同窓会館で部局長会議。明日からは全教職員の動員ときまった。東京から林秀氏の息子が来て九大受験する。

経済学部長木下氏は封鎖事件のため引きこもってしまった。

京大教養部強制捜査。

### 3月2日（日）

実施委員会室に出勤のついでに東京からの二人の学生を案内して本部地区につれてくる。学生部も（全学も）全職員が動員。十時非常事態にそなえて協力のむとあいさつ。正午前後、次長と各試験場を下見する。午後実施委員会。いままでのところ教養部の学生会館で反帝が若干出入りしているほかは、大きな動きはないので、入試妨害はありそうな気配なしとみる。午後六時半から試験場長、対策委などの合同会議。採点や集計事務を教養部でおこなう計画を進めていたところ、教養部から突然反対の声が出てきたので、場所を急遽、医地区の同窓会館に設定する。岩崎氏と久綱氏がそのため一時口論する。教養部の気持もわからぬではないが、被害意識が強すぎる。集計採点室を箱崎の旅行センターに移したことは三月四日の教養部封鎖の事実にかんがみ結果としてはよかった。（後で記す）

### 3月3日（月）晴天、少し寒い。

九時入試実施本部につく、東京の息子たちを同乗させる。入試が無事おこなわれるか否かが関心事。全国的には京大が荒れ模様のほかは、若干の大学で警官の干渉のもとでおこなわれたものもあったが概して平静に進んだ。九大では本部、工学部本館前の中で中核と民青が一



時こぜりあいをして心配させたが民青派の自重により大事に至らなかった。入試問題のミスもなかった模様。

答案の整理作業が同窓会館で夜おそくまでつづけられた。

一彦が合宿に出たあとへ、姫路の植田の息子が友人をつれて来る。九州一周旅行をするので二泊させてくれという。

中核が封鎖している本部に電話をつけろとってきている。この要求には応じないことになった。「われわれは入試に反対する。にもかかわらず入試をすることはわれわれを弾圧することだ」という主張と同様、電話を切ることは弾圧だというのである。

### 3月4日（火）

朝七時頃、教養部から（川口氏）電話があり、中核派により教養部本館が封鎖されつつあるという。受けて学生部、各学部連絡をとる。八時すぎに教養部に行く。入試実施をどうするかで、予定通り、を守る事に努力したが、教養部における午前中入試（法経入試英語科）は中止し、午後入試（理科）は英数学館で行うと決定された線は動かさなかった。この決定は実施委員長の岩崎教養部長が中心になって早期におこなわれたらしい。私は、会場は変えても予定通りの科目の入試は可能だったと思う。時間的なゆとりはあったはず。教養部以外は安泰。昨夜、本部本館封鎖の中核派学生が封鎖をあげ渡したが、その後の警戒が足りなかったようだ。呼ばれて中村次長と県警当局者と合う。

### 3月5日（水）

英数学館での第一限目の入試（社会）を最大限に警戒したが、事なく終了。昨日のをおくらせて実施した午後の試験（法、経関係英語）も無事終了。

答案の保管と採点につき安全を期すことが今後の力点。会場の旅行センターの設営に若干の難点があった。部屋のさしかえをきめる。

北川理学部長らが安全警備について旅行センターに出向き強調。ガードマン説？ 教官の不寝番説？ 誰が実行するのか。学生部は手一ぱい、県警警備関係者と話し合った。——午前二時に及ぶ。（岩崎教養部長・入試実施委員長に同行）

警察側の言い分は、被害届および入試会場、採点場警備願いを出してくれないと困るということであった。岩崎教授は正式に届出ることにはできないとことわった。

東京から来ていた生徒二名は夕方の日航で帰京した。姫路から来ていた学生二人は今朝早く九州半周の旅に出た。

教養部全教官職員の中核派に対する抗議集会。（夜）

### 3月6日（木）快晴

労全、豊和相互銀行ともにOKで借入対策完了。

採点現場に不満が高い。畳敷に長時間作業だから。採点がおくれているので対策が必要。宿泊を認めること。

午後六時から山之内製薬労組にて、賃金問題に関する労働講座。（県評化労協の世話）

教養部本館封鎖つづき、終日教養部では対策が練られているが、これという決め手はない。教養部の苦悩は深い。三者会議。

原学長事務取扱疲労のため入院。事務取扱辞任了承。後に井上氏が先任者として議長となる。

午後、入試健康診断実施のための会議。（大学病院事務部会議室）

3月7日（金）

午前中に評議会が招集されたがなかなか集まらない。十一時開会。

教養部の事態を教養部だけの問題とせず全学的にとりくむこと、中核派に抗議すること、封鎖を解かせること、ただこの抗議が大衆団交になることは一セクトと団交をもつこと、封鎖の故に一セクトと団交をもつに至ったことになるなら悪いのではないかとの議論。採点集計場（旅行センター）の安全問題について北川理学部部長から再度問題提起された。会議は長々とつづいた。

原さんは警察に採点場防衛を依頼すること（個人的に）をひきうけてくれた。一つの勇断だと思う。

倉富さん、豊和銀行から二〇万円を借してくれたので早速支局にもって行っておいた。

教養部の封鎖をどう解除するか。三者会議（教養部教職員、評議員、中核派）かれらのかかげた要求

- 1.一・五事件の糾弾
- 2.七・九評議会決定白紙撤回
- 3.記念講堂の自由使用
- 4.中教審粉砕

3月8日（土）

教養部封鎖は重大段階にきた。ゆうべ嶋崎君からの連絡で中核派との連絡は絶つほかはなくなっている。彼らは警官との決戦、教養部本館での攻防を考えている。指導者は出て、未青年者に守らせている。産大の分子が増強したという。約七～八名。どう攻めるかの作戦に入った。教養部本館が堡壘にされてはたまらない。

本部本館の封鎖については警察は出動のデータ固めをしている。

教養部問題では、こちら側に戦術家がないこと、その機構指導体制がととのってないことが問題。

旅行センターでの採点集計の仕事は今のところ順調。

採点場の集計事務総がかりの前に一ぱいの席を設けた。

教養部実行対策会議が発足。

3月9日（日）

小野田地区労の春闘講座。セメント労組が中心だが、その他もかなり来ていたようだ。全国セメントに右傾化の波がはげしい由。「春闘」というものの説明、同盟と総評の賃金に対する考え方の相違を説明した点がよかったという後での批評。

直美が意地ばって今日のはじめてスケートに行ってきたそうだ。

3月10日（月）

午前中、教養部封鎖対策委と参与会との合同会議。（教養部数学演習室）これは教養部で決めてゆく行動を全学的な行動にひろげてゆくための横の連絡のため。参与は今後参加しなくてもよいということで、この会を教養部問題連絡会議ということにした。明日明後日の全学教官動員を決定。

小倉労政事務所関係、荻田豊国セメント公民館で賃金講座。夜九時帰宅。

豊国セメントでは合理化がはげしく、組合の姿勢が合理化に全く対抗しえないものになっているらしい。

3月11日（火）後、雨

朝一〇時教養部へ。学部教官動員第一日。前半は理農学部後半は文系各学部。封鎖派学生は色めいてきた様子。夜には屋上の敷石を一段とめくって割っている模様。その音がききとれる。大雨になったら雨もりがするのではないか。

警察の方で、証拠資料固めを急いでいる。手入れが間近かにせまっているように思える。放水による資料水びたしをしないように――。

入試の採点は昨日国語を最後に全部終わり。集計も大変順調に進んでいる。昨日入院の川口氏を第三内科に見舞う。

午後一時半から評議会。

教養部問題、原学長事務取扱いの職務解除を了解、後任は井上法学部長に。その手で学長選挙をどうするかを決めることになる。

3月12日（水）雪。台湾坊主

今日は前半が工学部、後半が医学部の警視。

夜になって明日の教職員集会を九大職組と共催にすることについて、スケジュール討議を通じて大激論があった模様。四者共闘のペースに巻きこまれた原案が示されたので対策委の側から直ちに反論。結局は九大職組の動員は願い下げということになった。四者共闘のい

う共闘は「醜女の深情」のようだと批判もある。

夜、中村正夫氏を招いて飲みつつ語る。隣の高柴さんも加わって深夜二時になる。中村氏は当然泊った。

林出君は理学部に合格している模様。集計室でちらりとみる。その旨東京に連絡したらみんなよろこんでいた。

3月13日（木）

教職員の集会には九大職組が関与しないことになった。しかし、今後教養部単組と九大職組の関係が微妙になる種を残したようだ。

ところで教職員の午後の集会は封鎖派学生を刺激したであろう。近い将来勢力を結集して封鎖を強化するかも知れぬ。

夜の総括では強行意見が多くなっていると報告された。当局がこれにどう対応するかが今後の問題であろう。たとえ少数でも、これは無視できないに違いないが、有効な対応策をもち合わせていないのが悩みである。

昼間は久留米市労政課の労働講座。夕方帰福。

3月14日（金）

一日中、入試実施委員会。

うちに来ていた大塚照雄君落ち林出君合格。千葉市川の大塚宅に電話で知らせるのがつらかった。

3月15日（土）

一日中、入試審議会。（旅行センター）合格者発表。

3月16日（日）

大牟田労政関係、大地評自治研修会。

午後、直美とアイススケート、のち大丸で買物。みゆき同伴。

3月17日（月）

教養部教職員会議。封鎖対策の組織がえ。

ひる間、ゆっくりして在宅。夜は博多駅裏集会所で協会九州支局常任委員会。一月の第九回大会以降の情勢、とくに社会党の衰退、総評の右傾化にどう対処するかの問題——名案はない。協会だけが党内左派となりつつある点、社党は近まりつつある衆院選挙で当選者一〇〇を割るのではないかという話、また一九七二年頃には総評同盟のほかに三〇〇万の勢力を有する中間組織ができるのではないかという話、沖縄の二・四ゼネストを倒さねばならなか

ったことは七〇年斗争の前途を卜するに十分であろうという話など暗い話ばかりであった。

### 3月18日（火）

教養部学生招集、一時から集会。一時半から評議会。（同窓会館）原学長事務取扱辞任にともなう井上氏交代につき、文部省がクレームをつけているが、これをどうするかが主題、卒業証書に書く学長名を誰にするかがさし当たって問題。原氏の名は使わぬことだけが明らかになった。文部省が受けとらぬ辞表を送状をつけて郵便で送ることになった。こじれると大学自治の上で大問題に発展しそう。昨日の法学部教授会では法学部教授の総辞職も考えているという。

夜、みゆきと山村氏招待の映画を見に行く。日立ファミリーセンター。

広沢英樹君が東京で元気にやっているという、渡辺幸三郎氏の奥さんの話。その旨八幡の宅に電話しておいた。

### 3月19日（水）

昨日朝、林出君来る。

入試合格者の健康診断。心配された学生間のセクト争いもなくまずまず。民青、学友会が盛んに新生生に対する宣伝をやっていた。昨年とくらべてむしろ静かだということだった。午後四時すぎ教職組が教養部で封鎖解除を叫んで校庭で集会をもったがこれに参加した。どうも決め手がない。封鎖を放棄している一階東側の部分に入ってみたが保健室など相当荒れている。

夜、仲人をたのまれていた本人たち、堀山君と木原君の婚約両人が来訪。二二日の結婚式のことについて方針を説明して行った。兩人とも二六才の若人。堀山君は九大生協書籍部勤務で倉富氏の紹介で私が仲人になることになった。

嶋崎君が来る衆院選に石川県第一区から出馬するよう党の方から要請があった旨報告。先方にまかせ、主体性を失わぬことをのべておいた。

### 3月20日（木）雨

井上問題で一〇時から部局長会議。文部省から井上氏の言動について問い合わせがきているので、これは卒業証書の発行者を誰にするかというさしせまった問題ともからんでいる。

午後附属病院長室で入試合格者の健康診断委員会。

教養部封鎖問題、中核派の行動の中に解除への条件がみつきりそうになってきた。

ボケがなかなか咲かない。立派なつぼみが出来ていたのに、半分ほど先日の大雪でやられた。水仙が咲きそうになっている。レンギョも、サツキが移植二年目のせいが大変弱っている。一昨日たった一つになった甘夏かんを取って食べた。一人前の味。小さかったが我が家の

味であった。

3月21日（金）

春分休み。朝高橋正雄先生来訪。ユネスコの仕事のために来福らしかった。十一時半頃、教養部の封鎖派が退去したというので、登校。高橋先生も同行。一階から六階まで狼籍をきわめ、「意外な荒れ方」にみんな唾然とした。教室の机は全部ナットを外して取りこわされ、研究室はドアを破られ、木製の机は引きちぎられ、スチール製のロッカーや机はへしまげられバリケードに移動積み重ねられ、書籍も資料も散乱し、会議室の椅子や調度品は散乱転倒され、壁などには落書きが一ぱい、部長室や事務長室ではジュータン、テーブル、椅子は食い物、飲み物食い残し、汁のこぼれで汚れに汚れて悪臭を放っており、階段のスベリ止めは壊れ、屋上の防水敷石は前後二列が投石用にはぎとられ、廊下にはブロックがこれまた投石用に持ちこまれ小積んであった。エレベーターの階段表示板はめくり取られている。夕方までに総員で取りかたづけられたが机やロッカーの破損、紛失書籍類その他当分はもと通りになりそうにない。怒りと悲しみが全部の共通の感情だった。

みゆきが片付けてくれた。

3月22日（土）晴。

堀山睦朗君と木原清江さんの結婚式に仲人として立つ。午後一時からサッポロビール三階ホール、のち、披露宴。生協と中学校の職場の同僚たちで埋まった。昨日まで教養部封鎖の指揮をとっていたと思われる高木徹氏も来席していた。色からいえば中核と反戦青年委と日教組という披露宴だった。

欠席したが、午後からは部局長会議があつて、井上問題が討議された。

3月23日（日）

のんびりの日曜。耕したり読んだり。

3月24日（月）

午後、参与会。二十七日予定の卒業式がまともにできるかどうかが議題。井上問題は未解決だが卒業証書は、井上名で作成を急いでいる。これが決まらないなら卒業証書は渡せない。また、反代々木系の学生たちは自主卒業式を叫び、時と処を同じくし、「帝国大学日の丸セレモニー」を粉砕すると称しているので大学の卒業式はできそうにない。

直美が通信簿をもらってきた。4が一つ（音楽）、あとは3ばかり。

庭のレンギョウがきれいに咲いた。畑を作っていたらすっかり汗をかいた。谷に鶯の声がひびきわたる。

3月25日（火）

一〇時から教官定員運用委員会。

一時半から評議会。

井上問題は文部省政府の態度からして解決に時間がかかるので卒業式は見とおしがなくなった。明日の午前中に最終的にとりやめか否かを決定する。本部及び教養部封鎖事件の結果、被害届や告訴、損害賠償要求などをどうするかという問題が提起されたが評議会はあいまいな態度しかとらなかつた。重大問題だから各学部教授会にかけてからといって逃げている。いつまでも逃げているわけにはいかない問題であるのに。

夜帰りはおそくなったが、大濠高校への啓二の編入試験の問題をひっさげて一彦の先生である長谷氏を訪う。（みゆき、啓二同伴）長谷先生は、話が進むにつれて編入の見とおしが個人の努力では困難ではないかとの見解に傾いた。校長に卒直にたのんでみる方がよいという結論。啓二の方ではやはり反省の色が薄い。依然として、他人の意見を傾聴し自分の意見をさしひかえるという学ぶ者の姿勢が欠如している。その意味でも、親からみた啓二の将来は暗い。

3月26日（水）

午後一時から九電ホールで九大43年度卒業生の送別会。途中、大濠高校に栄島校長を訪ね、啓二の編入試験受験に関してお願いする。大濠高校は大変立派になっている。ブツツとした校長ではあるが、編入試験受験だけはOKということであった。

3月27日（木）

卒業式は中止されたが各学部ごとに卒業祝賀会をやっている。学生部でもそのお流れをいただいで祝宴。

熊本へ。協会支部のティチイン。「69年春闘と70年安保」について基調報告。（福祉会館）時間が十分なくて、話は尻切れ状態になった感じ、一五〇人ぐらい集まった様子。

帰りに、小ひろ開店のもようを見に行く。

学友会の藤島君に啓二の編入試験受験の家庭教師をたのむ。（数学関係）

3月28日（金）

朝、嶋崎君に電話したら「若松」に来てくれという。石川県から高倉氏（委員長、市議団長）が来て、来るべき総選挙に嶋崎君を石川一区から立候補させたいという申入れ。この問題は一週間ほど前から嶋崎君が話していたことであつたが、大坪、衣笠、八丁などの意見をまとめてみると、消極的否定的、名田と私はやってみたらどうかという意見。結局は中央党本部の考え方と本人の決意が決め手になるということで、高倉氏に中央の意向を早急に打診するよう返事する。二時より生協理事会。夜龍鳳で参与会、懇親会。

3月29日(土)

一〇時、対策委員会。電算センター建設のため損害調査の件。井上問題については文部省は発令せざるをえないところへきたようだ。法制局は文相の拒否権はないという見解のようだ。

教養部教室会議。

直美をつれてデパートへ。手さぐりゲームを買う約束を果す。(直美ちゃんが一日も休まないで一年を終了したための褒賞)

午後七時から九州支局委員会。(若松旅館にて)午後十一時まで。総選挙ムードの中で春闘は早めに切り上げられる予想。支局大会を四月中に開くのにそなえて、よい報告がおこなわれた。

3月30日(日)

昨日につづいて支局委員会。

午前九時～三時。来たるべき情勢がきびしいこと、社党は議席が激減し、分裂への動きをみせるだろうこと、又総評も一九七二年頃までには潰滅的な内部弛緩をみせるであろうこと、それ故に、社会主義協会こそが大衆の先頭に立ってその真価を発揮すべきときになるだろうというのが結論であった。財政、組織、運動方針を早急に建てなおす必要がある。西欧風の党と全国労組ができて、革命の主体がぼやけ、革命情勢が一時遠のくことになるかも知れない。その時までには党の左翼をマルクス主義の線でまとめるような力量をそなえなければならぬ。「社会主義」「すくらむ」「社会タイムス」「社会問題月報」の拡大、支部の拡充、班組織の活用などが論じられた。

支局委が終わったあと、常任委を開き、嶋崎君の石川一区からの立候補問題を討議したが、彼の決意はここ二、三日のうちに固まったようで、われわれも党の近い将来にくる危機を考えると、その崩壊の中から新左翼結集の必要という視点からも、国会議員の中に純粋の協会員が存ることの必要性を痛感するところがあるので、氏の立候補については、大きな異論はなかった。夜、白銀町の魚新に集まり決意表明壮行を祝す宴とした。

3月31日(月)

登校。世界経済に関する資料読み、「社会主義」への原稿準備。

学生部から、オリエンテーションプログラムに関する問題解決のため関係学生杉谷君をつれて、小林課長、井上係長が来室。

今日限りで退官の教授

岩崎、桧垣、金田、武藤、中原、以上五氏は定年。習田、森永の二教授は定年直前の退官、転勤の部である、それに事務官としては、教務掛の目黒、交換の武内の二女性。

来年は一名も退官者はないそうだ。



四月予記

あわただしい四月が明けた。学生運動で荒れ模様。

鳥も鳴く、鶯も鳴く。取り残された森に鳥たちが寄ってきているわが家の庭先の春はいい。ボケが散りはじめ、スオウが蕾をふくらませる。石橋邸の椿の見事なものには感心する。何種類あるのだろうか。

石垣の外の畑を広くしたら、みゆきが、ゴボウや人蔘を蒔いたそう。大えんどうが実をならせはじめている。

水仙、三色すみれ、アネモネが咲きほこっている。

サボテンの冬中の管理には失敗したらしい。大きいのが腐った。

4月1日（火）

登校。原稿のための読書。

夕方中核が二八名帰福して学生会館に入ったというので一時緊張。何のこともなさそうなのでホッとする。

オリエンテーションプログラムについて明日参与会を開くことに決定。

中島敏子さんが息子が就職したので内祝だといって来宅。（私の留守中）

4月2日（水）

一〇時、参与会。

オリエンテーションプログラムについては学生側の意向にさからわないが、学生側行事と学校側行事とを区別し、プログラムには学校側は関与しないことにした。本部および教養部封鎖に関する処分については大学の最高方針がきまらなければ早急に手がつけられる事情にないことを確認した。

終って午後早く帰宅し、資料読みなどゆっくりしていたら、夜六時すぎに八幡労働学校の講義にどうして来ないのかと渡口氏から電話があり、あわててタクシーでかけつけた次第で、のんびりして面目ないことになった一日であった。

4月3日（木）

曇天。菊の芽に油虫がついているので噴霧器で乳剤を撒布した。海棠の蕾がふくらんできた。

中食のとき、みゆきがバラずしを作って座敷に運んできた。おひなさんを取片づけるのだが、今日はその最後の日にしようという。直美を加えて三人、今どき一寸変わった家族の中食会になった。

原稿は進みそうにない。構想がますます深みに入ってまとまらなくなっている。

4月4日（金）

雨ひどくないが冷い。風が強くふきまくっている。

直美が今日から二年生。

緊急支局常任委。午後五時、集会所。三池問題。炭労がCO問題で取引きしているという事で炭労と対決せざるをえなくなっているという問題。協会が之を包むほかない——東京でもそのような動き。もう一つは嶋崎君の立候補問題が中央で大っぴらになっている。ひっこみが見つからない段階に来ているとのこと。

これは大坪、名田の二人が帰福しての二つの緊急課題である。

六時から学生課長補佐萩行夫氏が福井大に転勤するのでサッポロビールで送別会をやった。

4月5日（土）

衣笠君が廊下で仲山雄之助が死んだと伝えてくれた。昨日バーで学生部の者と彼の処遇改善の途はないのかどうか話題にしたばかりだったのに。脳の病気で急死という。共産黨員だから大学で嫌われたのだが、人なつっこくて柔和なしかも一途な人間だった。

午後黒田荘で自治労県本部の教室講習会。

4月6日（日）

仲山君の葬式に出かける。（生協代表として）

直前に福岡大学から電話があつてすぐ来てくれという。九大の反帝学評の連中が入学式の妨害に来て乱闘になったという。葬儀に行くのをやめ、学生部次長課長と（連絡して）同行する。行ったら騒ぎはおさまっていたが、福大当局は相当昂奮していた。謝して拙宅に帰る。

（この間一時～三時半）三人でウイスキーなど飲んで時間をすごす。一寸した春のにわか雨にあてられた。

啓二はようやく大濠高校に編入してもらうことになった。

夜、東大の学生部長来福してかわさきで一席。

4月7日（月）

若松旅館で理論戦線の研究会。相原君が国家独占資本主義論について報告。午後一時半から六時まで。

七時から同旅館を訪ねて来た石川県社党の人達と嶋崎君の衆院選立候補について打ちあわせ。竹内氏（県議）、角谷（全通）。こちらからは嶋崎、八丁、衣笠、名田と私。出馬の時の体制なり条件なりについて。

4月8日（火）黄砂ひどい

東京林母子入学手続きのため来福。下宿など決めることとなる。

午後一時半部局長会議。主として入学式について。三派系学生の妨害のあった場合どうするか、また、オリエンテーション週とそのプログラムについて。

4月9日（水）

社会教育主事講習会事務打ちあわせ。午前中部長室。

帰宅して原稿を進める。

夜、八幡地協会館で渡口氏関係の労働学校。

4月10日（木）

午前八時頃にすでに登校。

九時半からの入学式は反帝学評を中心とする学生の暴力によって一時混乱した。乱入の学生二〇余名は結局新入生の罵声によって演説をかき消され場外に追い出され、入学式は三〇余分中止ののち、所定のプログラムをおえた。十二時頃。

午後、労働金庫からの一〇〇万円借入手続き。豊和相互銀行へ振替える。

午後二時から二時半まで生協母親の会（教養一番教室）に出席。

夕方林君母息子を「てるくに」に招待。六時ごろ母親の方は東京へ。入学につきいろいろ今日まで下宿のことをふくめてやっかいになったことにつきお礼を申し上げるとのことであった。

六時頃高馬睦男氏来訪、投宿。共立製鋼に勤めていて労働者早期募集のためらしい。

4月11日（金）

部局長会議、評議会と会議つづき。中でも四月十八日に中核系九州地区の学生が記念講堂で集会を開くという問題。二十六日に学友会が同じく集会を開く問題は中旬以降大いに荒れ模様となる学内問題の不安を象徴しているようだ。卒業証書はおくれているが原教授の名で印刷することになった。

博多駅事件（エンタプライズ号の佐世保寄港に反対する全国学生が九大に集結する時におこった警察の過剰警備問題）の福田被告に無罪の判決。井上正治教授が警察の人権蹂躪として告訴してただけに氏の気持は晴々。

今日十一時からおこなわれた大学院の入学式には井上告辞でこのことにふれ、政府批判の調子が高かった。

4月12日（土）

何とはなく時間がたって原稿は進まないのに「社会主義」の方からは二度目の催促の電報が

きた。

午後教養部の組合の者五～七名を相手に、学生問題とくに封鎖問題と労働組合というテーマで懇談をする。個人の意見と全体の意思の間にある矛盾が今日ほど明らかに感じられることはない。どの組織と個人をとってみてもそうである。三派系の学生が民主主義の形骸化をいい、スターリン主義を批判するのも、大学の自治がとわれているのも、封鎖という問題で職場の人々が組合の方針に疑惑を感じているのも共通の問題である。だまっているからいけないので、自覚をうながし蝸壺から出る事が必要である

夜、井上育英会出身の桜麦会の人々が集っているので、九大の学生部長として出席してくれとの要請があったので出席。（天神の中村家）

4月13日（日）

「社会主義」五月号の原稿を発送寸前まで仕上げたが、夜の二時半になり、体力的につづかなかつたので明朝にもちこした。日米独占資本の国際的協調を「援助」という視点からとらえてみた。日本の東南アジア援助を問題にする傍ら、アメリカの対外援助が、自由化と軍事化をふくむものであるということのをべた。紙数が予定よりも三〇枚以上ふえてしまった。次は日米独占資本の対立の問題をとりあげてみようと思っている。

4月14日（月）

本部へ行くついでに昨日の原稿をやっと発送。九州支局の他の執筆者もなかなか仕上がりがおそいようだ。法文二〇九教室での生協新入生のオリエンテーションに参加していたらおそくなって、四時半頃から入試審議会に出席。例によって工学部が自説を強くおし出して、おもしろくない審議会になっていた。

原稿を二週間もしゃぶっていた重みから解放された感じ。大濠高校の啓二担任の先生がうちの少し上に住んでるのであいさつに参上。啓二はまだあたりまえの高校生にもどっていないので心配。受験のことをよく口に出すが、その資格はない。

4月15日（火）雨

昨夜今朝の雨で桜はすっかり若芽によってあらわされる時になった。一昨日直美たちが西公園に行ったのがヤマであるし最後だった。

反帝学評の学生が文科系の自動車を強奪しているという話。被害が公用車にまで及んできたので運転手たちもぐっと気分をひきしめている。これが波及すると実際にどうなるのか、問題。

一時半から参与会。十八日の中核系の全九州集会が記念講堂で開かれるという強引なやり方に対しどう対処したらよいかの主たる議題。いい考えはないというのが実際の話。使用を拒否して中の扉は開けておこうという戦術。

午後米軍偵察機が日本海の北鮮領海附近で北鮮側ミサイルで撃墜され31人の搭乗員全員絶望となったとのこと。

4月16日（水）

部局長会議が午前中あって、電算機センターの損害調査を九大独自の観点から進めると決めた。

ゆっくりとした一日にしようと思って帰宅後、一彦と碁を打ったりして過ごしていたら、午後九時になって理学部長から要請があり、出向いて、科学技術論シンポジウムに理学部会議室を貸すか否かが問題になっている件につき署名した学生部長の見解を説明せよということであった。

冷えこんだ理学部長室に待たされること一時間。会場使用願に工学部金原教授と共に署名したのは立合人のつもりである旨こたえて帰宅、午後十二時すぎ。

4月17日（木）

昨夜の問題は、学生部長署名の申込書を取り下げてくださいかという形で、理学部長からはねかえってきた。理学部松村、工学部辻の両教授が来宅。どのように処理するかの相談。結局、金原教授に会って事柄を前向きにすすめるため、申込人平井孝治君の反省を求める点につき了解をとりつけ、私が責任を明らかにして理学部長の善処を要望することとした。午後の理学部長との会談で私が責任を分担するの一笔を入れて解決することにした。

あとで嶋崎君を通じてさぐってみたところによると、この問題がこじれたら中核派は理学部封鎖を考えていたとの情報があった。

午後三時から夕方まで那の津荘で県高教組の教研組織者集会の基調講演に出席。

4月18日（金）

昨日に引きつづき那の津荘で高教組の教研組織者集会。午前中でおわる。高教組の職場斗争はかなりなところまで高まっているという印象をうけた。

午後評議会。名誉教授推薦その他。

中核系は記念講堂を強引に使用したが、バスを連ねたりしてやっと一五〇人ぐらい集めたという程度で彼らとしては失敗だったろう。大学側は封鎖があるかと緊張して待機していたがそれもなくまあ平穩に終わった。

4月19日（土）

◎社会教育主事講習会の講師あっせん。

◎松原寮祭仮装行列デモコースにつき東署、福岡署に折衝。（寮生とともに）

◎生協理事会。午後三時半～八時。

◎社会主義協会九州支局第一〇回大会。国鉄博多荘。

4月20日(日)

昨日につづき支局大会。今年の大会はこれまでとくらべて大変立派な大会になった。第二協会とのちがいは明白で、総評、社会党に対する日常的な批判的運動がはっきり打ち出しえた。班を基礎とする方針の確立を急ぐ。七〇年斗争、七〇年代の曲り角への覚悟を明らかにした。

午後は大会は五時までであったが、私は県職の花田氏の母堂の葬式のため岡垣村に出向いた。

(名田中西両氏と共に)

労働旬報社から「体制的合理化と労働運動」の論文集の編集案が届いたので、早急に検討する必要が生じた。

4月21日(月) 雨、強風

昨日からみゆきが長崎旅行に出かけている。家事をひきうける。

講義ののち本部へ。

雨が降ってきて直美が傘なくて困っているだろうと心配したが、本部からうちに電話してみたら友だちに入れてもらって帰ったという返事。友だちを連れこんでひっくりかえしている模様。

学生部では午後三時から入試につき④の追跡調査をどう進めるかにつき緊急協議。

みゆきは五時半頃帰宅したらしい。私は八時頃帰宅。

学生の動きがあるケハイのようだったが無視した。無事のもよう。

4月22日(火)

論文集の原稿の整理。

夜になって理学部へ。核研共闘の連中が理学部大会議室で科学技術シンポジウムをする件につき、会場使用につき学生部長も責任教官になっている手前、現場におる必要があった。東大から水戸巖なる若い理論物理研究者が来て、九大からは金原教授、ほか、山田、倉田のグループ、平井孝治君、経済の桂木、中島、法科出身の村岡、薬学の久保。反戦学連の諸君が中心で約五〇人の集会だった。心配された混乱は全くなかった。

板付の米軍常備戦闘機 101 が今日全機引揚げていくときそのうち一機が付近に墜落。そのため、板付基地撤去を叫ぶ声がまた燃え上がり、九大基地対策委は声明を出し、中核や反戦学連は基地にデモをかけ、民青系は市内デモをした。板付にデモをかけたうち、中核七人は基地突入のかどで警官に逮捕された。理学部大会議室でのシンポジウムはこの問題のため約一時間おくれて開かれた。夜十一時半頃帰宅する。

4月23日（水）熱暑 28°

講義。午後の教授会は欠席ときめこんで、論文集の原稿整理をすすめる。

申し分のない天気。

藤の花がつかない、去年の植えいたみだろうか

こでまりが可憐に美しく咲いた

中核の理論が、三池闘争の全国化の追求にあるのではないか。かれらがかつての三池闘争に強い関心を示しているという話——講義のあとの茶のみ話。

4月24日（木）

西鉄等私鉄大手二四時間ストライキで福岡の交通も相当にマヒした。

一〇時から部局長会議。当面の学生運動対策の急であること、明日の参与会で討議すべき議題が出された。

午後は夕方まで健康診断委員会。あとで一ぱい出たので、ややいい気になり、夜の仕事はそこそこに珍しく九時に就寝。

生協交渉（明日）について、局長、部長など事務レベルの者に集ってもらい、何を譲歩しうるかを討議。

4月25日（金）

午前中参与会。

午後評議会。

夜生協交渉。

午後七時半文科系キャンパスが反帝派（文学部自治会指導）によって封鎖される。

午後十時、農学部において部局長会議。

評議会においては、次官通達が警察の判断によって学内に機動隊を入れることがありうるということであるのに対する反対声明を決定した。参与会においては、記念講堂使用問題の再検討の必要であることを決定。部局長会議では明日の動員体制について協議。生協交渉は新入生教育的な交渉であったが、生協側は成功のようだった。

4月26日（土）

午前十一時から理学部会議室で評議会。今日の学生の動きには各学部ともに緊張。

午後一時から記念講堂（学友会系の使用予定）をめぐる緊迫した情勢があるがこれにどう対処するかなどを討議。

昨日文系を封鎖した反帝派を中心とした勢力が約七〇人、武装して記念講堂に民青集会の粉碎を叫んで迫ってくる。民青系は講堂入口階段上に陣取って五〇人ばかりがこれに対峙。教官多数が中に割りこんで緩衝地帯を作ったが、午後三時をピークに約二〇分の衝突のの

ち、民青側は別の会場工学部大講堂に移ることを宣言したため、激突はさけられ、反帝派は講堂の中に入り氣勢をあげた。この勢力は四時頃には本部封鎖に来た。約三〇〇人の教職員はこれを阻止しようとしたが、結局阻止線は破られて封鎖となった。同じ頃医学部も事務部が封鎖された。これは反戦学連ラジカルらしい。理学部にも反戦学連系が約三〇おしかけたが、これは封鎖する気がなかったのか、力が及ばなかったせいか封鎖に至らずして文系キャンパス方面に引きあげた。

こういう事態に対して大学側は別段とり立てていほどの対応策をもっていないのが現状。また学生側も封鎖してみたとして、自己満足はともかく、何ほどの前進があるだろうか理解に苦しむ。

記念講堂前と本部前の衝突で負傷した者が十数名あったろう。

教養部がストライキも封鎖もなかったのは新入生の影響による。

4月27日(日)

私鉄大手が六七〇〇円の賃上げで妥結したのに、西鉄だけはこれをのまなかったので、労組は今日第二次の二四時間ストライキに入った。今後は春闘の舞台は公労協にうつるといふ。七〇〇〇円台に入った大幅賃上げの時代に公労協がどう終末をみるか。

大学本部封鎖の第二日。学生部は建築課にしばし間借り。なすこともなく、ひる前に出勤したのち、しばらくして帰る。ストの街にはバス電車の流れこそないが、車と人の波は相変わらず。

4月28日(月)

午後、工学部の部長室で部局長会議封鎖に関することと今日の街頭デモについて、事件が学内に及んだときにどうするかについて。

午前中は講義。教養部は封鎖がなかったが、午後は授業放棄ということで六〇〇名ぐらいのデモ隊が校内で編成され、午後二時半頃街頭に出た。

沖縄デーである。社共の一日共闘が成立し、中央集会は数万の労働者が集まる。三派系学生は霞ヶ関を開放区にすると豪語していた。銀座、新橋および東京駅、お茶の水界限で相当の武闘。数百名が逮捕された模様。福岡でも三派系六、民青系二名逮捕された。

4月29日(火)

休日。

ゆうべ家族マージャンをしたのでおそくなったが直美が早くから起きたので全く睡眠不足。

労働旬報社向けの原稿点検をおわる。

千代新町の住宅が五月中旬で空き家になるというので、あとは協会系の集会所に使用する



のがよいと思う。

民青系二名が逮捕されたことについて安東君からも電話があった。民青系の考えは、各学部長や評議員、学生部長ら、大学ぐるみで警察に抗議しようということらしい。三派系が逮捕されてもこの頃はもらい受けに行っていないとの理由で学生部は関与しないことにした。

4月30日（水）

講義。

午後三時半から入試をめぐる④追跡調査準備委員会。調査の方針（高校調査）を決定。

河野和正氏宅に寄りビールを飲みながら歓談。

労働旬報社に論文集の編集案と原稿を送る。梨本雅光君がその係である。二〇〇字原稿用紙一五三〇枚分となった。

五月予記

初夏にさしかかってむし暑いこともあろうが、五月はじめ、つつじが満開で若葉の何ともいえない気候。陽あたりに出ると、体がだるく眠くなる。どこか自然の只中にしばらく逃避してみたいと思うが、それほどのおんびりさせてくれない。

五月は団交の季節だとの声がある。中旬までは連休や東京ゆき、九重ゆきがあつて、そのあと生協、寮生、学友会、反代々木系それに事務局は職員組合。これら諸団体に大学当局は追いまわされてアゴを出すことになるかも知れない。

5月1日（木）

昨年の中央メーデーを思い出す。晴天、申し分ない天気。

のおんびりして資料読みをしていたら三時から部局長会議だといって今日もひっぱり出される。行ってみるとやはり問題は山積している。

夜は、九州地区国立大学の厚生補導研究会の報告書の「まえがき」の原稿を書いていたら時間がたってしまった。

刀出の九一から電話がついたという電話連絡があったそうだ。長らくあちらに行っていない。

5月2日（金）

午後評議会。大学問題に関し中教審の答申が出ている。政府は学園騒動のいかんによっては休校廃校の処分を文相がなしうとの趣旨の大学特別立法を準備しようとしている。学園問題を学園の中だけで解決しようとしている。非常に危険な動きである。九大の学長選挙も困難な問題をはらんでいる。評議会ではそれらのことが論議された。学長選挙は現行規程でやるか若干でも手なおしをするか各教授会に持ちかえることになった。

午後五時、志賀島、国民宿舎。西日本ヨット（学生）大会。十六校、二五〇名参加。会長と

してあいさつ。若人の意気とよろこび。

#### 5月3日(土)

林君に電話したら東京に帰るのを断念しているというので遊びに來いといったら出てきた。直美たちとの約束で今日は油山に行くことになっているので林君をつれてゆく。人出が多かったが晴天で見はらしがよく快適だった。気持のよい疲れようである。

午後比較的早く帰宅し、アルミサッシの掃除などし、夜は彼を入れてマージャンをした。彼だけが勝った。休養の気持ちで早く寝た。

ドンタクで町はごった返しているという。

#### 5月4日(日)

庭の芝を若干植えかえた。昨日はあまり天気がよかったので、雨になりそうだったが、どうやら降らないですんだ。

原稿書きが気になっている。軍備とくにアメリカの産軍複合による ABM のことに注意を向ける。

#### 5月5日(月)

雨が降りそうな気配だったので、気になっていた植木の植えかえをした。かいつかを玄関先に、つばきを七・八〇センチ左に等々。午後になって風が吹き荒れ、夕刻から小雨になった。原稿を書こうとしたが、安保、沖縄、核武装の事情をもう少し知っていなければならないことに気付き、ここ二ヵ月ばかりの新聞を点検して必要なものをスクラップする。

#### 5月6日(火)

「社会主義」のための原稿を書く。なかなか明確な構想にならないで弱っている。

午後一時半から部局長会議。主として学長選挙をどういう方式でのぞむか。各教授会にはかかることになる。

#### 5月7日(水)

講義。

教授会に久しぶりに出る。

夜は原稿を進める。無限にまとまらないものを書き綴っているようで、九日に上京する期限までにまとまるかどうか不安である。けれども資料を読みあさり、原稿にしていく仕事はやっぱりやっていて楽しい。ここしばらく学生問題が鳴りを鎮めているので、一寸の晴間の利用のような気がする。

サボテンがかわいい花を咲かせはじめた。日光や温度が足らぬのではないか。

5月8日（木）

池にメダカが発生している。まさか鯉の子ではあるまいと論議する。不思議というものだ。

「社会主義」の原稿は骨格のみ仕上る。手を入れるのが大変。

部局長会議があるというので呼び出され、午後の時間はなくなった。

夜江頭さんがイチゴをもって訪ねてくる。夕食を一しょにして、花をみやげにもって帰ってもらった。

一彦が就職をどこに決めるかあれこれと選択しはじめている。それなりにいろいろ夢があるのだろう。

5月9日（金）

原稿は最後まで完成しなかったが、上京したときに渡してくるようにはなるだろう。

午後参加会。学生運動に関しては仮の暇である。甲冑の手入れ、兵法の書をひもとく時である。受益者負担という問題をゆっくり論議してみる。

五時四〇分の「はやぶさ」（特急）で上京。中央常任委員会。

5月10日（土）

十時すぎ東京に着き、旬報社に寄る。論文集の目次案につきほとんど意見一致し、とりかかってもらうことにする。

午後は一時から午後十時まで第二回中央常任委。

5月11日（日）

午前九時から中央常任委。午後一時まで。

嶋崎君の石川一区からの立候補問題は、五月一ぱいに九大を辞任するというところまで本人の決意も周囲の情勢もかわってきた。協会の組織から出すということではなく、協会の重要役員が出馬要請をうけることを了解するという線で行くことになる。

「すくらむ」問題は依然経理面に危機があることを確認。購読料を早急に徴収して当面をのりきることになった。

原稿を仕上げ、協会に手渡す。

林秀氏宅によってみる。

午後七時東京発「ひかり」で大阪へ。

5月12日（月）

朝小倉に着き、のりかえて日田彦山線を通って九重へ。小林学生課長と日田で落合う。九重へ。

正午少し前に着き、午後二時から九重研修所運営委員会。予算決算等。のち懇親会。

わらび取りをする。もうおそいと思ったが歩いてみるとそうでもなく、まだかなりおくれたのが残っていた。山を歩く爽快さは格別。

#### 5月13日（火）

雨が止んだので、またわらび取りに行った。こんどはぜんまいを主にねらった。その収穫はあった。

帰りに学生課長らと九電の大岳調査所に行き、研修所の引湯についてよろしく願いをする。

夜、山村氏宅で姫高会。岡田教養部長をはげます会にしようという意味で開いたもの。

#### 5月14日（水）

講義。

教養部の教授会に久しぶりに出席する。今回は生協交渉のあとをうけて、問題になっている光熱水道料負担区分撤廃要求が（蔵管一号）と矛盾する問題をどうさばくかについてかなりの時間をかけて討議。

この問題は学寮の負担区分撤廃要求が文部省の二・一八通達と矛盾するのと同じ内容のもの。昨年私がこの問題を提起した時に全く冷淡に扱われたのにくらべ今回は取上げ方が熱心なこと、雲泥の差である。つくづく時代がかわったという感じ。

#### 5月15日（木）

千代町の旧宅から江口さんが引越すというので、代わって全通福岡関係に貸すことにし、今日、今永氏を連れて現場に行く。

生協の定期総代会が近まり役員改選についてとくに教職員理事の選出について総代の色分けに懸念が生じたため、理事選出の方法をかえようという相談をうける。

留学生指導委員会。午後四時。終わって古賀留学生寮に行き、留学生たちと懇談。

#### 5月16日（金）

社党県本部から豊瀬委員長、長谷川県議、島津政審主査が来訪。来るべき知事選方針書作成につき依頼があり、要談した。午前中。

午後二時半から評議会。（教養部会議室）学長選挙方法と四者共闘との大衆団交について。午後八時すぎまで。学長選挙方法については評議会案を決定、各教授会にもち帰ることになった。

午後九時五〇分の急行列車で萩市へ。自治労山口県本部のため。

5月17日（土）

萩。自治研修会で講演。合理化のはなし。

七時頃に帰福したが、あと、九大生協総代会。昨年と同じく深夜二時まで。反代々木、代々木の対立がひどく、理事選挙において頂点に達した。主流の反代々木派が、これまで学生側、教職員側にわかれて別々の選挙区になっていたのを、教職員選挙区で絶対不利とわかったので全選挙区合体の動議を出し、それによって選挙を強行した。代々木派は理事の選挙はボイコットした。あとにしこりを残すことが確実である。

5月18日（日）

ゆっくりしていたら大坪君から電話があつて支局常任委員会が十一時からあつているという。急いで集会所に行く。

中央常任のあとをうけた支局の方針を討議。社会党本部ことに社会新報の中に巣くう反戦青年委が党本部の死命を制するまでになっているとの話にはみんな啞然としていた。青年運動の中にどうして協会の影響力をうえこむかに議論の焦点がむけられた。

夜、雨と風。花の苗をうえる。

一彦が就職のことで奔走させられている。一流メーカーからの勧誘がしきり。九大経済学部に求人殺到。東大、京大が危いから。

5月19日（月）

池のメダカはどうも鯉のようだ。

講義。

午後参加会。この一週間ばかりは学生の大管法反対の動きが活発でその対応もあわただしい。

文学部では東洋学系の研究室がはや封鎖されたという。

一彦が日本鋼管の就職試験のため上京。早速合格の電話がかかってきたという。

夕刻、若松旅館で開かれていた理論戦線グループの会合に出席。

5月20日（火）

九州地区厚生補導協議会役員会、学生部長会。午前十時から午後五時まで玉名温泉玉栄館。文部省から学生係長が来ていたが、大学立法がそうであるように、寮建設問題を治安問題とからませている点、腹立たしい役人の態度を見せつけられた。帰途、浮羽の吉井小学校での反戦青年委員会の講演会に出席。大学問題について一時間半ほど講演。深夜帰宅。

三区立候補予定の田中稔男氏と一しょだった。

### 5月21日（水）

全学的に学生大会が開かれ、続々とストライキ決議があがっている。教養部でも二次限の私の講義はできず、クラス討論会で教室が学生によって自主的に編成がえされてしまっている。

教授会。大学立法に反対する声明を決定。

評議会は深夜におよび、井上正治学長事務取扱辞任問題を、選挙方法決定のゆえをもって任期満了として正式に了承。法学部からは強い不満の意見が出された。

### 5月22日（木）

早朝、玉名にとび、ひるすぎひきかえす。（厚生補導研究会総会）夕方からの四者共闘との評議会団交につき三派系との衝突があるかも知れぬということで、三時半から参与会を開いて話し合ったが、実際今日の経過からはその点無事にすんだ。夜の団交は記念講堂で開かれ深夜に及んだが、大学法案をめぐる学問思想の自由に関連し、とくに工学部で就職斡旋に際し、学生運動をしている者に圧力がかかっているのをどう思うのかということに衝かれ、工学部長が立往生してしまったのは見苦しいことであった。

### 5月23日（金）

評議会。一時半から。

本日の各学部は全面的にストライキに入っている。（薬、農、法を除く）夕刻から評議会メンバーもデモに立つ。反代々木系の集会は記念講堂（不許可）で約二〇〇〇名を集め、代々木系はその後本部前に約七〇〇名を集めている。これらの集団が続々夕刻からデモに出かけ、午後七時すぎには三派主力が市役所前で機動隊とにらみ合う。三人が逮捕された模様。終わったあと教養部の安東君と小ひろに寄る。

### 5月24日（土）

雨の中を教養部では校内デモがおこなわれていた。スト中の学生たちは自主講座ということを考えはじめた。

高教組の協会班協の要請で午後三時から若松旅館で高教組大会対策に加わる。事前学習会のつもりで、「社会主義」五月号に発表した私の論文「日米独占の協調と対立」に関する解説報告をおこなった。

雨のため、庭いじりをする。杉を池の横に植えかえる。

### 5月25日（日）

在宅で原稿書き。去る十六日に社党県本部の豊瀬委員長がたのんで行った仕事。地方自治とは何かということである。半ペラ二二枚書いて明日島津君に渡すことになる。

労働旬報社の論文集の追加原稿と「社会主義」への原稿が気になる。旬報社の仕事を優先させなくてはならないだろう。若干身辺整理。

5月26日（月）

午前十時から教養部教授会。

主としてストライキ対策。会議室が次々と学生のクラス闘争本部に変えられているのをどうするかなどをめぐって。どの教室もそれぞれ闘争本部として占拠されている。学生会館も。

午後一時半対策会議。被害調査の件。（電算センター）

午後二時半から参与会、つづいて寮務委員会。

午後五時～十時半第二会議室で寮生交渉。

女子寮建設要求、

○管規問題が中心。

5月27日（火）雨

本日午後一時半からの評議会では昨日の寮生交渉（予備折衝）の結果を評議会がどう受けとめるかがわれわれの関心事である。会議がはじまってすぐあとで、反帝派など二十数名が会場になだれこみ、電算センターの被害調査のものを決めるのはけしからん、それと大学立法反対とはどのような関係にあるのか、それがはっきりされるような大衆団交をもつのであれば評議会は開かせないと主張した。そのため評議会は中止となった。五時近くに再開された評議会で、寮生との団交は二九日午後五時から、予備折衝のとおり開くことに決定した。

5月28日（水）

講義はずっとできていない。教養部の学生は各クラスごとに、およびスト実行委書記局などと称して、本館事務部とくに事務長室や各会議室、受付などを占拠するに至った。学生会館も実質的には学生の「自主管理」状態に入っている。こうした問題をめぐり、午後一時半から数学研究室で学館運営委員会。学生会館の宿直者も時に生命の危険さえ感ずるといふ。学館委員会を開いてこうした事態にどう対処するかの一線をはっきりさせてもらいたいというのが運営委員会の開催趣旨。

5月29日（木）

寮生大衆団交。午後五時から十二時半まで。第一会議室。○管規廃止。女子寮建設問題の二つが主たる議題。

大管法の学内版が○管規だから、大管法に反対する大学側は当然に○管規を廃止すべきで

あるという。評議員は各学部一名出席していたが理くつとして追いつめられた。女子寮建設を拒否している文部省に対しては徹底的に闘うべきではないかという。寮生が大学側をこのように追いつめるのはよいことだと思う。評議員がこうした問題を耳にすることは効果があった。

終わったあと小ひろで薬学部長塚元、法学部の原島の三人で午前三時まで飲む。

#### 5月30日（金）

ゆうべのがたたっているのに、朝十時すぎに身上調書の問題をもって学生部次長が来宅。午後二時から学生相談所で学生会館委員会を開催。一昨日の運営委員会で論じた内容を議題とする。一応教養部側の運営委員（教官側）に具体的な対応策をまかすことになった。午後五時半には八女郡立花町に行き、地方自治の問題につき講演。みかんと筍と茶でもつ純農村。「無用の長物」という立派な体育館ができています。ここにもモータリゼーションと成長ムードがただよい、地方自治がむしばまれているようだ。新茶をみやげにもらい十一時半帰宅。

#### 5月31日（土）

朝七時一九分の列車で小野田へ。自治労山口県本部のブロック自治研。自治体財政問題につき講演。午後分科会。終って広島へ。協会広島支部に集会を開かせる予定だったが、集っていたのは協会員を中心とする社青同だった。八時半頃着いたが十時半頃になってから私の出番になった。私は「社会主義」五月号に書いた「日米独占の協調関係」を話題の中心として話を進めた。青年にはややむつかしい話だったように思われた。（場所、広島駅前の国鉄職員集会所）ここに一泊。明日は京都へ。社青同の連中だが論議は荒い。

#### 六月予記

大学立法上程をきっかけとする全学的なストライキは止みそうにない。法、農、工、薬の四学部では部分的に抗議が行なわれているが、教養部では封鎖同様の占拠エスカレートが起きている。六～七月と苦悶がつづく大学。啓二が割合に勉強するようになった。模擬試験や中間考査の成績を話題にするようになったのだから。体力に問題があるのかまだまだ目の色のかわるほどの無心になっていない。近頃の学生問題とからませて啓二の態度をながめなおしてみると、受験勉強に没頭することを要求するのがむりなのかも知れないが。



6月1日（日）

八時一五分の特急で広島を出発、京都へ。教育文化会館で全国大学生協連理事会に出席。大学紛争による生協経営の打撃、生協活動への妨害が主たる話題。大学立法に対して反対声明を出す文案が出されたが、問題ありとして、文案を練り直して決定することにした。（午後一時半～五時半）

夕食懇談会ののち散会。

岡山へ。深夜になって河野君のうちを探すのに困難をともなったが探しあてて泊る。

岡大紛争、とくに警官導入に関して話題。

6月2日（月）

十一時頃、河野君と岡山大学へ。設備や敷地が立派なのに驚く。法文系の二、三のグループが木蔭で討論している風景。

学生部長にあうと、暴力である限り、大学は手段をもたないので、警官の出動をねがうことにしているという態度で岡大はまとまっているという。だんだん佐賀大学の型になってきているようにみえる。警官によって徐々に秩序が回復するだろうとの自信をおもちのようだった。駅前食堂で学生部長、課長の二人と食事をごちそうになったあと、急行「玄海」で帰福。十一時頃帰宅。大変蒸し暑い

今日は米軍Z機の九大構内墜落一周年。教官団、反代々木系、四者共闘系の集会とデモ。約三千人の九大人が街頭にくり出して基地反対のアピール、反代々木系のデモは荒れ、七名ほど逮捕されたいらしい。

参与会で嶋崎氏、法学部参与として学長事務取扱問題をめぐり不満なので当分非協力に出ると言明

6月3日（火）小雨

一〇時から小倉工業高校で高教組の生活指導関係者ブロック研修会に出席。最近の大学紛争について講演。

午後評議会。法学部の評議員は井上問題に抗議して欠席。医学部の団交の様はいかんでは問田学長事務取扱いは学生側の追及をうけ、文部省辞令を返上すべくせまられる。また、井上辞任を承認した評議会決定には疑問があるとして評議会に質問状を発している一四六名の教官団もある。あれやこれやで今後の九大は大もめにもめそうである。

6月4日（水）

朝五時少し前、教養部野田評議員からの電話。右翼学生らしきものとスト派の学生との間に乱闘があった、強制捜査があるかも知れないという。大変ねむかったが六時前に登校、対策を協議。両派の学生は今日一日中学生会館通りあたりで論争をしていた。右翼というが、原

理研究会＝社会体制研究会の連中が五～六名看板をこわされたというので反帝系の学生にリンチを加えたのがきっかけらしい。教養部もこうした傾向が強まりそうになってきた。医学部の大衆団交で井上問題が最悪の追及となる。

昨日と同様高教組福岡会場での研究会で講演。

#### 6月5日(木)

昨日は高教組福岡会場、今日は同じく筑豊会場。直方高校午前十時から。

昨日の医学部団交では、教授側は学生の追及の鋒先をさけることができなくて、いわば全面降伏的自己批判の確認書をかかわしたという。井上問題を五月二十日の以前の状態に白紙撤回するよう評議会に働きかけることを努力するというもの。

高教組の筑豊会場ではこのことを中心に話をした。

#### 6月6日(金)

昨日につづき今日は久留米会場。明善校。四日連続でやや疲れた。

午後、評議会にかけつけて出席したのは二時すぎ、医学部の団交(三～四日)によって交わされた確認書をどう解するか、どのような事情からそうなったか、医学部教授会の見解はどうであるかをたしかめることに主眼をおいた評議会になった。評議会となる前に、法学部の欠席戦術について同学部の代表者から釈明をきいて了解ということになった。まずくすると評議会分解ということになりそうだ。

#### 6月7日(土)

一年医学部系クラスの自主講座要求に応じて彼らと話し合う。学生会館二階。戦後の民主化と反動化の動きの概要を話す。午後二時まで約三時間。

午後は全くひま。帰宅して「社会主義」の原稿執筆の準備。

本学方面では記念講堂へ京大の社学同派の学生が四～五〇人乱入して勢力をととのえ大村収容所入国管理関係の闘争にピストン往復する構えをしているという。何か特別の手段でもあれば別だが、何らなすところなく、記念講堂の許可なし使用は放置する方針である。

#### 6月8日(日)

「社会主義」の原稿がなかなかはかどらない。一日中在宅したのだが、岡田教養部長から電話があり、深夜、福岡大の空手部員で右翼とみられる者数名が教養部に侵入、伊豆川奈と長崎大村に主力が出かけて留守の者と衝突、三人がしばらく軟禁状態になったということ、また、守りを固めるためと称して本館中央階段付近がバリケード封鎖されたということ、今後は警備をさらに厳重にするほかないということなどであった。

夜のテレビニュースでは川奈へゆく途中、伊東駅付近で三派系学生がアスパック粉砕を呼号、守りを固める警官と衝突、追いつめられ二百余人逮捕されたという。

一日中、寮祭のマイクのひびき。

6月9日（月）

富山ゆき（自治研）、もう出発せねばならぬのに、明日になっても行けそうにない。

教養部ではストがつづく単位修得に困難が生ずることを心配ははじめ、学科課程委の方で検討に入った模様。午後の教官会議は医学部の確認書をめぐって、五月二〇日の、井上辞任決定の評議会の事情はどうだったのかに議論が集中した。評議会はその決定が大学自治につき重大な矛盾であることに気がつかなかったこと、また井上氏自身が強い辞意をもらして評議会決定に導く力をもっていた事については井上氏自身が個人の問題と大学自治の問題をはきちがえていたのではないかということが主張された。しかし、井上氏や評議会を責めることもさることながら、井上氏が強い辞意をもたざるをえなくなっていた事情、とくに周囲のもり上がりになかった事についてはわれわれ自身にも重大な責任があることも認めなければならないとなると、誰もが自信をもってこうせよと提案できる人はいなかったようだ。

夜、社会党をよくする会運営委員会。一周年になるので総会や一周年記念事業をどうするかが主たる話題。ほとんど伸びない会なので力が入らない。

6月10日（火）

参加会を一〇時から。

記念講堂を自由に使わせよという反戦学連の要求にどうこたえるかを討議。

午後の評議会ではこの問題と生協の水光費負担区分に対する大学側の態度を明確にせよという昨年末からの要求を中心とする諸要求についての団体交渉にどう応ずるかが問題として出された。一二日に生協交渉をすることに決まったので、やっとの思いで富山の自治研集會に参加すべく決意しうるに至った。このあと評議会は概算要求についての説明を終わり、問田氏の後任についての問題が出されよう。

午後九時五分発「あかつき」で富山に向けて立つ。（自治研）

6月11日（水）

正午少し過ぎに富山に着き直ちに社会保障分科会のおこなわれている会場にゆく。（地鉄ビル）今年の分科会出席者は二三〇名ほど。昨年より少ないのではないだろうか。レポートは保育所問題に関するものがやはり多くなっている。

（事前打合わせ会や全体会が一昨日からおこなわれている。）  
（第一二回自治研だが、分科会だけにしか出席できない。）

6月12日（木）

自治研分科会第二日。

朝早く起きて「社会主義」の原稿を少し進めておいた。

第二協会の山本順一氏とは宿所も同じ部屋だったので以前とかわりなく話をした。ただ協会のことは話題にしなかった。

分科会の会場から見える連峰が立山の群らしい。

6月13日（金）

自治研第三日目の分科会。午前中で終り、午後は市の公会堂で全体集会。

何だかマンネリ化しているのだが、どこがどうだか明確に気づかない。実践が自治労を中核としないために、単に地域の部分で終わっている。発展性がとぼしい。そういうことが理由ではなかるうか。

午後全体集会の途中、一時半頃、約束通り金沢地区労から迎えが来て、車で金沢へ。嶋崎君も選挙運動のために来ていてここで出合う。また有田の中西忍君も迎えてくれる。

私は午後五時半から減税闘争について地区労対象に講演し終って中西君が招待してくれて嶋崎君と三人で宴会。十一時頃嶋崎君は弟さんの経営する旅館に帰り、われわれ二人はこの料理屋に投宿。（かわ新）中西君とは久しぶりのだったのでいろいろ話を重ねていたら相当に夜もふけていた。相変わらずの男だ。

6月14日（土）

昨夜地区労で講演する直前に大学から電話があつて、生協問題等大変紛糾しているのでできれば直ちに帰福してほしいとのことであつたが（千々岩課長補佐）思い切って予定通りの旅程を消化し、大学の要請を無視することにしたので、内心やや心配だったが、一夜明けるとさっぱりしてしまった。

中西君のドライバーで小松へ。嶋崎氏長兄の経営するホテル雲井に着く。長兄氏と選挙問題について話しあう。当落の見とおしは必ずしも明るくはないが、その点からだけ判断されると理解してもらえない。大蔵省にいるもう一人の兄が大いに周囲から担ぎ出されており、それとの調整のため譲君はこの際手を引いた方がよいというのが本音のようである。

午後二時すぎから中西君運転で福井の永平寺に参詣。国道の沿線にやたらとドライブインがあるのが特徴だと中西君はいつていた。永平寺はいま禅に参加する人を大量に収容するための設備を鉄筋で建設中。

夜、町の公民館で税金の話をした。昨夜よりうまくいったが聴衆は二五名。地区労はよくやっている。

6月15日（日）

みやげ物を買って中西君にもって帰ってもらおうとしたが、中西君はまだしばらく帰らないというので、みやげは断念。そのかわり私が持ち帰らねばならぬことになった。

八時四一分栗津を出て、乗りかえながら博多についたのは十時半。車中「社会主義」の原稿「総評の危機」をやっと仕上げ、下車した時に博多郵便局に投函した。明日中に着くだろう。自治研集会の会場で岡十萬男氏から督促されたことでもある。大学の方も気にかかるが、この五日間はレクレーションにもなった。

6月16日（月）

北陸を旅行していた間におこったいろいろのことをおさらせるために少し早目に本部へ。

生協交渉で一〇名の評議員が負担区分撤廃に関する確認書をとられた件。記念講堂の問題、これは去る十四日九大祭の一環として開催される予定の音楽会が三派系の同時刻同所集会開催戦術によって粉碎された件。この二件が主要事件。どちらも参与会が仲に入って努力してくれている。いずれ明日の評議会で確認書の取扱いをめぐって大きな問題となろう。

十二時から基地対策委員会。電算センターの被害調査に入らなければ、日程的にセンターの再建は困難。あきらめるよりほかはないが、被害調査に入るべく学生に交渉を働きかけなければならないということ。みんな疲れきっている模様。

6月17日（火）

評議員一一名が生協交渉でとられている確認書をどう扱うかについて事務局と学生部との合同会議をもつ。電気水道料を無料にするという方法はないが、電気料を計算上大幅に改善することについては異議はなかった。蔵菅一号というのにどう立ち向かうかはまことにむづかしい。

午後は同窓会館で評議会。五月二〇、二一日両日の評議会記録をどのようにまとめるかが主な議題。そのために前の金曜日、日曜日の二回も評議会で論議したというのに、今日も午後九時半までかかってしまった。議事録の公開をどうするかについてもかなり長い論議。これは広報活動の仕方にもからんでくる。要するに医学部確認書以来、評議会が揺れていることに関連している。問田氏の辞任のこと、生協の確認書のこと、電算センターのことなど問題は山積しているのに、議事の運びののろいこと。強力な執行部を作ることが必要のようだ。昨夜、旬報社の梨木君から電話があり、論文集の印刷にかかりたいが、補充原稿を早く送れということ。この忙しいのに書けるだろうか。

6月18日（水）

一〇時から参与会を開いたが、午後一時までに議題を審議し終えず、また明日開くことにな

った。

記念講堂の使用については根本的にやりかえるための検討が必要になってきた。許可なしに使うことを防ぐわけにはいかないが、さりとて焦土戦術的な、放任的なやり方もできず、できるだけ合法化するようにとの方針をうち出した。そのためには、使用規制、使用料をかねてゆかなければならない。

寮生の要求について事務局レベルで再検討したが、女子寮の建設は望みがないという。上京陳情してこいというが、……

夜、行橋労働学校。

6月19日（木）

記念講堂運営委員会で記念講堂の現状対策を、参与会で生協団交確認書対策、および寮交渉確認書対策を討議。参与会は午後三時から九時までかかった。

いずれにしろ大学側の論理破産は明確である。正義だとか真理だとかいわないで、学生のいい分に対しては警官の実力で大学の一つの立場を学生におしつけるか、それとも学生のいい分に屈して文部省または体制に反逆するかどちらかである。文部省または体制が矛盾しており、大学はその体制の中であって真理を説かねばならぬところにそれ自体の矛盾がある。これが大学の危機の本質である。

6月20日（金）

研究室の書籍が学生によって自由に持ち去られる事情にあるので、自宅に運搬するつもりで重要と思われるものから一度整理してみる。みゆきがほとんどやってくれた。

午前中は教授会、確認書をめぐって。

午後評議会。この前の議事録確認をまたむしかえし延々八時間。医学部や教養部ではそのような経過の中の過失の有無の確認よりも、五月二〇日に井上辞任を認めた評議会決定という事実を今の評議会が学生に対しどう処置するのかという回答を欲しがっている。私の評価では、その意味で本日の評議会は必要なことを何もしなかったことになる。

動脈硬化。

6月21日（土）一時雨

久しぶりに出て行かずにすむ。

旬報社から出す論文集の原稿を書き上げてしまわなければならないので、出来上がらないかも知れないが、今日と明日の若干をあてることにする。去年の今日の記事を見て、「改憲阻止と反合理化」のヒントにもとづいて筆を進めてみる。

教養部の教授会関係の動向が心配になるが今明日はこれを無視するほかない。

この二、三日、梅雨らしいむし暑い天気がつづいている。

夕方、築山盆栽を作ってみた。啓二が近頃またマージャンにこって勉学の方は崩れている。

#### 6月22日（日）

日曜だというのに評議会。

また五月二〇、二一日の井上辞任に関する事実経過の議事録に時間をさく。しかし、今日こそ、学生部提案の生協と寮、記念講堂の件をとり上げてもらった。午後二時から午後十時までの長い会議だった。

評議会の機能はすでに麻痺しているといってよい。

二四日に女子寮問題で上京することになった。

#### 6月23日（月）

参与会。昨日の評議会における学生部関係議案のおさらえ。寮関係は十分にとり上げられなかったが、参与会でよろしく処置すべきであろう。会議の途中医学部長が学生にとりかこまれて軟禁状態になったという。井上一問田問題である。

急に評議会を開くことになる。午後八時半から。

反安保では全共闘系が「ゲバ抜き」で統一行動に参加して教職組が迷惑がったという話。ゲバの時代は過ぎ去ったようである。もちろん客観的には昨秋から意義を失っていたのだ。九州地区で命脈を保っていたにすぎぬ。

#### 6月24日（火）

午前七時から各学部教授会。井上問題→問田発令返上の医学部自治会のツキ上げにどう答えるか。昨夜は夜明け三時まで評議会をやり、問田辞任を認め、早急に総長選挙に入るような各学部への提案だったが教養部では選挙に入ることは否認した。背後で開かれた評議会では結論を出すのに苦慮しているようだったが私は出席せず。

午後八時の列車で上京。久綱氏と同道。

医学部本部は封鎖されたらしい。

#### 6月25日（水）

朝列車が少しおくれて十時頃教育会館に着いた。ややしてから薬学部長の塚元先生も合流された。午前中に管理局施設部長、大学学術局学生課長に面会することができて、女子寮建設促進に関する文部省陳情の仕事は終わった。米軍機残骸処理、電算機センター建設が実際上不可能になった今、工事契約を中止して問題の決着をつけることがすべてに優先することだと文部省側は力説した。山崎事務局長も来京しており、四人で中食。

午後、久綱氏と二人で山本山の岩田君と会う。ごちそうしてくれた。共済会館に投宿する予定だったが、旬報社に連絡したら、仕事を在京中に終わるため宿を変え、原稿を書く体制を

とる必要上、お茶の水の森田館に投宿することになった。夜おそくまで論文集の原稿の手入れをする。

#### 6月26日(木)

大変な風だった。新聞は「梅雨あらし」、風速34メートルと報じている。朝になっても、一日中相当吹きつけた。

森田館で一日中論文集に関する作業。序章の部分の仕上げと、春闘の意義に関する原稿四〇枚の書き加え。夜の十二時頃やっと仕事は終わった。

予定の列車を変更して明日、空路帰福する。

#### 6月27日(金)

十二時少し前板付につく。大学にも話してみると、職組の団交が一七時間に及んだこと、本部は封鎖されていること、評議会は開かれているが場所はよくわからないことなど、二、三日の間の変化は大変なものであった。会場をさがして評議会に出席。スト実行委の連絡会、職組、寮、生協、学友会など団交要求は目じろ押し。参与会も開いてこれら団交要求を全部拒否することになった。大学法案の審議が始まり、首相の強気だし、学生側もつきつめた考えをもっている様子。評議会は当分ホテルを転々とするほかない。

労働旬報社関係の仕事が一段落したのでホッとしている。ゲラが届くのは七月終り頃だろうという。A5版にしてくれと希望しておいたがB6の方針のようだ。四〇〇頁になる。福岡に帰ったら福祉大学(名古屋)に行っている小島健司氏から著書、岩波新書の「日本の賃金」を送って来ていた。

#### 6月28日(土)

ホテルを転々としていて、しかも反省録を吟味しているような評議会には出席しないことにする。今日はどうしても封鎖があらうからと思って以前から準備していた研究室在庫書籍の一部の自宅への運搬を実施。生協の車が運んでくれた。

一〇時からの教授会は、教養部闘争委員会の団交に対し教養部自治会から代表権に関するクレームがついているのをどう処理するかが主題。結局意見が割れて闘争委員会と約束していた本日午後二時からの団体交渉は受けないことに決定。学生側は当然に憤激するだろうから評議会からの審議事項を議するため、会場を英数学館に移した。学生会館においてはその後、団交をなぜ開かないかについて、学生委員や教授会の議長をしていた河野和正君ら二〇名ばかりが、取囲まれ問責され午後六時すぎまでかかったらしい。結局、三〇日に団交するとの確認書に署名して釈放となった。英数学館の教授会は、評議会からの議題を審議せず、学生会館の約二〇名の安否に関する対策論議に終始した。八時頃散会。教養部本館は午後九時頃封鎖されたらしい。



原田、斎藤、横田の三人を連れて小ひろで午前一時過ぎまで雑談。

6月29日（日）雨

昨夜からなお雨がつついている。九州各地で死者を出すなど豪雨被害がおこっている。

午前一〇時から英数学館で教授会。自治会執行部と教養部闘争委のどちらに代表権があるかの審議に決着をつけ、結局、後者がスト中の代表者であるとの意見がきまり、三〇日には団交をうけることになった。学校側が代表権の有無について態度表明をすることはまずいのではないかと私は思う。

教授会の途中、若松旅館で開かれている協会理論戦線の会議に出席。国家論と経済学のパンフ作成、「社会主義」八月号にレーニン生誕一〇〇年特集をする話。

6月30日（月）

団交拒否のため、逃げまわっているのが今日の九大首脳。私は教養部の方を見守るため、福祉会館、上田邸と場所をかえて午後二時からの教養部学生会館内の団交を見守る。午後六時になって、拒否していた寮生交渉について、どうしても出てくれないかという寮生側鷺津君の連絡であったので、私だけが出向いて松原寮団交を受け持った。午後十一時まで。

豪雨のため九州で50名（主として鹿児島県）の死者が出た。

七月予記

大学立法の問題を巡って全国的に各大学は混乱状況。九大もどう收拾されるか見とおしはない。夏休みも何もない連日会議会議のこの頃、みんなの頭はどうかなってしまわないだろうか。学長選挙がおこなえるかどうかは七月の課題。

7月1日（火）

一一時に松原寮に行き、昨夜の寮生交渉の概要につきまとめたものにサインをし、評議会に対するアンケートのことなど打合わせを終え、料亭「富士」へ。本省の学生課長が来福し到着出迎え後の中食会。

午後一時博多駅裏に集合。全国次長会議出席の人々を迎え、スクールバスで九重共同研修所へ。久大線沿線が水で通らないので、熊本経由となる。五時間ほどかかった。熊本市外の大津付近は大変な出水で道が川になっていた。

7月2日（水）

九時から全国国立大学学生部次長会議——午後五時まで。午後一時には文部省の石川学生課長も来た。会議というものはどこへもっていても同じようなもので、ここでもまた学生問題についてとくに掘り下げた議論にはならなかった。

石川学生課長はいつもなら八方やぶれの叱咤悪口をいうそうであるが、今日は比較的におとなしかった。

次長会議の面々、夜は筋湯の筑後屋で懇親会。みんな互によく知っていてなごやかにやっていた。

7月3日(木)

九時、研修所出発。

一時五〇分戸畑着、ステーションビルで開かれている九州地区大学高校入試連絡会議に参加。早速呼び出しがあったので福岡に引きかえし、評議会に参加。(午後四時～十時半) 総長選出問題をめぐっていま評議会は苦悩している。

戸畑の会議では内申書を入試選考の参考資料として活用すること、④の信憑性について、また来年度の入試が無事実施できない場合どうなるのかについて問題が出されていた。

7月4日(金)大雨

参与会。参与会の拡充問題について昨夜の評議会の原案を討議し、参与会の意見をまとめる。(一〇～三時)

夜評議会。昨日につづき井上一総長選挙についての各学部の意見調整。なかなかまとまっていない。明日深夜にもちこす。参与会で決めた小委員会案、例によって工学部長清水氏の横車があつてこれももちこし。厚生課長補佐の佐藤氏阪大の学生課長へ、転出のあいさつ。連日連夜の会議により評議員も各学部教授会も行きづまり模様。各人はほとんどがグロッキー。教養部では人集めの速達を出し、教授会の定員確保をはからなければならない状態。

7月5日(土)雨

芸工大に社会教育主事講習会の会場借りに行く。

九州インカレ選手結団式にあいさつ。

一時教養部。

生協理事会(三時に出席)魚屋専務理事が退職願を出しているのでこのことがとくに問題になった。生協活動の方法に疑問がでたらしい。理事会の内部事情を反映しているものと思われる。明日日本人が私の家まで来て心情を明らかにしてくれることを期待する。

七時から教養部教授会に出席。

九時から評議会。今日は両者の交互開催が全学部にわたっておこなわれている。午後十二時になっても評議会は選挙方法についての結論をえず、この件は延期。というよりは当分は決まりそうにない。学長事務取扱の代理の北川教授の任期が今日で切れるので次の代理を選出。

7月6日（日）

一日中多く眠り全くの骨休め。

九大は当分混迷をつづけるだろう。一ヶ月とはいうまい。

きょうから北川理学部長のあとをうけて谷口文学部長が学長事務取扱臨時代行。任期は十日まで。（昨夜から今朝四時まで行われた評議会で決定）

7月7日（月）

教養部教授会に出たり評議会に出たり。評議会はどの解決方法も全部決まらぬまま総辞職の途をたどっている。

厚生課長が来て教養部長に、佐藤課長補佐転出のあとに谷口係長を割愛してほしいと要請。部長の自宅に行く。また、青木事務長にもその旨伝える。

佐藤補佐の転出壮行会。——阪大学生課長に。

7月8日（火）

教養部の有志は今朝から各学部へ交流に出かけている。井上辞任白紙撤回という線を各学部に浸透させるのだそうだ。なかなかうまくはいくまい。

雨は午後やっとあがったようだ。登校せずに原稿でも書きたいところだったのに。余った時間を協会ですごし、水巻町職の労働講座に出かける。賃金の話。

7月9日（水）

在宅して原稿を書くべきところ、進捗せず。

生協の魚屋氏来訪。辞意をめぐる諸問題につき、いろいろ話し合った、大学生協のいき方について疑念がとけないという。福岡生協に勤めないかということがあるので、その方で地域生協を通じて生協運動というものをもっと勉強してみたいと主張している。だがなぜ九大生協をやめなければならぬかについては明確な返答はない。多分思想的に九大生協の運動方法につき、理事の間に溝ができたのだろう。

六時から評議会。学長又は事務取扱をどう選出するかについて、ほとんどの時間を消費していて、日常的な事務処理は空転のまま。

7月10日（木）

昨夜の教養部団交では問田学長事務取扱の印鑑封鎖が要求され、教養部教授会にはかられることになった。教養部教授会が、五・二〇～二一評議会決定を白紙にかえずと主張することはよいにしても、そのあとどうするか提案が実のらぬ限り破壊的主張に終わってしまうのではないか。

下の畑から紫蘇の葉を摘む。トマト、ナスは虫のため、出来が悪い。

7月11日（金）

五〇枚の原稿を仕上げ「月報」編集部へ渡す。『学園紛争の中に立って』

正午の列車で熊本へ。第一九回九州地区インターカレッジの開会式、学生部長として参加したが、参加するほどのことでもなかった。体育関係といえど丸と国歌君が代がでてくるのか。式がすむとすぐ帰路につく。

夜はのんびり休んだ。

新聞には昨日の評議会が学長事務取扱臨時代行に法学部長の吉田氏を選出したとある。評議会は学長人事にばかり時間を費し一般校務処理に関する論議をしないままである。

紛争のままで夏休みに入ってしまった。補講のことなど決定のないままに。

7月12日（土）

問田辞任を認め学長事務取扱の後任をどう選ぶかでまだ延々評議会の審議がつづいている。寮生交渉、生協交渉その他電算機センター再建など解決すべき議題があるが未解決のまま、経理委員会も開かれてない模様。

午前十時から寮務委員会。（三畏閣）。午後二時～八時生協臨時総代会。食堂関係値上げの件可決。

午後七時～評議会（電算仮設センター）

事務封鎖で職員たちは仕事ができずに困っているが、解決の方法もない。用紙の一枚にも不自由をしている状態になった。

7月13日（日）

身辺整理。

学生運動をめぐる諸問題についての資料読み、資料整理。

7月14日（月）

気温が急に上昇。盛夏を感じさせる。

一〇時から芸工大での社会教育主事講習会開校式。文部省社会教育局長福原氏を迎える。

（中食、三鷹）

午後松原寮で寮生交渉。寮務委員六名と私、女子新寮の問題と寮規則撤回問題。寮生の側も一〇名ぐらいであり熱気はなかった。夜半一時半に終了。寮規則は廃止して学校側の寮管理規程を作ることに落付いた。文学部の村山教授が大へん「頑固」にがんばっておられたが、こちらは寮規則など変えてもよいという気持だったから（評議会から権限移譲を受けている割には）気が楽だった。

7月15日（火）

午後三畏閣で参与会。昨日の寮生交渉の結果の対処と福利厚生、学生対策両委員会を臨時に設立するための要綱案の作成。このあと、久しぶりに荷がおりたようで学生部の係長課長らと三畏閣で乾杯し、つづいて、久綱氏と六本松まで帰って「はやし」で杯をかたむける。土井仙吉氏を呼び、谷口厚生課長補佐を呼び飲みつづける。

土井氏は教育大で学生の教授会傍聴を認めたのは正しいと主張。われわれはこれに反対した。学生に迎合する発言が支配するなら教授会にならないからである。

7月16日（水）

午後教養部教授会。昨夜の評議会での次の学長事務取扱選挙の方法がようやくきまったので、それによる被選挙人の選出（各学部で評議員のほか一名を推薦）

池田数好氏

夜、飯塚労政事務所関係の労働講座。「中小企業の労働問題」飯塚文化センター。

アメリカ、有人月ロケット打ちあげ。午後十時三二分。これをテレビ実況放送でみる。そのようなことに使う資金があるなら国内の貧乏人のために使えと黒人さわぐ。もっともなこと。

7月17日（木）

ものすごい暑さ。

新博多ホテルで評議会。学長事務取扱選挙なんだがなかなかきまらない。

何だか空しい気持ちで、午後八時頃には帰宅。

福利厚生委員会と全学々生委員会の設置はきまった。だが短くいえば学生との団交要員である。各学部は早や人選難をかこちつつある。

何もできないし、何もしたくない。

7月18日（金）

汗がぷくぷくわき出る。記念講堂の食堂の暑さ。

旅行センターで入試審議会。来年度入試の科目決定について。

生協理事会。水光費闘争というので学生たちが荒々しい理くつを展開している。

福利厚生、全学々生両委員会はあまり評判がよくないようだ。評議会というものの実態が理解されないためだろう。

太田薫氏から例のごとく中元が届いた。どうもわけがわからないし、処置にも困る。

7月19日（土）

担任クラスの名簿を取りに研究室に入ってみたら、相当程度荒らされている。マルエン全

集、レーニン選集など二〇冊近く、原稿用紙も恐らく三〇～四〇冊がなくなっている。  
午後は教授会。福利厚生、全学々生両委員会につき、深山君らの発言に私は強くいいかえしておいた。一方からだけみた筋論を展開しているからである。論理と論理は水かけ論に終ることがある。論理には非論理が必要になる。現実を筋論だけで処理してはならない。それが現実の大学の運営を困難にしている大きな要因である。学生の言い分もそうである。  
上田氏と二人で白水宅を訪問。夜十一時頃帰ったら猫に五匹の子が生まれたという。黒が一匹であと白。表の部屋の窓ぎわが産室になっていた。

#### 7月20日（日）

ビヤガーデンを作るべく、椅子や屋外電灯の工作をする。  
ひるすぎ学生部次長から電話があつて夕方からの大学立法反対集会につき学生間の衝突が予定されるので、東署に連絡に行ってくれという。粕屋農場で評議会が開かれているのでその間を往復する。評議会の模様は岡本前農学部長が条件づきで学長事務取扱を受諾してくれるかも知れない情勢。  
心配していた衝突もなかったので、工学部事務室に待機していた参与会を解散。  
夜、河野和正、安東毅両氏が来宅。ビヤガーデンを開設して午前二時まで歓談する。

#### 7月21日（月）

アポロ11号午前一〇時頃月面着陸。十二時五分前ぐらいに宇宙船外に。月に第一歩を。その経費の社会的意義も考えつつ、人間技術の偉大さを思う。発射から一〇九時間後。  
一時から教養部教授会に出席。特に福利厚生委員会、全学々生委員会について討議。結論はえられなかったが傾向としては警戒的または否定的で参与会を拡充強化せよという意見のようである。参与会をそのような学生問題の正面におくことには多くの困難がともなうだろう。  
中島敏子さんが榛名の方に帰るので父に見せたいといって私の写真をもって帰った。

#### 7月22日（火）

鹿島研究所出版の社会科学大事典に「石炭鉱業」の一項につき執筆することになって七月末までに書くべく準備に入る。こんな小さな仕事でもやりはじめると面倒なものだ。  
夜は八女公会堂での田中稔男氏がやっている労農文化会議の講師として出席。具島先生が私のあと安保についての話。私が大学問題について。時間がもっとほしかった。  
八女市の南中学校の校長で杉森麟氏が、かつての教研集会司会者のよしみでビールを飲もうという。丁度彼が教育テレビに出演、先日なくなった坂本繁二郎画伯の追憶座談会が放送されている最中で飲みながらこれを見る。京都近代美術館長の河北氏と筑後の画家坂宗一氏が出演していて面白い話だった。

7月23日（水）

午前中は何もしないで雑用ばかりで過ぎた。午後教養部教授会。先日からの両委員会につき検討。

社会党をよくする会運営委員会。

午後八時一五分の列車で上京、文部省へ。概算要求のため。久綱さんと同行。

7月24日（木）

一日中、文部省まわり。班別にして各大学の概算要求説明。事務局長、施設部長、経理部長からもみえている。今年は学生厚生関係施設が重点的に説明された。

午後五時すぎに用務は終わった。協会に電話して行こうとしていたら虎の門地下鉄駅で農学部の田代氏とあい、ビールを飲んで放談することになった。協会に着いたら七時半。平方君が八月号の巻頭言をすぐ書いてくれという。合化労連の宿舎に投宿して、社会党成田委員長の「党再建と青年戦線」と題する論文を批判した原稿を作った。

文部省まわりのあいまに、労働旬報社に行く。私の論文集の初校が出来かけていると思ったが、予定より一〇日ぐらいおくらしている模様。初校ゲラがあがっていたら二、三日逗留してでも校正したいと思ったがそれは不必要になった。旬報社が今日出版した大学政策に関するぶ厚い本をもらってきた。

7月25日（金）

昨夜は原稿書きで二時頃になって就寝。ねむいけれども今日中に福岡まで帰っておこうと思っって早朝東京を立つ。

ひるま一日中の車中旅行は大へんつまらぬものであった。本を読む気にもならず、眠ってばかり。

夜十時半帰宅。

文学部長の谷口さんが学長事務取扱に選出された由。（評議会は岡本さんを説得することを断念した）

7月26日（土）

今日は何の会議もない。午後から上田、白水、徳本の三人が来宅、マージャンを楽しんだ。冷房がきいていないと思うほどの暑さ。池の鯉の子は黒二匹が生き残り、小指ほどの大きさになっているのが確認できた。

論文集への「はしがき」を準備する。

7月27日（日）

社会党をよくする会、創立一周年総会。午後一時市民会館。総会後のシンポジウムでは私が

社会党と非武装中立論について問題提起をした。二〇名ぐらいの会衆だったが、問題提起の意味がよく理解されなかったようだ。非武装中立が観念的非現実的だといわれるのは、社会党が実力を発揮しえないで、この理論を具体化しえないからだということを主張したのに、質問は、もし攻めてこられたらどうするのかといわれたら答に窮するがどうなのか、という類のものでしかなかった。

林出君が来宅、夕食などともにした。明日東京に帰るらしい。黒ん坊のように陽やけしている。

7月28日（月）

社会問題研究所運営委員会。午前十時、マルベニにて。

午後一時から教養部教授会。

午前および夜、旬報社刊行予定の論文集の「はしがき」の原稿を書き進めてみる。

学生の動きに特別なものはないが、大学立法についての衆院の動きはいよいよ大詰めに来たようだ。

7月29日（火）

論文集のまえがきを書く。

午後、入試審議会。科目決定。旅行センターにて。直美とみゆき、センター横のプールに行くため同行。

大学法案衆院通過。政府は残り少い会期だが成立にもちこむ構えになってきたといわれている。院外の反対運動も盛ん。九大では昨日は街頭署名、今日、明後日は自動車デモを教官有志でおこなう。

日本経済会議開かれる。

7月30日（水）

朝顔が一輪咲いた。紫の大輪。これは苗を買ってきたものだが、うちで種を蒔いた朝顔はあと咲くまでには三、四日おくれそうだ。えにしだが枯れてしまった。新しい枝を切ったせいかも知れぬ。今日も日照りつづきで、新聞によると当分降る様子はない。

評議会、部局長会議に出席。直美をついでに旅行センター横のプールにつれてゆく。

論文集の「まえがき」原稿投函。

水が出なくて夕方困った。

7月31日（木）

午後教授会。

夕刻大学法反対の九大教官自動車デモに出席。三〇台近く出動したろうか。二九日につづい



て二度目。

そのあと、教養部学生委員会の交替の懇親会、サッポロビール。

八月予記

九大も谷口体制でスタートしたものの大学法案のゆくえいかんで学長選挙や機体処理がどうなりゆくか全くわからない。学生たちは十一月の佐藤訪米阻止の体勢を作り上げるといっている、事は大学立法のようで、実は全く安保問題である点はまちがいない。それだけに、大学立法の闘争の性格も政府としては重大視する理由がある。紛争は来年まであと一年余りはつづくだろう。

書かねばならぬ原稿はたまっているが、ことにユネスコのものに手をつけることができるかどうか。労働旬報社から初校の届くのが待たれる。八月中の出版になるかどうか。

8月1日（金）

九高連教研集會に出席。佐賀市外龍登園。大変な雨。昨日につづいての雨だが、今日は相当に降った。

8月2日（土）

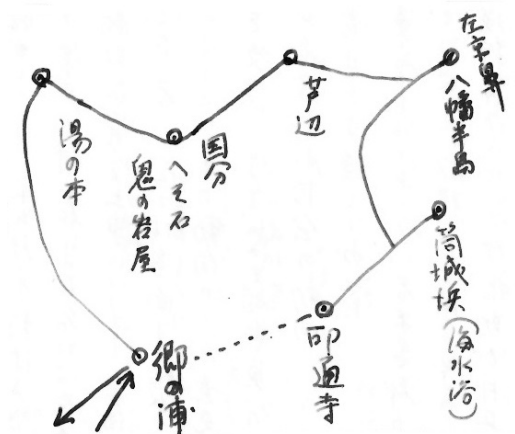
昨日のつづき。午前中で引きあげる。日教組の中執橋本氏と同行、博多まで。あと彼は関西地方へ空路で。

私は九大学生部職員旅行、壱岐へ。直美、みゆきは先に棧橋へ。博州丸超満員ともいうべき状態。暑く、船はゆれ、多くが船酔いした。

壱岐印通寺の碧雲荘に立派な庭をもった古い建物。型のごとく宴会をし、あとは各自思い思い。

8月3日（日）

壱岐をバスで一周。



直美が海水浴ではしゃいだ。帰りの船はそんなにゆれなかったのか、眠っていたせいかな、酔いはなかった。午後九時博多着。博多駅までバスで行き夕食をし、くたくたになって十時半帰宅。

夜八時すぎ、問題の大学法案が参院で強行採決。本会議は議長職権で質疑も討論も抜きにしてたった二分間で、怒号の渦の中、議長の声もききとれぬ状態で可決されたというのである。壱岐で会食をしていたとき、賭をしたが、私は四五：五五の確率で強行突破といったが、そうってしまった。議会制民主主義の形骸化というべきだろうが、むしろこれが本性暴露といった方がよいのではないか、支配階級は欲することを最小限可能な方法で行なう。その最小限がこうなってきたのである。

8月4日（月）

ゆうべの大学法強行採決で新聞が大々的に報道。明らかに七〇年安保に向けて非常態勢を築きつつあるというのである。九大評議会はまた時間をかけて、これに対する抗議声明の案文を練った。また、谷口学長事務取扱発令上申についても審議した。参与会では当面する情勢の中での学生の動向について意見を交換。厚生、学生両委員会の各学部教授会の動向についても意見を交換しておいた。

東京をはじめ全国各主要都市では学生、教授、労働組合等の強行採決への反撥行動が目立ち、東京の国会、文部省周辺では多数の逮捕者が出た。

教養部では二、三号館に封鎖が拡大された。

8月5日（火）

朝顔が全部咲き出し、直美が数えたところによれば一七輪だという。暑さ最高潮の感じ。農場で評議会。両委員会は一応棚上げにきまった。今後の問題は評議会が受けとるほかはない。

八月三日大学法が強行成立し、七日公布というが、今後その施行実施にどのように抵抗するか基本的姿勢に関する討議で評議会がぐれてしまった。法学部の方でコメントールをまとめる努力をするというのでケリ。

農場のブドウを買って帰る。

8月6日（水）

熊本は昨日三六度だったという。駅前には焼け付くような暑さ。国労熊本地本は反合理化闘争のなかで組織攻撃を受け、自信をもって組織固めをおこなっている。今日は「七〇年安保と合理化」という題で駅前近くの白銀旅館？で地本の青年たちに講演。夕方おそくまで質問がつづいた。話の中で政治闘争と経済闘争の結合の問題を提起したので議論はそこに集った。用語は具体的内容をもって語られなければ相互に混乱をまねくし、両者は重層的に弁証法

をなしていることを指摘した。

旬報社からゲラー部届く。

朝刊の報道。——六一国会は五日二二日間に及ぶ長期会期を閉ず。大学法案強行採決で与野党関係決裂のまま、生活関係法案など五〇件は廃案となる。これからの焦点は沖縄交渉にうつる。十一月佐藤訪米までつづく。その頃が政局の山になる。

8月7日（木）

校正の仕事で評議会には出席しまいときめこんでいたら、夕方六時頃になって、米機残骸が切り取られ、大阪の「反万博」に展示されている事件について大学の態度を協議しているから急いで出てくるよう学生課長から連絡があった。大きな問題にする必要もないが、もし米軍等との対外関係から問題になると、うるさいことになりかねない。工学部の機械系の教室を借りて協議。防衛施設局に連絡する態度を決定して散会。評議会は農学部で、大学法に対する態度を打ち出すための論議。

8月8日（金）

何の会議もない。一日中校正。本部では基地対策会議があるときいたが出席の要はなかろうという。

8月9日（土）

自治労鹿児島県本部の幹部学校。城山共済会館で午後一時半から六時半まで、合理化と労働運動についての講演。若い人が多く、話をよく吸収してくれた。

往復の列車は大変こんで、列車の予定を変更しなければならなかった。夜行で帰福。（十日午前六時博多着。）

8月10日（日）

旬報社のもの校正。

午後二時から野村彪氏宅の新築祝をかねて姫高会。新築といっても十八ヵ月もたったということ。列席者

牧坂、野村、岡田、久綱、私、鳥山（先生）、那須（山村はとうとう来なかった。）

8月11日（月）

旬報社に校正第一便を送る。夜、同社の川崎氏から校正を少し急いでくれとの電話があったが、「社会主義」の原稿がこの二、三日重なって少々困る。衣笠君は今日から「社会主義」の原稿にかかるらしい。

8月12日(火)

電算センターのレンタル料が予算に計上されるためのタイムリミットがきたというので、センターの被害調査に着手せねばならぬという。朝から対策会議、参与会、評議会とつづいて深夜までかかって調査スケジュール、学生の情勢動向討議。帰宅は一時。

8月13日(水)

「社会主義」の原稿を進める。といっても九月号はレーニン特集なので私はレーニンをよく知らないで、ソ連旅行中にえた資料でレーニンの横顔を紹介するにとどめる。

午後六時から対策会議と実行連絡委員会との合同会議。電算センター再建のための被害調査をどのような日程でおこなうかということが主題。八月一ぱいが最後のチャンスだという点をみんながどう判断するか。反対派が実力阻止するならば警官導入をも考えるかどうか、追いつめられたところまできている。帰宅は十二時

総評大会は役員、運動方針など決定して十三日閉会。社会党一本支持はきめたものの、新執行部も新味のある指導性は発揮できまい。予想したほどには右派攻撃でガタガタにならなかったが、それでも岩井が十五年のキャリアをもちつつ退陣したあと、右の大木が出てきたのだから、今後同盟との関係や内部のJCグループとの関係などを考えると、右旋回はさげられないだろう。左が中にいてどう闘うかだ。

8月14日(木)

朝から評議会。福岡国際ホテル。電算センター被害調査について、その他。午後六時まで。

「社会主義」への原稿、共産主義的人間レーニン、旬報社の校正刷(第二回目)両方を発送夜、一彦が北海道旅行から帰る。佐方からツヨシ、敏子をつれて。深夜までよもやまばなし。

8月15日(金)

小林課長から電話。早速に電算センター被害調査についての団交申入れについて。申入人桂木君からも電話あり。

8月16日(土)

学生(反戦学連)の団交申入により、これを討議。参与会、評議会。

午後四時から予定の予備折衝を工学部防音一〇三号教室で開いたが、決裂。学生側の言い分は、正規の自治組織でなければ団交しないという理由はありえない。予め十八日に調査をすることを決めてかかって団交をするのは意味がないという。大学側は団交決裂でむしろよかったという表情。そのあとがむしろ厄介だろう。

浜の寮でおこなわれた夜の評議会は十時近くまでかかった。

8月17日（日）

校正を全部すませようとしたが電話はひんぱんにかかってくるし、暑いし、結局はあと八〇ページほど残して、出来た分だけ発送した。

夜評議会。旅行センター。

学生側は午後夕刻、正門、工学部通用門、中門を封鎖した。明日の被害調査をどうするかを協議。ともかくやってみることにする。

今日、大学法施行。広島大学、中央大学に警官が導入され封鎖解除へ。いわゆる重症校も動きがでてきた。

8月18日（月）

被害調査の試み。

九時に応用原子核教室の会議室に集合し、十時半に現場に近づいたが、反戦、反帝、FML各派の学生の阻止にあって、阻止をやめるよう説得するも果たさず。午後三時頃、調査員たちが近づこうとしたが、これも果たさず。午後四時頃から学生側は大学側の要人を求めている、調査委員長富井教授のほか、参与四名、大久保、井口、尾山、岡村、それに学生課長小林の計六名が工学部本館応用理学教室に引きこまれ、午後九時まで軟禁されていた。

8月19日（火）大雨

十時から国際ホテルで評議会。昨日の動きの結果に立って電算センターをどのように処理するか。センター建設は不可能に近いが断念したというわけにはいかない。仮設センターの建物を借りつづけることができるかどうか。機動隊の導入はまだ考える段階にはない。このように悩みながら、学長事務取扱は上京することになる。ほぼ方針をきめ、それを明日各学部の教授会にはかることになる。——午後五時半終了。

夜は早く寝る。

論文集の最終校を発送。再校はあちらにまかせることにする。

8月20日（水）

午後の教養部教官会議に出席。電算センターについて当面する大学の方針について了解を与えること。

- 1.仮設の続行（あと二年）の可能性の追求——九州電力
- 2.レンタル料、運営費については省議においてペンディングとなるよう努力すること。  
——文部省
- 3.被害調査は困難だが努力をつづける。——阻止派学生

夜の評議会には出席せず身辺整理（学内関係資料つづり）

8月21日（木）

学内は異状なかったようだ。

九経調に行き炭鉱合理化関係の資料読み。辞典に石炭鉱業という小項目を執筆するのに、割の合わぬ苦勞。

問研からは人事院勧告について原稿を書くようせまられているので、資料とりに問研に寄る。

夜は早く寝る。

8月22日（金）

台風九号南九州と南四国を荒らす。

大分県高教組、県教組の講座。城島ホテル。高教組の方は生徒の政治活動について、県教組の方は体制的合理化について。もっとも後者は、台風のため予定講師の日教組書記長がこられなくなったので、その代わりに弁士として。

心配した台風も南部九州を通過したとあって、交通の便は妨害されずにすんだ。帰れなくなって、ホテルに泊る。

8月23日（土）

早朝立つ。

一〇時から同窓会館で参与会。一八日の事件のおさらえ。学生部改組案が制度委員会から出ていることについて若干討議。

午後の評議会は農場で、学長事務取扱の帰任報告。中央折衝の結果、電算センターの再建は断念し、錢高組とは解約をせざるをえないだろうという事、各学部の腹をきいてみたいということであった。途中であったが、五時頃帰宅。

8月24日（日）

敏子、一彦、健、直美の四人が早朝から天草五橋見物に出発、うちの中は久しぶりにひっそり。連中は午後七時半頃に帰ってきた。問研の月報に人事院勧告をめぐる問題につき一日がかりで原稿を書く。社会党をよくする会の中村君がピアノをひきに來たり午睡をしたりしていて、原稿は仕上がらなかった。夜豊瀬氏から電話があり、党費滞納の事情につき心境をききたいという。福岡市総支部からの再三の督促をめぐって話をした。党費は中村君に託したところだった。党に関する魅力はほとんどなくなったし、九大支部の活動もほとんど分解状態だということを豊瀬氏に伝えておいた。

8月25日（月）

一〇時から薬学部の会議室で制度委員会と参与会の有志の合同会議。学生部改革の問題に

ついて。

午後終わって社会問題研究所に行き昨日の原稿を仕上げて手渡してくる。あまりいい原稿だとは思われない。

夕刻帰ろうとしたら教育会館の一階で九電の瀬戸口氏と久しぶりに顔をあわす。やあとというわけで近くの喫茶センターに行きコーヒーをのみながら大学問題や電力労組の最近の事情などをめぐる雑談。協会分裂についてはお互いに口に出さなかった。別れぎわに彼の方からうちの電話番号などきき、寄ろうかということだった。

8月26日（火）

午前中、教養部人事委員会。主として教授昇任の件。岡田教養部長の辞任を認めたあと、部長選挙にはしばらく時間をおき、明日の教授会ではさしあたり部長事務取扱制でいくということになっているので、その方向を基本的に認め合った。

午後四時半から社会教育主事講習会の閉校式。芸術工科大学で辞典の原稿。「石炭鉱業」の原稿はわずかながら骨が折れる。

ひる、佐方から来ていた敏子、健の二人が帰姫した。

8月27日（水）

午前中から午後にかけて教養部教授会。教授承認の件、教養部長事務取扱選挙、——佐々木さんが選出された。

九大の卒業証書を十数年にわたって書きつづけてくれた塩田忠太氏の葬式というので、前原町へ。学生部より。午後三時——

夜相原君中心の問研学習パンフ経済学執筆者会議。大平、蔵田、縄崎、相原。

8月28日（木）

社会科学大辞典の「石炭鉱業」について原稿を仕上げる。

ずいぶん涼しくなってきた。

労働旬報社に論文集が出来上がったら献本のため送本してくれるよう、リストを送付。

8月29日（金）

ふと目がさめるとまだ四時頃。考えこんでいるうちに、警官導入に対する意見を集約する気になり、起き出していろいろ書いてみる。朝の程よい時間になって文学部の岡村氏に電話したら留守。教養部の上田氏に電話したら二・三日熟させたらどうかということだった。

午後、小倉労政事務所関係で行橋の労働学校へ。

8月30日（土）

社会主義協会九州支局委員会。電通会館。午後六時から。

8月31日（日）

社会主義協会九州支局委員会つづき。午後五時まで。

あと、拙宅で懇談会。

吉井、待鳥、今永、八丁、大坪、吉瀬、松田、相原、衣笠、私

外の池のふちで。先だって太田薫氏からもらっていたコニャックを提供。

9月予記

大変な一ヶ月になりそうだ。大学紛争がどちらかに決着づけられねばならないのではないのか。難問山積。学生交渉もまちかまえている。生協と寮の問題。

9月1日（月）

一〇時から教官会議。

学生の登校もちらほら多くなってきている。隠退の岡田さん、新任の佐々木さん、退院の野田さん、のあいさつ。

午後農場で評議会。二〇日頃までに計算機センター放棄の意思表示をする、という事。

五時五〇分頃から七時すぎまで旅行センターで谷口さんが東署長と会見するのに同行。あと岡村参与（文）を呼んで警官導入という手段について私的に検討してみてもどうかと話し合う。古川病院長も呼んでこの話を進める。料亭多崙。

9月2日（火）

朝立って夕方つき、講義をしてすぐとんぼかえり。（大阪ゆき。）社会主義協会関西支局系の者がやっている学習運動大阪府会会の近畿労働学校第一期というもの。話は合理化について。官原君が大阪府職でよくやっていると熊沢君のはなし。列車の中は半分ねむる。

9月3日（水）

早朝七時少しすぎて博多着。一たん帰宅。

十時から入試実施委員会。役のふりあてを決定。今年は例年より二ヶ月ほど問題を作る時期を早める必要があることを確認。

防衛施設局から大型計算機センターの被害調査のため立入りたいとの文書連絡があった。

九大にまかせておけば解決しないので力を用いてでも問題を解決しようとの腹だろう。部長会議ではこの機に及んでも一寸まてといおうとしている。外部からの事態はよほど切迫していると見なければならぬし、決意をする時がきたことを覚悟すべきである。



夜招待でカラマーゾフの兄弟をみる。（日立ファミリーセンター）  
ホーチミン北ベトナム大統領死去。

9月4日（木）

七大学々生部々課長会議。

九時半黒田荘。五時前に終って、一行を長垂方面に案内するかたわら、古川病院長の設営で有志数名をホテル高倉に集まってもらい、計算機センターをめぐる情勢と対策につき私的に討議する会をもつ、出席者次の通り。

上田、中村（文）、岡村、中村（医）、馬場、奥田、古川、三隅。

九月一日に、岡村、古川の両氏とともに検討したことが第一歩をふみ出したのである。評議会対策が中心話題。十時半頃まで。私は途中で中座して「かわさき」で開かれていた学生部課長会議出席者の懇親会に出、八時半再びホテル高倉にもどる。

9月5日（金）

熊本の労福協の理事講習会（一〇時～）で講演。早朝熊本へ。そのあとすぐバスで九重共同研修所へ。昨日の部課長会議ご一行と瀬の本で合流。午後三時半から部課長会議第二日目の日程を消化。

九重は思ったより涼しくなかった。みなさんは昨日の飲みつかれがあるのか、今朝からのマイクロバス旅行のつかれか、夜の懇親会はあまり元気がでなかった。

9月6日（土）

朝立って博多に着いたら正午すぎ。一時からホテル高倉に集まった者は次の通り。古川、上田、中村（医）、馬場、岡村、大野、奥田。計算機センターの再建を断念することを公示する前に、評議会対策としてなすべきことを検討した。

関連で、夜、乾庶務課長と「かわさき」で会う。古川さんも同席。工学部長の園田さんの動向を中心に話しあう。九月八日、園田、乾の二人が上京して、計算機センターの再建が不可能でないことをたしかめてくるという方針を立てその線で明日から動くことにする。工学部が動かないことにはどうにもならないという意見がホテル高倉で出たので、いい状況が展開しそうである。

9月7日（日）

洋服の生地展示会に行ってみる。英国製の一寸高価なのを発注。

午後一時から「かわさき」で集会。今日は工学部長の園田さんをひきこんでの話。古川、大野、乾の諸氏と私。都合で小林学生課長を呼ぶ。園田、大野、乾、小林の四人を急ぎ東京に派遣することになった。任務は、今からでも電算センターは建つかどうか、警官を導入した

としたらその得失はどうかについて経験大学の事情調査である。  
三月までの分の成績を早く出してくれと教務からさいそくの手紙。  
脇元君から熊本に転勤したという知らせが来ている。

9月8日(月)

一〇時参与会。新学期を前に各学部の紛争状況を話し合う。  
二時からKBC、ティタイムショーに顔を出す。(兵庫県の紹介)  
三時から西日本新聞の、九大紛争をどうみよかの座談会に出席。(九電ビル十二階会議室)  
あと、出席していた薬学部の久保君とコーヒをのみながら若干話し合う。  
夕食のあとで、松原寮の岩谷君から電話があつて、永々と二時間意見の交換。寮建設と寮規則との関係について。  
九月中旬には生協交渉や寮生交渉で事態は一段と混乱してくるであろう。

9月9日(火)

ひるすぎ外人宿舎のロビーで帰福した乾、小林両課長から文部省の態度などについて報告をきいた。  
午後四時から農場で開かれた評議会では学長選挙基準の評議会案をきめ、そのあと大型計算機センターの問題について解約を前提とした公示案を討議しているとき、字句の修正よりも基本方針を討議せよということになり、比較的早い時期に乾庶務課長から評議会の責任の自覚をうながし、警官を導入しても再建に向かうべきだ、解約という道はありえないという意見の開陳があり、評議会はその後異様な雰囲気につつまれることとなった。午後一時文学部の鬼頭前学部長自殺が判明したとの報が会場に伝わったことも手伝って会の続行は不能になり、谷口さんはやる気がなくなったといつて閉会を宣してしまった。午後八時。われわれはあとで「かわさき」に集った。

9月10日(水)

十時入試審議会。来年度入試の大綱を決定したが、できるかどうかは未知数。十一時半頃すんで、あと部局長会議。昨日の評議会の幕切れ後をどうするかについて。一つは谷口氏に責任がないこと、二は乾氏の謝罪要求が原案のようだったが、二については絶対不可と反論したので、私の意見がいれられ、谷口氏の口から二人の心境の開陳をきき、評議会が了承するようにとの原案におちついた。  
教養部教授会のあと、五時半頃から白水研究室に集まり、警官導入の問題につき情勢を討議。(白水、上田、城野、中村周、安東)私の主唱で集まってくれたので、教授会、評議会に主体がないことを主張。インフォーマルな主体形成過程について私が強調した。誰も・・・すべきであるとは思いつながら、誰もがそういわないし、いふべく組織活動をしないのが問題

であるということである。七時半帰宅。

鬼頭さんは九日午前二時頃東急ホテルでバスルームの中で刃物を利用して首をつって自殺したということである。九月一日、農場で評議会があったとき、帰りの一とき、私は彼にいったのだった、文学部は警官導入を打上げ花火のようにいうが、後続者を作らずにそれを何回いってもだめだ、後続者を作ろうではないかと。これが谷口さんにもらされたらしい。いろいろ思い出に残る鬼頭さんだった。

9月11日（木）

四時からのシティホテルでの評議会は大いに沸いた。計算機センター建設に関して経過を説明した公示文についての議論だが、センター工事解約の方向から再建の方向へ転換することをめぐって、警官導入派と不導入派が激論。不導入派は主として法経両学部の論陣だが、解約にしても再建にしても被害調査は急がねばならずそのためには警官を入れざるをえないこと、教養部等封鎖がつづいている部局の側からは、大学の機能の一般的停止、授業不能、進学、卒業の不能、入試すらもできない情勢が来ているということに対して、有効な対策を主張しえず、反対派は徐々に孤立を深めつつある。導入反対派だった桑原理学部長も賛成派に傾いてきた。農、理は動揺してきた。教育、薬、歯は黙して論ぜず、教育は法経にくみする可能性がまだ強い。が、不導入派には主張のきめ手がないので、最後は心情に拠っている。十一時に終了。

あと、隣のホテルタカクラに集合。大野、乾、奥田、中村（文）、園田、小林、岡村、中村（医）、上田の九名。今後の方針を討議。とくに、谷口さんが総長選挙をすませてからの意向を強くもっているが、それ以前に、九月中に処理したいとの方針でのぞむことにした。午前二時半散会。

9月12日（金）

一時半から旅行センターで部局長会議および対策会議。後者では計算機センター問題、とくに警官導入論をめぐって不導入はありえないか、過去の導入論はどうであったかなどについて意見をまとめる方向に努力する。午後五時半、筑紫会館で県警々備部長、東署長等と会合。警官導入を要請するとした場合、どのような条件を考えねばならぬかにつきただしてみ。小林学生課長、乾庶務課長も同席。終って小ひろに行き、午後十二時近くまでいた。今日の対策会議をみても、不導入の論拠はほとんど弱まり、過去にこうでいするか感情的かいずれかで、勢いは七：三で導入に傾きつつあるとみられる。

9月13日（土）

午前中旅行センターでおこなわれた対策会議では経済学部の高木さんが議論のむしかえしを執拗にやって警官導入反対論をぶったので、論議はほとんど前進しなかった。

午後三時から五時まで安国寺で故鬼頭教授の文学部葬がおこなわれた。各学部から約二五〇人が参列した。

そのあと「かわさき」で新開グループが集まり今後の対策など協議したが、主な結論はPRを積極的におこなうこと、評議会に対して別の形の強訴をやることであった。前者は全学にプリントを撒布しつづけること、後者は事務職員、センター職員の側で考えてみること、が中心。出席者、古川、馬場、園田、清山、奥田、上田、三隅、大野、山崎、乾、小林。アジトがほしいということになった。

警官導入賛成派の中には十月末頃というような意見もあるが、ここでは九月末を目標とすることにきまった。

#### 9月14日(日)

毎日新聞の吉野記者と会見。(毎日会館)九大の問題につき、警官導入もやむなしというキャンペーンをやってくれないかと申入れ、心得ましたとの返事。新聞関係はその動きをまだつかんでいないふうだった。

夕方、教養部に寄り、本部委員の人達の集まりをとらえ、同様の意見を開陳した。そのあと、本部委員である白水さんと相談の上、教養部教授会に対する工作を早急に強化させることの有効性と必要性を確認。明朝非公式な教官集会をもつことに決定、緊急連絡手配した。上田氏宅で検討。橋口氏も検討に参加。

#### 9月15日(月)

昨日計画した西島ビルでの集会には五〇余名集った。一〇時から二時半まで。機動隊導入について十月末説と学生の理解をまずうべきだという説の二つが慎重論として出されたが、大勢としては、執行部にまかせるということになっていたと思われる。

午後三時。本部事務局幹部と谷口さんとの話合いが同窓会館で行われているのに出席。とくに、私が出席してからは計算機センター解約の困難性が具体的に討議された。あとで乾氏にきいたら、谷口さんは六分通り機動隊導入やむなしと観念してきたのではないかという。九月末までの残された時間、全力投球が必要。

夜、拙宅で懇談。小林、乾、久綱、上田。

#### 9月16日(火)

昨日旬報社から論文集「体制的合理化と労働運動」二冊がとどいた。校正などで食傷気味であまり新しい感慨はない。

旅行センターで午後から開かれた評議会は配分予算の決定などいわば日常的な事務処理。そのあと五時からの対策会議では計算機センターの工事解約をした場合の諸問題とくに求償および事務局長、学長、評議会の責任問題に議論が集中した。法経からは、それらが大し

た問題にならないだろうという消極評価の論議が出された。警官導入反対論に通ずるための執拗だった。

夜半、昨日の教養部集会がもれて今日の教授会で大問題になったということで電話しきり。大原、上田、白水、安東。

9月17日（水）

午後一時半から教養部教授会に出席。冒頭、学生委員から一昨日の「秘密会議」云々について上田氏に対する釈明要求。これは予想どおりのはげしい憤懣のぶちまけであった。私も、事が計画される段階は秘密ではあるが、事が知られた後は秘密ではないとして、会議の経過などかなりくわしく説明し、その趣旨を明らかにした。議題のうち計算機センターや授業再開の問題の時点で教養部教授会が従来緩慢な対処しかしてこなかったのではないかとの指摘を鋭くおこなった結果、教授会の空気は急速に変わってきた。教授会で警官導入につき論議ができることが確実にになった。われわれの計画が見事に結実した一日だった。今後は押せ押せでいける。

9月18日（木）

いろいろ気になって教育学部の池田、法学部の徳本両教授に連絡して東急ホテルレストランで要談。徳本教授は電算センター建設の解約権は大学側にはないものだとすることを強調した。それでも、この報告をうけた部局長会議で、経済学部副田、法学部竹原両教授は、センター再建については態度を保留するという態度をとった。これは午後一時半からホテルタカクラで開かれたときの結末。問題を前向きに解決しようとの気力が全くない学部長、評議員、自分の決意を全く定めない学長事務取扱。この日も何としてでもセンター再建という線は出なかった。午後十時すぎ、新開グループが集まっていた浜の寮に行ったが、出るのは溜息。どうしてこんなに無気力なのか。教養部の学生委員諸君は昨日のことでリターンマッチを挑むという。

9月19日（金）

十時から参与会。主として奨学金に関する事。封鎖がこのままつづくとも十一月分から二年生は奨学金がなくなる問題。学長事務取扱に要望書を提出することになった。早く封鎖解除の手をうてということである。このあと、私は薬学部の井口参与に辞意をもらし、九月中に善処してくれるよう要請しておいた。

今日は午後早く帰宅。水浴して午睡していたら、夕方、小林課長から電話があったので、休もうと思っていた評議会に出席。経済学部と教育学部、法学部が警官導入に強く反対している。主として空想的な理論を導入したら平静をとりもどしつつある学部内が混乱するという主体性なき学部エゴイズムを武器としている。無責任な奴らである。

9月20日(土)

十時から入試実施委員会。

あとで東署と連絡。

午後一時半から評議会。昨日と同じホテルタカクラ。九月二十日が計算機センター再建について決意する日になっている。今日も法、経両学部が横車をおして再建に反対したため、議事はいたずらに遅延した。要するに、機動隊導入をするならセンター再建も授業再開も(封鎖解除も)反対だということにつける。農学部もこれに近いが、全大学が手段をつくした後にやむをえないという気持ちになるまでは導入すべきでないということである。理学部もこれに追従、薬学部もやや近い。教育学部は法経に近い。あとは導入やむなしという態度。長い審議の末「センター再建の方向」だけが確認され、その方法は後日検討することとなった。

9月21日(日)

朝小林課長から電話あり。昨夜評議会後事務局系の者が谷口さんと会った結果、谷口さんは辞表を懐にして警官導入を阻止する側に立っているらしいこと、しかし十一月には警官導入を考えざるをえないだろうとかがえていること等。・・・夜、われわれはこの展望に立って、当面の対策を考えるために会合。浜の寮。園田、古川、中村(医)、武谷、奥田、上田、乾、小林、大野。結果は谷口さんを辞職させないように極力努力しつつ、こちら側も行動をおこすこと、その前に、教養部の授業日数をつめて追いつけること、谷口さんが辞職すると面倒なことになるが、代行で処するほかはないだろうということであった。

嶋崎君から電話があり、警官導入論の先頭に立っていることに対する非難が法経陣営であがっているとのこと。これに対しては後日改めて意見交換しようということにした。

9月22日(月)

教養部教授会では電算センター再建の賛否を問い、八割余りの同意を得たが、そのために被害調査をどうして行うかについては、学生との話し合いを必須の過程とする案が強かった。この結論は、夜、福岡ホテルで開かれた評議会の大勢とも一致していた。授業再開についてはタイムテーブルのサンプルが若干示されたが結論を得るに至らなかった。ところでの今夜の評議会は谷口さんが病欠したので塚元さん(薬)が司会した。法学部が機動隊導入につながるが故に電算センター再建反対という説を固執して譲らなかったのも再建の結論は出せなかった。私は、法学部の説は「教育的拝領」過剰で事務執行的観点ゼロだと主張した。結論をどう出すかについて原案をいう者がいないのが評議会の致命傷。谷口さんが欠席すればなおのこと。このままでは九大はのたれ死にするほかはない。谷口さんは原案を出す人でもない。あとで、谷口さんの病欠は「私はまとめきれない」と遂に投げ出したということが事務局側から明らかにされた。ホテルの別室を借りて深夜事後対策を討議した。古川、奥田、山崎局長、工藤庶務部長、小林学生課長ら六人。

9月23日（火）

朝から教養部教授会は学生側との団交の予備折衝について討議。九月末日に学校側から働きかけた集会とすることにして折衝にあたることになった。午後は進学問題を討議したはずだが私は欠席。嶋崎君が拙宅に訪ねてくることになっていたから。彼との話は石川一区の選挙前哨戦の様相。それから彼は演説用に財政分析の見方を教えてくれというわけで、こまかい表を出して、それを話題とした。あと、私が警官導入論をリードしていることが左翼系周辺教授の間で不審な感をもたれているその説明をどうしたらよいのかという話題になったので、私は、思想や理論と関係なくなり、事務的に警官導入論が必要になったにもかかわらず、思想や理論ばかり言っているからこれに反撃をはじめたのだとっておいた。夕方五時すぎ嶋崎君を送り出した。彼は二十五日に家族同伴で石川に行くといっていた。新博多ホテルまで彼と同道。ホテルでは新開グループを拡大した会議が三時から開かれていて、私が着いたときは散会、残留者がいくらかいた。古川、園田、局長、庶務部長、同課長、学生課長。部局長連としては参会者は、入江医学部、中村文学部、佐々木教養部、江渕および岡部両所長、上田氏らだったらしい。谷口さん入院問題にどう対処するかを練ったという。あとで事務局連中と小ひろに行く。日程を少しくわしく検討。

9月24日（水）

十時からの入試審議会は世話人をきめたほか、入試ができるか否かが最終的に問題になった。谷口さんの代わりに竹原法学部長が議長をしたので、この問題を積極的に評議会にのぼせる点で鋭さがなく結論になってしまった。（旅行センター）

午後参与会。（三畏閣）

工学部正門の封鎖解除と再封鎖をめぐって学生間のいざこざが起こり内ゲバの様相を呈しはじめた。民青系の理論ではどうにもならないところにきているのに。

夜、福岡国際ホテルで部局長会議。議論がまとまらないときは学長事務取扱に一任すべきだとの意見が出たが一致せぬまま。しかし、警官導入と反対の両論がまともにぶつかって前者が八割以上にまで勢力を拡大してきたことは確かで、あと、これをどう実践にうつすかの手続論の段階に来たというべきであろう。月末までに各学部で学生対策をはじめ内部の意見調整が進むだろう。警官導入は十月五日頃までとの見とおしがついてきた。

9月25日（木）

午前中協会支局に行き、著書の献本の事務をおこなった。合計四〇冊をこえそうだ。午後、私の学生部長辞任意思表明の問題で薬学部の井口、農学部の藤川両参与と藤川研究室で合う。明後日参与の懇親会を開くことにする。教養部の教官会議はまだ予備折衝のことで論議している。相手の学生がどんなものか見きわめなおすのが先決ではないのか。平和的方法があるというのは幻想ではないのか。同じことが評議会についてもいえる。夜福岡国際ホテル

で開かれた評議会は農学部長井上氏の司会のもとに全く話にならぬほどであった。一方で二、三の学部で学生との交渉のなかから警官導入の確認書を交わしつつ、その線で平和方法の道を論議している。力なしに平和がありうるか。話にならぬので中坐した。

9月26日(金)

問研運営委。同総会。(第八回)

夜、小倉地区労働学校。

この段階にきて警官導入を考えない平和的方法の追求、説得方式はありえないのに。評議会があえてこれを追求しようとしていることに腹が立つ。噂によれば井上正治氏が評議会内部の警官導入論に対して巻きかえしをやっているという。八：三の劣勢を六：五まで挽回したといったともいわれる。正田氏の強いテコ入れがきいていることも最初から明らかである。正田、井上ラインの三原則が今では障害物であることは理くつとしては誰の目にも明らかになっているのに。頑固な拒否をしているのが法経両学部評議員である。評議会や部局長会議に出席すまいと考えたが小林君のすすめもあって夜おそく部局長会議をのぞいてみた。議論は進まず、曇後晴また晴後曇の情勢。

9月27日(土)

午前中県警に呼ばれて小林学生課長と共に旅行センターで主として教養部の屋上写真を中心に情勢について意見交換。ヘリコプターからみた本館屋上のあれ方はひどい。午後入院中の谷口さんを訪ねこの写真を披露。谷口さんはしばらく出勤できないので代理をえらぶことが今日の九大の主たる話題となりそう。この代理代行は重大な決意と行動を示さねばならぬ人である。

午後四時半から黒田荘で参与会とその懇親会。教養部の写真をここでも披露し、かつ、学生部長辞任の意思表示をした。しばらく席をはずして辞任問題を論議してもらったあと、当面慰留という線が打ち出されたため、私もこれを了承し、あと八時半頃まで懇親会。

そのあと教育学部の三隅氏と中洲のスナック鈴に行く。そこで三隅氏の集団心理の説をきき、私の五人組理論に共鳴してもらった。また、九月十五日の教養部の「秘密集会」による世論逆転の実践をぜひ記録化せよともたのまれ、久しぶりに面白い一夜であった。

9月28日(日)

散髪してせいぜい。午後一時半から福岡国際ホテルで部局長会議と評議会。主たるものは谷口事務取扱入院中の評議会議長の選挙。医学部入江教授一〇票、農学部井上教授四票で決定。(部局長による投票) この問題では朝から古川病院長と電話連絡をし、入江氏への投票の集結を努力したのだった。井上氏に決まるなら、大学問題の解決に時間がかかりすぎるに違いないということである。古川さんは薬歯両学部にとくに努力してもらった。評議会では昨



日県警から入手した写真を披露した。効果はあったろうと思うのだが。まだ一号も出てない大学広報。PRがこんなに遅いのでは問題が残る。明日一号印刷という。

#### 9月29日（月）

どんどん日がたつ。明日は教養部地区での団交、工学部地区での民青系の決起集会が予定され、危険が予想される。昨日の決定にしたがい、新議長の入江さんと小林課長と私が県警々備部長らと会い、万一の場合の警備について、谷口さんの名で、準備を要請する。西署と教養部首脳との会合も午後おこなわれた。

警官導入は社会主義思想と矛盾するということで私を名ざして非難したビラが教養部でまかされている。十数日前に生協の理事である石見とかいうのが二人連れで深夜訪ねてきたときに、私が話したことを、真偽とりまぜて、モニタージュ人間奥田をデッチ上げ、タイムリミットをこえた封鎖破壊をいいつくろう非難書である。相手にする必要は感じない。夜はシティホテルでの会議。新しい入江議長は司会ほうまいが評議会は相変わらずの麻痺。

#### 9月30日（火）

大学問題は「鳴動」しはじめた。教養部では午後二時からの大衆団交。これは三派系の教養部闘争委員会の要求を丸のみにした条件のもとで開かれた。工学部地区では民青系の決起集会が小雨を衝いて記念講堂前で開かれた。そして後者は一時半開会後間もなく集会を工学部本館方面に移動させたかと思うと、教官側多数の制止もきかず三時頃までの間に、工学部本館、本部本館、本部正門のバリケードを解体し、勢力を建てなおして大型計算機センターのバリケードもとりこわし、記念講堂、工学部本館内から押収した火炎ビン数百本をセンターバリケード資材とともに消却してしまっただけで、理学部内にたてこもった。動員数約二〇〇人。他方教養部地区に移動していた三派系は大衆団交を午後九時頃までに打ち切り、文学部地区に結集しなおし、バリケード再封鎖を策しながら夜を明かした。その数は同じく約二〇〇人。教養部団交では「奥田を出」せとせまりつづけたが、私が拒絶したので本題に入らぬまま、箱崎地区に気をとられて、団交を比較的早く打ち切ったので、事なきをえたようだった。

#### 10月1日（水）

外人宿舎に投宿。帰宅すると危険だとひとがいうから。よく眠れなかった。眠れぬままに考えることは、警官導入と大学自治は矛盾しないのではないかという論法。学生部長の肩書きを用いてか、外してか、新聞に投稿してみたい気になった。朝起きて林病院に入院中の中村正夫君にそのことで電話したら、学生部長を辞任してからでないともまずかろうという。この話はそれで切れるが、今日の朝日新聞には、私の辞意表明が報道されている。昨日も参与の井口教授が、辞めないでほしいと念をおしているし、今日、浜の寮で開かれた評議会でも入

江議長から、自分もあと二〇日ががんばるから君も辞めないでほしいといわれた。警察からもそのことで問合わせがくるし、私に身辺護衛をつけようかともいう。結局しばらくがんばってみることにする。

夜、林屋ホテルから高橋正雄先生の電話があり、訪ねて歓談した。

十時半また外人宿舎に投宿。

朝の小林課長の電話では昨日の民青系による封鎖解除が早朝全くもとのままに再封鎖されたという。三派系は民青にくしで怒りにもえている。民青二人が拉致されたまままだ帰されぬらしい。（法文系）昨日、民青の解除が成功したとき、九大も民青ラインが確立し、警官による解除の線が勢力として遠のいてしまったと思った。それは決してあるべき姿ではないと考えると腹が立ち、民青による解除に拍手を送る評議員がにくらしくて早々と評議会議を引揚げ宿舎で就寝してしまったのだが、三派系による再封鎖ときいてさもありなんと思った。事務局長らの意見も大体同じ。再封鎖をよるこぶわけではないが、昨日拍手を送った者の今日の顔の変わりようが見たかった。大学の秩序は警官導入よりほかにありえない。それにしても再封鎖を見送った民青系はどうしているのだろうか。

10月2日（木）

ひる間のはのんびりしていて、千代町の林病院に中村正夫氏を見舞にゆき、すずめによって健康診断をうけたりした。胸のレントゲン、心電図、尿検血検などは異状なしという。原田溥君も見舞に来た。中村君には拙著を贈呈しておいた。

午後四時少し前、はじまりかけた教養部教授会の会場に反代々木系の学生が乱入し、上田、大原両評議員をはじめ約四〇人の教官が学生会館に連れてゆかれたという連絡があつて学内はにわか緊張した。入江先生上京のあと井上先生が議長となり部局長会議を統轄されたが深夜になるも救出方法なし、連絡社絶。部局長会議では警官導入の場合の諸問題を一般論として議論しかなり深められた。教養部の徹夜かんづめは明朝以後の様子を見守ることにした。

内部では警官導入論を終始追及している模様。熊大から学生四〇名来たともいう。いわゆる外人部隊が行動をリードしているようだ。

10月3日（金）

午前九時半、林病院に胃の透視検査に行く。結果は異状なし。十時半から同窓会館で参与会。連絡委員に四名の参与を教養部に派遣する。私も評議会議に出席。（午後）

教養部の教官多数は昨夜のうちに帰宅し、大原、上田の両評議員と宮川さんほか一名が残ったようだ。昨夜大原氏は救急車がさし向けられたが、上田氏と行動を共にするとして、学生会館の和室で二人は休んだ状態でがんばりつづけた。宮川さんほか一名が代わって学生の追及をひきうけていたようだ。夕方には教授会が開かれていた社会福祉センターに学生一

〇名がおしかけてきて、あくまで団交拒否の不当を追及した。

かれこれあって午後新博多ホテルで開かれていた評議会は入江議長のもとに警官の出動準備を要請するに至った。機動隊四〇〇が動きはじめたとの報が伝わったため学生側はカンヅメにしていた四名の教授を釈放した。これは午後七時頃であった。二七時間の軟禁であったが、大学側は遂に警官導入を拒否させる団交には応じなかったことになった。外人宿舎に投宿。

10月4日（土）

朝寝坊した。庶務から私の部屋に約束の広報用原稿を取りに来て目がさめた。早速原稿「教養部封鎖の現況」を書く。十一時からホテルタカクラで開かれている部局長会議にはおくれで参加。近くの平和台セミナーで開かれている教養部教授会に出席。ここでは教養部闘争委員会を今後交渉の相手としないことを決定したのち、学生集会をどう開くかについて討議したが本部委員会原案は過半数をえられず棚上げになった。これが警官導入の地ならしとみられた点がまずかったようだ。原案作成委員を別途選出、本部委員を加えて明日の教授会までに原案を作ることで一致散会。五時半。

あと、江嶋、城野の二人とコーヒをのみながら話しあう。帰宅。

10月5日（日）

朝上田君から連絡あり、新聞に教養部全学集会予想記事が大きく報道されていることが今日の教授会で突破できにくい情勢を作るのではないかと心配。早速、私も平和台セミナーで開かれている本部委員会に顔を出し動向を注視することにした。同窓会館では本部々課長会議によって警官導入時の学内体制を検討している。平和台セミナーでは教養部教授会が再提出された学生集会の原案を検討する。

午後二時半から五時半まで筑紫会館において県警と事務的な打ち合わせを行なった。種々検討した結果、教養部地区では護国神社の秋の大祭が十月九日、十日におこなわれて付近が混乱するであろうから機動隊の導入は十月十二日が適当であるということになった。

だが教養部教授会の動向は、クラス担任による学生との接触から積み上げてゆくという方針をとることになったため、それに一週間を要したあと、さらに一週間をあてて教養部全体集会をもとうとしていることが明らかになった。だから教養部の態勢がととのうのを待っていると、決行日は十月二〇日頃になってしまう。このため、「かわさき」でさらに戦術会議を開き、教養部もできるだけ十二日頃にまにあわせるよう申しあわせた。

入江、中村（文）、遠藤（育）、園田（工）、牧角（医）、佐々木、上田、奥田（養）、小林学生課長、乾庶務課長

教養部教授会のスローテンポにはおそれ入る。

10月6日(月)

六日というタイムリミットの日がきたが教養部教授会の動向にはそれらしき責任感がみうけられない。

早朝帰宅して、十時から那の津荘で開かれる問研の研究会の準備。

川口氏に電話したところ、私の警官導入論、ことに九月十四、五日の行動につき非難があつたので、社会科の連中の無責任な発言には対決してもよいという返事をしておいた。

那の津荘の研究会は公務員賃金斗争について。録音する。三時半まで。

夜、協会の集会所で理論グループの研究会。私の学生部長進退論がとくに議題となる。数日前から大坪君が警官導入は私が辞任したあとにせよということをめぐる、六時間近く論議したが、結局、協会運動の将来を考慮して、以後積極的に行動せぬことでケリ。相原君はわたしの論理的責任論に結局同調してくれたのだが、大勢は世間が無理解なのでまずいということだった。

10月7日(火)

昨日も啓二がまた怠学問題をおこしている。一年前と同じではないか、幼稚なことだ。

午後は参与会。警官導入問題を論ずべきところ、慎重手続論とタイムリミットとの関係、教養部封鎖解除と他の部分の解除との関係等について議論していった。私は議長席から降り井口参与に議長をやってもらった。夜の八時頃まで議論したが結論に至らず福岡ホテルで開かれていた評議会でも結論らしい報告はできなかった。評議会でも入江さんは四苦八苦している。十二日論があやしくなってきたようだ。とくに教養部にきめ手がないのが致命的である。

10月8日(水)

九月末に教養部にばらまかれた私に対する非難文に対する回答文を書いた。昨夜上田君がアドバイスしたことだった。十時頃から書きはじめて午後三時までかかった。五〇〇部ガリ版刷りにして学内にばらまくことにした。かれらのルンペン性がよくわかるように、また、社会主義と警官導入、大学と警官導入は矛盾しないということを明らかにしたかった。

中西君にさそわれて、夜有田に行き、川棚で鯛釣りをすることになった。明日は学長選挙の予備選挙人の選挙だそうだが、今後しばらく大学の正式の会合にはできるだけ出席しないようにする。

10月9日(木)

五時半起床。朝食をごちそうになって車で川棚へ。中西家は父子、川添氏と私が来客。大村湾の船遊びの気分はよかったが、かんじんの鯛釣り場の西海橋下の瀬戸は大変な荒れよう。これでは釣どころか船の沈没の危険もあるという判断で断念してひきかえす。心づかいの

さまざまなごちそうは、中西家の台所で披露ということになってしまった。お互いに碁を打ったりして時間をすごす。帰りには茶碗や皿類を手にはげられないほど一ぱいみやげにいただき再計画を約した。十一時帰宅。

中西君のお母さんは、私が行くと、健康をすっかり取りもどしているように見え、親戚が来たような親しさがするといってくれたのでホロリとした。

#### 10月10日（金）

朝うちを出るときに中島敏子さんが、群馬の父から梨を送ってきたかどうかを電話でたずねて来たので、昨日以来立派なのをいただいている旨返事し、立ち寄って下さいといっておいたら夕方立寄ってくれた。小原さん（地学）が昨日のクラス討論会は何とか切り抜けられたと電話してきてくれた。ていねいな人だ。十二日決行ができるよう最後の努力をしてみたが駄目だった。平和台セミナーでの教養部本部委員会に出てみたが十二日は教官会議の日とせざるをえないという。民青系が評議会の警官導入決定の雲行きをきいて二〇人ばかり予定会場のシティホテルに押しかけ四人ほどをつかまえて問責したらしい。会場は部局長会議のあとすぐ変更されて、浜浜の愛宕山荘になっていたのもので評議会そのものは難なきをえた。入江さんが決定を押しきろうとしたが、理農系からはばまれて、決定は明日の各学部討議の後にもちこされてしまった。

十二日予定がくつがえったので県警はひどく立腹したという。工学部の態度がにえきらず、教養部が引きのばし日程をもち、評議会の決定が保留されたという三要素が重なったからである。

夕方帰宅し、出かけようとしていたら、六本松電停付近で革マルのデモ帰りの一群と出くわしつかまるかときもをひやす一幕もあった。外人宿舎へ。

#### 10月11日（土）

直美ちゃんが左手を骨折した、広橋整形外科にかかる。（夕刻）

私は午前早く九大病院整形外科の山本助教授に右足のひざ関節につき診断をうける。リユーマチかと思ったがそうでないらしい。それでも会議に出ていることがつらいほど足がだるい。

十時から「かわさき」で県警と最終的に打合わせ。（本部首脳）来る十四日に決行するほかないことに固まった。

午後六時から二日市大丸別荘で評議会を開き、今日夕刻までに各学部教授会で審議された警官導入についての意見集約。法、経、理、農、歯、薬がどうもすっきりせず、ことに法、理は、理由にならぬ理由をあげて最後まで反対してつっぱねた。入江議長はそれでも賛成多数とみなすということで押しきった。法学部の手島氏が強硬採決だと抗議する一幕もあった。

会議は十二時をすぎたが、まだ不確定要素が多分にある。十四日という期日にどうせまるかが不安。一寸刻みの引きのばし作戦が功を奏するなら入江議長は投げ出すかも知れない。大丸別館に投宿。

【欄外記入】

変形性関節症

10月12日（日）

大丸別荘の庭を散歩、また午後二時からは遠藤教育学部長と文化会館の現代日本美術展を見、須崎公園を散歩する。秋晴れの日曜で、街ゆく人の平和と環境の美しさに接して、すさんだ心が洗濯されたような気がする。「かわさき」に陣どって本部事務首脳は警察との連絡、対策機構造り、などに忙殺されている。対策本部の仕事、評議会と今日もあわただしい一日である。私は午後文化会館に展覧会をみに行ったついでに宿舎に帰って休む。昨日も出すぎたようだから後方に退くことにする。

ひる頃、那の津荘で開かれている教養部本部委へネジ巻きに行ったが、今日の評議会で教養部がどう発言するかで十四日の決行が大きく左右される。

警固神社で開かれた教養部教授会は 72 : 27 保留 15 の大差で評議会決定に従うことになったという。

「かわさき」で開かれた評議会は警官導入当日の大学側の隊形の大綱を承認、日程については明日にもちこした。

10月13日（月）

朝刊各紙は九大が機動隊導入の要請をおこなったと大々的に報じた。正式に要請することを評議会が決定する前のこの記事をみて当局は青ざめた。今日の評議会が無事乗りきれるかどうか。しかし午後七時から博多グランドホテルで開かれた評議会では、日程の提案説明がおこなわれても、反対の声は一つもなく、日程上の疑問が出されたにすぎなかった。あとできいてみると、もはや反対でもあるまいとあきらめてしまったのだという。午後二時からの参与会（旅行センター）において私が前もって日程の説明をすとして了承を求めたときも意外に時機の早いのに驚きの色はかくせなかったものの、反対意見はでなかった。とうとう来るべきものがきたのだし、長い間の苦労の末、決して容易には片づかない新しい問題への区切りがきたともいえる感慨。機動隊三千六百は準備万端ととのえているという。報道関係もわれわれ同様夜を徹しての緊張ぶり。

午後十時から十一時頃にかけて四地区一せいに立入禁止、入構滞留禁止の措置に出た。教養部本館の要塞化はこの二、三日一きわ進んだ模様。上空はヘリコプターがさかんに舞っていたとか。

10月14日（火）

ゆうべ二時に寝て今朝六時、宿舎から正門までゆくともう機動隊が門を堅め、事務部、図書館中央講堂、外科研究棟の封鎖解除、実地検証を始めていた。門でのトラブルの外は誰一人抵抗せず。七時すぎには教養部に行ってみた。ここは数千人の見物人に囲まれてトリゲ化した本館の攻防戦がすでに展開されていた。催涙ガスで目をやられたので九時すぎには工学部地区にとって返した。通用門をはさんで民青系と警官隊が通せ通さぬのもみ合いをしている。理農地区は自由通門を許しているので、全体が均りあわずよけいにもめている。米軍機の残骸はもち去られて板付基地へ。一〇時四分には教養部も落城したとか。全部市街のゲリラもこめて六本松地域での学生の被逮捕者は三七名だそう。すべてが予想外にかんたんに終わったようだ。これからの秩序維持が大変だろう。被逮捕者の内訳は封鎖者十六、別府橋一帯で十四、正門付近、鳥飼派出所で各二人。午後は宿舎に帰って休んだ。新聞報道による逮捕された十六人の学生の内訳はSFL四、革マル三、反帝六（うち女一）、中核三であった。

10月15日（水）

新聞によると昨夕また学生ゲリラがあつて新たに十一名逮捕され計四八名うち五名が女だという。正午頃教養部の事務部が移っている合屋外科に行き、あと中村正夫君の紹介で、法学部の水波君と私の紙上討論を計画している山下記者と、そのことで打合わせのため電車通りの喫茶店に入ったが、出たところで反戦学連系らしい学生数人につかまってしまった。警官導入の張本人だということ、九・三〇団交になぜ出てこなかったかということ、警官導入を大学がいい出したので封鎖の強化、内部の破壊が大きくなったということなどを主張して、封鎖と破壊の不当性を蔽いかくそうとした。路上でかれこれ一時間以上も大声でやりあっていたら交番の警官、パトロールの警官、私服などがきてもうやめると中に割ってきた。取り巻いていた学生は三〇名ぐらいいただろう。十月中に団交を開けば出席するという条件で分かれた。五時の列車で大分県の豊後高田に行く。中之島旅館投宿。

10月16日（木）

大分県高田支部教研全体会議講演会。十時～十二時。「専門職としての教師の地位について」丘の上にある中学校は環境美しく全く気に入った。昨夜は執行部の者が二人おそくまで夕食をつき合ってくれた後、今日の講演の準備のための読書が深夜に及んだため少々ねむかったが、希望により講演のあとは富貴寺、真木大堂など観光案内のドライブになった。何年か前に教養部の教官旅行にも同様に秋の国東を似たコースで来たのだが、今日あらためてみる富貴寺は大変によかった。真木大堂は立派な鉄筋建造物につくりかえられていた。県教組委員長の司城氏も同道してくれた。途中でみやげに岩松を何株かかって荷造りした。午後四時半頃宇佐の四日市にある県教組宇佐支部書記局に行き、活動家数人としばらく歓

談。

旅館「花岡」に投宿。はやく寝た。

10月17日(金)

新聞報道では入江さんが退官の意思表示をしたが評議会、医学部教授会はこれを慰留したという。(十六日)また医学部事務部に対し五十一名のデモがあり全員逮捕されたとか。さらに医学部の教官会(助教授、助手)は教授会に反対して日、宿直拒否をやっている。

朝十時から宇佐市長洲小学校で大分県教組宇佐支部の教研集会の講演「現代社会と教育」。午後四時すぎに福岡に帰り、西日本新聞の計画により、法学部の水波、教養部の中村正夫両氏と九大機動隊導入の是非とその後の展望について座談会。私と水波氏とが導入の賛否に分かれ、中村氏が仲に立つという形。後日紙上に発表される。座談会のあと一席もうけられていつとはなく酔わされてしまった。西日本新聞社、文化部山下記者、同文化部次長有吉氏。

10月18日(土)

大分県教組玖珠支部賃金学習会。午後二時—四時半。豊後森農業会館にて。支部執行委員長高浪氏と別れぎわ、駅前のスシ屋で運動の核づくりについて話し合い。とりあえず社会問題月報をテキストにして十人ぐらいのグループを作ってみたらということになった。

明後日は同じく大分県教組の速杵支部に行かねばならぬので、原稿を書く。時間をつくるため、別府に二泊することにした。七時半別府につき、温研の事務長の世話で近くの若鶴荘に投宿。

夕刊によれば反帝系の学生らが東京では首相官邸と自民党本部を襲い、福岡では県庁本館屋上に横断幕を張り火炎ビンで抵抗したという。東京の一五人と福岡の四人はいずれも逮捕されたが、福岡のは九大封鎖解除後の街頭ゲリラ化したものだといわれている。夜は原稿に着手。

近頃労働講座で話している私の問題意識をシェーマにすると次の通りになる。去る八月二十二日城島ホテルで大分県教組に話した内容が速記メモになってプリントされているが、そのなかにもこのシェーマがでてきている。今度の『社会主義』の原稿にもそれを取りあげておいた。労働運動、社会主義運動を説明するのに便利である。

|    |     |     |
|----|-----|-----|
|    | 対外的 | 対内的 |
| 政治 | 安保  | 改憲  |
| 経済 | 自由化 | 合理化 |

10月19日(日)

宿で原稿を書く。昨夜から少し頭痛を感ずるが大丈夫。

午後付近の九大温研に行ってみる。その広大な敷地におどろいた。ソ連旅行をしたとき、ソ



チで見学した温泉治療所を思い出す。日曜で出勤者はなかったが、案内してくれたのが当直の事務員らしい。本館の裏側に鉄筋の建造物を造営中だが、病棟らしい。見学が終わって別府の町にしばらく出た後予定の豊泉荘に行く。昨年七月の改築らしいが、全く装をかえた鉄筋の近代的な保養所になっている。入浴してまた原稿にとりかかる。——ちょうど午後十二時、原稿終る。五三枚。

10月20日（月）

杵築市の宗近中学校でおこなわれた大分県教組速杵支部の教研集会の講演。「専門職としての教師の地位」。

午後四時博多に着き、昨日仕上げた原稿を博多郵便局から発送。

すぐ学生部に連絡。対策会議にひきつづき評議会が福岡国際ホテルで開かれるので出席。計算機センター再建にともない予想される妨害につきどう対処するかを警官を用いる場合を検討。また、とくに評議会では米軍機の強制撤去についてその経緯のつじつまをあわせるため当時のもようを論議。学生から詰問されたらどう答えるかの演習みたいなもの。こういうことでやはり多くの時間と労力をつかっているのが現状。教養部本館の荒れ方は想像を絶している、ということである。

10月21日（火）昨夜から一寸小雨

機動隊導入後の教養部本館にはじめて入ってみた。筆舌につくし難いという言葉は、この惨状のために留保されているように思われる。重苦しい気持。——はげしいひたすらな破壊のエネルギー、しかも目的があろうとも思えぬ破壊。すべてあるべき形をとどめたものはない。黒こげの中央階段、屋上は催涙ガスの刺激がなお強烈に残っている。午後、参与会を浜の寮で開いたがこの惨状の確認のため、全参与にみせる時間を作ったので、事後処理について（デモ、集会、ビラ、団交などのあり方について）討議するのは明日に譲った。三号館における上田さんの教室付近の落書もひどいもの。ともかくどうすることが事後の秩序回復になるのか頭がほんとうにぼうとなってしまう。当惑という言葉が適当であろう。機動隊を導入したからそうなったのだという反論を何回くりかえして頭に浮かべてみたことだろう。それでも、機動隊導入はやむをえなかったということは今でも肯定するし、むしろもっと早く一気にやるべきだったとすら考えてみる。機動隊を入れることになったら、彼らの正体がこんなものだったと証明しうるような行為に出る、そこにかれらの本質があるではないかと考えてみる。

国際反戦デー。東京は荒れている。

10月22日（水）

教養部研究室の惨状は火災で灰になったと思えばあきらめもつくが、人間のやった破壊だ

けにあきらめられない。これまでの人生が全部ダメになったような気分にする。

十時から午後の三時半まで参加会。今後の警備、記念講堂使用等について討論したが、中でも「団交」についてはかんたんな文書の形で参加会の意見をまとめた。この際は従来の無原則的な対応を反省すべきであるというのが大方の意見であった。

新聞によれば一〇・二一で新宿など大きな動揺で街頭は荒れ逮捕された学生一四〇〇人ばかり。社共両党と総評の一日共闘は整然とおこなわれた。警視庁調べでは全国で四六万人、主催側発表は七〇万人の統一行動であった。

先日のやりなおし、有田へ鯛釣りに。

10月23日（木）

一彦がおくれて早朝四時頃有田に着く、六時すぎ出発。風波が心配されたが、この前よりはましということ。今回は中西老の方は参加せず。（頭痛ということ）漁の結果は、船頭の説明によれば中漁。波は少々高かったが全体として平穏。一彦、私、忍君の三人は途中でやや船酔いした。私ははじめさっぱり釣れなかったが、ペースが早まり、通常の成績、ただ、終りに近い頃、本日の大物賞ともいべき三五センチ大の「かれい」を釣った。よくも水面まで釣り上げたと感心。はじめは地球を釣ったような手ごたえだったのに。午後五時頃帰宅。（中西家へ）。私らは夕刻の列車で帰博するよう主張したが、たつてのおすすめで、一彦とともにもう一夜お邪魔することにした。赤ら顔に陽やけして、少しひりひりする。奥さんが丹精こめて、小鯛の腹わたを全部とって整理してしまってくれたらしい。

【下線部は欄外に線を引き「一〇月九日」と註記】

10月24日（金）

九時二〇分有田駅を立ち、十一時過ぎに博多に着く。車中、福岡県消費者大会（第三回）に出席すべき義務のあったことを忘れていたのを思い出す。この大会は十時から午後三時まで。（婦人会館で）分科会は物価問題と有害食品問題の二つ。前者では国鉄運賃や米価、後者ではチクロ製造中止の問題がクローズアップされた。

午後五時から新博多ホテルで評議会、対策本部会議。機動隊導入後なかなか平静にならぬ医学部、教養部の状況が問題になる。教養部が十一月十日から授業再開にふみきる予定であるとの発表があった。

啓二がバイク事故で林病院に入院。頭の傷は軽いだらうという。

午後十時四五分発の急行第二雲仙で京都へ。（協会中央委員会のため）

10月25日（土）雨

和邇浜青年会館（ユースホテル）に着いたのは正午少し前。博多を出るときは芳井君と二人づれだったが、大津で平方と、浜大津で中西の両君と一しょになり、四人で一しょについた。

雨が降る湖畔。

協会中央委員会はおくれて三時半から開会。経過報告（大坪）、情勢（八丁）、党変革協会運動（大坪）、労働運動（渕上）、青年運動（松本）の諸氏からそれぞれ報告提案があった。方針は、以前のテーゼが内外情勢の急変を予想していなかった時に書いたものであったため、今日の情勢に合ったものを作りかえる前に、とくに七二年の危機に対処するという意味から、二、三年さきまで展望したものを出しておこうという意味で、提案されたものである。太田顧問も出席し、適切な助言をした。午後九時休憩に入る。七二年までに協会員一万人体制をつくろうという大坪君の提案。半年の間に五〇余人の班協を作った福岡全通の今永君の報告には、みんなアッといった感じ。

10月26日（日）

午前九時から昨日につづいて討議。

党変革について議論が集中された。

社会タイムス六六〇〇部、すくらむ六三〇〇部で、両方とも採算がとれるようになるにはもう一ふんばりというところに来ている。社青同では協会派が、脱落派と反戦派に執行部を渡したため、協会としては青年運動としてとくに社青同を重視することはしないことにした。但し、青年運動そのもの重視は変わらない。当面の行動としての一一・一三について、協会としても積極的姿勢でとり組む。午後四時に中央委員会は終了。あと青年対策会議がもたれる模様。

五時半の急行で、名田、大坪の両氏と金沢に嶋崎君の奮闘の応援に行く。九時着。形勢をきいてみると見込みはかなり濃厚になってきたという。周辺に労働組合の活動家が相当ついてくるようになったようだ。県議など数人とスッポン料理、岩菜の骨酒という生まれてはじめてのものをごちそうになり、石川県職員会館に投宿。

江若鉄道廃止が十一月一日になっていて、その記念乗車券を買う。

10月27日（月）

石川県社会党本部、県評の主たる役員に、しかるべき会合の場を作ってもらい、嶋崎君の選挙についてよろしくとのお願いをする。県本部委員長の高倉氏が、時間をみつけて兼六園を案内してくれた。名田氏と二人だったが、一つには名田氏が植物のことをよく知っているのに驚き、二つには兼六園がさすがに名園といわれるだけの立派さを誇るに足ると驚歎、三つには県庁付近の金沢市の優雅なたたずまいに感じ入る。兼六園のようなところは何回も、ゆっくり見るほかはないが、それには所用なく、一週間ほど滞在するにしかずだと思った。夜は嶋崎君の寓居を訪ねる、大坪君と。今日は名田氏だけがあとに残ることになっている。どこかは知らぬが川端の、昔の遊廓らしい料理屋に案内され、列車の時間まで飲んだり歌ったり、午後十一時四〇分金沢発寝台車。

嶋崎君は善戦しており、県評傘下の単産がいま一息力を入れて選挙活動が地についてこない、まだ安心しておれない状況、だが本人はしごくのん気で元気一ぱい。

#### 10月28日(火)

予定通り早朝五時に大阪に着き、さがしあててサウナ風呂につかって時間をかせぐ。からだ生きかえったようではあったが、さすがに眠い。八時一〇分に立ち、九時五分に板付空港に到着。ここで大坪君と分かれ、電話連絡の結果、大学に直行。

十時から入試審議会(旅行センター)。入試募集要項を決定したが、教養部の授業再開の見込みがつくまで対外的に発表しないことにした。本学地区は医学部もふくめて正常化の途を歩んでいるようだが、教養部は、いま、荒廃した本館の整理、修復に大わらわ。十一月十日からの授業再開の見込みも甚だ微妙。

四時頃帰宅。啓二は退院したらしいが修学の気持をだんだん失いつつある様子。今週中欠席するといつて昨夜もどこかへ行って帰宅しなかったそう。自分で自分を作っていることにだんだん気がつくだろう。

教養部の研究室の跡かたづけをしようとしたが暴力派学生が門の周辺にいたため入構せず帰宅した。

#### 10月29日(水)

午後四時頃判明した結果によれば学長選挙に医学部の入江教授が当選した。有効票のうち入江五七五、池田五〇五で七〇票の僅差であった。手腕という点では池田氏を、機動隊導入による問題解決の決断力という点では入江氏が買われていた。前者が柔、後者が剛という評もできる。

午前中は研究室の整理。主として三池の資料を中心に、棄てられるべきゴミ山のなかから、生かしうと思われるものを救出選別した。しかし、再出発するほかないほどの荒れようである。人生前半の研究は終止符をうつべく強要された感じ。

午後参加会。主として寮問題、小畑記念林焼失後の植樹問題。

夜、「かわさき」で、一段落を祝しての慰労会。事務局長、庶務部、課長、人事課長、学生課長、佐々木、上田、私の教養部組、他は文学部、医学部は予定されていたが欠席。

#### 10月30日(木)

朝のうち、朝日新聞社の森脇記者が来て、入江さんが総長候補指名をうけるかどうかをめぐって私の意見をただしていった。

午後一時から教養部教授会に出席。一ヵ月ぶりというほど久しぶりではなかろうか。授業再開をめぐって物的にも人間関係としても、教養部は苦悶をつづけている。学生大会をもってストライキ解除の決議をすることが先決だという立場に立てば、この大会をどうもつかで

ある。学生委員会の方では十一月十三日に記念講堂でという自治会側の申し出に添って事態を進めようとしているが、記念講堂は使用禁止の状態にあり、スト解除の動きをもつ学生大会は暴力沙汰をひきおこす可能性があり、ましてや十一月十三日は佐藤訪米阻止の全国的な統一行動の日である。このような悪条件があるのに、これらを克服した大会がもてようとは思われない。使用禁止の記念講堂の使用をめぐるまず私と学生委員会側の意見は対立した。

10月31日（金）

教養部本館の再建にけんめいの努力がはらわれているが、並大抵ではない。ともかく、内部は若干の書籍を除いて原形を保っているものの、再度の使用にたえうるものはほとんどないばかりか、教室に備えつけた机、黒板側壁、便所の便器すべてが破壊されていて、いわば鉄筋の骨格だけしか残らないということだから、まずは瓦礫という言葉は古いが、これに類する諸物品の残骸の整理から取りかからなければならない。今日あたりは主として職員の努力、教官の協力によって、清掃業者を中心に備品類の取り片づけが下から四階にまで及んだところ。一号館にも入ってみたが、二、三階の各教室は全く使いものにならないほど机がとりはずされている。ケヤキの乱伐が一号館の南側だけかと思ったら北側にも及んでいるのにびっくり。学生掲示板に二十二日の一日解放のとき左翼が書いたらしいストライキ貫徹、警官導入非難のアジ文書が白々しいひびきをもっている。

午後、久留米高教組支部教研講演。

十一月予記

すべては一〇日の授業再開に向けて。

しかし、恐らく一〇日が一週間ものびるのではないだろうか。学生たちがかんたんにおちつくとは思えない。一三日の統一行動、そのあとの佐藤首相の訪米阻止行動というように、一月もまた政治の季節ではある。

11月1日（土）

鹿児島に往復した。午後一時からの鹿児島自治労県本部青婦部の労働講座。一一・一三の統一行動に向けて。城山共済会館。

往復の列車の中で二月におこなわれた昨年後期の試験の採点を試みる。一〇月から授業再開というのでそれに備えてであるが、大へんできが悪い。ボロボロ欠点がつく。

11月2日（日）

加茂君から新築転居の知らせがきた。みゆきが鳥取に腰をおちつけなさるつもりかいなといった。

何だかごむさたしていた関係で第二協会のことが連想され、いまわれわれが当面している島崎君の選挙カンパもふくめて、大量のカンパ借金残があることを思うと、分裂の時に負っていた協会の負債を全部なすりつけて出て行った第二協会の行為が憎らしくなってきた。川口氏の顔も連想され、どうも苦楽を共にすることはできないという気がよみがえってきた。

問研から依頼されおくれおくれになっている経済学入門の分担原稿にとりかかる。

大学の方は今日明日一休みということらしい。久しぶりに在宅していたら直美が動物園につれて行けと行ってまきついで来た。「小学二年生」十二月号を買ってもらって連休の気のゆるみをまぎらわせ、夜おそくまでそれに熱中している。

つつじが来年のつぼみを準備し、きんかんが二〇余りになって色づきはじめています。松が手入れを待っているほか、庭の草木はみんな成りゆきまかせの荒れ放題である。しかし、しばらくこのままにしておこう。大学問題と同様に、何とか目鼻がつく時がくるだろう。秋探しといった感じ。

11月3日(月)

毎日会館に『はかた展』をみに行く。福岡市制八〇周年記念。帰りに戦国絵巻の博多織ネクタイを買う。みゆきがすきでないし高すぎるといったが、私の好みに合った。

直美の要請で動物園に行き、二時すぎ帰宅。一寸した行動だったのに何故か疲れた。眠くなったので二時間ほど横になった。こういうことで秋の日のいい休日だった。夕方上田氏からマージャンをしようという電話があり、教養部に詰めていた白水、安東の三人でやってきた。一回だけやって彼らはあっさり引揚げた。安東君と私が負けた。

夜、昨日のつづきの原稿を書く。

11月4日(火) 冷え込む

一〇日から授業再開する予定の教養部では、地ならしのため、今日から一般に学生の入構を許可した。早速、自治会(民青)系と闘争委系が小ぜり合いをしている。学生大会開催をめぐる勢力争いのようなものである。生協の連中がいつも反民青系で争いに一枚加わっている。いい加減にしておいたらどうなんだろう。合屋外科の病棟に間借りしている事務陣営は当分動かないらしいが、明日から学生サービス部門は学内で事務を開始するらしい。文学部法学部も中止していた授業を再開し始めた。軌道に乗るのにまだ数日かかるらしい。

夕方全電通福岡北支部逡信病院分会の安保に関する労働講座に出席。

11月5日(水)

参与会を年に一度は山の家で開こうという希望が去年は学園紛争のため実現しなかった。

今年は忙しい時だからこそ二日ぐらいは世をさけて山に開こうということで決めた。一

○時の予定が一〇時半になり、九学部ぐらい参加の予定が六学部になったが、ともかくスクールバスで出発した。二日市・基山の隘路を突破するのに一時間以上もかかったことでうんざりしたが、天気は上々で阿蘇外輪山と九重のもみじは最高に美しかった。

着いてすぐ、小畑記念林の焼け跡を視察。あと、これに対する植樹の結論を出し、夕食休憩となった。山の研修所に内湯ができて一年以上湯が出なかったが、今日始めて湯が利用できるようになったのだそうだ。

#### 11月6日（木）

ハイウェイの城山展望所でフウランを買う。ミヤマキリシマも売っていたが平地では育たないのではないかというので買わなかった。

午前中参与会を開き、正午バスで出発帰途につく。途中熊本の武蔵塚に寄る。昨日より順調に帰福。学生部に寄ると、昨日は文学部の学生大会が荒れ、理学部構内にまで波及して深夜大変だったらしい。今日は、文学部の分裂学生大会をやり、各々スト続行とスト解除を決める模様。教養部はこちらの方に関心を奪われてか平静そのもの。

午後六時半から新生飯店で姫高会。来る三〇日予定の寮歌祭にどう臨むかを話し合う。出席者、那須、三木、山村、牧坂、土井、久綱、野村、奥田。

#### 11月7日（金）

直美が遠足に出たあとで小雨が降ってきて心配。冷えこんできた。

会計検査院では大学紛争による施設被害につき、学長の責任をとわないことにしたと発表。入江学長発令され、一月末以来久しぶりに正式学長のある九大になった。

新聞（毎日）に寄稿した入江さんの論文は沈滞していた九大に活を入れる意味で小気味よい切れ味を示している。

県職飯塚支部青年部の安保討論集会（文化センター）に出席。若い人たちが四人。あとでコーヒーをのみながら安保問題、学生問題につきかなりつつこんだ話もちかけてきた。帰宅は十時半になった。

#### 11月8日（土）

教養部は授業再開の準備に忙しい。部局長会議があるというので浜の寮へ行った。職員組合との大衆団交をうけるかどうかが議題だった。十日に団交をやり、十三日の統一行動に盛り上げようとのねらい。入江総長が予備折衝を受けて立つことになった。

記念講堂を無断で自由使用しようとする工共闘に対し、対策本部工学部対策本部はねばって遂に、入りこんでいた一〇人ばかりの学生を退去させることに成功した。

夜九州支局常任委員会。二ヵ年計画の進行情況と対策、嶋崎選挙のカンパ等について討議。カンパは三〇万円が目標。あとで楓に行く。午前二時半まで。

記念講堂の少数者による無断使用のごときは、現象としては大したことではないようだが、規定を無視する態度の積み上げの土台になるので事態は初発のうちにきれいに処理すべきであろう。その点農・理両学部の対策委員は、そんなことで警官を用うべきではないとの甘い態度を堅持したのは問題をわきまえないものだ。

11月9日（日）

裏の山で山芋ほりをしてみたが、根が大変深く、六根ばかりのうち満身に掘れたのは一本もなかった。午後三時頃まで時間のたつのも忘れ、大運動をしたものだ。

明日の授業再開に際して私は冒頭の授業があるので、周囲の人が休講にしてもよいではないかと注意してくれてはいる。が封鎖後の授業再開は断乎やるのが鉄則だと信ずるので躊躇してはいけない。

今日は三池大爆発の犠牲七周忌。三池労組からは招待があつたらしいが、見合わせた方がよいと思ったので行かなかった。

昨年度後期の採点が残っていたのでこれを午後の仕事とする。

11月10日（月）

教養部授業再開。私の授業がとくに注目された。一時間目は何のことはなかったが、二時間目は後半に反帝の石井らが、中核、C闘委らとともに一五名ばかり教室に押し入り、授業妨害をうけた。なぜ授業再開するかその意味をいえ、機動隊導入の責任をとれ、九月末の団交になぜ出てこなかったのかなど口々にはげしく詰めよってきた。生協の理事である児玉は私の腰をなぐった。しかし、私も相対はげしく言い返した。教官十数人が教室の入口までつめかけ、新聞記者も混わり、衆人環視の激論となった。午後〇時半、時間もすぎたので帰さないと主張するのを押しつけて教室を出た。調べによると、午後の授業のもようは、出席学生一二〇〇余名。二五教室が討論会に切りかえ、二六教室が平常通りの授業になったという。すべり出しとしてはまず上々。

午後四時から応力研で部局長会議。十一月十三日統一スト対策。

11月11日（火）

教養部の授業再開は決して上々のすべり出しではない。封鎖派学生の授業妨害はかなり影響を及ぼしているし、学生の一般的な登校成績もいい方とはいえない。

十三日の学生大会には粉碎を叫ぶ側の妨害による混乱が予想されるので、全学的な対策会議が発足し、学生部長室で対策をねっている。

午後八時頃まで開かれていた封鎖派の代議員会は定足数をこえて成立し、民青系はこれをボイコットしているなかで、スト続行決議と自治会仮執行部（民青系）罷免決議がいずれも可決されたという。そこで夜十二時まで、教官会議、本部委員会などを開いて今後の方針を



討議した。要するに、教養部闘争委側の執行部と民青系の執行部と併存することになるが大学側はどちらを正統と認めるかである。

11月12日（水）

一時限目の授業粉碎という闘争委側の方針があるので、早朝登校してみたが昨日とあまりかわらない程度の荒れ方で終わった。

十時から一時すぎまで参与会。主として十三日対策その他学生の動きについて。

午後三時から教養部教官会議。教官の授業への態度がかなり甘いので授業再開の線が崩れる心配すらあるので、ストライキ続行という学生側指導層の意見と授業実施という大学側の態度は決して矛盾はしないのだという点を明らかにするため、私が原案を作って教官会議で討議した。

夜、やっと後期（本年二月）の試験の採点を終わった。

11月13日（木）

一一・一一の反代々木派の代議員会に対抗する自治会仮執行部側の学生大会が午後一時から、大学側の物々しい警戒体制のもとで開かれた。午後二時すぎには、阻止派（全共闘）が会場になだれこんで乱闘になり三〇余人の負傷者がでたが三時半すぎに大会が成立。新聞発表によれば賛成一一七三、反対一一〇、保留九九、棄権六七で執行部案が可決された。内容は次のごとくであった。

- ①無期限ストを解除し授業を再開する。
- ②団交を実現し、大学法粉碎の体制を確立する。
- ③再封鎖と機動隊常駐に反対し、学生の自主的規律を確立する。

（学内に凶器をもちこまず、テロ、リンチを許さず、暴力行為による封鎖占領を認めない）  
終わって警戒体制を解き本学から帰った教養部教官は午後七時頃から教官会議を開き、声明を出すなどを決定して散会した。

佐藤訪米阻止、一切の軍事基地撤去、安保廃棄沖縄県民総決起大会に一〇万人参加。全国的に今日は統一ストの日、六七単産参加。

11月14日（金）

教養部授業はおおむね平穏。

午後学部長会議と評議会。

学生部参与会で学生処分に関する方針原案を作成するよう評議会の要請があったので午後五時から学生部内で素案を討議。

夜、文部省大学課長が来ているため、事務局長らと夕食をつきあった。（森田家）

評議会ではもう一つ、電算センターの休業補償につき銭高組と政府九大各方面との折合い

がつかぬため工事が停滞したままになっているので、補償についても米軍に要望書を出そうということになった。

11月15日（土）雨後曇。

午前中学生部に出向き学生処分に関する手続きの大綱につき参与会に提案する原案を作成討議した。（昨日のものを更にもう一度）

午後教養部教授会。

一三日事件における負傷者の治療費、機動隊の駐留を二六日まで延期する件が論議を呼んだ。結局、公費負担でなくカンパを考えること。駐留は二六日まで延期することに決着。

大久保教授辞任のあとの参与の選挙があつて藤本教授が当選。

今日の授業のうち上田教授に妨害があつたという。

昨日今日と大変気温が高い。晩秋の山にはえるハゼの赤の美しさ、石段の下から見おろして……下の屋敷を買った方がよかつたネとみゆきが言った。朝の出勤を見送って。

11月16日（日）小雨

朝「すくらむ」の原稿を書いていると、児島さんからの電話。いつだったか先日私が留守中にもかかったことがあつた。早速東急ホテルに出かけて行き、地下の和食「那珂」で中食をいただきながら歓談。鹿島建設かと思っていたのに、大興産業とかに転勤、大阪支店長という名刺をいただいた。工事進行中の大阪万国博の下見に来ないか、年の中がいいということだったので、チャンスがくればいいと思う。上の娘さんが結婚したとか。もうすぐおじいちゃんになるかも知れないということだが、見かけは若い若い。私には学生部長ということでやつれているかと思つたのに、意外に元気だネといった。よもやまばなしがはずんだが、帰阪の時間もあり、午後四時すぎにお別れをする。

帰宅して原稿を書く。

坂道が大へんぬかるんでいる。

11月17日（月）

昨夜から今朝早くまで東京は佐藤訪米阻止運動でかなり荒れている。過激派学生は羽田突入ならず、首相はヘリコプターで官邸から羽田へ。一〇時頃羽田発。都電蒲田駅付近でゲリラ的活動がはげしかったという。夕刊によると全国で警官五万人（うち警視庁二万人）を動員して警戒。十四都道府県二〇九三人（うち女二五五人）が逮捕され、10・21の一五〇八人を上まわり最高を記録したという。新聞論調では、このへんでピーク、学生運動は世論から全くはね上がり衰えてゆくほかはなからうという。

今日、二回目の授業はクラス討論会とやらで教室に学生はからっぽ。五〇〇名ぐらいが佐藤訪米に抗議して集会やデモをやっていた。

東京代々木公園をはじめとする全国の社党・総評系の反安保実行委員会沖縄連共催の十六日の抗議集会は主催者発表で72万人を動員したという。

11月18日（火）

朝から晩まで参加会。議題

1. 学生に対する懲戒処分の方針について。
2. 制度委員会中間答申における学生部および学生部参加会の改革に対する参加会の意見。
3. 記念講堂使用について今後の修復との関係で規則をどうするか。
4. 寮生交渉、生協交渉について。

懲戒問題については慎重論がかなりあるがそんなに有力ではない。やりたくないという気持が何となく強いが、やらざるをえないという傾向。

朝から冷えこんできた。

11月19日（水）

今日の講義は平穏にすんだ。

午後、入江総長に学生部で当面している生協交渉の件と学生懲戒についての参加会での議論のようを報告するため登学。

産業労働研究所長であった吉村正晴教授が白血病のため逝去し、二時から積善社で葬儀。これにちょっと列席。後、教授会へ。三時から。

教授会終了後、深山、横田、安藤らと学生懲戒について激しく論争。かれらは市民法刑罰論だけで議論してきて、三派系の破壊に対して大学の秩序をどう守るかの観点を抜きにしている。

教授会で上田評議員の辞任が認められた。上田氏はほっとしただろう。疲れている様子。

11月20日（木）雨

教育学部と医学部がまだ授業を始めているのだが、前者は来る二四日から再開の目途がついている。そこで今日は総長を囲んで医学部関係教授および若干学部長らが、医学部の今後を検討した。十二月中に、おそくとも一月はじめには授業再開にもっていききたいという医学部側の意見を了とした。が、ポイントは学生がスト解除を決定しなくても教授側が授業を始めようという意思があるかないかであるということであった。医学部教授たちはその辺が実際としてはなかなかむづかしいということであった。

午後二時から福岡高教組の教研集会。那の津荘。進路指導分科会担当。午後九時半まで。馬渡君拙宅に宿泊。

11月21日（金）

昨日のつづき。高教組教研集会。

午後の教室会議、同窓会館における評議会に出席のため、教研集会はことわる。四時半からの約束の寮生交渉は評議会がおそくなったので、学生側は立腹して帰ってしまって、流会となった。生協の申入れによる評議会交渉は、評議会としては事務レベルで片づけてほしいとの態度。生協の大学に対する対決姿勢は、理事たちの学園紛争への積極的関与、機動隊導入反対、授業妨害、ロックアウト中の損害賠償請求。機動隊導入に関連して学生部長である私を生協理事長としては不信任（解任）するという。このような一連の行動にあらわれているので、大学側は生協の要求にはソッポを向くという冷い空気になりつつある。悪くするとこれが生協人事総入れかえという紛争に発展しかねない。従来でも私が学生部長として理事長を兼ねていたからこそ反大学でありながら大学との縁もつながれていたが、私を切ってしまうとその縁が切れたことになる。両者関係の冷却はそこから本格化するように思える。

11月22日（土）

八女福島の栄養食品労組の十周年記念講演会。午後二時～四時。「七〇年代の労働運動について」。

夕方帰福後、入江学長宅へ。学長が本部課長以上の職員を呼んで夕食会をするという趣旨のもの。始まりが相当おくれたが、部局長会議で教養部過激派の学生大会のために、二十五日に記念講堂を貸すか否かの論議をしていたらしい。結論は、暴力の非（十三日事件について）をわびて一礼入れるなら貸してもよいが、そうでないなら貸さないということらしい。妥当な線が出たと思う。夕食会は盛会で、意気が上がった人達は十一時すぎてもまだやっていた。総長の詩集「彷徨」をいただいてかえった。

11月23日（日）

八幡の藤本氏が突然やってきた。いつか頼もうと思っていたところだったのでちょうどよかった。みゆきと直美が婦人会関係で能古島に遊びに行き、私が留守番をしていたので、それもちょうどよかった。一日中彼の周辺で植木を植えかえたりして庭いじりに暮れた。左側の松が松らしくなってきた。かいどうを植えかえた。池の水もりを修理するというので水をおとしたが、時間がおそくなってできないで終わった。藤本氏は九時半頃まで酒をのみながら話しこんだ。

11月24日（月）

講義。二回目の二〇九番教室は立つ者があるほど満員だった。先週は佐藤訪米阻止闘争の日で休講になってしまい、第一週は二回目に授業妨害があったのだが。午後一時から寮生交渉の予備折衝。厚生課長室。スチーム暖房費を国費で出せという要求。午後三時から参与会。

中間答申の中の学生部と参与会の部分については再検討することになる。処分問題について各参与からの総括意見をきく。あとで荒れるかも知れないという予測があつてか、法、経、養あたりに消極論がかなり強い。その消極論が慎重論ならばまだしも妨害論になる。あるいは無策論になる。参与会として手を汚さぬ方がよいという意見になる。

11月25日（火）

黒田荘で十時から問研月報新年号用の座談会。「七〇年春闘について」。

午後本部へ。宮崎大学の工学部長守教授があいさつにみえている。何でも宮大の学生が九大教養部本館落城の際逮捕された一人にはいつているので陳謝したいということ。

一時からすったもんだの揚句に使用することになった過激派教養部学生大会。開会はおくられて三時すぎ。対策本部、現地対策本部、講堂内事務所というように教養部教官、部局長らが動員されて警戒。指定の制限時間午後六時をはるかにすぎ、八時半頃に終わる。大学立法反対ストは解くが、処分が出たらストに入るという原案が可決されたという。各セクトからの対案は否決。教養部には自治会執行部が二つできたわけ。

一三日の民青系のよりやや多い一八〇〇名ぐらい参加したらしい。

11月26日（水）

講義。（二時限目）全く平穩。

午後三時より九州地区学生部長会議。（戸畑、豊山閣にて）九大の提案、学生ストライキが主たる議題。終って懇親会あり、九時半帰宅。

11月27日（木）

昨日につづいて九州地区厚生補導研究会。小倉川淀ホテル。十時より。午後の研究発表で、学生運動に対処する途と題して私が話した。

早く帰って評議会に出席。先日参与会で審議した学生処分について、新聞社にもれた事を取り上げていた。経済学部から学生部に対する攻撃。（近江谷、正田）処分のごとき問題をとり上げていると、もれるものなのだ。

11月28日（金）

ゴーギャン展をみる。

参与会。学生懲戒問題の審議は打ち切る。参与会独走のそしりをうけるならイヤだ。学長には参与の意見の相違点などをありのままつたえて、各学部ごとに考えてもらうことをすすめる。

夜寮生交渉。暖房費一ヵ月一九二円を出さないということであるが理くつばかりで押してくる近頃の学生の気持はよくわからない。運動の一つの拠点にしていることもたしかだ。

帰り、久綱、谷口、安川の三人を連れて小ひろに寄る。

11月29日(土)

勤労学徒表彰式。昨年より一週間ばかりおそくなった。一〇時から学生相談所にて。学園紛争ばかりが耳に入るこの頃なのに、働きながら学ぶ者の表彰式に行くと別世界の感じである。

久留米労政関係で八女中央公民館で賃金講座。八女郡市の自治労関係者が主たる聴講者だという。自治労組織がのびつつあるしるしのようだ。

帰りに、二日市柚木に新築の名田山荘新築祝賀会に参加。もう暗くなっている周囲はよくわからなかったが、山つきの田んぼの中。豪勢な新居は植物園をしようかといっている名田県評事務局長の夢の実現らしい。

11月30日(日)

朝の間は何とはなしに時間がたつ。みゆきがお茶事だといって、そわそわ準備している。今日の寮歌祭には、そのため出席できないとのこと。私は一時頃予定どおりやま利に行った。すでに姫高の諸氏は数名来ていた。二時すぎに出演。「修道の旅衣」はうまくいかなかったと思う。今年は昨年のような背景の白鷺城もなくて淋しかったということだった。出演が済んだあとの同窓会宴会は総員一六人だった。長崎から四人参加してくれたのでかっこうがついた。あとで、牧坂、野村、久綱が私のうちに来て飲みなおし、マージャンをして十二時になった。

十二月予記

年末ぎりぎりまで講義やら試験の採点やらで多忙をきわめそうだ。学生はいい気なもので、ストライキのあと教授たちが単位をそろえる努力をしてくれるし、大学側が復旧作業もしてくれる、という構えである。たしかにお灸をすえてやらねばならない。

12月1日(月)

講義して本部へ。

講義は最盛期の感がある。

本部では入江総長を前に、教養部長をまじえ、入試、医学部授業再開、学生処分、生協問題、寮問題など当面の問題について意見交換。学生処分については参与会としてこれ以上討議しないということを総長に伝えておいた。生協は二九日の臨時総代会で法学部の三島氏を職員理事として選出したという。次の理事長候補らしい。

三時頃終わって帰る途中、金文堂に寄って美術全集を申込む。既刊のルノワール、セザンヌを引取る。重いのでタクシーで帰る。

奥田八二日記（連用）（1969年）

月報の原稿に着手。

12月2日（火）風強く、小雨。

須郷君が来宅し、社会問題月報の新年号の名刺広告のことで鹿児島、宮崎、大分の各友誼団体に電話連絡する事務をおこなった。

午後、胃の検診。

評議会。医地区同窓会館、教官の定員削減の件その他。

寒波来るの感。

佐藤訪米後の臨時国会。昨日今日で代表質問と生活関係法案を通過させ、年内選挙を目ざし今夕解散。

協会九州支局を通じ、金沢で立候補奮闘している嶋崎讓氏に対し激励資金カンパ五〇、〇〇〇円を電送した。

12月3日（水）

月報の原稿を仕上げる。問研に行つて手渡す。

講義。

教授会。あと、解放されたような気分になって、安藤、深山、上田の三人と雨の中を小ひろに行つた。上田氏は十一月一ぱいで評議員を辞任することができて、ホッとしているところ。深山氏は理くつてんばりでからみついている。私と二人で近くの「むぎ」に寄り深夜になってしまった。三百代言に徹するということが問題だったが、そのほか、社会科教室の各位はあまり勉強しないという棚卸し。

12月4日（木）

「社会主義」の原稿準備。

午後、部局長会議。学生問題としては、紛争中の破壊につき、告訴をする方針。教養部本館だけに限る原案を、もっと一般にひろげる必要があるのではないかと修正する。また、生協に対して夏以来の懸案に終止符をうとうとの回答案を承認。

水光費のうち電気料金は修正新料金を提示、全面国庫負担は拒否。また、中央店舗代用に記念講堂の一部を使用することも拒否。機動隊導入後の入構制限中の損害賠償請求についても拒否。全体として大学側が高姿勢に転じたが筋を通そうということではかない。

12月5日（金）

午後参与会。つづいて三時半から寮生交渉、午後一〇時まで。暖房用重油代負担をめぐる問題。第一会議室。譲り合いはなかつた。

ボーナスをもらっているので家庭に直通。

みゆきの上郡時代の友だちという人が来訪。

12月6日（土）

試験問題を提出するために午前中登校。

午後四時二一分の特急「なは」で合化労連水俣労組へ。

年末に支払うべきかねが、ないようでも集まると八万円近くもある。

水俣駅近くの司屋旅館に投宿。

12月7日（日）

水俣での合化労連青年学習会に出席。午後「はやぶさ」で上京。

水俣では新日窒が電気化学から石油化学にきりかえるために、水俣工場を半ばスクラップ化する計画で労働者の半分が配置転換又は解雇になる予定だという。自宅待機という命令がすでに発せられ、六ヵ月後には首切りされる。やり方としては懐柔のためとはいえひどすぎる。首切りが予定されるのであれば何が「待機」なのかといたい。

12月8日（月）

全国々立大学学生部長会議。全共連ビル、一〇時～六時。合化労連の宿舎に投宿。

学生部長会議は正常化ムードにあふれていた。文部省からは一学期一五週というのをいい加減に手心を加えないようにという伝言があった。入試が無事のりきれるかどうかは誰にもわからない。

12月9日（火）

原稿を書いてしまうつもりであったがとうとう書けなかった。午後は旬報社に寄ってひまをつぶした。

夜行列車で福岡へ。

12月10日（水）

帰りさま講義。

社会主義協会へ原稿を送る。「七〇年春闘の目」。

本部に行き、三時から寮生団交の予備折衝。

六時から龍鳳で水曜会の忘年会。終わって午後九時にもなってから学生部の谷口、井上、田島寮の安川の三人をつれてきてマージャン、夜ふかしになった。少し頭が痛い。

12月11日（木）

紙パ労組、労働講座。内の牧九電保養所。早朝から夜十一時までの旅行はつらかった。昨日



から熱があるらしい。

12月12日（金）

丸一日寝たきり。

部局長会議など休む。

12月13日（土）

今日も丸一日寝たきり。

林病院から往診をたのむ。熱は三八度ぐらい。風邪である。頭痛とセキ、ノドブエのところがセクといたむ。

明日の試験が気になる。

腰が痛いのは熱のせいらしい。

支局常任委員会休む。

12月14日（日）降ったり晴れたり

一二月二〇日までの授業のなかで各科目とも試験を終わるよとということだったので社会科では今日、日曜日をつぶして全一日を前期試験日ときめた。どの教室も満員だが、見る者の心のせいか、勉強する眼でない。騒々しい雰囲気連続を感ずる。進学できない学生が多量に出るだろう。

12月15日（月）

講義は一年生だけが出席。

昨日まであった熱はほとんど引いてかなり気分爽快。

理論戦線グループの会議を拙宅で行う。

12月16日（火）

「社会主義」新年号の原稿（巻頭言）を急にたのまれ、午前中これにかかる。

午後、寮生との事務折衝のため登校。松原寮の暖房費一人一ヵ月一九二円をもう少しやすくしてやれるかどうかはこちらの関心。相手は無料にせよとっているが、折れてくる気配もある。

遊説のため久留米にきていた太田薫氏を囲んで協会問題につき懇談。（政の家）午後七～一〇時。全通福岡中郵事件（今永辞任）にどう対処するか。嶋崎選挙をもう一押しするために和田静夫氏を動かす問題が主たる話題。

12月17日（水）

講義。

午後三時から教授会。

午後五時、医学部授業再開問題で医学部病院長室へ。あと、ホテルタカクラ。午後九時まで。来る二二日に授業再開にふみ切ること決定。その対策。日程の決定には入試要項の発表との関係がポイントであった。授業再開問題としては妨害にどう対処するか、警官導入との関係など。

12月18日（木）

参与会。学生会館運営に関する問題、記念講堂使用規則の再検討その他。

夜、全学部学生係厚生係職員年末懇親会。工学部食堂。

このあと、課長補佐谷口君、寮務係長安川君ら拙宅に来てマージャンをする。この二人がよくついていた。

12月19日（金）

二年生の分の採点がおわった。一三四人のうち六二人が欠点。全く勉強が足りない。教官をつるし上げ、大学を破壊してはじない根性では勉強ができるわけがない。

評議会で入江総長は、学生の懲戒について過去の分は不問にするという考えを明らかにしたが、問題が残りそうに思われる。

寮生との交渉ではスチーム暖房費の件は来年にもち越した。

国費留学生の懇親会。東中洲の大阪屋で水たき。

年賀状を少し書いた。

12月20日（土）

入試審議会。入試募集要項はおくれているが二十五日までに発表することになる。

教養部長選挙。社会福祉会館。佐々木教授当選。（岡田教授のあと）

前期成績を発表したら、続々アッピールに学生がやってくる。二年だけで受験者一三四人中六二人が不合格という例年になく不成績だから無理もない。再試はやらないというのに、それでもどうにかならないかという。十名をこえただろう。一々おい帰すのに苦勞する。勉強もしないでおいてしたといいはる者もいる。

12月21日（日）

年賀状書き。

研究室の図書整理のこともあって夕方登校したが、上田氏と、白水氏宅に行き、マージャンをして遊んでしまった。

12月22日（月）

医学部が六ヶ月ぶりに授業再開にふみ切った。今朝から学生課長の電話のように正門前は阻止派の説得ピケで緊張。授業日程は青服警官一コ大隊、私服約五〇に守られて消化したものの、四〇〇の学生のうち、受講生は四〇そこそこ。恵愛団附近は物情騒然たるものがあった。私も午前中の授業は一年生の試験としてすませ、医学部にかけて状況を目でみた。恵愛会館三階の医学部対策本部に詰めた教授たちは緊張。本日の経過からみて、明日以降は少しずつ好転するのではないかと判断される。それにしても機動隊に守られた授業の物々しさにはびっくり。

同窓会館で月曜懇談会。（二～四時）

12月23日（火）

医学部の授業は今日さらに困難を加え、スクールバスで受講生を送迎する有様。減って三一名。

研究室関係の整理、とくに借り出し図書の紛失状況の点検。

午後四時から七時半まで、教養部学館委員（教官側）と参与との学館をめぐる問題につき意見交換をする会。（教養三号館物理図書室）滞留制限時間以降の学生追出し問題、学館宿直廃止問題をめぐって多くの意見が交わされた。夜六月田方面「ふるさわ」で学生委員の新旧交代の宴会があつて出席。

みゆきが風邪をひいてねこんでいる。一家全体次々にかかっていくようだ。

12月24日（水）

朝、部局長会議、評議会。教職員にたいする十一月一三日統一行動関係処分問題は寛容でいくことを決定。本日入試要綱を発表することを決定。

講義のためピストン往復。講義は一年生の試験。

午後参与会。記念講堂の使用規則を今後どう変えるか、定まらず、参与会のあと、清水工學部長、中村文学部長、さらに古川病院長らに個別に会い、学生処分は最少限断行すべきであるとの意見を申しつたえる。また、清水工學部長、井上農學部長、都留経済學部長には医学部問題で、教授会と教官会との間に立ってあっせんをしてほしいと頼んでおいた。

みゆき、一彦、風邪で困惑。

12月25日（木）

給料の追加払い。

医学部の授業再開問題は、明日の学生大会許可問題と教授会と教官会議との団交を教授会が拒否している問題をめぐって、まだすんなりしていない。

昨日につづいて今日も正午すぎ、革マルと中核の乱闘。教養部掲示板前では遂に双方に負傷

者が出、警察の取しらべをうける。ヘルメットとツルハシの柄多数を残して革マルは逃げてしまった。双方の数約四〇。

協会理論戦線グループの集会。黒田荘、午後。夕方懇親会。

12月26日(金)

ゆうべから若干の雨。

登校して図書の整理。ずい分足りない。封鎖の損害ははてしなく大きい。

借金を郵送分をふくめて殆んど支払ってしまった。

総選挙最後の運動日。新聞テレビなどでは社会党は現勢一三五の議席から一二〇を割る、支持率も二五%から一七%に激減すると発表されている。独占資本の復活強化時代が象徴的に票にも出るようで、自民党は全体として漸減しながらも一進一退している。社会党は共産党と公明党に票を食われ、民社は現状維持。プロレタリア化が急激に進んでいるが、その労働者が、右のように意識分解をとげているのである。

12月27日(土)

急に冷えこんできた。風、あられ。

十一時に本部へ。御用納め。今年は明るいムード。ただ医学部では昨日の学生大会で一六一対一〇一でスト続行が決まり、柵屋論文の件もあり、新年をはさんでまだ当分もめつづける模様。だが大型計算機センター再建問題も二十五日以来ようやく軌道に乗り、三月末日までに一応完成の見通しもついているので、事務局長など事務局幹部は、医学部問題は後産だといっているくらい。

総選挙投票日。問研から石川の嶋崎君に電話したら彼は手ごたえもあり確信があるという返事。

上田氏の招待でわれわれ夫妻と大原氏が上田宅でフグをつつきながら夜おそくまで、十月初旬の苦労を中心に語りあった。

午後十二時すぎ帰宅し、開票速報を午前二時半まできいた。

12月28日(日)

開票結果は自民の増加と社会の減少が予想外に目立った。社会党はいたるところで敗退している。石川一区の嶋崎も落選した。社会党の主張に耳を傾ける世相でないということだ。選挙結果に一喜一憂することはないだろう。公明と共産が伸びた分は社会の減少に関係しているが、以前社会に結集していた分の分解とみるのが正しい。

試験の採点を休み中毎日少しずつすることにした。(一年生の分)

夜、さそわれて白水氏の家族とマージャンをする。たいへん寒い。

12月29日（月）

ゆっくり寝ていたらすぐ昼になってしまったので、登校し、約束しておいた欠点学生たちにレポート提出を指示。社会思想史だけの欠点のために進学できない学生たちを救済するための手段。全く勉強してないための欠点だから、勉強しなせよということである。先日の三名に加え、今日は九名来たので、十二名が救済されることになる。

郵便局の隣の花屋で紅梅の植木盆栽ものを買う。鉢が三八〇円、木が九〇〇円だった。ほかに福寿草など花を若干と油粕を買う。午後を施肥等の庭仕事の時間にあてる。

試験の採点。

今回の総選挙の得票数など結果は別掲、新聞発表のとおり。

【「党派別当選者と得票数」（掲載紙不明）の切り抜き貼付】

12月30日（火）

終日在宅。身辺整理。新年に出版しようという春斗パンフの原稿につき検討しはじめる。千代町の借家にいる中郵の青年たち、船越君らが大きな新巻鮭を歳暮だといってもってきてくれた。

12月31日（水）

私が動かなければならないわけではないが大晦日は何となくじっとしておれないので、掃除や台所まわりの雑用をしていると結構一日すぎてしまった。堀山夫妻が来たり、安部靖弘さん、中島敏子さんが来たりしてこれまた知らぬうちに時間がたった。ゴミや借金と同様、年を越すために、何百年間か知らぬが今日にすべてをかけると、なすべきことが大そうたまっているものだ。そういう区切りをつける日がなかったら一体どういうことになるのだろうかと考えてみるが、別にどういうことにもならないのではないか。小春日和でよかった。答案の採点をしただけのように感じられ、問研の原稿が気になる。

補遺

原稿執筆 一九六九年 約九〇〇枚

1. 「社会主義」大型景気と体制的合理化 二〇〇字×五九枚 二月八日
2. 問研パンフ「七〇年安保」の経済的基礎 分担執筆 二〇〇字×五二枚 二月十八日
3. 「社会主義」五月号 日米独占の協調と対立 二〇〇字×八七枚 四月十四日
4. 「社会主義」六月号 七〇年安保と日本の国家独占資本主義 二〇〇字×九二枚 五月十一日
5. 「地方自治とは何か」 五月二十五日 社党県本部「福岡県政を四百万県民の手に」（パンフ）の前文 二〇〇字×二二枚

6. 「社会主義」七月号 六月十五日 総評の危機 二〇〇字×六五枚
7. 論集への追加原稿 六月二七日
  - ( 序章 二〇〇字×九〇枚
  - 春闘の性格と意義 二〇〇字×四〇枚
8. 学園紛争の中に立って 五〇枚 「月報」 七月十一日
9. 「党再建と青年戦線」(成田論文)について 「社会主義」8月号巻頭言 一七枚 七月二四日
10. 論文集「まえがき」 四七枚 七月三〇日
11. 「共産主義的人間」レーニン 八月一四日 「社会主義」十二月号 五五枚
12. 「69年人勸と労働者」 「月報」九月号 四六枚 八月二五日
13. 「石炭鉱業」 社会科学大事典 二〇〇字×一六枚 八月二八日
14. 七〇年代の公務員賃金闘争 「社会主義」 五三枚 一〇月一九日
15. 三池闘争のはじまり 「すくらむ」 二〇枚 十一月一七日
16. 六〇年代春闘の反省に立って 七〇年代春闘の課題 「月報」 四八枚 十二月三日
17. 「七〇年春闘の目」 十二月十日 「社会主義」一月号 六一枚
18. 同右 巻頭言 八枚

【「機動隊導入後一月の九大」「教官の授業権に対し学生にスト権」(『朝日新聞』1969年11月13日)、「大学紛争収拾法案」(掲載時不明、1969年5月5日)の切り抜き挿入】

#### 44年重要事項

| 摘 要                                     | 月 日       |
|---|-----------|
| 九大機体引きおろされる                             | 一月五日      |
| 学生部長室軟禁事件                               | 五～七日      |
| 東大に警官隊入る(学生間の衝突につき)                     | 一月九日      |
| 社会主義協会第九回定期大会                           | 一月十二日     |
| 東大安田講堂の封鎖解除につき警察実行行使<br>機動隊員八千五百人ガス弾三千発 | 一月十八日、十九日 |
| 東大の入試中止決定                               | 一月二十日     |
| 京大三派系をしめ出し門で攻防                          | 一月二一、二日   |
| 北海道、全林野労組を中心に遊説                         | 一月二三日～二六日 |
| 九大総長辞任決定 協議会<br>二月より原教授が学長事務取扱          | 一月二二日     |
| 一・五機体引きおろし事件真相朝日新聞に出る                   | 一月三〇日     |

|   |               |
|---|---------------|
| 学友会・反戦 二つの団交  | 一月三十一日        |
| 沖縄ゼネスト（回避）支援学生統一行動日で文系、教養のキャンパス一日封鎖                   | 二月四日          |
| 医学部自治会十一日までのストライキ突入                                   | 二月七日          |
| 九大本部ついに封鎖、中核派約四〇名                                     | 二月二七日午後十二時    |
| 京都大学教養部、本部強制捜査  | 三月一日          |
| 九大入試一部中止、教養部本館封鎖のため                                   | 三月四日          |
| ◎豊和相互銀行から土地担保（労金）による一〇〇万円立替払いの借用。また倉富さんを通じ同銀行から二〇万円借用 | 三月六日<br>三月七日  |
| 九大教養部封鎖解除   | 三月二十一日        |
| 東大総長選挙、加藤総長代行に  | 三月二三日         |
| ●社会主義協会九州支局委員会、福岡若松旅館                                 | 三月二九—三〇日      |
| 啓二、大濠高校に編入（三年）決定                                      | 四月六日          |
| 米海軍偵察機 EC121 北鮮領海付近でミサイルにより撃墜される                      | 四月十五日         |
| 社会主義協会九州支局大会  | 四月一九—二〇日      |
| 沖縄デー荒れる   | 四月二八日         |
| 大学法案提出され、九大各学部長期ストに入る                                 | 五月二二日         |
| 評議会実質的にマヒ、井上辞任（五月二日）以降                                |               |
| 九大本部三度目の封鎖（反帝）  | 六月二六日         |
| 教養部本館封鎖   | 六月二八日         |
| アメリカ、有人月ロケット打上げ                                       | 七月十六日         |
| アポロ 11 号月面着、人間月に降りる                                   | 七月二一日         |
| 大学法、参院で強行採決   | 八月三日          |
| 教養部二・三号館も封鎖   | 八月四日          |
| 大学法施行、本部正門、中門バリ封                                      | 八月十七日         |
| 電算センター被害調査試み失敗  | 八月十八日         |
| ホーチミン北ベトナム大統領死去                                       | 九月三日          |
| 論文集、「体制的合理化と労働運動」できあがる                                | 九月十日発行、九月十五日着 |
| 九大本部工学部本館等 民青系により封鎖解除され、翌朝三派系により再封鎖される                | 九月三〇日～一〇月一日   |
| 九大全域に機動隊導入 同時に米軍機残骸撤収                                 | 一〇月一四日        |

|  |        |
|--|--------|
| 九大学長選挙開票 入江教授当選  | 一〇月二九日 |
| 同右 発令  | 十一月七日  |
| 教養部授業再開  | 十一月一〇日 |
| 教養部自治会仮執行部派(民青派)学生大会、記念講堂、<br>阻止派の乱入で三〇余名負傷、スト解除等を可決<br>(この日総評系六七単産の佐藤訪米阻止、人事院勧告完全<br>実施、反合理化の統一スト | 十一月一三日 |
| 佐藤訪米阻止闘争   | 十一月一七日 |
| 安保沖縄に関する日米共同声明   | 十一月二二日 |
| 全国学生部長会議   | 十二月八日  |
| 国会解散   | 十二月二日  |
| 風邪ひき   | 十二月一二日 |
| 総選挙  | 十二月二七日 |
| 医学部授業再開  | 十二月二二日 |
| 大型計算機センター再建開始  | 十二月二五日 |
| 総選挙、社会党大幅に議席減  | 十二月二七日 |



## 1970年

### 一月予記

新年早々に忙しそうだ。医学部の授業再開問題と処分問題が一つのヤマをなすだろう。長蛇の問題としては入試がある。ゲリラ的な妨害にどう対処するかである。

### 1月1日（木）

九時半におきる。ゆったりした元旦。

賀状の整理、返礼を書いていると夕方になってしまった。

いやいやながら答案の採点をし終える。四割が欠点。

佐方、網干、英賀保、紀州に祝賀の電話をかける。

小春日和の上々の天気。

### 1月2日（金）

賀状の整理。

資料読み。

別に期待をしてはいないが誰も客がない。夜、白水さんを招いたら奥さんと一しょにつれ立って来てくれた。一人息子が大山にスキーに行っているということ。おそくまでマージャンを楽しんだ。

### 1月3日（土）

朝食を終わったら正午になっている。天気がよいので庭をながめたりいじったり。えんどうの種が残っていたので、そこらあたり空いているところにはどこにでもまいておいた。庭木に施肥もした。

夜白水さんが、こんどは来てくれというので行った。県の衛研の山本氏と教養部の三枝氏とが来ていて、飲んだあとで三チャンやった。大負けだった。

### 1月4日（日）

晴天だが風が強い。

古切手の整理。

資料読み。

### 1月5日（月）

ゆうべからかなり寒く風も強かったと思ったら朝は雪におおわれていた。御用始めに登校

するため車を待つ間の外気の冷たいこと。耳が切れるほど。池の水面もこおっている。教養部は今日から授業。(後期始まり)

新聞によると三十数年ぶりの寒波だという。ストーブをたいていても部屋が少しも暖まらないほど。朝は廊下の寒暖計でC,0度より少し下、ひるは三度、ストーブをたいている室内で十三度ぐらい。

社会問題研究所で企画している春斗用パンフの原稿に着手。おくらしているがまにあうかどうか。二五〇枚の予定。

1月6日(火)

学部長会議の席上、総長原案として過去に関しては学生処分はおこなわないというのが出そうだというので、小林課長の要請で、午前中に急ぎ登校。入江総長に対し、処分しないという方針では困るという意見を申入れた。学部長会議では原案は留保になり、明日改めて討議しなおすことになった。

文学部の反帝派の教室泊りこみ、工学部反戦派の進学式粉碎計画、教養部の中核、カクマルの内ゲバの危険など、新年早々に、多忙な種がいくつもあらわれて急にあわただしくなってきた。

小寒ということだろうか、底冷えするようを感じる。

1月7日(水)

今後は毅然たる態度で処置するという学長告示案をめぐって、過去はとわれないという意味をふくませないという方針を明らかにすべく、十時から学部長会議が開かれ、大体その線に決定した。

午後、一回目の講義。

三時から教授会。

どうもものういので午後八時に就寝。

1月8日(木)

医学部紛争の余波で、教養部で医学進学課程の授業を担当している和佐野(医)教授の授業に妨害があったという。また明日の工学部の進学式に自主進学式という妨害が予定されているというので、夕刻に本部地区対策会議がもたれ、警官配置を含む対策を協議。

正午前後に開かれた参与会では教養部留年生をなるべく進学させるように道を開いておくよう各学部に要望するという話が出た。

午後六時から明治生命ビルで社会党福岡県本部主催の旗びらき、みんな今後の選挙の敗北をどう挽回するかをめぐる決意表明が多かったが、どれという結論はでなかった。

帰りに八丁君と一丁目のかえでに行ったが、彼は私に早く学生部長をやめるべきではない

かといった。本来の仕事がなかなかできないからである。

1月9日（金）

講義。

正午から教室会議。心配されていた工学部の進学式は若干の混乱はあったが予定通りおこなわれえたようだし、医学の授業も七日以後七〇余名の受講生があつて、今日の学生大会以後は紛争拾収に向かうのではないかとの観測ができる空気になってきたといわれる。

午後三時から評議会。

医学部の学生大会は、処分があればストに入るという条件で、スト解除が提案され、賛成一七九、反対二七、保留四〇、白票九で可決されたもよう。

評議会後新三浦で評議員の新年宴会。二次会、三次会とわたり歩いて教養部の緒方君と帰ったのが午前一時半。

1月10日（土）

十時から入試実施委員会。主として妨害を予定した対策につき協議。教室が足りないという予想の下に学外会場を準議することにもなった。

午後、東定君が月報の原稿を書くための資料を求めて拙宅へ。喜美子ちゃんも日出子ちゃんも呼んで、新年パーティーをすることになった。茶の会もしてみる。

夕食後おくれて、七時半頃、集会所でおこなれている協会支局常任委員会に参加。総選挙の結果、社会党議席の凋落をみてもわかるように、七二年頃と予想していた左翼運動の分解凋落がもっと早期にやってくるという意見が出され、協会もこれに対応した方針を出すべく討論された。

1月11日（日）

寒い日曜だった。午後二時から社会党県本部の事務室で「よくする会」の運営委員会があつた。ここでも総選挙の反省からの問題提起があり、もっと日常的な運動をやって市民と共にある党にしなければならぬということが話しあわれた。

問研パンフの原稿書き。

夜、古川病院長から電話があり、受講ぐみの一指導者が松原寮でランチをうけたという。告発することによって当局の裁きにまつほかは有効な対処はないのではないかといっておいたのだが。大学として捜査するようなことはできないのだから。

1月12日（月）

原稿書き。

午後三時からの経済学教官選考委員会では東北大の福留君がほぼ内定。

革マルと中核反帝との内ケバがたえず学生会館に革マルが、一〇六番教室で中核北小路の演説会、反帝の田島寮占拠などのことがあり、また、この騒ぎの中で中核の佐藤裕彦が負傷して外科病院に運び出されるなどもあって、学外退去、機動隊導入がおこり、薄暮まで教養部構内はごったがえした。革マルは退去命令で午後六時教育大学方面へ退去した。田島寮を根拠地にしていただけに反帝にとられたのである。夜学生部の連中と拙宅に来て飲み、夜明けまでマージャンをした。

1月13日(火) 冷い風

寝ていたら、朝帰りした学生課長から電話があり、松原寮が捜査されるから出校してくれとのこと。十一日にリンチをうけた〇〇君の部屋に強制捜査である。リンチを加えた学生は三名逮捕されたという。近藤、井口、藤川、富田氏ら各参与にも来てもらい、手落ちのない立会方針を立てる。午後二時から約一時間の捜査。あと四時半頃まで、明日の学友会定期代議員会に対する方針を学生部長室で話しあう。代議員会への妨害が心配だが果して起こるかどうかわからない、情報の範囲では大丈夫のようにも思える。

1月14日(水)

三時過ぎだった。宿直の吉村君から電話があつて寮の学生がさわいでいるという。先日からつづきで、こんどは革マルが反帝の支配を奪還しようとするのだ。学内根拠地がほしいのである。呼び出されてしまつて田島寮へ行った。五時ごろカクマルの襲撃で反帝の〇〇がねぐらにしている部屋を中心にひどく荒らされ反帝は逃げ出し、革マルは侵入占拠に成功したようだ。警官も来たが処置にはならなかった。騒ぎが静まったので七時半に帰宅した。朝食をとって正午までねる。午後講義。

三時半から学友会の代議員会対策のため参与ら学生部長室に集合。代議員会は反対派を裏をかき農学部で秘密裏に早めにおこなわれた模様で事なきをえた。

午後七時帰宅。原稿書き。

啓二がまた外泊しているらしい。

1月15日(木) 小雪

早朝医学部長の河田教授から電話あり。リンチ事件の学生処分が急がれるがどうしたものかという趣旨。放学にするとしても復学の余地を残したいという。本人たちの陳弁もきいておく必要があるということも私も主張しておいた。この件が紛争以後の処分第一号になりそうだから、慎重を要する。

一日中小雪が降ったりやんだり、冷たい日であった。私は部屋にこもって半ペラ三〇枚ほど原稿を書いた。問研から出版する春闘パンフの原稿だから早く書かねばならぬのに、学生問題などもあってなかなかはかどらない。

みゆきと直美は、賀状に女子出生の知らせのあった河井吉男さんのうちに久しぶりだとい  
って遊びに行った。大野町。

#### 1月16日（金）

寒波来襲全国的。九州でもどこも氷点下。カゼがはやり死ぬ人も多くて葬儀屋は満員だとい  
う東京の話。講義をすませて本部へ。新しく再出発した広報委員会。午後は学部長会議。総  
長欠席だが、総長提案の評議会における執行機関と議決機関の分離はうまくいきそうにな  
い。

水曜日に私たちが帰宅したあとで革マル対反帝の対立さわぎが本部地区であったという。  
警官を入構させるさせないで、経済学部が足をひっぱったという小林課長の話。東署はおこ  
っているという。

夜は少し原稿を書いたが、あまり寒いので早めに切り上げ、一彦と碁を打った。三日おかせ  
たが二度とも負けた。今年の夏頃から強くなっている。

#### 1月17日（土）

引きつづいて冷い一日だった。終日在宅して机に向い原稿を書く努力をしたがうまく進ま  
ない。頭がさえないのかも知れない。いいか悪いか知らぬが二〇枚ほど書いた。給料取りも  
みゆきに行ってもらい、入江総長が新年宴会に招待してくれていたのも（五時総長宅）も  
辞退した。そちらに時間をさかれると、まとまらぬ原稿がよけいにまとまらないからであ  
る。

啓二君がまた夕方外出した。日曜をひかえたとなると、二日間びっしり遊ぶことにきめてい  
るらしい。報いがきたときにしかわからないだろう。

サザンカがちっとも咲かない。植えかえたのが悪かったかな！

#### 1月18日（日）

気持ちのいい一日だった。ゆっくり起きたがカーテンのすき間から陽がさしこんで昨日ま  
での寒さを追っばらっている。そよ風がまだ冷い。鉢の紅梅を出したり入れたりしたが、そ  
よ風でも害があると思われたから、咲く間ぎわまで蓄がふくらんできた。

岡山の河野君から手紙がきて一月三十一日に岡山の協会支部発会式に常任の一人として来  
てくれという。その頃私が関西にいるという知らせをしたから。

直美、みゆきが扁桃腺をはらしている。夕刻から直美は熱発になった。明日の学校が心配に  
なるう。

啓二は受験間際というのに、土曜日曜、祭日となると相かわらず外泊してくる。精神状態が  
どうかしているのか幼いのか、自分しか自分を処理する者がいないのに。私は決して矯正し  
ようという気にはならない。一日中原稿を書いてよく進んだ。

1月19日(月)

東大「安田城」攻防一周年というので、今日は朝から学生がよく動いた。教養部では早速革マルを一方にした内ゲバがおこったが、午後は本部地区の各学部闘委指導の学生一五〇ぐらいが文系理系と集会を開いたあと記念講堂前で決起集会を開き、午後三時頃には勢力をふやしつつ教養部に集まり、午後四時には米領事館、市役所方面へデモに出た。ヘルメット角材の着用携行を禁止するというので、教養部では警官導入がおこなわれ、ヘルメット坐りこみの学生がゴボー抜きされ、以前からマークされていた者をふくめ五人逮捕され、さらに、デモ中に革マル二人ほか一名が逮捕されたということである。今日の集会デモは内ゲバにならぬ限りは警官無用ということであるべきだった。その境目がよくわからない。午後七時帰宅、あと原稿書き。

1月20日(火)

午前中原稿書き。二五〇枚の予定のところへ二〇〇枚を書いたがまだなかなか終りそうにない。構想を再検討せねばならぬようだ。

午後一時半から評議会、のち部局長会議。教養部の建物被害復旧計画の予算措置が認められた。

毎日新聞に医学部の将来改革に関する入江総長の手記が掲載されている。相当長文の連載である。こまめに書く人ではある。

夜、中島敏子さん来訪。横浜にいる弟が借地問題で困っているので法科の人に相談したいが誰がいいかということだった。大原さんに電話で概略話して意見をきき、伝えた。深夜まで話しこんだ。

1月21日(水)

講義。

教授会一久しぶりに第一会議室で。

夜原稿書き。

三〇四番教室で欠点学生に答案をかえし書きなおさせる指示を与えている途中におこった混乱。答案が十二枚ほど紛失しているらしい。学生をみたら泥棒と思えという世の中、全くなげかわしい。他人の答案を持ち帰っているのである。あとの処置に当惑する。いやな感じ。学生にまかせたのが失敗のもと。

1月22日(木)

午後一時半から参与会。主として学年暦について、卒業式はやめようということになった。オリエンテーションもぐっと短縮したらという意見が強かった。

正月前に買った紅梅の鉢うえがなかなか咲かない。つぼみがずいぶんふくらんできたが、一輪

一輪ほどの暖かさというから梅花は息が長いんだなと思う。

原稿を書くせいではないと思うが右の腕の筋肉がいたい。肩までどうにかひびいているように思える。調子は必ずしもよくない。ぐっすり眠るとよいのではないか。

参与会後の感想だが、今から四月中旬までびっしり詰った日程をみて、新年明けた頃はこんなに忙しいとは思っていなかったことだ。

嶋崎君が石川から来ている。

1月23日（金）

ちょっとだけ雨。

午前講義。

午後、学部長会議部局長会議。被害の告訴、処分についてなかなかふみ切りがつかない。一昨日の教授会で教養部長は入試を無事すませるためには学生処分問題はだすべきではないといったそうだが、ソフトに出ることによって暴力派学生の<sup>アツ</sup>気嫌をとり、事柄をうやむやにしようとしているようではあとのしめしにならない。

試験が終わったあとで処分のことを考えても手続的にはもうおそい。私の主張は処分すべきだということにつけるのではない。むしろ、事実の黒白を明らかにし、処分せずにはすむ者にはしないし、すべき者にはするというけじめと区分を明確にすべきだというにすぎない。うやむやにほおかむりをしてしまおうというのがいけないというところに眼目がある。

中村文子君がよくする会をやめたいと申出ている。

1月24日（土）

よい天気。紅梅の蕾がまた一きわふくらんだ。よく眠れなかった。登校して藤本緒方両氏に学生処分に関する議論をふっかける。教養部では生協交渉をするらしい。本部交渉で失敗した問題をもちかけているところに問題がある。何かいいがかりを求めているようにしかうけとれない。これがC斗委の変装だという説もある。つまり教養部はC斗委を相手にしないので、生協にばけて学校を交渉の場に出そうとしているようである。

昨日も今日も原稿は少ししか進まない。深みにはまってしまった感じ。早くまとまりを得なくてはならぬ。

夜十一時一七分の上り列車特急明星一号で姫路へ。

1月25日（日）

定刻午前七時七分に姫路につき、連絡しておいた通りに、バスで塩田温泉夢前荘に着いたら、国労の諸君はまだねていた。全国青年部のうち社会主義協会系の政治学校である。三日目の最終講義。合理化反対闘争について午前八時半から十二時まで。思うことが何でも言えるので気持がいい。すでに八丁君大坪君も来て講座している。協会の影響力がこんなに強く

なると恐ろしいようにある。

午後は同じく国労の、関西地本青年部賃金討論集会のため篠山丹波荘へ。時間があつたので英賀保の兄の宅に寄り、そこから車で送ってもらったら三時間もかかった。

夜の講座で一〇時に終了。青年たちは国労幹部が右傾化して当局に妥協的な賃金闘争方針をつくっていることに不満をもっていた。

1月26日（月）

山深いせいか、雪かと思うほど一面白い霜景色。枝まで白い木立ちにはびっくりした。交通が不便なので三ノ宮まで出て、特急「はと」一号で帰福。車中はゆっくりして原稿の点検をしたりした。

博多に定刻一九時に着き、那の津荘で開かれている嶋崎君激励の会に出席。会を閉じたあと一同を拙宅に呼ぶ。午後十二時までみんな大声で議論に花を咲かせた。ポイントは協会の将来であるが、嶋崎君の衆院落選後の身のふり方である。報酬の途さえあれば協会運動に専念してくれることだ。石川で二度目の立候補することとの関連をどう考えるかであるが……彼はなお落選後の尻ぬぐいをきれいにする仕事を残しているといっていた。

大坪、八丁、吉瀬、衣笠、相原、松原、芳井、嶋崎、奥田、須郷（待島、中西両氏は那の津荘のみ）

1月27日（火）

学生部から呼び出しがあつたが、学部長懇談会ということだったので出席をことわり、在宅して原稿の方を進める。この二、三日のうちにどうしても仕上げておきたい。三〇枚ほど書けた。なかなかまとまらぬ。

1月28日（水）

朝本部に出かけたが、総長休みのため予定の学館問題事情聴取はおこなわれなかった。関西行き前後の打ち合わせを学生部でおこなう。

午後講義。

これまで書いた原稿の整理をしかけたが、まだまとまっていない。まとまらぬまま、明日須郷君に一応あずけるつもりである。

紅梅がきれいに咲いた。縁側に出しているのでそこが温室になっている。

昭和二七年のメーデー事件について東京地裁の判決があり、騒乱罪を一部適用、九三人が有罪（執行猶予）一一〇人が無罪。あのような事件に騒乱罪が適用されるか否かが注目の焦点。一部というのは割りきれないもの。政治的配慮を感じさせ、不当であるとの批判が強い。



1月29日（木）

午前中、入試実施委。

午後入試審議会。おわって学生会館の運営について教養部関係者を呼んで総長が話をきく会。反代々木系の巢になっている現状が問題であるが、にわかになんかどうすることもできない。全学的に対策を立てるといっても、やはり苦勞せねばならぬのは教養部教職員を置いて他にない。宿直の廃止もできそうにない。

中村文子君が社会党をよくする会をやめたいということで、九大に適当なポストがあればということで履歴書を持参。——庶務課長にたのんでおいた。

未完成だが、問研パンフの原稿をまとめて今朝須郷君に届けておいた。

夜七時半頃の列車「阿蘇」で名古屋に向けて立つ。

1月30日（金）

午前一〇時前に名古屋駅につくと、予定通り名大の学生部次長牧島氏が迎えに来てくれており、午前中名古屋大学を見学。中食をごちそうになり、午後一時、市公会堂まで送ってもらおう。愛知県労評の春闘講演会。四時にすんで新幹線で大阪へ。佐藤次長らの出迎えをうけ夕食をごちそうになり、夜は阪大中の島記念会館の宿舎へ。ここに三泊することになる。夜おそくまで原稿を書く。

名大の丘がうねる広いキャンパスは、いまはまだ美しさはわからないが、数十年後には価値がでてこよう

1月31日（土）

阪大の学生部次長、学生課長二人とも佐藤氏。車で阪大石橋地区を見学。ひるすぎ中島の本部に帰り中食をごちそうになりお別れする。

寒い。阪大宿舎に入って原稿を書く。阪大の教養部もかなり荒らされているが、九大がはるかにひどい。教養部が同じキャンパスにいることはよいことだ。石橋地区は美しい。

九大入江総長が昨日の評議会でも全会一致に至らぬまま、教養部関係の封鎖破壊につき告訴をしたと新聞に出ている。

法経両学部とくに法学部は警官導入時と同様に告訴反対を最後まで貫いたということであった。

2月予記

きりきり舞いの二月になった。どう乗り切るか。労働講座の要求が相かわらず多い。

入試対策を万全にすることが第一のポイント。

2月1日（日）

早朝阪大の宿舎を出て佐方へ。佐方を午後四時に立って岡山へ。社会主義協会岡山支部結成大会、午後六時から、駅西口の旅館野菊荘。会員は二三名とか。二一名きていた。

佐方に五時間ほどいたが退屈。赤飯をしてくれたのがおいしかった。小遣を少し渡したら親たちがよろこんでくれた。

岡山支部は若い者ばかりで意気さかんだが、方向を見誤まらねばいい。河野君が支部委員長になっているので誤りはなかりょうと思うが、将来は中国支局の結成に向けてことが期待されている。当面七二年までの方針を堅持、今年中に会員一〇〇名にするよう努力すること。運動の具体性の追求が必要だろう。

2月2日（月）

宿を出たのが八時半、関西支局の松本君と同行大阪へ。

兒島さんに電話連絡し、中食をごちそうになり、約束どおり万国博の会場見学。先輩の鹿島建設の西山さんという出張所長さんも同行。二時ごろから四時半までゆっくりの見学だった。

今日の見学は施設全般にわたる説明をおききすることに主眼がおかれた。ソ連館アメリカ館等々、鹿島建設が住友童話館のグループに入っているため住友館はくわしく内部も見学。開会後も二、三日かけて見に来たいと思ったが、テレビの馬鹿馬鹿しさに似て、科学技術の粋を集めて大いにおたのしみ、カネがかかってあとは何も残らないというのが万博ではないだろうか。

2月3日（火）

関西支局の松本君と約束したので社会タイムスへ数回、春闘に関する原稿を書くことになった。阪大の宿舎にいて、一日中その原稿書き。三回分書いた。

夜、近畿労働学校の講義。六時から大阪府労働会館。合理化のはなし。宮原君が講義が終わった頃に来たので、協会支局で一寸話す。

夜二二時三二分発の月光二号で帰博。

2月4日（水）

定刻七時五一分に博多着。急ぎ帰宅して小林課長に電話したら、文経、法、養各学部でスト決議がされており、教養ではピケがはられるだろうという。全国統一行動の日である。教養部は早朝から教官が動員され正門をかためている学生と対峙、警官導入ということになりそうで、門は開かれた。しかし授業はほとんどなかった。私も一〇時からの参与会その後の情勢をみて休講にした。封鎖破壊の告訴につき教養部関係のみを対象としたこと、それを教養部長が列席せぬ会議で決めたことに関し、教養部教授会は大いに異議をとнаえ、告訴取消

しを総長にせまるなど昨今教養部教官の雰囲気はきびしい。教養部長が待てといているのに研究科長会議で他の部局関係ははずし、教養部だけ告訴と決め実行にうつしたということは当然に紛糾をあとに残すことになる。他を入れないという主張には経済学部都留氏の発言がきいているという。

全通中郵の今永君の紹介で、吉村松尾両君の結婚仲人をする事になり今夕両君を拙宅に招致。いろいろなりゆきをきき日程など打ちあわせをする。

深山、執行両君が飲んだ勢いで拙宅に来訪。深夜一時頃までまた飲みつづける。

## 2月5日（木）

八丁君に渡しておいた原稿をとりもどして再点検。就業構造基本調査の四三年分は入手できたが、もっと以前の分が手に入らぬのが残念。

夜、国鉄小倉工場の支部で春闘講義。

## 2月6日（金）

講義。

二時から記念講堂運営小委。使用規則を根本的に再検討する問題。

問研パンフ（七〇年代春闘の課題）の原稿を明日手渡すための最後の手入れ。一月中の仕事だった。二〇〇字用紙三五四枚、数表六五というものになった。一週間ほど予定よりおくれた。疲れた。

次の「社会主義」三月号の原稿が待っている。もう一回どおり目をとおすひまがほしかった。校正刷のときに念を入れよう。

## 2月7日（土）

きのうの原稿を問研に届ける。

国労門司支部の労働講座。門司大里公民館。

夕刻帰博。協会九州支局常任委員会。とくに社会党、総評の危機の内容について討議。別党を名のるべきだとの意見も出るほど、崩れが以前の予想よりもはるかに早い。党変革の旗を立てて日常活動しづらくなってきた。総評もかなり深刻。分裂も近いようである。九単産を中心に二五〇万人ぐらい。どの単産も分裂するかも知れない。影響が問研加盟にも出ている。協会飛躍を期す二ヵ年計画をさらに急ぎ再検討し、指導体制の確立に向けて意思統一。

## 2月8日（日）

自治労福岡県本の労働学校。朝九時からひるまで。労働運動史。西新水光苑。

新聞の切りぬきや身辺整理。

裏の白梅も池のわきの枝垂れ紅梅も今にもほころびそうになってきた。小雨がふって一寸

暖い。

2月9日（月）

七時一九分の玄海で湯田へ。全日通山口の労働講座。一〇時から夕方四時まで。上京途中なので日通の寮（銀泉荘）に休んでいるとき、馬渡君がたずねてきた。全通山口の労働運動史を編集することについて博多で打ち合わせたいという意向。日通の山田修策氏は相変わらずだが、第二協会には愁波を送ってはいない模様。衣笠君のことを盛んにほめていたから、わが協に組織するタイプであるかどうか疑問が残る。山田氏に馬渡君を紹介しておいた。

“はやぶさ”で上京。

山口市は一時は相当な雪だった。

2月10日（火）

新幹線も東海道在来線も雪のためかだいぶん遅れたようだ。車中経済学部の深町君がいたのでよもやまばなしの相手になった。

文部省に行き、学生関係施設と人事問題につき学生課長に要望。

労働旬報社に寄る。

午後四時遅れて社会主義協会中央常任委員会に参加。（合化労連宿舍談話室）議題の興味の中心は社会党の再生論議と動向の混乱と総評をめぐる労働戦線の混乱の問題。わが協会はいよいよ旗幟鮮明にして混乱した革新陣営のゆくえを照らすべき時に来ている。第二協会は頼むに足らないらしい。午後七時すぎ一旦休会。合化の宿舍に投宿。中常委はいつになく明るかった。

2月11日（水）

一〇時昨日からの中常委続会。三月末に中常委を開き、五月初旬に開く一〇回大会を躍進の大会とすべく運動方針の大綱をきめることとなった。会費を若干値上げし、オルグを三名ほど増員し、できれば嶋崎君を事務局長にすることなどについても大会までに準備を進めることになろう。正午に閉会。

午後は合化労連の副委員長室で「社会主義」の三月号の座談会。労働運動の現状に焦点をあてた内容のもの。

終って少しの時間、林秀氏夫妻と東京駅で合う。啓二の受験について宿舍のことなど心配してくれた、気持は有難くうけとった。

午後四時四〇分 “さくら” で帰福。

2月12日（木）

列車の中で朝になって自治労の花田氏にあう。

午後参与会。学友会傘下の各自治会が反民青系の指導部に代わりつつあることから、将来が案ぜられるということが問題。

帰りに藤本さんと「みつき」で飲む、白水さんと呼ぶ。十二時半に帰宅。

## 2月13日（金）

一〇時から入試実施委。昨年と全く同じ状況。

六時までかかって帰ってみると、小倉地区労の労働学校があることをすっかり忘れてしまっていた。スッポラカシをわびた電話をする。

大阪の児島さんから「これが万博だ」を送ってきてくれた。

吉村君の結婚式は三月十四日と決定。

## 2月14日（土）

寮生交渉の申入れがあり、その予備折衝。一〇時半から十二時半まで、課長室。

午後一時から三時まで学友会協議会。応力研会議室。あと寮務委員会。午後四時終って帰宅。

大変に暖い。室内十五度をこえている。しだれ紅梅がついにほころび始めた。

吉村君が結婚式までの日程の説明に来宅。十九日に彼女の宅に行ってスミ酒の祝儀をすることになった。二〇〇人を招いた結婚式になるとは驚いた。本式である。

「社会主義」の原稿、~~メ~~切が来ているのに気がかり。四～五日おくれそうだ。

## 2月15日（日）

天草本渡を一日で往復。市議選にそなえて市民のつどいを第一劇場を借りてやる。ここは社会党の実権を協会がにぎっていて党の候補二名とも協会員で占めるという全国でも珍しいケース。大坂仙波がその二人。前者は現議員でうまくいきそうだが、後者は九電の職員で落選かも知れぬという、午後二時頃から四時頃までの意見発表や私の講演。党支持者が一五〇人ぐらい集まっただろうか。雨のせいもあって集まりはさびしい方であった。

午後十時半帰宅。

## 2月16日（月）

問研の運営委員会に一寸顔出ししただけで、急ぎ本部へ。十一時から学友会中執との団交予備交渉。山積する問題はある。しかし彼らのいう大衆団交をにわかにはOKすることはできないという趣旨で応対。

午後一時半から入試審議会。予備問題を作ることで相当議論があった。事務的にはつらいことだが、安易な発言をする審議員に押されて作ることになった。出題委員に集ってもらって予備問題作成につき依頼したら案の定、今になって何かと大変叱られた。が結局、折れて作成をひきうけてくれた。

2月17日（火）

池の傍の紅梅二分咲き。

ボケも蕾らしい姿をはっきりみせてきた。ワビスケサザンカがようやく花びらをみせた。昨年より四五日もおそい。

次長に電話して入試問題の保管の厳重についてただしてみた。

馬渡君がひるすぎ来訪。山口全通の組合史編集について依頼をうけているのでどう対応するかということ相談したいということだった。地方史・部分史の書き方について一定の哲学が必要だということ、編集仕事は研究を一時ストップさせても一度はやってみる価値があることをいっておいた。

ツキノ木洋服店から来て、一彦の就職用品の相談を決めて帰った。

夜、市民大学OBの講座。舞鶴公民館。（唯物弁証法）

2月18日（水）

保健管理センターの助教授をどうするかについて井上助教授、厚生課長と総長室で意見交換。地位待遇が中途半端なため、後任が得難いからそれを明確にするというのが題意。入試用紙印刷について学生部職員に秘密がもれないようさらに注意を喚起。

講義。

午後二時三〇分からの教授会は九時半までかかった。オリエンテーションについて長時間討議されたが、学生からつきつけられた要求の前にダウンしそうな空気。一週間を自主管理するという事に関してのみ拒否ということで、次回もちこしとなった。

2月19日（木）

吉村君から、松尾家へのスミ酒持参。武雄町。田中君がついて来てくれた。鯛が立派すぎると思ったが、吉村君のお母さんはもっと大きなのがよいといったらしい。十二時の列車のつもりが鯛がおくれて十三時四〇分の列車になった。六時半帰宅。

2月20日（金）

また、会議の連続。次のとおり。

保健管理委員会

寮務委員会

部局長会議

入試対策会議

そして、午後六時半から福岡地区労会館で全国一般労組の労働講話。疲れたので夜は何もできない。

下くちびるの水泡がまた大きくなりつつある。もう一ヶ月以上になる。ふくれたり縮んだ

り。治療すべきものかどうか、みてもらう必要がある。  
入試の問題が刷り上がったらしい。対策がだんだん具体的になってきた。  
久しぶりの雨。たつまきも起ったというはげしい雨。しばらくであがった。  
昨日、夜半十一時ごろ、啓二が慶応受験のために出発した。  
阿部夫妻がその時来宅、啓二の出発を見送ってくれた。すみ子さんは最近退院したのだそう  
だ。三月から出勤するという。何ヶ月の入院だったのかきかなかったが、半年といわぬかな  
り長期の入院だった。太って帰ってきている。

#### 2月21日（土）

入試警備につき、県警と打合わせ。午前九時半、筑紫会館。  
八女郡黒木町職員組合の労働講座に出かける。  
また寒さがぶりかえしたが、この三、四日の暖かさはむしろ異状だったといえる。  
出君が学生運動に入っているという電話が下宿先からあったので東京の両親に電話で連絡  
しておく。私もちょっとびっくり。

#### 2月22日（日）

日田にゆく。市民会館、一時から地区労青労研学習講座。合理化問題。  
いまとなつては「社会主義」の原稿ができないままで労働講座に動きまわらねばならぬ日程  
がうらめしい。  
午後六時半帰宅。吉村君がお母さんをつれてあいさつにみえていた。八日の結納持参につい  
て打ち合わせる。

#### 2月23日（月）小雨

下関の海関荘で開かれている国労西部本部の学習講座に出席。午後一時半には帰福する  
という早起きのピストン。夜は徹夜で「社会主義」の原稿を仕上げる。ひるは学生運動につ  
きあうという猛烈な一日だった。

#### 2月24日（火）

原稿を送る。十日もおくれた。  
午後、入試対策本部会議、部局長会議、評議会。ここは途中退席して教養部で経済学教官採  
用選考委員会に出席。福留久大君を講師で採用することに決定。  
白水さんたちとマージャンをする。（夜）  
拙稿パンフレットの初校上がり校正をはじめる

2月25日（水）

午前中、校正。終って問研に手渡す。

午後講義。

のち、東署で入試関係事務打合わせ。

午後六時から寮生交渉。同窓会館にて。そのあと、厚生部の者（久綱、堀、土内、教養の安川）と「はやし」に行く。もう十二時過ぎてから、安川、土内両君が拙宅に来て、みゆきを加え、夜を徹してマージャンをした。

2月26日（木）

今日、明日は教養部学生のストライキ。二三日の学生会館への機動隊導入のこと、医学部における警官に守られての授業体制のこと、沖縄全軍労支援のことなどを目標に、反安保のためのストライキである。大学側は授業は当然おこなわれるとして対策は立てなかったが、正門を封鎖され、後に機動隊で排除したものの、また封鎖され、九時頃には授業が完全にストップしたことが明らかとなり、学生側が勝利した。大学側はスト決議にかかわらず授業はおこなうという掲示を出し、早朝から門を警備する姿勢を示すべきであった。

午後一時半から留学生専門委。（とくに外国人入試国語作文出題）

午後五時半、小倉労政の労働講座。（七〇年経済動向と春闘）小倉労働会館。

2月27日（金）

講義のため登校したが、昨日よりさらに学校側の態度は崩れており、授業にならず。問研に行き、パンフレットの「はしがき」書きと再校の仕事をする。

午後六時、福岡地区労の労働学校。春闘について。

小雨降る。

2月28日（土）

入試妨害の声が実際問題としてちらほらきかれる。二三日、二六日、二七日の事件を温床として反代々木系とくに反帝学評が妨害方針を明らかにしたようだ。われわれとしては明らかになった方がやりやすいので、特別に困ったことにならない。

午前十時半から入試対策本部会議。（貴賓室）

午後一時半から入試実施委員会。特に予備問題の印刷について。

夜、下関地区労、春闘講座。大谷君は下関における協会運動を問研分室活動として今後展開してみるとの希望を語ってくれた。山口県全体を展望してのことでもある。善悪はにわかには判定し難いが。

赤の沈丁花がきれいに咲いた。白がどうも元気がない。



3月1日（日）

風が強く杉の幹までゆさぶっているが快晴。春がそこまできた。ふき出しそうにすべての芽がスタートについている。池の鯉にも動きがある。久しぶりに在宅の日曜日である。直美は絵のけいこがずいぶんつづいて精勤している。

合化労連からたのまれた原稿執筆のため、生産性労働資料センターから出ている明大教授吉田忠雄氏著「労働運動と福祉国家」（パンフ）を読む。

民社思想ブンブン。理想主義者の物知り評論、資本主義弁護論がこのように変形している。学問とか科学の名に値しない。

3月2日（月）

入試対策本部会議。

県警との連絡。

受験生がぞろぞろやってきてやや緊張。反帝らが妨害を公言しはじめた。今年は大丈夫だろう。

3月3日（火）

小雨もよう。入試は平和に進む。但し、ひる休みに教養部で妨害行為に出ようとした反帝グループのうち松本が逮捕されたこと、工学部の助手平井が警官に守られた入試に協力するのはいやだとのゼッケンをつけて校内を歩いたあと、午後の入試監督はしなかったこと、国語の問題に書取りの課題に答える漢字が他の問題に出ていたこと、この三つが問題だった。午後六時半から市民大学OBの講義。唯物史観について。

3月4日（水）

今日も無事だった。工学部の山田、平井の両人が中食休けい中に、警官に守られた入試反対をとなえたビラをもって本部二階廊下を四往復したのが変わり種。

3月5日（木）

試験は無事終わった。

箱崎の「あと山」で総長以下入試対策本部関係者ビールで乾杯。

水光園で自治労県本部教宣研究集会。午後八時まで。

啓二は慶応文学部入試失敗。今後はごうまんな、人と世をなめた態度に変化がくるだろう。

3月6日（金）

あと三月も終りまでいくらないので、浜の寮に学生部の掛長以上を集めて、学生処分に関する資料の検討をおこなった。

夜、田川地区労働学校。

この四、五日寒い風が強い。東京方面は雪らしい。

3月7日(土)

全く春のよい天気。

教養部に登校して処分問題、寮の問題について教養部関係者の意見をさぐる。

ひる間まだ早かったが、中村、執行、緒方の三人と「五本松」でビールを飲んで歓談。

「社会主義」から原稿依頼の念おしがあり、ユネスコからも電話連絡があつて、ここしばらく机に向かう時間を多くしなければならぬと追いつめられた感じになる。

3月8日(日)

上々の天気。

吉村さんから松尾さんへの結納。

武雄へ。ひるから出発して帰宅したら午後九時だった。

3月9日(月)

在宅して原稿。「社会主義」誌のため。ほとんど書き終わったが、こんどの原稿はよくない。大牟田の田中稔男氏が来訪。三池の労働運動、向坂批判などに話題が集まった。大牟田で彼が集めている労農文化グループに対し、ひまを見て講演してくれということであった。三月中は無理で、四月になって考えようと返事した。四月下旬には彼はメキシコに行くという話だった。

3月10日(火)

部局長会議 一時半～五時。

学生部参与会 一〇時半～一二時。

「繁栄のなかの貧困」が七日に出来たといっていたので、協会本部に寄ってみる。大坪君がいた。総評の崩壊が早まっているという。月末の協会中央常任委員会には是非出席しなければならぬ情勢。

夜は「社会主義」への原稿を仕上げる。「繁栄のなかの貧困」を寄贈先に送ることにする。とりあえず五冊。

3月11日(水)

スト明け、試験あけの講義だが、全く熱がはいらない。これから空気をかえる意味で出欠をとることとする。

合化労連への原稿書き。福祉国家論批判。

3月12日（木）

合化労連への原稿書き。福祉国家論批判。

夕方、大牟田、福祉会館での大地評春闘講座に出席。

3月13日（金）

講義。あと、神坂君から借金の申込みがあったので互助会の森田さんに連絡して借用手続きを完了。

一時半から学部長会議。

三時から評議会、このあと五時から運用定員委員会。（生研会議室）

午後七時になったが、東京から、ユネスコの出版事業のことで高橋正雄先生が来福されているので、大屋祐雪君と出席。（福岡ユネスコ協会事務所）八月末までに原稿を仕上げるよう約束。あと、大屋君と小ひろに行く。

朝、合化労連立花氏への原稿を発送。

3月14日（土）

午前九時から入試実施委員会。合格予備査定。

午後三時には抜け出して日生ビルでの吉村敏明・松尾裕子両君の結婚式に媒酌人として出席。二〇〇人という披露宴参加者にはびっくり。若い者が寄ってたかってわいわいやって祝福しようというのだから。中央郵便局の組合運動のきびしさが反映していてよかった。

六時半に吉村家に引きあげた。近隣の女衆に新婦をひきあわせる儀式が別におこなわれる。私たちが帰ったのは十時だった。

3月15日（日）

午前八時にくり上げられた入試審議会。（第一会議室）午後四時には終了。それからがあわただしい発表準備。例年より一時間くり上げた午後十一時発表にまにあった。

小雨も止んだので、発表がスムーズにおこなわれてよかった。古川病院長、上田教授の息子さんたちが合格した。

3月16日（月）

社会タイムスの連載もの、おこなっているので協会に行き行って書いて出す。

教養部学生委員と参与との合同会議。教養部学生委員会室。オリエンテーションについて。

あとで、藤本、学生課長、係長の四人で飲んで語り合う。（五本松）

3月17日（火）

広報委員会

学部長会議

基地対策委員会

市民大学 OB 講座、第三回。

やま利

学長を招いて懇談する会。

教養部

部長、緒方、安東、深山、加来、田代、上田。

あと、小ひろに行き、私のうちにまで（安東、深山、田代）引きあげたのは午前三時。

3月18日（水）

講義。

教授会。午後二時半から八時半まで。中村正夫氏が、西原忠毅氏の後任評議員に選出される。オリエンテーションに三日案が可決され、六日案は否決された。しかしどう実行するかの態勢づくりが今後の重要課題となろう。

3月19日（木）

入試の身体検査。妨害や衝突が予想されたので早朝より医学部事務長室につめる。正午頃デモ隊が外来棟に突入し、事務本館にも侵入したので、退去警告を発した。この時、小林学生課長がデモ隊から詰めよられこつかれた。警官隊の護衛が要請されたが、十二時半頃には事は静まった。

学生側は安保反対、入江体制粉碎およびオリエンテーション一週間自主管理を叫んでいる。工学部、法学部、教養の学生がデモ隊の主力をなしていた。

「みつき」から藤本、緒方両氏が呼ぶので、夕食をすませて出かける。帰宅、午前一時半。

3月20日（金）

講義。

午後一時から同窓会館で開く予定の参与会に出発のとき、教養正門わきでスクールバスを利用しようとした私と藤本参与、宮原学生委員の三人に対し、オリ共闘の学生がつめよって妨害した。

参与会は藤本、宮原の二人を残留させ学生と改めて接触させたので無事開かれた。（医学部長室に場所がえをして）

健康診断委員会（病院長室）午後三時から。

文部省から石川学生課長が来ていて二日市の大丸別荘で懇親会。芸工大と共催。

一彦の横浜の寮への荷造りを手伝ったら午後十二時になってしまった。

3月21日（土）

早朝出発、夕刻帰宅。下関日通分会春闘講義。

陸軍墓地のこちらの岐路からうちの前まで舗装工事が始まっている。もう四、五日になるのに、ひまをかけている。水道の出がよくなることを願っているが、半信半疑。

3月22日（日）

直美の進学祝いにフランス人形を買ってやる約束ができていたので、ひる頃から直美、みゆきを連れて町に出た。デパート、商店街、スーパーは人出でごったがえしている。フランス人形はかんたんなものにした。置き場所に困るほどである。

啓二が卒業できたし、一彦も就職ということだから、大濠高校の村井、長谷両先生を呼んで一々歓談することにしてしたが、長谷先生は修学旅行で都合がつかず、結局村井先生だけ来てもらった。氏の息子も今年浪人でありながら九大受験に失敗、啓二と似たところがあるようだった。あとで奥さんにも来ていただいて、みんなでマージャンをすることになって、夜更けになった。

九大のキーパンチャーの採用試験に受験する件で勝手に消極態度をとり、失敗した中村文子君について、私が怒っていたときいて彼女は、あやまりに来ましたといって夕方訪ねてきた。小林栄三郎先生と分担した餞別五〇〇〇円を手渡して帰した。この頃の若い者の気持がわからない一例であった。

3月23日（月）

登校の用もなく、在宅して身辺整理。趣味の切手カタログによる切手の整理もした。

ボケがきれいに咲いた。

ポリアンサス、アネモネも咲いた。昨日町で買ってきたサイネリアもきれいだ。サンショウを買って植えた。桃の花は今年はまだ六、七個しか準備されていない。

レンギョウも切り花に利用するところまできた。

白の沈丁花はやっどこさ咲きはじめたが、全く勢いがいないのはどうしたことか。

直美がピアノの練習を比較的によくするようになった。

3月24日（火）

九時、指定された時刻に歯学部病院に行き唇の治療をうける。——手術。

執刀は田代先生。手術はうまくやってもらったがひる頃若干気分が悪くなってきた。痛む。

午後三時半評議会。運用定員の配分に関する報告につき、清水工学部長から疑義が出され、総長は立腹して退場してしまった。

市民大学 OB 最終講義。大名町青年センター、六時半～八時半。

3月25日（水）

講義。

四時半から龍鳳で参与会。入学式やオリエンテーション問題のほかに医学部から松原寮事件に関する学生処分問題が提起され、突如明日そのための参与会を開くことになった。終わったあと、恒例の学長紹待の参与懇談会となる。

昨日の評議会のもつれから、入江学長はこの懇親会にも出ないということだったので、とくに電話をして主張をやわらげてもらい出席してもらうことができた。

懇親会のあと、学生部の両課長井上、千々岩の諸氏と小ひろに行く。（二次会）

3月26日（木）

参与会。（三時）医学部学生の松原寮リンチ事件五名の学生の処分の問題をめぐる参与会。

医学部原案通り停学（無期ふくみ）を了承。五名を弁護する意見は出なかった。無期といっても一年間ぐらい。しかし、今から一年となると卒業が二年おくれる。それでも仕方がないというのが、みんなの考えであり医学部原案の趣旨でもある。

夜、総評全国一般の初歩学習会。（地区労会館）

中島敏子さんが一彦の卒業祝いのために来訪、夕食を共にしたという。

明日の東京ゆきは、評議会が土曜日に開かれることになったため取消し。あとで航空券でゆくつもりである。

十一時から評議会、一昨日の中断した議題を片づける。冒頭とくに学長から発言があつて就任の際の古証文だがといつてははっきりした態度をとることが強調された。なお、これまで総長と通称していた呼称を学長に改めようということになった。

3月27日（金）

講義のあと、歯学部病院へ。唇の治療。さきに縫ったところの抜糸はまだ早そうで、出張との関係で来週火曜にするということになった。

入江学長との打合わせ。午後一時、学長宅。医学部の処分問題、入学式問題が中心。明日の評議会に向けての対策。このあと事務局長、緒方評議員、小林学生課長と四人でレストラン青山で教養部の田島寮、第二食堂などについて今後の態度を打ち合わせ。

久しぶりに明るい中に帰宅。

明日の東京ゆきの航空券入手。

ボケ、レンギョウが立派に咲いている。モモの花のつきが少いのはどうしてだろう。

鶯が鳴いている。

3月28日（土）

医学部処分問題は評議会ですでに午前中に案外かんたんに決着づいた、経済学部からは相かわら

ズネチネチと引きのばしのような発言がなされた。

夕方の板付発空路便で東京へ。合化労連宿舍の談話室で中央常任委員会。来る五月初旬の協会年次大会のための方針案を討議している。私は午後八時頃に着いたので大へん遅れた。協会員は年間二〇〇人ばかりふえ、九百余名となった。大会までに一〇〇〇人をこすだろうということである。

合化の宿舍の投宿。

### 3月29日（日）

協会中央常任委員会第二日目。五月大会の方針案を討議していたら時間がどんどんたった。渡会氏が今日休んだので私が司会する。嶋崎氏は彼の研究所と協会事務局長とを半専従することに応諾。六時半頃に散会したので、夕食をとり、何することもなく就寝。今日も合化労連宿舍。

### 3月30日（月）

午前中文部省。女子寮、教養部学生食堂などの新営促進陳情が主眼。学生課長、施設部長にあう。

労働旬報社に立寄る。

社会タイム社への原稿を書いて発送する。

ダイエーフーズに転勤した岩田嘉人氏を銀座に訪ねる。

六時半羽田発で空路帰福。

留守番をしていた啓二がおりにきて予備校の入学金についてもつれてきたのではげしく口論する。

### 3月31日（火）

少々ねむい。広報委員会が十時半から開かれ、新入生向けの広報発行について討議。

赤軍派らしい学生風の男一四、五人が東京発福岡行きの日航機を乗った事件で話題がもちきり。（朝九時頃から午後二時頃まで）結局犯人が指示した北鮮にはいかないで金浦空港に着陸。犯人たちはそのまま捕えられたらしい。

教養部の新年度新営工事につき、昨日の文部省での話の結果を学生部として検討。たまたま教養部長事務長も来室されたので、新営工事をどう進めるかについて相談してみる。

第二学生食堂と体育館、四号館が焦点。

### 四月予記

四月の憂うつ。学生対策に有効な手をうつことなくズルズルに学生の動きに引き込まれる。これは学生対策の問題というよりは教官対策わけても部局長、評議員対策の問題である。腹

立たしいのでなるべく教授会に出席しないようにして傍観者となるほかはない。当事者の気になると精神衛生上よくない。四月はじめから研究室が復旧する。内部の荒れ方は当分復旧の見込みはない。被害はかなりの金額に達するだろう。整理する気にもならない。学生部長の職責にも張りをもって当たる気がしない。

4月1日（水）

日航機乗とり事件の犯人が金浦空港で逮捕されたというのは誤りで、板付空港と同じやりとりをしている。

授業。

教授会。

八幡労働学校。

午前中、小唾液線炎 抜糸 治癒 歯学部田代助教授

教授会では十三日の入学式当日のオリエンテーション日程のみ決定。十四、五日の両日の日程細目は各クラスにまかせるという基本方針だけで対策など皆無。全共闘派のオリ共闘にかきまわされても仕方がないということらしい。大学の態度の不明確さは腹立たしい。教養部教官のダラしさを反映している。

4月2日（木）

熊本大学に出張。生協の水光熱費不払処理問題について。

経理部長、厚生課長、同補佐。熊大を見学。

日航機乗取り事件ようやく解決に向う。

4月3日（金）

講義。

近頃の講義は学生に対する愛情がないので全く熱が入らない。研究室にはようやく鍵がかかるようになった。中も構造物としては立派に復旧したが、書物や資料はなかなか片づかないし、片付ける気力もない。机も新しく入ったが、しばらく気が向くまでこのままにしよう。

日航機は乗客を降ろし、山村運輸政務次官が身代わり人質となり平壤へ飛び、旅客は板付に送還された。

4月4日（土）

前試験欠点者レポートの採点。

中村正夫氏が対馬の住職をつれて来て、午後二時頃から七時頃まで私の手料理をふくめウイスキーをふるまって語った。何でも、地域社会の発展のために、寺に近接する無縁墓地を



ふくむ三〇〇〇坪の土地を九大で利用してくれということである。この話は昨年から中村氏を通じてうけたまわっていたが学園紛争のこともあり、利用方法が確立しないため沙汰止みになっていた。住職の悲願ともいべき熱意にほだされて、土地寄付受けつけには協力してみるつもりである。

夜、支局常任委員会。集会所。みゆき、直美、佐方より帰る。午後十時。

4月5日（日）

天気が上々でエンドーの手当てなど畑仕事。すおうも咲きかけた。かいどうは花がついてない。植えかえたせいだろうか。

朝から谷の向うの山で木を切るためだろうか嫌な発動機の爆発音が横暴なまでにあたりにひびきわたっている。

日航機（よど号）けさ平壤から羽田空港に帰還。山村次官、石田機長等。乗取り犯人らは平壤に残る。当日羽田を出てから今日午前九時羽田に帰着するまで一二二時間ぶりだという。

4月6日（月）

ひるすぎに予定されていた田島寮生との交渉流れる。（あとできいた話だが、寮委員長三島君は不正入寮者追出しにかかったら、反対派から圧迫をうけて寮に居られなくなり逃げているらしい）

午後三時参加。入学式およびそれにつづくオリエンテーションについて。

十三日の入学式は機動隊の援助をえてでも決行することになったが、十四、五の学生独自のオリエンテーションがむしろ問題だということになったが教養部は案をもたない。放任主義が大勢を占めている。

4月7日（火）

「すくらむ」の原稿を書く。

午後登学し、施設部長、事務局長にあい、女子寮、教養第二食堂、体育館などの新営について九大の態度、事情をたずぬ。明日一時から教養部で新営促進のための会議があるので、そこで説明しうるよう情勢をつかんでおく必要がある。

教養部の学生対策の姿勢があいまいである以上、なかなか文部省もいい顔はしない。教養部ではそれが、専門学部と教養部を差別する学部側の態度に問題があるように思っている。

4月8日（水）

後期の授業が四月にいくこんで今週でいよいよ最後。今日は自分の授業時間をさいて試験。医学部学生処分、青医連在籍整理など反対をとる学生の集会在医学部でおこなわれたため、学生部からも医学部事務長室に出向き学生の動向を注視。ヘルメットデモを若干規制

した程度で事態はおさまった。集会者一二〇名程度。

渡口君関係の八幡労働学校。（六～九時）

大阪市におけるガス爆発で七〇余名の死者がでる。

4月9日（木）

入学式の問題で総長と事務的な打合わせ。午後総長教養部の幹部と要談、教養部長室。

午後三時から留学生寮運営委員会。

断水で困る、長い間雨が降らぬためらしい。今日は一日中しめり程度だが霧のような雨が降っているのだが。

協会大会の議案書原稿一部分担部分を執筆。

4月10日（金）

後期試験。

協会第一〇回大会議案書の一部執筆原稿二〇枚支局に手渡す。

部局長会議、評議会。主として入学式について。

新任学生部次長千原氏着任。

評議会後十三日の入学式の警備につき県警と打ち合わせ。

井上正治氏が法学部を去ったが早々と名誉教授推薦もきまる。九大事件も井上氏に始まり井上氏に終わったようなもの、何だかはかない夢だった。

4月11日（土）

西日本新聞文化部の山下氏の依頼でソウル飛行場で乗取り事件の一学生の手記に対する考え方（批判）をのべる。（十時半から研究室で）あすの朝刊にのせたいという。

革命は輸出できないということ、民族的であるという点、主体性と客観条件ということ、などについて言及した。

44年度後期やっと終る。

さくら（一八時五八分）で清水へ。

寒い。

4月12日（日）

静岡で下車し、清水に向うときプラットホームで石金幹彦君にひょっこり会う。立派な青年社員になっている。

清水の鉄舟寺、国労中部青労研。体制的合理化と労働運動、とくに運動面について。（反合理化運動について）午後二時半から四時半頃まで。

国労の青年部には協会の影響力がかなり浸透していることがわかる。中部地方でも長野県

まで伸びている。

私の前座をやった秋沢修二氏にはほんの二、三分話しあう時間があった。

明日の大学の入学式には早目に出ていかななくてはならぬで、振り切るようにして清水を立つ。途中日本平の石垣いちごをみやげにいただいた。新幹線で、新大阪からは特急明星で九州へ。

#### 4月13日（月）

六時前に博多に着いた。よくねむれなかった。駅構内浴場で朝食するなど時間を過ごし、八時に本部へ。記念講堂前が緊迫。教官、学生部参与、学部長ら動員され、九時すぎには反対派学生がかなり活発に動き出し、坐りこむ。機動隊によるゴボウ抜き。二五〇名ぐらいのオリ共闘。

入学式は二五分おくれたが、このような雰囲気の中で無事終了。久保、東、など四名の被逮捕。

午後は教養部へ。とくに新入生の入寮状況をみようと思って、新任の次長らと田島寮へ。次長にいわせれば寮生と学生部の関係はなごやかでよいとのこと。いろいろの要求をついでにつきつけられたが、破壊する方の責任は全くいわないで要求ばかりする当今の学生の気持は、勝手なのか幼稚なのか。

京都府知事選蜷川氏大勝六選。

#### 4月14日（火）

大へん物うい気持で帰ってきた。帰ってみると今日のうちに前の谷の木が無惨にも伐採されているので一そうものうい夜になった。利殖のためとはいえ、鶯の啼く谷がこれでなくなるかと思うと残念でならぬ。南側の山はもう二週間ぐらい以前からけたたましい音を立てる発動機鋸で切り拓かれつつあったが、それがとうとううちの前までやってきた。

教養部の授業開始の姿勢をめぐり、幹部を呼んで話合っていた席上学長は説得路線について大声で怒った。しかし教養部の態度は軟弱さをかえないだろう。中村君はこの会合を私の陰謀とさえかんぐっている。おまけに工学部からは入学式に私服警官を入れたことについて苦情が出ている。一部下からの突き上げをおそれている。全く嫌になる軟弱さ。

#### 4月15日（水）

のんびりした一日。教養部の軟弱路線が気に入らぬので教授会にも教室会議にも出席しない、午後は研究室に出て身辺を整理する。破壊はこまかく見れば見るほど細部にゆきわたっている。今年の五月で二〇年勤続になるが、二〇年間の蓄積が物的に消え失せたかのようだ。あと何年九大にいるか予見できないが、再興する気にはならない。社会科教室員の人間関係もズタズタに引きさかれている。相互の不信感は相当なものようだ。私もひとに物を

いうのが嫌になっている。

学生の自主オリエンテーション二日目だが、何をやっているのか知らぬ。セクトの集合体が中央掲示板前で演説会をもちデモをし、本館の中を吹き抜けた。一〇〇名ぐらい。そんな光景をうつろな眼で見る。

4月16日(木)

教養部の授業開始日だが、一、二の教室を除いてほとんどが、全共闘系学生の妨害にあって流れたという。二回目も午後もほぼ同じようだった。午前中登校しなかったら中村評議員から電話があって、悠々自適ですナと皮肉られた。しかし、いま、教養部の体勢の中で何らかの努力をする気にはならない。暴力の問題を憲法や市民的自由の問題で処理しようとしているのだから対応にならないことはいうまでもない。

だが、午後は顔見せのつもりで登校した。互助会の森田氏から電話があり、五月中旬に学習会をやりたいという。あとで飲みに行った。

4月17日(金) 雨

各学部の参加が集って教養部の実態を見てくれという要望があったので、朝からスト授業妨害のなかに参加が集った。見聞するだけで別に意見をさしはさむわけではない。教養部の体勢をみるだけである。学長からは明日にでも警官を入れて妨害排除をし妨害者の処分が可能になるよう人定しておくべきだとの強い要望がでたが、教授会がこれを受けとる空気がない。だとすれば学長のはり上がりになってしまう。今日の教授会にも出席せず。

嶋崎君が来博するというので集会所に集まる。大坪、八丁、若井、待鳥、花田の諸氏。東京の淵上、深田らが協会九州についてあらぬうわさをばらまき不信をつのらせているという話。嶋崎君を事務局長にするための大会工作に関する審議が主内容。

4月18日(土) 雨

教養部授業開始三日目もかなり妨害をうけた模様。学生側の記念講堂使用申込みについて学生部窓口としては拒否する旨を学生委員会側に伝える。午後の教授会ではこの問題はなお柔軟に学生側と接触することになったらしい。

上田幾彦氏が子供の九大合格祝をかねて一ぱいやろうといていたことが今日実現した。小林学生課長、古川病院長も来客として参加。

4月19日(日)

夕方大牟田へ。田中稔男氏系の者の企画による政治集会があり、私に三池闘争をめぐる批判をしてくれとの注文だったので、それに参加。三池労組宮浦支部藤沢君が中心のようである。何でも今の三池労組執行部批判派が一〇〇名ぐらい組織されている模様。私も三池の活

動家の組合主義をかなり明確に批判し、今日の合理化のもとにおいては、組合外に社会主義集団を作り反合闘争を下から起こしていく外はないことを力説した。あとで大地評事務局二階に集まり、組織化について話し合った。このグループが協会支部になるかどうかはまだ疑問。

4月20日（月）

講義（初回）。妨害なく進んだ。

二回目の講義は早めに切り上げて本部へ。入江学長は過去三日間の授業妨害にはちゃんとした処置をするよう教養部に要請した。教養部学生大会に記念講堂を貸す件は、事務レベルでは見込なしとの態度を堅持。

午後早めに帰宅。八女地区労の労働学校に出席。そのまま夜行で米子に行く。国労の青年部同志の政治学校。

朝から社会党大会は反戦青年委員会しめ出しの方針案に怒った反戦系学生らの九段会館への突入妨害によって混乱している。

4月21日（火）

朝七時頃米子に着いたら迎えがきていて、国鉄寮皆生温泉の友恭寮に行く。八丁君も前夜から来ていたのか、まだ眠っていた。のんびりした集会で一〇時半に開講。一〇名前後。指導者は畑岡君。反合理運動の理論をテキストにしたがって午後三時まで説明。かなりしっかりしているので午後八丁君が固めるだろうから山陰の協会になりそうだ。すべて自前でやっているという。八丁君は一九日だったか関西支局大会の帰りという。

私は四時すぎ、島根大学学生部両課長、部長の迎えで松江しんじ湖畔に遊ぶ。島大ぐらいの規模であったら学生運動、問題、に対処しやすかるう。午後一〇時三十八分さんべ三号夜行で博多へ。八丁君も同じ列車にのりこんでいる。松江水明荘。

4月22日（水）

予定通り七時半博多着。

午前午後一回づつ講義。昨日記念講堂運営委員会で教養部学生大会の件を教養部教官会議に差しもどした件につき、学長が細目の要望を教養部長につきつけたことで部長はプリプリ怒っている。小林学生課長使者として教養部に來ていたがとりつくしまがないといったかっこうで気の毒。私も学長と同じで貸さないのがよいと思うし、貸すなら貸せるような条件をととのえるのが教養部の責務だと思うのである。教養部のやり方がいい加減なのにあきれて腹立たしく、今日の教授会にも出席しなかった。唯物論の勉強でもやっている面白い。

4月23日(木)

一〇時から記念講堂運営委員会が開かれるというので、出ていったが、こんなつまらないことで一日をついやすことになってしまった。昨日の都留工作中、佐々木入江の双方のくいちがいも佐々木の方に軍配があがって、ズルズルのうちに講堂を貸すことになってしまいうらしい。今日の運営委員会はその形式をととのえるためのもの。全く筋の通らない学生大会に記念講堂を貸せという教養部(佐々木)の態度は理解し難いが、これをバックする都留の態度はもっと理解し難い。

次長の就任あいさつということで同乗してはじめて福岡教育大学へ。環境は静かで敷地も広くてよいが、まとまりがあまりよくないという印象。

今年は藤の花がだいぶんついた。前の谷は雑木や竹を切ってしまった。

4月24日(金) 雨

一日中在宅。広報委員会も欠席。気分が悪いからだ。教養部の学生大会が記念講堂でおこなわれるというが、行く気にもならない。夜八時半頃までおこなわれたらしい。

西日本新聞に掲載にならなかった「赤軍派一戦士の手記」なるものに対する批評原稿を手直して、「社会主義」にのせることとし、今日中山君を通じて大坪君に手渡す。

4月25日(土)

自治労山口県本部労働学校。湯田温泉、防長苑、一時半から五時半まで。戦後労働運動史。二、三日ぐずついた雨も午後上った。

ツツジが咲き出した。こでまりも咲いてきた。

入江学長が電話をくれということであったが、土曜の夜だし、しなかった。

4月26日(日)

地区労婦人協議会の結成の記念講演のために直方に行く。

上からの働きかけだけのようにも思われる。うまくゆくかどうか疑問。これを切りまわす婦人グループを作らなければなるまい。協会系でやらないなら共産党にもっていかれてしまう。

4月27日(月)

沖縄デーに向けて今日明日法、教養、医の三ヶ所でストライキがおこなわれる。第一、二時限の私の講義はいずれも妨害があつてほんの少ししかできなかった。学生も殆どがネトライキである。教養部長の態度にも嫌気がさしているので何もいわないことにする。学生のなすがママになっている。教職員の心も少しずつはなれているようだ。

安東君から夜おそく電話があり、処分問題を中心に部長を追及するという事だった。私は

身近かな違反問題からとり上げるべきだといっておいた。

トマト、キウリ、ナスの苗を買ってきて植える。

協会第一〇回大会方針案とどく。

4月28日（火）

午前中参与会。生協の光熱水費の不払がつづいている問題、ストライキと授業との関連の問題が討議された。別段の結論なし。午後二時からの集会に関し、参与は教養部の中央掲示板前の現況把握のため六本松へ。

沖縄デー。全国的に二〇万人が集会したと報じられている。社共系の東京集会（代々木公園）は九万人、他方反日共系などの集会（明治公園）は一万六千人といわれ、福岡県下は約九千、福岡市内の反代々木系団体（4・28全九州労学統一集会）は一三〇〇、九大生が教養部に集まってデモに出ていった数は約八〇〇と報ぜられている。今年の集会は全国的に新左翼もゲバ抜きということのようで、福岡県で十一人、全国で二五四人がデモ中に逮捕されたほかは平穏に経過した。

4月29日（水）

ゆっくりした休日の朝になった。昨夜は途中で目がさめ、ひまを作って絵を書<sup>マ</sup>いてみようかと空想したのを思い出す。起きがけに、裏の雑木林の切り倒されたもののうち、竹を二束ほど取ってくる。先日植えたトマトの杖をする。

正午頃からみゆき直美をつれて研究室の整理をする。午後六時までかかったが、立派に掃除ができた。本をもう少し入れかえたらなおよかったが、すっかり疲れた。

車で西公園へ行き、つつじの美しさを観賞。まだ少し早目だがそれでも十分目の保養になった。帰りに鯉の小さいのを二〇尾買ってきた。池に放ったら、先輩の住人たちが驚いた様子。

4月30日（木）

春闘第三波。交運共闘とくに私鉄総連のストライキ突入で朝の交通は混乱。九時すぎ車で登校。事務系のみで生協の不払問題対策会議を開く。不払いをとかぬ限り、施設を貸さないという方向で論議を進め処置をきめた。午後、アメリカ、トレントン大学のガイアーハース教授（心理学）が学生運動について意見をききたいということで、一時半～三時、応接。アメリカの事情も一通り話してもらったが日本とほとんどかわりはないらしい。追跡調査④についての今年度の方針を審議。一般の委員は河野氏のみ。帰りに彼を拙宅に呼び歓談——昨年と同じになった。学生の処分なしには秩序は保持できぬことを彼は強調。

来年の知事選目あてに福岡地方自治研究所が発足するというので今夜二回目の発起人会が黒田荘で開かれた。私は顧問に名を連ねられていたが、出席しなかった。第二協会の連中その他がやればよいと思ったから。福教組が中心の地公労が金銭上のバックらしいので、福

教組や第二協会が指導力を発揮する動きには組したくない。彼らなりに一度やってみればよいだろう。篠原党書記長から出席要請の電話があったが断った。問研に害がふりかからない限りで協力する意思はない。それに知事選を目あてに研究所を作るなど賛成しかねる。今の党の選挙を組合資金バックに事前運動的にやろうというのも気に入らない。

#### 五月予記

嫌なこと、しんどいこと、——生協の電気料、水道料金不払問題の解決をどうもってゆくか

#### 5月1日（金）

至極平静な一日。メーデーには参加せぬ。教養部の組合は執行君の努力で組合員に紅白マンジュウをくばり、四〇名ほどメーデーに参加したらしい。

研究室がよく片づいた。互助会の要請で福利厚生に関する講演のためのレジメ作り。

夕方帰りに中村正夫君と栄ちゃんに寄る。どうも淋しがりやのぐちこぼし、反省すべし。

#### 5月2日（土）

早朝の「はと」一号で立つ。八丁君と同行。大阪でのりかえ、近鉄で四日市。市外の湯の山、希望荘へ。着いたらすでに午後八時半をこえていた。社会主義協会第一〇回定期大会を明日にひかえ、夜おそくまで中央常任委員会。

運動方針案で、労働運動方針の項が反合理化をめぐる従来路線、指導とかなり違った右傾化が明瞭。棚上げか否決かということになるだろうが、中常委の責任で何とかするほかはないだろう。第二の問題は嶋崎問題。彼が匿名で事務局長にすわること、さらに匿名でなくともそうなることに、渡会氏が反対している。従って専従事務局長が今度も空席になること、渡会、太田が協会から離脱する気配があることなどがささやかれている。

#### 5月3日（日）

午前中、中央常任委。

午後二時二〇分から第一〇回定期大会。経過報告、運動方針、予算等、執行部側の報告提案をすべて終了。太田氏も渡会氏も来なかった。私が渡会氏に代わって開会のあいさつをした。一一八名を予定した代議員は九三名出席した。一〇〇〇名を突破した協会員の代表である。

（一般経過報告 — 立花  
情勢報告 — 八丁  
党問題について — 嶋崎  
青年運動案 — 竹内  
運動方針案 — 立花  
予算案 — 大坪



中央への会費四〇〇円値上げ案が発表された。消化できるかどうか。

議長団

第一日 小笠原（東京）

第二日 待鳥（福岡）

第三日 宮川（大阪）

5月4日（月）

第一〇回協会全国大会第二日目。

一日中討論。修正案（兵庫、神奈川）の提案から開始。神奈川の別党宣言路線、独自機関紙発行の態度からする提案は協会の党変革という方針と鋭く対立している。間違えば協会から離脱するかも知れない。第二の問題は予想通り運動方針案のうち、労働問題・反合理化闘争については各支部。ことに九州からは猛烈な反論が出た。この方針が太田、渡会、立花、淵上らいわゆる民同左派といわれる組合幹部の手になるものであるだけに、ここにも協会の亀裂部があることがほぼ明瞭になってきた。中央委を開いて書きかえ決定したいと、今日出席の渡会議長が応待して攻撃の矛先をかわしたものの、思想のくいちがいは決して解決してはいない。協会運動をどう理解するかについて、組合内部の左翼活動家集団のクラブのごとくとらえるのが民同幹部のビジョンらしい。それでは党変革とか、党的機能の追求といってきたことが理解されてないことになる。反合闘争も、組合の反合闘争のごとく理解しているところに限度がある。社会主義者が反合闘争をどう進めるかが問題なのである。

5月5日（火）

協会定期大会第三日。

午後二時半閉会。あと理論戦線の者の集まり。

大阪まで近鉄で出たが、適当な列車がなく、普通急行寝台なしで帰博。（大阪まで八丁君と同行）

協会人事は従前通り。福岡の名田氏が新たに中央委になった。嶋崎氏の事務局長は流れた。私の副議長は私にとっては重いが、将来のことを考えると、大学の方よりも協会の方に精力を注いで、当面の事務局体制をカバーすることを考えないといけないのではないかと思う。一〇月から学生部長をやめたら、もう少し協会のことをせざるをえないのではなからうか。一〇回大会は躍進の大会ではあったが、一方に神奈川支部のような空気があり、他方では反合闘争に関する民同幹部の組合主義的潮流があり、その中には、事務局にどん座る人物がえられないという弱さがある。これらが躍進にさす暗いかげである。帰りの車中はこういうことでふさいだ旅となった。

5月6日（水）

朝頃よく博多に着き、一〇時二〇分からの講義。教授会には欠席。

五時半から医学部（同窓会館）で千原次長、中村図書館事務部長の歓送迎会。二次会を箱崎付近で。

帰宅したら〇時半になっていた。

保健管理センターの井上助教授が、人事待遇その他センターの問題について何か私に物申したい様子。学生部長も現場の苦情にもっと心をくだかなければならないのであろう。

5月7日（木）

生協不払問題対策小委員会。一〇時から。熊大の厚生課からも事情うかがいに偶然みえたが、大学側から挑発しない限り決め手はない。午後参与会。育英会奨学金ストップ問題。三時半から医学部で学生の定期健康診断に関する医師との打合わせ。裏に報酬問題があつて若干もめる。

うちから電話があつて空巢に入られたという。書斎のガラスを破っている。現金が目的らしい。指環ネックレスなど若干被害があつた。被害届を出す。

夜研究室に行っていると電話三件。

1. 鈴木茂三郎さん死去。西日本新聞から感想をきかれる。
2. 高橋正雄さん、林屋ホテルから電話、近況報告。
3. 学生部。渡辺、高野両係長来宅。私も帰って飲みながら歓談。

5月8日（金）

ゆうべ渡辺、高野両係長が泊っていった。四～五日もつづいた小雨つづき梅雨模様の天気がようやく晴れた。

大型計算機センターの開所祝賀会。本部第一会議室。大野センター長をはじめ感慨一しおであらう。一五〇人ぐい参加者があつた。文部省からも澁谷審議官、菅野施設部長が来賓として参加、東大のセンター長も祝辞。十一時から十二時半頃まで。あとで女子寮をはじめて視察。厚生課長同課長補佐、係長らと同行。女子寮新築の見込みがほぼ立つ。

夜、全国一般で賃金の話。

一彦からはじめて手紙が来ていて電話をかけてみる気になった。

5月9日（土）

大岳艇庫完成祝賀会であいさつ。一時半から二時半まで出席し、あと九重へ。雨の心配をしたが幸いに晴れた。中島敏子さんが同行。幸が直美誕生後をはじめてだという。中島さんは待ち合わせ具合のまちがいで一列車おくれてしまったが勇気を出してあとを追ってくれた。研修所の人々は特別のごちそうで歓待してくれた。

5月10日（日）

午前も午後もしょけんめい、わらびやぜんまいを取った。夕方研修所を立つ頃には雨になった。運がいいわけ。

午後九時頃帰宅し、小休止の後十一時五〇分の寝台列車で東京へ。

5月11日（月）

自治研首都圏大集会。司会者、助言者など打合わせ会。午後一時から私学会館にて。列車が着いてから雨にぬれて会場に着いた。

今年は十三回。七〇年問題のなかの自治研だということと、明春の統一地方選挙に向けて、とくに都知事選を意識した自治研である。分科会の分け方も従来のを統合して一〇分科会にしたものとなる。日程も一日少ないようだ。分科会の観点からは必ずしも前進とはいえないだろう。

宿所は番町共済会館で山本順一氏と同室。

5月12日（火）

自治研第一日。九段会館。

5月13日（水）

自治研第二日。社会保障分散会。九段会館。

5月14日（木）

自治研第三日。分科会は総まとめ、午前十一時まで。午後は東京体育館で大集会。夕刻四時すぎ東京教育大学を訪問。

5月15日（金）

午前一〇時文部省。あと日本育英会を訪問。

午後二時～四時半、全教互の理事等の集まりで地公厚制度研究会がおこなわれている。産労研の古賀昭典氏と講師として講演。私は賃金と企業内福利厚生との関連について。

5月16日（土）

一彦を東京に呼ぶ、全く元気でよろしい。新しい職場にまだなれないらしい。

昨日同様、地公労厚生制度研究会組合側。私の出番は同様午後一時半から五時まで。

夜行特急「第一あさかぜ」で帰福の途につく。

5月17日（日）

ひる前に帰博。

庭は若葉一ぱい。谷の杉も向うの側は伐りとられ山はだが見えだした。

洋服屋が来て夏服の注文をとって帰った。登校して原稿を書く試みをしたが三枚しか書けなかった。一寸行きづまりの感じ。

中西君のおやじさんが頭が痛く九大病院でみてもらいたいとのことだったので、帰宅してから電話でたしかめた。

5月18日（月）

講義。

学生部に出向く。

女子寮建設の可能性が大詰めに来ている、文部省は全体の定員増はまかりならぬときびしい。これに従うほかないようだ。寮生に納得させるよりほかにない。入学式当日の逮捕された学生の取扱いについて関係学部長の協議。軟弱路線ばかりでどうにもはっきりした方針が出ない。

熊本肥後銀行の長野氏来福というので姫高の連中集まって「しばこ」で飲む。

牧坂、土井、久綱、野村、私、長野。

5月19日（火）

午後の学部長会議や評議会には出席しなかった。嫌気がさしている。急用ができたということにした。小林学生課長は困ったという表情らしいが、私の我ままをきき入れてくれた。あとできてみると、生協の不払問題について、水波法学部長は、この時になって、なお慎重にゆっくり対処するようになどと発言したらしい。

鳥飼公民館で主婦たち数人集まる学習会に出席。日本財政図表を読む。一寸した理くつをこねられる連中のようだ。

月報の原稿を仕上げる。

5月20日（水）

講義が終わってから夕方帰宅までエンゲルスの自然弁証法の一部を読む。次の講義に使用おうと思って。

帰ったら東京の新設研究所の嶋崎君から電話があった。太田渡会ラインから彼が協会中央常任理論戦線担当としていることが不当だとの要求が出ており、上京中の大坪君が善処することを諾したらしいという。九州支局でこのことをよく討議してほしいというのが電話の要旨。研究所の運営については原茂氏から資金がでており、選挙の時のこともからみ、社党内派閥に彼が属することになり、協会路線とちがっているというのが太田渡会両氏の言

い分らしい。中央常任から退けということは「社会主義」にも書くなということに通じ、深刻な一種のページ問題になってくると彼はいう。派閥につながるかどうかを検討せねばなるまい。

5月21日（木）

五月晴れ。レーニンの労働組合論を書かねばならぬ。その前に積っている資料の片付け、協会の一月以降の資料を整理し綴る。「何をなすべきか」を若干読む。

自治労北九市労連門司に行ってくれということ夕方から、その方に時間をとられたが、渡辺といういい活動家がいることが発見できて収穫があった。

早朝、革マル対全共闘の激しい内ゲバが学生会館を中心に展開され、破壊ひどく、夕刻機動隊をともなう捜査がおこなわれた。六月闘争に向け、方針をめぐり対立。教養部学生大会をひかえ（二六日）、指導性を決しようというのだろう。

5月22日（金）

学生部と連絡しているうちに何とはなく出向かざるをえなくなった。教養部では学生のストライキ決議のための大会に授業を休み記念講堂の使用許可の申入れをするよう教授会で決めたという。全く理解に苦しむところである。自治教育のために必要だということらしい、馬鹿げた理くつである。

学長に面会を求めたら久し振りだナアといわれた。教授会をはじめ各会議には出席していないから。教養部でも、安東君からそういわれた。

処分問題に関する学生部長の見解なるものをまとめて学長に呈示することにした。

看護学校に寮問題について話しに行く。

5月23日（土）

教養部では先日の革マルとML、反帝らとの対立、ゲバ、学生会館破壊の余波がつづいており、後者のヘルメットゲバ棒姿が学館付近から消えない。今日も学館前大通りを突撃練習をやっている。

午後、例の連中と五人うちマージャンをしていたら安藤君が途中で佐々木教養部長が昨日上京のため出発の際倒れたという話題を出した。これから教養部も大変だというときに、こうだから、評議員もさぞ大変だろうということ。佐々木さんはいいときに休めるようになって徳な人だということだった。どの程度の病気がまだ知らない。しばらく休養の必要があるのではないか

5月24日（日）

午後二時頃、中西弥一郎氏長女の満代さんをつれて来宅。九大第二内科に紹介状をもらって

いるので頭痛の診断をうけるため。

明朝早いのでということで寝ようとしたら、それでも十二時近くになってしまった。とたんに教養部から電話があり、学生会館にかくされている凶器を押収したいので入れよという県警からの要請があり、これに対応してどうするか緊急招集である。

これは二十一日早朝のカクマル系の全共闘に対する襲撃にそなえた全共闘系の武装訓練につき、付近の人々の要求もあり、警察がみかねて要求してきたもの。一時頃までの状況の下では、九大側から導入はしないという方針をとっていた。

#### 5月25日（月）

講義。

庭の松など手入れ。小雨の中。中西弥一郎氏のアドバイスもあったので、全く眠いからだを使って半ば興味本位での庭の手入れである。

#### 5月26日（火）

午前十時、保険管理委員会。

学生会館委員会（一時～四時）

寮務委員会（四時～五時半）

寮生交渉（五時半～

徹夜交渉。午前三時半になってしまった。私も時間をくうような態度をとった点を反省している。寮生の方から女子寮建設は幻想だといったのに腹が立った。どうかして民青方式（共闘方式）に引き込もうという作戦がありありみえるのが気に入らない。北教大方式とか室蘭工大方式とかがそれ。

#### 5月27日（水）

九州地区厚生補導研究会役員会

同右国立大学学生部長会議

黒田荘、午前十一時から。

午後五時半終って懇談会。

文部省から来ており、このあと「かわさき」に流れてゆく。

教養部の学生大会、記念講堂。夕刻五時頃成立の模様。

講義は教授会決定によって休業。（二時限以降）

#### 5月28日（木）

昨日につづいて九州地区学生部連絡協議会が黒田荘であった。

午後は出席せず、思いつきのようだったが、生協の川本と学生部長室で会見。水光費の不払

問題の将来などについてただしてみた。解決の見込みがないわけではないので、大学側も交渉をする姿勢をもつ必要があるという判断になる。次長や両課長にその旨を伝える。六月は交渉再開にふみ切るべきだと思う。

5月29日（金）

県職八女支部の安保学習会。午後一時から八女市公会堂。

法文経教養ではストライキ。新聞報道では授業行なわれずとある。

夜、大坪君の宅から電話があつて、すくらむ社の深田君から至急三〇万円を作つて電信為替で送れという電報がきているのに、専従責任者が誰もいないので……とのこと。もう九時をすぎているので二、三連絡をとつてみたが埒があかない。明朝処理することにした。

5月30日（土）

朝河井吉男氏が娘の誕生日なので、内祝を届けにきてくれた。

熊本に行く。小野幸次郎君を中心とした協会電通班協の合理問題討論会。午後六時から。協会熊本支部が最近準備したアジト、熊本マンションで開かれた。参加者は福岡熊本両県支部関係者で一四名。全部集めれば二〇名ぐらいだといっていたが、この種の班協は組合主義に陥らないならなかなか有意義な集団となる。戸崎西村両君の春闘報告、反合理化闘争報告は大へんよかった。

食事、寝具などすべて自前。午後十一時に切り上げた。

5月31日（日）

昨日のつづきの討議。午前十時から午後〇時半まで。反合理化を具体的にいかに貫くかというのを電信合理化の問題にしぼって討議。

私は午後の討議は失礼して帰福。

今日〆切りの月刊「こくろう」への原稿はとても仕上りそうにないがスピードアップ。

六月予記

安保反対の六月がやってきた。九大へのZ機墜落二周年問題もある。寮問題、生協問題種はつきない。

6月1日（月）

講義。

このあと午後九時までかかって原稿を仕上げ東京に発送。常岡君が月刊こくろうにレーニンの労働組合論を書いてくれといってきた件、昨日が〆切りであったのにおくれてしまった。

先日、社会党福岡総支部に離党届を出したのが、すでとうわさをくつつけて相当にひろがっているらしい。大坪君からその旨知らせてきた。

九大の機動隊導入問題やよくする会をめぐる社会党福岡県本部との感情のもやもやが、党費滞納一掃督促の解決を機としてすっきり取り去られるわけである。別党コースの非難は当面甘受せねばなるまい。

6月2日（火）

新聞の整理をし、春闘総括の原稿の資料を拾う。

夜、若松旅館で協会理論戦線の班会議。帝国主義論をもっとやらなければならないということになった。報告としては私が第一〇回全国大会につき、神奈川県支部の独自路線、役員人事での嶋崎問題、労働運動方針における反合理化の位置づけに関する問題を報告。

今日は米軍Z機墜落二周年で基地反対の集会デモ（九大内で各セクト）、合流して博多駅構内駆足デモ、板付基地ゲート、警固公園ではベ平連の労学市民統一行動、日共系は、九大民主化統一戦線の実現を目ざす学内連絡会準備会主催の記念講堂前集会とデモ。

反日共系学生九人が逮捕された。（以上新聞報道）

6月3日（水）

講義。（午後の部は学生健康診断で休業）

このあと社会党福岡県本部の篠原今吉両氏と中食、電地下。私の離党慰留の弁、影響が大きいのだそうだ。戦後の長いつきあいであったし、感化影響をうけて党内で活動している者もあるのにと。しかし、理論上のことはともかく、人間関係がすでに絶たれている。とくに第二協会系は面白くない存在だ。永田徹は離党届のことを全県に報道している。慰留については確答をさけたが、届を撤回することもなし、自然に縁が切れていくことと思う。帰りに山崎慶雅堂に寄ったら仙厓の軸を買えという。七万円の負担は大きかったが、まあいいだろう。

6月4日（木）

労働旬報社の原稿を進める。

午後三時から参加会、六時半まで。

帰宅したら有田の中西さんが診察のため来宅していた。話し込んで夜ふけになった。

鯉についてかなりくわしい講釈をきいた。デープレックスとかいう農薬を池に入れると鯉につく雑菌が死ぬという。池が深すぎるという注意もうけた。かなり手を加えないといけな



6月5日（金）

中西さんは九大病院の診察をうけて午前中に帰宅した。

教養部ではまた学生大会のことで夕刻から教授会を開くという。これには出席せずに今日は協会中央常任委員会のために上京する。はやぶさ、（五時四〇分発）八丁君と同道。彼は嶋崎事務局長問題にふれ、嶋崎君の態度が甘すぎることを強調した。原研究所につながることは党の派閥と関係することと同じであるので協会としての筋が通らないこと、われわれが協会員大衆を扇動しておきながら、協会員が本気でやる気になって立ち上がったときに、外の研究所のごとき無風地帯に居ようとする態度が非難されていること、を強調していた。

6月6日（土）

朝東京に着き、協会本部に寄る。

午後日本女子会館で中常委を開く前に総評に行き、河野教宣局長に会い、春闘資料をもらう。

6月7日（日）

日本女子会館蓬莱の間、九時半より十二時まで昨日につづいて中央常任委員会。時間切れになり、協会事務局に行き残り議事を終る。午後二時半まで。このあと予定列車の午後六時まで岡山の河野君、立山君と三人で浜松町の貿易センタービル四〇階の展望台に上る。あと有楽町で河野君と映画をみる。ひかり（午後六時）で大阪に着くまで河野君が重いカバンを持ってくれたので、背の痛みがカバーできた。寝違えたのかどうか背が大変痛んで眠れない。協会メンバーが急増するのに、中央指導が追いつかない。本部事務局長の専任、支局増設専任の不足、出版局を独自にもつ必要など問題は目白おしである。

河野君は岡山で非常によくやっている。

6月8日（月）

朝七時博多に着く。

講義のあと帰宅して休んでいたら、電話があり鳥飼公民館での婦人学級を忘れていたことがわかって急ぎ現場へ。

労働旬報社から頼まれている春闘総括の原稿を進める。

夜金沢の嶋崎君から電話あり、彼の原代議士関係の研究所専任問題（協会事務局長専任とのかねあい）については、彼が中常委欠席のため中間的な結論さええられなかった旨答えておいた。彼は今、研究所と関係を断って事務局長に出るべきだとの大方の意見を伝えておいたが、彼は関係を断つまで秋まで待つてほしいという意見だった。渡会議長は、言うべきことはいったので、これ以上言わないという態度で、こんどの中常委では論議にはならなかった。

6月9日（火）

学長に呼ばれて登学したが学生会館の運営改善に関すること。教養部でしっかりしてくれないのでなかなか進まない。

部局長会議

評議会——概算要求、振替要求

記念講堂運営委員会をはじめて教養部学生大会のための記念講堂の使用を不許可にした。

夕刻帰途教養部に寄り、本部委員室で中村正夫君と合い、五本松に出かけて飲む。かれら柔軟路線には賛成できないが、意図するところは話してみてもわかるような気がした。

6月10日（水）

短縮授業で午前中に講義を終わり、午後は教養部学生の記念講堂不正使用にそなえ、本部学生部長室での本部地区連絡会議に詰める。教養部では学生会館をめぐり、革マルの襲撃事件が午後早くおこって、逮捕者が出たりした。記念講堂では午後二時半から集ってきた教養部学生を入れる入れないので本部職員を中心にもみ合い、侵入した者は結局機動隊を導入して排除することになった。一度帰ったあとにまた侵入があつて機動隊に二度出動要請をする始末。学生側が合鍵をもっているらしく、うまく侵入された。谷口厚生補佐、小林学生課長らがメガネをこわしたりつつきまわされたりして被害者だった。

6月11日（木）

朝のうちは原稿書き。旬報社のものほぼ出来上がる。

午後参与会と寮務委員会。来週月曜から、医、歯両学部を除いて、各学部安保ストの日程——二三日まで——に入る模様。全学部自治会は反代々木系がにぎった模様。生協の不払問題も討議になった。

午後七時、帰路、久綱厚生課長宅によってしばし歓談と思ったのに長居になり、帰宅は九時半。仙厓や寒山拾得の話をきかされ参考になった。帰って先日の掛軸を見なおしたりした。教養部学生は昨日の学生大会を今日授業放棄によって、体育館を使ってやっている。二三日までのストを可決する模様。佐々木教養部長の軟弱姿勢が問題になっている。

6月12日（金）

朝から夕方まで、旬報社への春闘総括の原稿の点検。一〇〇枚近くにもなった。

梅雨入りのように曇ったり小雨だったりがつづいている。

夜、地区労の全国一般の賃金講座をすませて、長野に向う。

6月13日（土）

十二時半頃予定どおり長野に着く。一時から夕方まで、および夕食後におよぶサービス。午

後の部は県勤労者福祉センター、夜の部は善光寺別院の大覚院。いずれも県労評青婦部の学習会。私の話は賃金論。総評の河野昌幸氏、岡十萬男氏がそれぞれ合理化と労働運動史をやっていた。

長野にも社会主義協会が伸びつつあって唯今メンバーは一六名だという。島田という国労出身の青婦会議々長がキャップのようで、今後が期待できる。第二協会の勢力もかなりあるところだが、例によって動きが鈍いので威脅にはならない。

夜九時四五分の大阪行急行で出発。

#### 6月14日（日）

一日旅の時間。大阪のりかえ。

五時半頃帰宅したら中西弥一郎氏が来宅。九大病院診察のため。

全国的に雨なのであろう。梅雨、田植えは本格的。

15日の朝夕によればこの日東京大阪など全国にくりひろげた新左翼各派四万人。東京を中心に「武斗なしの大同団結」ではあったが、火炎ビンを投げる者などあって逮捕された者三〇三人（うち女四〇人）。

社共系は全国一七都道府県で一万余人の動員。主としてML派が火炎ビンを用いて逮捕された模様。

#### 6月15日（月）

教養部も文科系各学部も今日からスト入り。講義をする気にもならなかったが、教室に行ってみると誰も来ていないので自然休講。正午頃には登校学生も三〇〇ぐらいになり、本学からもヘルメット姿がやってきて、全学総決起集会とか、盛り上がりもないまま二三日までストをつづけるというが、教官たちの同情は全くない。叫んでいる学生が道化役にみえる。六〇年安保のときと違う。このときは教官も熱心だし、少くとも国会集辺は国民の目を釘づけにして興奮させたものだ。学生のゲバによる同調の強要はかえって反感を誘う。今回はゲバ抜き大動員というが、事すでにおそく、学生に対しては反感しか沸かない。

#### 6月16日（火）

身辺整理で何となく午前中はすぎた。久しぶりの晴れ。直美は運動会にめぐり会えて、照る坊主の効果をよろこんでいた。午後、部局長会議と評議会。

夜、衣笠君と吉瀬君が来る。七月下旬の協会理論戦線全国総会の準備についての相談。いろいろあったが、テーマは二つ。一つは理論戦線の任務（究明すべき問題点）。これは嶋崎氏から報告してもらおう。もう一つは福祉国家論。主報告は私がおこない、コメンターを五人ほどにする。これで二日間の討議ということに原案をまとめた。

協会本部から、先だつての中常委のとき私が口述した地方自治体闘争に関する“社会主義、

への原稿をおこして送ってきたので、その校正という仕事がまいこんできたわけ。

6月17日(水)

授業のために登校してみたが、ストのため閑散としていて、かつ授業のため教室に行ってみる気にもならず、いたずらに研究室付近で時間を過ごす。教授会にも出ず結局帰宅。郵便局で城野さんに会ったので、私がなぜ最近教授会に出ないかの理由を弁じておいた。喫茶店で話しながらだが、彼女も佐々木さんのダラしなさを盛んになげいていた。

問研月報の原稿を書き進めたが、仕上がらず、明日午前中までもちこした。

6月18日(木)

月報原稿仕上り。「七〇年代の公務員賃斗の課題」問研に手渡す。

午後参加会。

とくに学友会の今後の見透し。全共斗系が全自治会をとった今はかれらが学友会を支配することを予想して生じうる事態にどう対処するか、五つの原則をきめた。

6月19日(金)

熊本出張。九州地区国立大学学生部長会議。九文連行事の本年度開催について。結論は開催は不可能、公私立だけでやることもあるが、正式参加はできない。文化行事にどうしても政治連動を入れようとする学生、それもある一派とくに革マルが牛耳ろうとするところに学生間および学生と大学側の不一致が生じそれが開催を不能にしている。一致なくてはやれないことだ。

6月20日(土)

福祉国家論関係書を読む。神坂君の借金問題につき福銀に返済書きかえ手続きをすませた後、県文化会館にブランデーコレクション特別展をみに行く。四千年前にやったことと今とどれほどの開きもない。美の世界では材料材題以外にかわりようがないという感じがした。四時すぎ協会に立ち寄る。中山君がいたので夕食にさそう。

共産党が自民、民社、公明の支持者を含めた統一戦線を呼びかけたという。それならオール日本人で、そんなのを統一戦線というかどうか。「自民党政府に代わって安保廃棄を実行できる国民の政府を樹立、独立、平和、中立の新しい進路を選択することを日本国民に呼びかける」そうである。国民が変わったのか共産党が変わったのか？

6月21日(日)

協会中央委に出される労働運動方針案の草稿が昨日朝届いたが字赤手入れに手間どった。午前中にやっと出来上がり、協会本部あてに投函する。

あと一ヶ月だが協会理論戦線の福岡会議での報告にそなえて勉強を開始。福祉国家論関係の文献を読んでまとめのレジメ作成をせねばならぬ。

毎日降りつづく雨。ほんとうに梅雨だという感じ。降るとく降らざるかごとく霧雨しきりである。みゆきがお茶事だといって午後はうちをあける。私は読書しながら留守番である。今日午前十一時から反安保全国実行委の十万人中央集会在代々木公園で開かれるほか、全国主要都市で一五〇ヶ所約百万人の集会デモが予定され、三日間は反安保のヤマ場を迎えるという。

【欄外記入】

十万人集会是反帝反戦ゲバ派によって十分間で粉碎されたといわれる。——二二日朝刊

6月22日（月）

本部に行く途中、互助会に寄る。講義はストライキで流れたので非常勤できている産労研の古賀氏と互助会に同道した。公務員の厚生問題で秋に原稿を書くという話である。途中でまた保健管理センターに寄る。井上氏から健康診断のやり方につき。これも公務員の厚生問題と同じ性質の問題なので関心が向く。検討委員会がすでに発足しているのでそこで問題点を明らかにしたい。

産労研の古賀氏から福祉国家論関係の書籍を借りる。七冊。

午後は部局長会議と、経理委員会。これが延々午後八時までつづいた。

安保反対運動高揚。夕刊には東京を中心に集会デモが続々。東京公安委には二〇日に七三件、二二日には七一件のデモ届あり。ベ平連の毎日デモもあった。総勢約二万二千人。

夕刊によれば、沖縄の六月闘争をしめくくる復帰協の「安保廃棄、基地撤去を要求する県民総決起大会」が午後一時すぎから本島中部の美里中学校で開かれ、参加者約二万人。全面ストに突入したのは琉球、沖縄の両新聞と琉球、沖縄、国際の三大学自治会と一村職青年部にとどまったが、①安保廃棄、②核毒ガス兵器等一切撤去、③米軍人の犯罪行為抗議の三決議案と宣言を採択した。他方政府は午前一〇時から閣議を開いたあと、保利官房長官が政府声明を発表。二三日以降安保条約の自動延長の態度を表明した。社会党総評系の反安保全国実行委は二一日の中央集会上に基き、首相官邸を訪れ、安保廃棄の決議文を手渡し、両院、外務省、米大使館にデモした。

6月23日（火）

安保廃棄の行動がかなりの規模で全国的にくりひろげられた。九大教職組も、反戦系学生もかなり動いた。学生のストライキは今日まで。

部局長会議と評議会、教養部教授会には久しぶりに出席。このままゆけば授業日数が足りなくなるので補講をするかどうかの問題になっている。評議会では学長選考基準がまだ最終的にはきまらなかった。

啓二がこの一週間ばかり帰ってこない。人間が崩れたことは明らか。

6月24日（水）

講義。

新聞によれば昨日の全国大動員は二五都道府県、七六四カ所で、警視庁しらべでは七七万人、主催者発表では一六〇万人の動員だったという。社共の統一行動が結実したわけ。しかし鋭さはなくなったし、感動も薄い。

社共の統一行動の名称「安保条約廃棄宣言、平和、中立、生活擁護を旨とする六・二三全国統一行動中央大集会」という。代々木公園、警視庁発表八万五千人、主催者発表二二万人。「新左翼」系の東京での行動は警視庁しらべで全国四万六千人、これまで最高。名称「六・二三労学市民統一集会」。明治公園、警視庁しらべ二万八千人。

福岡の社共統一集会は県下五万人、福岡市六千人。反日共系二千人。

6月25日（木）

一〇時から生協対策小委員会。

午後一時から参与会。

生協問題については、大学側の立場をPRすることが必要だということになった。生協側から出されている公開質問状に対する経過的な検討には困るような問題点はない。参与会でもこのことを報告。

学生会館については、使用禁止措置を講ずることが必要だという点で意見の一致をみた。果して教養部がどう受けとるか。管理については教養部が返上してくるならば学生部で管理することを検討してもよいということになった。

6月26日（金）

一〇時から健康診断問題検討小委員会。——学生の保健管理を教育活動として理解しようとするところにゆがみが出るゆえんがある。これでは職員の健康管理についても、いい答が出るはずはない。教育者としての使命感から健康診断、保健管理を考えると、この問題は解けまい。

午後一時から入試審議会。

新制大学発足二〇周年は昨年であったが、誰も気にする人はない。私は教養部に記念植樹でもしたらどうかと昨日の参与会に提案、今日も農学部長に支持を要請。

教養部長、学生会館の使用禁止措置に難色を表明。

6月27日（土）

三池争議の指名解雇につき、地位保全の仮処分が提訴した一二二名に関し一〇年ぶりに出

る。毎日新聞との約束で判決の出る一〇時頃に出頭記事のため談話する。帰ってしばらくすると西日本新聞からも同じ問題で電話があり、夕刊をみると結果は似た談話になってしまった。毎日の吉野記者から多少苦情めいた電話が夜あったようだ。長浜の魚市場厚生センターで教養部学生委員等新旧交替のコンパがあって出席。適当に切り上げたあとで、立田、品川、安川の三人を拙宅に招じ、マー جانをする。

#### 6月28日（日）

協会九州支局委員会。午前一〇時半から午後四時半まで、千代町つくし荘。情勢および二カ年計画の遂行状況について、各県支部ごとに出し合い討議。

終わって、社会タイムスに、三池裁判に関する原稿を投稿するため協会に行く。西川君と連絡。六枚かいて投函。

#### 6月29日（月）

四・五日降らなかったのに、もどり梅雨のように、今日は相当の雨量。一日中降った。講義。唯物史観の公式の説明なのだが、味が入らぬ。

#### 6月30日（火）

評議会。学長選考基準を評議会で練り上げている。学生に不信任請求をさせるという参加の仕方で論議がでている。

夜、とり市で六月の仕上げという意味で、県警を招待して労をねぎらう。こちら庶務部長、学生部は次長両課長と私。

#### 七月予記

七月も二〇日まではアツというまに過ぎるだろう。そのあとはユネスコの原稿仕上げに努力せねばなるまい。

#### 7月1日（水）

講義、あと教授会。生協問題は教養部では団交拒否。部局長会議の処理に一任することになった。

こちらは晴。関東南部千葉県に豪雨。死者二〇余名。

マー جانをして帰りに、緒方評議員がネパールに行った後任に白水氏をという上田案について、それは白水氏にとって気の毒すぎはしないかといっておいた。今の教養部の軟弱路線ではあまりにも荷物が大きすぎて評議員は大変だろう。佐々木本部長は荷物ばかり未解決に背負いこんで一向に解決する姿勢にない。評議員の持ち味が殺されてしまうだろう。

7月2日(木)

日本脳炎の予防接種のため登校し時間を費してしまった。午後は参与会と引きつづき学生会館正常化を目的とした懇談会。参与と学生会館運営委員会の合同会議である。学長が司会して、あまりまとまった意見が出たとはいえないが、各学部から選んだ一三名の委員を作って正常化案を作ったらどうかということに落付いた。各委員の意見が十分出なかったので、学長が散会を宣したあと、みんなに残ってもらってなおこまかい意見を出してもらった。しかし、いわゆる鷹派的な考えと長期柔軟の鳩派的な考えとは結局調整がつかないことは明らかで新委員会ができて難行しようし、有効な解決案ができそうに思えない。教養部長や藤本参与、小島、横田両運営委員の発言はとも責任あるものとは思えないし、支持することもできない。結局彼らが問題をうやむやにってしまうに違いない、それが教育的だと称して、無責任体制をきめこんでいる。教育学部の三隅氏もこれに近い。

7月3日(金)

ひる過ぎ、新幹線利用で東京着。夕方まで協会事務局で過ごす。「社会主義」七月号の校正などする。

午後六時日本女子会館宿泊部に行き、そこで明日の中央委員会に向けての中央常任委員会を開く。渡会氏欠席のため、私が司会。労働運動方針について意見が集中。また、安保自動延長をめぐる反対運動、その後の協会の態度についても論議がかわされた。

総評が春闘構想や運動方針において反合理化路線からだんだん脱出しつつあるという点を、私が特に指摘し、方針書に書き加えることになった。

7月4日(土)

午前中、宿泊所の日本女子会館で中央常任委員会。立花氏は十一時頃に参加。総評の運動方針や堀井議長辞任をめぐる人事、社会党の動向などについて説明。

午後、協会近くの機械工具会館五階の第一会議室で第二回中央委員会。中央委員会の名称はこんご通し番号でいくことにする。午後九時まで。論議はまたも神奈川県支部の改憲阻止青年会議を反独・・・政治委員会でもって代える運動スタイルをめぐる長時間白熱化した。これだけに時間を消費してしまった。中央委にかける労働運動方針案は「社会主義」七月号印刷屋に送っているという段階だそうで、立山氏から乞われて文章手直しをする。この仕事に一夜多くの時間をかけた。専売宿所に投宿。

立花氏の説明では、総評堀井議長はアメリカ大使館のきも入れで六月下旬に渡米し、自動延長さわぎをよそに国内を留守にした。八月中旬の総評大会では当然に総評トップレベルの人事はこの問題で大ゆれにゆれるだろう。これによって総評に対する国民世論は悪化し、世論は右旋回する。アメリカ大使館はこれを計算に入れて原則性の弱い堀井議長を利用したのではないかというのである。社会党は総評の動揺につれてゆれるという。



7月5日（日）

中央委員会第二日目、神奈川県支部の問題がさらにむしかえされた。午後四時半閉会まぎわに常岡中央常任委員は、指導上の責任があるといつて辞任を申し出た。中央委員会がこれを受けるわけにはいかないの、次回の中常委で検討することにする。神奈川の運動はやはり協会とは異質なものであるかとの意見が強い。機関誌人民の力を独自に発行し、“社会主義、以外の指定機関誌紙を拓げる努力を怠っているほか、改憲阻止会議ではなく、反独占会議を作り、これを直接的に統一戦線のヒナ型にしようとしている点、異質と考えられるふし

が問題になる。労働運動方針は、中央委たちがよく理解してないための異論は出たが、時間もなかったの、取扱いで意見一致パス。

7月6日（月）

休講。

予定通り午前七時博多につき、五〇分待つて九重研修所へ。研究所委員会。懸念された台風は昨夜紀伊半島から日本海に抜けたようで、天気は上々。二時から四時半までの委員会。研修所の利用効率の向上策としてもっとPRをすること、その一策としてニックネームを公募するなどが話し合わされた。鹿児島、宮崎、長崎の各大学の利用率がゼロ、一、二月の利用率が低いなどが経費の効率を悪くしている。経理帳簿面の改善、環境美化（植樹）のことなど話し合われた。五時半から筑後屋で懇親会。鹿児島大学の宮司学生部長が道標のなかったことに立腹していたが、この座では気嫌をな<sup>ヌマ</sup>おし、ひとりでさわいだ感じであった。

7月7日（火）

昨夜、小林課長らと主事室でおそくまで話していたためか眠れなかった。からだが大変重い。それでも三、三、五、五に帰る人達を見送って最後に十時頃鹿児島大の宮司学生部長と同道して山なみハイウエー経由で熊本へ。緑の美しさは格別。阿蘇も美しい。

水前寺会館で九州国立大と公立高校側との交流会。入試の統一問題などの要望だが、容易に解答は出てこない。内申書の活用にしても、結局はそれに信憑性がないというよりは、大学、学部、学科を受験生が自由に選択するということに、平素できる者が落ち、さほどできない人でも合格するというアンバランスが生ずるのであって、選抜方法の不備のためではない。午後八時頃雨の中を帰宅。

7月8日（水）

講義。

教授会。学長選考基準に関する討議と学生会館問題で延々七時半までかかった。学生会館の荒廃は五月二一日の乱闘によるものだが被害額は百万円といわないらしい。これに対する教養部長（館長）や学生会館運営委員の責任感が稀薄なところに根本問題がある。議題は直

接的には学館問題検討委員会設置に関する討議であったが、実は委員会を新設することによって解決すべきことではなく、教養部当局が明確に解決しうる方針を出して実行すること以外に途はない。途中でなぜ学生部は移管に賛成しないのかと私に詰めよられたが、あれだけ破壊され、使用の秩序が乱されたままで学生部に移管するとは虫がよすぎる話ではないか。管理技術の点からいっても学生部移管は問題にならない。こんな話に首をつっこむと精神衛生に悪い。

7月9日（木）

生協の水光費未払問題につき、学長、評議会議長補佐二名（井上、都留）事務局員らをまじえて対策会議。不払いを認めるわけにはいかないし、大衆団交に応ずるわけにもいかない、請求をつづけると同時に平和的に事態をおさめる努力もするという平板な結論でケリ。午後は鳥飼公民館。

夜は全国一般労組の学習会。

平和的な話し合いの窓口は私が担当することになったが、うまくいくかどうかわからない。生協がアウトロー的存在である限り問題は長びくだろうし、決戦が必要であるかも知れない。

夕方教育会館の前で中村文子君に会った。電通の非常勤をしているということだった。

7月10日（金）

午前中は図書整理など。生協から鉄斎画集と名僧墨跡が届いたので鑑賞していたら時間がたってしまった。これは買うには買ったが支払いが大変だ。

午後評議会。予算配分について。

夜理論戦線会議。二〇日二一日の全国総会のうちあわせ。

協会神奈川支部はやはり異質らしく、八丁君の話では常岡ら国労青年班の一部に脱退工作の動きがみられるらしい。全国にかなり走っている。広島出身の大坪も。

今夜の代議員総会で九大の学友会中執は全学連系になる。民青は総退却。学友会の事務局をめぐる学生部との調和が問題。

7月11日（土）

学生会館問題で学長室で懇談。例によって現場主義が勝ち、教養部で気永に対処することとし、特別の委員会は設けないことになった。学生会館委員会が全学的な調整をとることとする。大山鳴動何とかというのに同じく、結局学館問題はふり出しにもどった感じ。

午後図書館を訪問。

そのあとナショナルビルにコンピューター・ソフトウェアなるものについて見学。

7月12日（日）

ひる過ぎまで問研月報の原稿書き。在宅して原稿を書く気分のよさは何ともいえぬ。天気はよくないが外の緑はすべて美しい。

午後中村文子君がピアノをひきに来宅。彼女に留守番をたのんでわれわれは外出。平和台でおこなわれる第二〇回九州地区大学体育大会開会式に出席。（午後三時より）このあと直美みゆきをつれて川端あたりまで山笠見物に。

雨が大そう降り出した。町は山笠見物の人でごったがえしている。

夕方から大学関係の飲み事二つ。どちらも「かわさき」。一つは山の共同研修所視察のため来福した三島鳥取大学々生部長、また一つは明日からの社会教育主事講習会のため来学した文部省社会教育課長鹿海氏。

7月13日（月）

問研月報のため日本の社会保障政策についての原稿を進める。

生協問題についての協議。昨年六月十二日から十三日にかけての生協交渉に出席し、今も評議員である人について、当時の確認書の扱いについての意見が学長から聴取された。

猛烈にむし暑い一日だった。

生協理事たちのアウトロー的性格を見きわめる必要があるだろう。大学の体制を突き崩すことを考えている限り、話し合い路線ではラチがあかない。オールオアナッシングで立ち向かってくる限り、オールオアナッシングしかないであろう。ただ実際のところ、私にはこの問題に積極的に取り組む熱意がない。生協問題にしる、寮問題にしる、保育所、保健管理、要するに学生や教職員の福祉厚生については、国も大学管理当局もほとんど無策に等しく、問題意識も誤っているからである。民間事業所における厚生問題におきかえてみて処理する法規もなければ思考訓練もなく、したがって予算も立てられていない。強いて生協問題を国の型にはめて処理しようとするは無理論になることに目をつむるほかはない。生協理事がアウトローでないなら、こうした点を示唆して彼らに協力することもできるが、今の生協に協力する気にもならない。

7月14日（火）

午後の部局長には生協および学生会館の問題がかけられた。別に新規な意見は出なかった。学生会館については学長は早く正常化の方向を打ち出したいようだ。

学友会執行部を奪取した全共関係は大学本部内の事務室に出入りはしているが、学友会を革命の道具にする方法がにわかに見つからぬらしく、今のところ音なしのかまえのようだ。帰宅したら夕刻おそい。疲れたので夕食後間もなく就寝。

大変暑い。

7月15日(水)

月報の原稿仕上げ。二〇〇×六六枚。社会保障政策の基調と闘争の方向。別にグラフ解説一頁分。

夜、県職本庁支部の学習会。「帝国主義論」の解説。

夏雲が出て梅雨が去った。

7月16日(木)

休みになって諸会議が続々。

一〇時から参与会、午後一時半から保健管理検討委員会。

学友会の中執の役員名が明らかにされた。反帝や中核やMLが顔出ししている。

土井氏から電話があり、中学の時の先生鎌田さんが息子のことで明日来博とのこと。

梅雨が去ったと思ったのに、まだ天気がぐずつき降った。むし暑い。

7月17日(金)

入試実施委員会。各人の役割りを決める。

午後は部局長会議。生協問題に関する統一見解を広報にのせるべく原案審議。

このあとの評議会および教養部教授会は欠席。

八幡美術館で北斎、広重の富嶽三十六景、東海道五三次展をみる。

小倉労働会館での地区労々働学校で講義。

午後一〇時少し前帰博し、土井仙吉氏を訪ねてこられた鎌田武雄氏(龍野中学時代の数学の先生)にあうため土井邸を訪問。先生は息子さんが女性問題をおこして九州に身をさけているからということでその後を追って来たという。雲をつかむような話だが、逆に北海道で居所がわかったらしい。

7月18日(土)

昨日はよく眠れなかったので朝寝坊。登校したら正午近くになっていた。

昨日の教授会で白水さんが緒方氏に代わって評議員に選ばれたという。緒方氏は秋にヒマラヤ登山するので理科系から選出補充するのだが、評議員のような仕事を白水氏にさせるのは気の毒である。

夏らしい集中豪雨、さっと止む。

昨日、教科書問題、家永裁判、東京地裁の判決で家永勝訴。近来にない快ニュース。

7月19日(日)

明日からの理論戦線全国総会で報告するためのレジメを仕上げ、大平君が原稿を取りに来てくれた。

晴れたので本格的な夏になった。

7月20日（月）

第二回、社会主義協会理論戦線グループ全国総会が福岡市黒田荘で二日間の日程で開かれる。

午前10時理論戦線の任務について嶋崎中央常任より報告。午後討議および相原陽氏より国家独占資本主義論の諸潮流についての報告、とそれをめぐる討議。その後夜は同じ黒田荘で懇親会。

私は午後九大本部で学生会館委員会があったため午後の嶋崎関係討論と相原報告はききもらした。衣笠君が私に代わって司会をしてくれた。

あとの評判では嶋崎報告をめぐる討論はよくまとまらなかったとのこと。相原報告は私にとってはあまり実践的でない面倒な論議のように思えたが、若い人には面白かったらしい。議論がなかなかかみ合わない。

7月21日（火）

午前中は私の報告とつづいて五人による補足報告。テーマは福祉国家論をめぐって——夕方までに議事を終了したが、物足らぬ感じをもった者が多かったようだ。それでもかなりの収穫だったであろう。総会で理論戦線のキャップを私がすることに決まる。衣笠君が事務局長、明年一月に第三回総会を開くことにする。

学生部関係で学徒援護会々長生悦住氏来博のため住吉梅林荘で食事。この時かけもちで政の家旅館の会合あり。全農林の大会のため来福中の渡会協会中常委議長を迎え、嶋崎問題解決の手打ちをしようというもの。嶋崎氏は今の原関係研究所は八月末までに退き、九月から協会事務局に専念できるよう浪人生活に入るの、あと事務局長として迎えられるよう頼むという趣旨。

渡会氏は嶋崎氏の研究所活動で頭にきているらしく、なかなか色よい返事をせず、本人の意思の問題なら受けとれないが、九州支局の面々が保証人的にいうならそれに従おうということであった。あとで七・一〇公務員共闘スト中止の問題等をめぐり中央総評内の動向をきいたが、公務員共闘も公労協も総評も内部は全くバラバラで、八月の総評大会は岩井事務局長辞任など、労働戦線の将来にかなり重大影響と転機がおとずれるもようと受けとれる。

7月22日（水）

本格的な夏になった。

ゆうべ河野君が拙宅にとまり、一〇時の特急で岡山に帰った。午後鳥栖市教育委員会の婦人学級に経済の話をしに行く。

ユネスコの、三年前からの原稿を仕上げねばならぬ時に来た。今からどう作業するかであ

る。

工共闘の学生たちがスクールバスを貸せという。カネミ油症に関する市民運動に参加するため小倉に行くという。そういう筋の通し方はないのでおことわりするほかはない。小林学生課長からの今朝の電話の内容。

7月23日（木）

広報委員会

入試審議会

入試の科目決定、入試事務に一部計算機を用いることも決定。入試制度を今後に向けて根本的に考えてみることも学長からとくに強調された。しかしなかなか動くまい。

モンブランの万年筆を、中国産英雄と一しょになくしたらしい。理論戦線全国総会の日には「英雄」でメモしたのに。

7月24日（金）

学部長会議（部局長）評議会。学長選考基準案につき一般の批判意見を募っていたところかなり批判が集った。これをどう扱うかがこれからの問題。

女子寮予算が OK 決着。厚生課長の話では要求しはじめてから五年かかってやっとついたという。昨年、一昨年は決まるべくして保留され、今年も六月以来ずいぶんじらされたものだ。予算はきまったものの、設計で、少しごたつく模様。女子学生の調理場設置ぐらいは認めてやるべきだろう。

7月25日（土）

九州文化史の仕事をこれから若干でも進める構えが必要になった。

夕方、学長の希望で、来福の阪大学長および学生部長を愛宕山荘に招待する会に出席。二次会までつき合ったが三次会は抜け出て、集会所で開かれている支局常任委員会に出席。九月に予定されている支局大会のこと、国労班協、神奈川県支部に出ている露骨な分派行動のことがとり上げられ、深夜一時に及んだ。分派行動についてはできるだけ早い機会に除名処分すること、対抗文書を作成して組織に流すことになった。党および労働戦線の再編成も中央ではげしく動いている。止まりそうにない。

7月26日（日）

午後一時頃はげしい夕立雨。あとからりと晴れて猛暑。

七大学総合体育大会（第九回）の開会式が記念講堂で開かれた。アトラクションまでいれて午後一時半から四時半まで、北海道大学は昨年の優勝校として大変元気だ。四時から平和楼でレセプション。

奥田八二日記（連用）（1970年）

直美が旅行センター裏のプールにつれて行ってもらって上気嫌。

7月27日（月）

国立七大学学生課長会議。同窓会館、一〇～一二時。

福岡県高教組総学習会。小倉松柏園ホテル、「繁栄のなかの貧困」。

7月28日（火）

学生会館委員会。正常化につきやや具体的な方法とスケジュールを打ち出す。処分なしには正常化はありえないことを強調した。あとで学生部長室での雑談の中で教官の処分も率先しておこなうべきだとの意見も出た。

ゆうべふと目がさめ、三時～四時の間に起き出て、処分問題をどうしても明確にすべきだとのメモを書いた。

青木の波多江夫人が子宮ガンで中央病院に入院との情報が入った。

7月29日（水）

午後大川地区労。反合理化闘争について。

都市の地区労の分解傾向に反し、この農村型地区労では地区労運動がなお良き意味の前進をとげている。育てばいいがと思う。

7月30日（木）

社会教育主事講習会。法文一〇一教室、午前中。

あと学生部に行き若干執務。

7月31日（金）

「社会主義」の原稿をかなり書く。

夜、学友会特別会員の博多湾一周の納涼。島津氏が娘二人を連れて同乗。

ひる間、島津君が社党の県政分析の執筆依頼で研究室に訪ねてきたので、社会党県本部のことならということで辞退した。全くいや気がさすような党本部、県本部の実情だ。話をきけばきくほど嫌になる。

八月予記

暑くかつゆううつな八月だ。ユネスコの原稿がまたまたあとあとになり、次々と中に用件がはさまってゆく。少しもゆったりした気になれぬ。

8月1日（土）

早朝発、佐世保へ。

九高連教研集会、ホテル万松楼。

全体会議

分科会（進路指導）

『教育反動と教師の任務』というテーマで講演。

夜は解放されたので馬渡家に連絡したら淳一郎君が帰っていて、彼ら親子四人がホテルに訪ねてきた。このホテルは古くからあったらしく、天皇の御宿にもなったし、馬渡君の親たちの結婚式もここだったという。

8月2日（日）

正午までで九高連教研は終了。

帰途中西氏を有田に訪ねる。店舗倉庫の新築中であと一ヶ月もかからぬうちに完成だろう。牛をかたどった鋳造品の置物を佐世保玉屋から買い求めてお祝いとした。忍君は商用で関西方面らしく留守だった。午後八時帰宅。

勉強できないのが気がかり。

高橋正雄先生の「平和経済」の論文、社会主義協会（向坂派）テーゼ批判を読む。面白いが、評論に終わっている。実践の鋭さが無いのでせまるものがない。

8月3日（月）

理論戦線、若松旅館。相原君の国家独占資本主義論の再検討。午前中。

鳥飼公民館学習会、午後。

一時半からの教授会を三時半から出席。七時半まで。とくに瀬口教官に対する査問的議題の結論には腹が立つ。結局瀬口氏はわびの言葉一口もいわずに教授会をすりと逃げてしまった。黒積君が議題にするなといい、江島さんが昨年十二月二日の事件に限れといい、深山君がもう時効だといい、佐々木部長は教官側の誤解といい、これらの発言が瀬口氏の罪科を弁護した。提案者の中村周、また安東も舌鋒は弱く、野口など丸まった発言になってしまった。結局は仲間を追及するのはこれくらいにして仲よくやろうということになってしまった。研究室を暴力派の学生の自由使用にまかせておくんたもってのほか。これで今後とも学生の追及もできなくなった。

8月4日（火）

「社会主義」の原稿を書く。



8月5日（水）

朝三時すぎに目がさめてしまった。

入江学長あてに学生処分につき所信をのべた私信を書く。投函。

「社会主義」の原稿、福祉国家論批判を仕上げで発送。

映画試写会 メディアをみる

夜ねる前に白水さんから電話があり、北アルプスで法三の学生が遭難したという。学生課長室が対策本部となり、現地派遣を協議、次長がすべて采配してくれたので私は登校しなかった。

8月6日（木）

保育所問題検討委員会。官庁が職員の福利厚生問題をほとんどかえりみないことが、これらの問題を扱うときの焦点のぼけ方になってあらわれてくる。あらずもがなという態度だし、事業体内保育所と地域保育所とがかんたんに頭の中で混乱してくるわけである。労働政策として大学勤務の女子労働を考えるとところから出発しなければなるまい。

教養部では田島寮に革マル学生が入りこみ、それに逮捕状が出ているということで西署と接触。

夜、しばこで姫高会。桃沢氏かえり咲きの歓迎の意をこめて。

あとで、拙宅に来てマージャン。山村、野村、両氏が手ぎわよく勝利。

8月7日（金）

原俊之教授夫人の葬式。学生部長や学長事務取扱という職歴もあるので私が公用的な立場で参列。

8月8日（土）

唐津。佐賀県職労働組合二〇周年大会記念講演。

8月9日（日）

二時半の出港対州丸で巖原へ。七時過ぎ予定通り。波も全く静か。

八千代旅館。

8月10日（月）

安藤和尚、山岸さん、中村氏とともに午前中に役場に行き一宮町長を訪ね、事情を説明する。町村会事務局長も同席してくれて、地元と九大との間に覚え書きの交換を始めようということになった。

車で上見坂の展望台、雞知、根緒に行く。上野という船主の世話で石焼をごちそうになり、

ハマチの建網の漁場を見学させていただく。  
はじめての対馬はめずらしいものばかり。

8月11日（火）

硯を磨く山代象二郎を訪ね一個注文する。内野氏を訪ね万松院に宗氏文庫、歴代墓所の案内にあずかる。中食は万松院本堂で中村屋のソバをいただく。一行安藤和尚、内野氏、中村氏、私の四人。宗氏文庫の保存と研究には可なり公的な援助が必要であることを痛感した。午後三時のあそう丸で帰福。

みゆき直美は佐方に出発した。

8月12日（水）

梅津君という法学部三年の学生が去る八月五日北アルプス剣岳付近で遭難し、今日午後一時から香椎下原の自宅で山岳部葬がおこなわれた。学生部長として焼香した。

午後一時半から寮務委員会。女子寮新営と田島寮電気配線改修工事に伴う田島寮平棟取こわしの問題。このあと学生部参与会。学生部長選出の参与会は九月一〇日に開くことに決定。

注目の総評大会は堀井、岩井のあとを議長に市川、事務局長に大木ということで明日無事閉会できそう。冒頭、新左翼の暴力があり、右からの戦線統一攻勢ありで、大ゆれの大会ではあった。

8月13日（木）

一日中在宅。ユネスコ原稿が気になりだのに一寸も構想がまとまらない。

ひとりぼっちというところだが昼に啓二が出てきたのでメシを炊いて食わせる。一しょにメシを食うのも久しぶりだなと彼がいう。あたり前のことを考えているなという感じ。午後三時頃には、いつものように出ていったが、今日は出てくるからとことわって出た。

夜、早めに就寝したら、吉村夫妻がやってきた。若く元気でいい。千代町の集会所の話などをしながら西瓜を切って食べた。

8月14日（金）

午前中、中村正夫氏と入江学長に会う。対馬の研究所のこと。

あと学生部で事務雑用をすませる。

どうも入江学長との会談は話のポイントがかみ合わない。こちらは学生処分のことを言っているのに、向うは学生会館の学生部管理を強調してくる。

次期学生部長候補につき、事務的に打診が進みつつある。

協会大分支部今川君のグループの集団合宿理論学習のため九重へ。午後三時三五分発。

奥田八二日記（連用）（1970年）

台風九号、一夜中吹き荒れる。

8月15日（土）

ホテル三俣、長者原、そのすぐ隣が硫黄山鉱業所労組の山小屋。ここで今川ら大分県反合理化青年共闘会議の理論学宿がおこなわれる。昨夜は大坪君が深夜まで情勢について講義討論。今日は朝八時半から午後四時まで私の合理化、拙著を使って講義する。二〇人ほど出席。六〇人ぐらいのグループで、将来協会路線に結集するだろうとのこと。二五才前後の新鮮な青年たちだ。国鉄、全通その他民間。

列車ダイヤがかなり狂って、帰途は若干困難だった。九時半頃帰宅。

台風の被害がかなり出ている。

8月16日（日）

人事院勧告に関する原稿ほか一篇を書く。問研月報のために。

台風一過急に涼しくなった感じ。

佐方からみゆき、一彦の電話。一九日にみゆき帰るとのこと。

8月17日（月）

午前一〇時経済学福留君助教授昇任委員会。

午後の教授会には出席せず、黒田荘で開かれてる県職労福岡支部の学習会に出席。

支局に寄る。

夕方の列車で明日の日程のため別府豊泉荘に行く。教育学部の三隅氏に出あう。

8月18日（火）

朝また豊泉荘のロビーで教育学部の三隅氏に会う。彼のさそいで車により三重町に向かうことになる。途中大分県研修所（彼の仕事関係）に寄る。大分大学のすぐ近くであった。午前十時過ぎ若干遅れて三重中学校に着き早速講演。七〇年代の教育と家庭教育というテーマ。午後の分科会にも出席。一教師が、九大生協で活躍している麻生誠の母だと名のり出たので早速彼を呼び出して最近の心境をきいてみることにした。電話連絡ですぐ応じたので駅前の喫茶店で母子とも忌憚のないところ話してみる。すなおな学生だとわかった。経済学部の研究室に残りたいという。語学をしっかりとっておくようにはげます。明日のことで竹田に行く。駅前、岩城旅館が宿所。婦人解放の原稿を書く。一七枚。

8月19日（水）

大へん涼しい。夏を忘れるよう。

午前九時から旅館に迎えが来て竹田中学校へ。竹田直入地区の大教組支部の総学習総抵抗

の会。父母を合わせ約四〇〇人。教育政策動向と父母教師の課題というテーマで午前中講演。すんで、入田の鱒養殖場に案内してくれ、そこで中食。岡城趾をかんとんに見学。帰宅したら午後八時。

西川君が社会タイムスに電話原稿を送るため来宅していた。

午後九時半、みゆき直美帰る。佐方のおばあさんも来てにわかになぎやかになった。

高橋正雄先生から電話。明朝林屋を訪ねることにする。

#### 8月20日(木)

残暑きびしかった。

- 鳥栖市民大学 第二回目。(午前中)
- 教養部倫理学教授選考委員会。(猪城氏)
- 全国一般労組学習会。(夜)

鳥栖に行く前、早朝林屋ホテルに高橋教授を訪う。ユネスコの九州文化史関係の原稿について、事情説明。九月中に形をつけることを約束。ちょっと困難かとも思うが。

#### 8月21日(金)

熊本、福祉会館で本年度文連開催中止に関する会議。九州地区大学学生部連絡会議。次長も出席。学生文化行事を革マル系学生でかきまわし、佐賀大学の当番校を熊本に強引に変更しようと試みるなどしたため大学側は九文連行事開催を中止するほかないという意見にかたまった。来年どうするかは秋の佐大での連絡協議会できめる。

夜母たちを案内して、山の上ホテル、西公園、大濠公園を散歩。

#### 8月22日(土)

経済福留君助教授昇任選考委員会。午前九時より。

高教組教務職員学習会

一〇時半より一時まで教育会館中ホール。

大学と学生問題に関する講義を二四日にせねばならぬのでその準備。

#### 8月23日(日)

福岡県母親会議(共産系とは分裂している)

中央高校。(大学生をもつ母の部)

九重研修所へ。佐方の母、敏子、みゆき、直美が同行。研修所に着いたら夜になっていた。母親会議分科会助言者について福教組の方から二つの協会所属の助言者をどうこうするといういいがかりをつけているようで、全く気分がよくない問題である。われわれが助言者に出ることをそれほど問題にするとは小心な。

8月24日（月）

九大が当番で、九州地区学生部厚生補導担当職員中級研修会が九重共同研修所でおこなわれる。午後一時半より。私がトップの講師。入江学長も来所して開会のあいさつがあった。母、みゆき、敏子、直美の四人は瀬の本経由、阿蘇、水前寺経由で見物にまわった。私は明日にそなえて、夕方豊後中村経由で帰博した。両者は午後九時すぎ相前後して帰宅した。

8月25日（火）

十二時三〇分の日航機で北海道へ。羽田のりつぎで千歳へ。札幌の日航バスターミナルには協会の連中が迎えてくれて夜行列車に乗り込むまでつきあってくれた。松田、鳴海、吉野ら。北海道の協会もようやく形がととのってきたところで、これから動き出そうとしている。夜行、札幌発九時二〇分利尻二号。明朝六時四一分に稚内着の予定。

8月26日（水）

かんの旅館に到着。睡眠が十分でないが、しばらくして朝食をいただく。九時半から七大学学生部長会議。（稚内商工会議所二階）港が正面に見えるのでひるの休みに行ってみる。九大からは久網厚生課長が奥さんづれで来ている。会議は北大が当番で小池学生部長が議長となる。夜は懇親会。

8月27日（木）

学生部長会議は正午に終わる。私が最後に学生処分問題を口にしたら北大の小池議長が軽くないなしたので感じが悪かった。

午後宗谷岬ノシャップ岬を観光バスで見学。日本最北端の地という。

午後六時四〇分の列車で旭川へ。途中暮色の利尻島が美しく西の空に浮かんでいるのがみえた。旭川駅に十一時頃着。当地の斉藤、中川、村上らが迎えてくれた。秋田屋に投宿。旭川は、第二協会の勢力がかなり強いが、わが方は活動がない。

8月28日（金）

宿には斉藤嬢が迎えに来てくれ、旭川―滝川―赤平とのりつぎで赤平へ。駅には菅原君が迎え、昼食をすませ、地区労会館で神田、親松、佐藤の三氏をオルグ。佐藤君は高校英語の教師というが、理くつが多くてもものにならぬ。神田君は夜までに協会に入会。親松君は見込みあり。夜は菅原宅で協会集会。赤平の協会員は菅原桶川の二名だけだが、芦別、旭川から三名が加わった。また、全電通の中口君があとで来参したので、非協会員として私が個別オルグ。これは有望。菅原宅に泊る。先年赤平に来たとき、菅原君たちを中心に、仲間の会というのがあって、これが、一〇名ぐらいを結集しており、すぐにでも協会支部ができるものと期待されていたが、当時の協会員菅原桶川の二名がこのまま停滞をつづけている。それは

この二人が感情的にうまくいっていないからである。二人をのりこえる組織が必要であることを強調しておいた。今回は桶川君が出張で留守だったが、どうも菅原の方に原因があるのではないかと、小林君の話。

#### 8月29日(土)

菅原宅を出て札幌へ。「すくらむ」の小林君が昨日から同行。昨夜は朝三時にもなって大変に睡い。札幌では喫茶店モンブランで休み。

夜、労農会館二号室で札幌支部に対するオルグ集会。小樽支部の五名も来ることになっていたが、うち三名は三浦君をふくめて三名が故意に欠席している。小樽は組織の伸びが全くない。三浦君に原因があるらしい。これをのりこえるようにと強調しておいた。

夜、十二時松田君宅に投宿。

#### 8月30日(日)

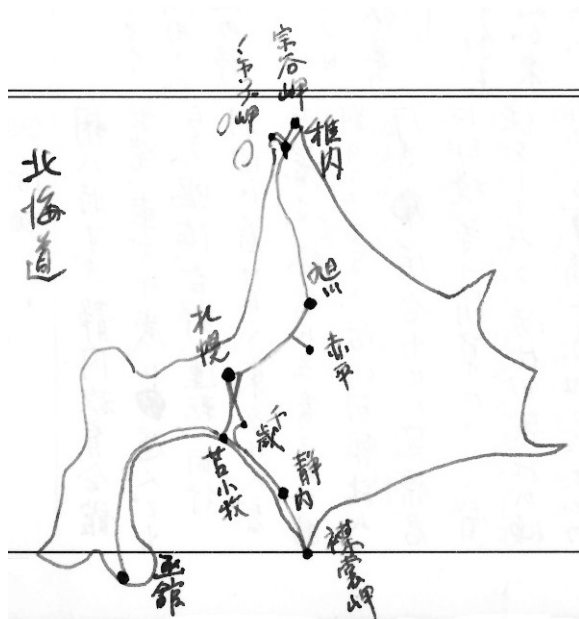
松田君宅を、十分眠れなかったが、朝七時前に出発。特急エルムで函館へ。ちょうど正午に着く。ここの社青同が改憲阻止青年会議準備会の名で、労働会館に青年たちを集め、これに対し私が「繁栄の中の貧困、改憲阻止の必要性について講演する仕組みになっている。集った青年は約八〇名。三派系も潜入していてあいさつする社青同委員長に盛んに野次をとばしたが、私の講演に対しては静かにきいた。終って湯の川の市交通局保養所松倉荘において協会函館支部集会。協会員六名。ここは神奈川県支部の別党コースの影響があるので、これを払拭する必要があるとして、同行の松田君も構えていたのだが、私と松田君のオルグ的な話が一とおり終って程なく九時になり、時間切れで会場を追い出されてしまい、十分なオルグは出来ずじまい。社青同の一青年の運転による案内で、函館山からみた市内要部の有名な夜景を眺める機会にめぐまれた。午後十一時五〇分の列車で寝台を利用することなしに襟裳に向かう。

#### 8月31日(月)

襟裳に着いたのは正午前だったが途中苫小牧のりかえが朝方五時頃の一時間待ちで睡眠不足になってしまった。日高の太平洋と昆布採集の風景はよかった。午後四時予定の静内に着き、協会員渡部君の案内で、喫茶店エデンで、全電通の青年谷村君をオルグする。一両日考えさせてくれという結論。入会するだろう。夜は当地教員組合の事務所二階で協会支部集会。札幌からは鳴海、吉野両君が来た。協会員七名に対するオルグは十分効果があったようだ。渡部君は明日札幌に転勤することになっている。

#### 9月予記

ユネスコの内容だけが気がかり。次期学生部長候補者決定になれば引退の日が待たれる。



9月1日（火）

朝八時すぎ静内教育会館出発、車まで千歳に運んでもらう。鳴海、吉野（運転）同行。羽田に着いたら東京は大変な暑さ。協会に立寄ったが特別のこともなく、労働旬報社に行き、居合せた笠原君に印税等の精算について督促をしてみる。労働旬報社が傾いている事情をよく知った上でのことなので、笠原君も木村代表に十分私の立場を伝えておこうということであった。

午後六時五〇分発の「あさかぜ」、一号で博多へ。

9月2日（水）

正午前に博多着。生協の川本君に不払問題で話しておこうと思って学生部に行ったが、彼は出かけていてとうとう会えなかった。九月任期一ぱいにきまりがつけば上々だが。学生部は学生課長も次長も不在出張中。

福岡も昨日の東京と同様、すごい暑さ。

9月3日（木）

次長の勤務評定書を早く出せとのこと。その手続きに早から登校。

午後、協会に立ち寄り、明日、平戸観光ホテルで開かれる互助会の会合に出席のため一時四一分の列車で立つ。夕食は互助会の役員たちと浜焼きで会食。

9月4日（金）

教職員互助会九州地連の職員研修会。午前九時から十一時半まで。賃金と福利厚生に関する

理論学習。講師。（森田氏関係）男女六〇名ぐらいの各県互助会職員が対象、彼らは午後は九十九島めぐりらしい。

明日の東京における協会中央常任委員会出席のため、急ぎ佐世保に直行。鳥栖のりかえで、「はやぶさ」（特急）で上京。博多で八丁君が同行する。

大変な残暑のきびしさである。

#### 9月5日（土）

十一時東京着。協会横の機械工具会館小会議室で予定よりややおくれ一時半から協会中央常任委員会。すくらむ社経理状況再危機の件、神奈川県支部「人民の力、をめぐる統制問題は討議の末、具体的処理手続きを小委員会の検討にゆだねる。財政経過報告は了承。組織部作成の二ヵ年計画「革命的大衆的協会組織の建設のために」の提案をうけ、第一日を終了。渡会議長、立花事務局長が欠席。立花氏は明日午後出席の予定、議長は外遊中。協会組織は一三〇〇ぐらいで若干停滞気味。合化労連宿舎に投宿。

#### 9月6日（日）

協会中央常任委員会第二日。於合化労連宿舎談話室。太田氏は早々と出席。昨日につづく二ヵ年計画の討論に時間がかかった。各地の計画を出してもらったが、中間的に五〇〇〇名を達成する目途は立ちそうである。次に嶋崎君を事務局に専従させる問題は渡会議長不在のままでは決定し難いということで、中常委の賛成意見を付し、渡会氏帰任まで保留。（九月末——又は次期中常委）太田、秋沢両顧問出席。とくに前田の発言が多くて、参考になるが議事の進展ながびく。神奈川県支部問題は統制にける方向決定。すくらむ社は法人組織とすることに決定。列車の都合で私は中坐。（午後六時発はやぶさ）

#### 9月7日（月）

十時半に博多につき、教養部に行き各所に連絡。本日の行動を決める。

午後はまず例の鳥飼公民館くらしの学級。三時に終って学生部へ。新学期をひかえて学生の動きがかなり出ている。記念講堂を貸せだの、九大祭を秋におこない休日にせよだの、とくに六月の九大祭は勝手に流しておいて秋に休みをくれとは虫がよすぎる。どちらも原案は否の返答。（対学友会）

車中にメモした生協問題解決案を次長、両課長、経理部長に示して検討してもらったが、水光費の三月までの相殺には全員異論。生協はこの際つぶしたいという意見もあって事務レベルで生協交渉の具体案を急ぎ検討してくれるよう約して散会。

#### 9月8日（火）

広報委員会があるので本部に出かけたが十一時すぎにはこれが済んだのであと生協の川



本、梅崎と、はとぼっぼで中食しながら不払問題打解についての意思疎通をはかってみた。生協の方は団交再開に力点があって不払そのものは手段であっても目的ではないことを主張した。このあと舟橋人事課長、庶務課長、のちには学生部次長、課長と接触してみた結果、大学側が団交・不払についてかたくなになっていることがはっきりした。生協側が折れてくるまで解決はありえないという態度であることがわかったので私としては任期中の解決は放棄するほかなくなった。

記念講堂を貸せという学友会側のつき上げで部長室で折衝したが、無礼な誹謗があったため話は決裂。

次長、課長の伝えるところによると、今日の学部長懇談会で出た話では学生部長留任説がささやかれたという。とんでもないことで、若干こじれても拒否するほかはない。

#### 9月9日（水）

教養部人事委員会、教授会。学生処分に関する調査委員会を発足することになったが今頃になってそういうことをやってみてもカッコウをつけたという以外に何か実効が伴うだろうか。実効がないことを見越してカッコウをつけてケリにしようとしているとしか思えない。教授会に先立ち、藤本参与にあい、明日の学生部長選挙について要望を伝えておいた。再選の声もあるが、私としては絶対受けられないので、明日の参与会の席上ではその線で考え発言してほしいということ。

教授会が済んだら七時を過ぎていたが、英ちゃんビールを飲んで今年のこの頃を回想した。

#### 9月10日（木）

懸案山積のため午前中に学生部へ。一時半から参与会。これが長時間かかる覚悟はしていたが、学友会側から参与会傍聴させよとのおしかけがあり、議事は二時間近く中断。このため、参与会は夜の十時すぎまでかかった。学友会は十一月初旬に九大祭をやりたいので授業を休みにせよ（一週間）といい、また、記念講堂を無料で使わせよという。わが方に名案はないが、中間的な案を参与会として立ててみた。学生処分について学長から明日の学部長会議に学生部意見を出してくれとの連絡があったので、緊急議題として付加し、調査委員会をもうけるべきだとの結論になった。次期学生部長選挙では、私が八票倉恒氏が三票で、留任という意見になった。これをどう拒否するかである。頭痛の種。

#### 9月11日（金）

昨日の参与会の結果を学長に説明するため早くから登校。

午後すぎ経済学部長に面会して学生の動きがひょっとすると学部長会議を妨害するかも知れぬがその時の対策につき連絡——実際はその必要はなかった——学部長会議では、九月

一九日の記念講堂の学友会による使用は大綱において学生部の負担により、OKになった。学長選考基準につき最後の煮詰めをおこなっているが、もめている。評議会は中坐してニューハカタホテルで開かれている社会教育主事講習会の運営委員会。(本年度講習会の終了、認定と打上げ会に出席)しばらくぶりに早く帰宅。今朝学長に会ったとき、参与会での選挙の結果を尊重して学生部長をつづけてやってくれといわれたが、おことわりしたいといっておいた。

9月12日(土)

またまた大変暑い。ユネスコから九州文化史の原稿のさいそくが来ている。気になって仕方がないが、ひまが全くできない。十月にはどこかにひそんで仕上げねばならないだろう。永末さんの原稿を整理中。

午後上田氏から連絡があつて、安東、出村の三人が来宅、マージャンをすることになった。出村がうんと勝ち、その分だけ私が負けた。大負けだった。

夜、六時から千代町の国鉄つくし荘で社会主義協会九州支局第十一回大会。六〇余名の代議員が二階にあふれた。大坪君の経過報告と活動方針案の提案、八丁君の安保闘争総括報告で夜十時半までの日程は終り。九州支局の充実ぶりがうかがえる。

9月13日(日)

九州支局大会第二日(明治生命ビル)午前九時半より午後五時まで。

二ヵ年計画を現場で進めていく上で当面する諸問題が発言の中心になった。私は常任委員会議長として、①党変革の考え方、②社会主義運動と日常的大衆運動とのかかわり、とくにわれわれが反合理化視点に立って春闘、公害闘争などの日常的大衆闘争の先頭に立ち方向づけをしなければならないこと、③神奈川県支部問題についての考え方扱い方、④政治学校、労働運動方針案について、⑤中央指導体制について、⑥婦人運動の組み方などについて総括。とくに理論的には体制的合理化と協会運動の関連を説明した。役員改選は常連については変更はない。二ヵ年計画が成功する過程では専従体制指導体制が決定的に不足する。が社会党内の実権は完全にこちらに来る見込み。

9月14日(月)

休み明け初講義。学長選考基準は今日の評議会でやっとな案決定になるが、大学改革という仕事は民主的と称して手順をふめばふむほど結局は元のもくあみのようにになってしまう。教養部改革にしても、学長選考基準にしてもそうだ。牛歩の一步がふみ出せば一つの成果とみる外はない。

午後学生部で次長・両課長と当面の問題を話合う。学生部長再任、記念講堂を学友会行事に使用させる基準の問題、生協問題。第一の学生部長問題は私の方から若干の条件をつけても

う一年やらざるをえない情勢と思う。薬学部の堀内参与からの申出で、この問題につき拙宅に皆さんが集った。三隅、麻生、栗山、石尾計五人の参与。再任を応諾せよということである。事務局で話したようなことをいっておいた。要するにユネスコ関係原稿を書くため一〜二ヶ月休みたいという条件である。

9月15日（火）

先日から田川の永末氏原稿を書きかえているが、今日もそのつづき。誤字脱字でわからないところが数カ所ある。

三日ほどにわか雨が急に降る妙な天気。暑さは去らない。それでも朝夕は涼しくなった。昨日電話要請を受けたので、午後六時から東急ホテルで催される朝鮮人民々主義共和国創建二二周年記念祝賀会に出席。教養部からは安東、斎藤が来ていた。アトラクションは若い朝鮮のエネルギーに満ちた感じのいいものであった。田川市でおこっている国籍書きかえ問題がカレントトピックスの一つであった。

9月16日（水）

講義（休み明け一回きりで次は秋分の日で休業となる）あと、学生部に行き、記念講堂使用に関し、学友会執行部側を呼び大学側の条件を提示。

長谷川県議から電話あり、島津君を加えて拙宅に呼び話し合う。（午後五時〜八時半）何でも社会党福岡県本部が政策審の面に学者の協力を必要とするときに私の方が最近かたくなにことわっているから差支えも多いから態度をやわらげてほしいというもの。私はこれを了としたが、第二協会系学者とべつたりの書記局なのだから、そちらの学者をかり集めて仕事をすればよい、一しょにやれというなら断る、どうせ、名を取り仕事をしないのが第二協会ではないかというのが従来私が協力しなかった理由である。問研や島津君の立場を考えて妥協した。

9月17日（木）

参与会。九大祭復活の日程に関しまた学生側数名が会場に入りこむ。学生部長再任問題については心境を開陳して再考を要望した。私が退席後再出席したところでは、やはり受けてくれとのことであったので、来週二四日にそのための参与会を開いて、その席上、決意を述べたいということで参与会を閉じた。午後六時をすぎていた。帰りに飲みに行こうということになり、藤本参与先導で例のみつきに行く。厚生課長を含め、堀内、三隅、片山、藤本、私の計六人。春日、石塚の二人は車は一しょだったが不参。二次会は三隅参与の先導で新地のつなに行き十二時頃、第三次会。つなへは白水さんと呼んでいたもので、私と彼は小ひろに行く。あとの者は中洲に行ったらしい。

9月18日(金)

雨が一日中、降るともなく止むともなく降った。都留井上、経農両学部長が会いたいというので午後一時学生部へ。学生部長再任の件。どうも逃げられなくなったという気持で会う。午後一時半から部局長会議、つづいて評議会。学生部関係では一九日記念講堂をセツルメント関係の集会に使用させる件と十一月初旬の九大祭復活の日程に関する件。後者は昨日の参与会にやってきた学生側の要求が十一月六日までというのを五日までとして学生側に通告。受け入れるかどうか問題。評議会では学長選挙基準案を最終的に決定。煮つまったところで職員層有権者の互選を予選のあとにするか否かが問題となり、部局ごとにまかせることにしてケリ。おそくなった。午後八時。

9月19日(土)

登校して月曜日の講義予定に目を通す。みゆきに電話したら手伝ってくれるというので思い切って研究室の整理をした。こわれた半分の書棚二つが部屋のまん中に永らくおかれていた。選んだ木製の本棚の古物、新品のスチール製本棚、ロッカー、保管庫の坐りをよくしなければならぬ。窓ぎわの三池二〇年史編集当時の調査表や資料を見にくくないようにすることも必要だった。ただこれら資料は押し込んだままになってしまった。何時かの将来に再度かなり手を入れねばなるまい。作業は九時頃から二時すぎまでかかった。

三時から田島寮々生交渉が学生委員会室であったが出席せず。

夜記念講堂でおこなわれた集会は、小林課長の電話によれば十二時になりそうだという。あとが心配。

9月20日(日)

全く秋の涼しさになった。十七日のように飲むと夜ふかしするせいだろう。眠れなくて二日酔いの状況になり能率が落ちる。今日は気分の爽快。永末さんの原稿修正を完了後進んで田中さんの原稿の修正に着手。机に向かっている生活のよさを感じる。

9月21日(月)

前期最後の講義。唯物史観のイデオロギーと国家論になった。

教養部発足二〇周年一年おくれであるが、これを記念して庭園美化の事業をすべきでないかとの私の提案で、庭園委員会が開かれた。学生部ゆきのため途中で退席。学生部では生協問題をどう片づけるか硬派の庶務課長、学生課長が厚生課長提案に折れて同調してきたので、今月中に生協交渉をする展望が開けてきた。厚生課長らは生協追出しに着手すべきでないという意見。硬派は追出すことになっても筋を曲げるよりはましだといっていた。事務局長はかなり柔軟。学生部長問題については徳本君をはじめ社会科教室で異論が出ている。教授会にかけよということ。

9月22日（火）

午後の部局長会議は入江総長在任中の残された課題をすべて取り上げて話してみるという会議なので、学生部関係も、おさらえすべきことが多く、早目に登校した。生協との交渉は結局私が前面に出てやってみることになった。事務局レベルの制限では話がまとまりにくいだらう。

午後五時から教養部教室会議。私の留任問題を議題にしたがかなり強い反対意見が強かった。深山君のごときは二年以上やると、従来にもまして現場感覚を失い官僚的になるという反対意見をのべた。これには若干頭にくる面がある。六時から那の津荘で深山君の留学出発を前に壮行会。このあと藤本参与が私の問題につき参与会の気持を伝えてくれた。もう少し話し合おうとって二人でみつきに行った。

9月23日（水）

植木屋の藤本さんが一〇時少し前にやって来た。天気がよくないので昨日のつづきはできそうにない。池の掃除だけしてもらって昼頃に帰った。

田中さんの原稿整理が今日の主たる仕事。

午後問研の大平君が物価問題の原稿をかかえてやってきた。物価については若い人には扱いかねる面があるので私見をのべ、根本的に書き直してもらおうということで帰ってもらった。物価と賃金が悪循環しないと割切っていることは困るのだ。

昨夜十二時少し前に帰ったら植木屋さんが来たというので、池の付近を改めたら鯉が全部あっぷあっぷしているの、水をかえるため風呂に移しかえた。雨が降っているのに。

9月24日（木）

秋晴れ。昨、一昨の鯉騒動で合計一〇尾の鯉を死なせた。今朝風呂釜を掃除したらパイプの中に五尾往生していた、かわいそうなことをしたものだ。これで鯉騒動は三回目。失敗が多すぎる。

教授会で学生部長問題を扱ってもらった。一致して再任反対。これにはいくつかの流れがある。

1. 私個人に向けて、官僚的、現場感覚の喪失、過去の汚れた手を新鮮にするために引退せよ。  
＝実質上不信任
2. 次期教養部長候補として、今引退させてしばらく休ませておく。
3. 長期の激務にたいする同情、二期とはひどい＝単純心情

前二者にはいい分が残るので私には納得できない。この全員一致再任反対が、夜の参与会（於水光苑）に報告され、私も各参与に再考をうながした。第二次会みつき、第三次会小ひる。

9月25日(金)雨

ゆうべは三時過ぎになった。みゆきが調子が悪そうだったので、すすめて、今朝九大病院で診察を受ける。腸炎とか。はっきりしないが、大事ではなさそう。

学生部長問題。歯学部の栗山参与は明確な拒否はしてくれるなというし、教養部ではきっぱり拒否しないからいけないという。昼過ぎの学長との話し合いでは、当面事務取扱いでいけということになった。評議会でもその線で参与会の処理に一任願い。午後五時からの参与会では、次のような結論を得て学長、文部省に手続きすることにした。

1.参与会の票決通り再任受諾。

2.但し二ヶ月をふくみとして辞意を認める。

3.その間学生部長選出方法を再検討して、それで新学生部長を選出する。

これでようやく一つの処理方法がきまった。やれやれとはいえないが、形はとれた。

夜、若松旅館での理論戦線の会合に出る。

9月26日(土)

昨日の参与会の決定を教養部の関係者に説明。

田中光夫さんの論文の書きかえを終る。次に私自身ユネスコ関係の原稿をどう展開するかがむしろ問題。

よく考えてみると次期学生部長選出の方法の検討はそうかんたんにはいかないだろう。ということになれば、二ヶ月の期限内に万事うまくいくかどうか疑問。二ヶ月といえば学長選挙もその間におこなわれるし、その結果を見定めて学生部長を新たに選ぶことへの学内の疑惑がすでに生じている。だがそれも仕方がないだろう。

9月27日(日)

ユネスコの九州文化史の原稿にとりかかる。資料など若干点検。

今日は昼間みゆきは元気で茶会に出たり買物に行ったり草を抜いたりしていたのに、夜になって、苦痛を訴えた。全身がだるいという。何かちがった病気に違いない。胃腸関係の薬ではどうにもならないように思える。

9月28日(月)

昨日六月十二日以来久しぶりの生協交渉。第二会議室、午後一時半から。

事務局長は一時間ばかりで中座。私が大学を代表して応答。一年のへだたりは大きく、生協のメンバーは変わらないがすでに平和の気分は十分に察せられ、無理な理論展開はあるが議事の運びには全く無理はなかった。交渉が遅延遷延したことに対する責任追及が第一の問題。蔵管一号に対する大学の態度の追及が第二。電気料の計算のズサンであるという追及が第三。構内デモにたいする処分問題が第四。第三、四は時間切れということもあり、次回

十月中旬を約して午後五時交渉を打切る。

このあと慰労の意味もあって、両課長と三人で厚生課長宅に行く。九時すぎ私は酔った学生課長を送って学生課長宅に行きしばらく居る。十一時帰宅。

9月29日（火）

小雨がつづく。みゆきが病院に行った。結果はどこも悪くないということらしい。ただ腸を見守ろうということらしい。

研究室に行き、ユネスコの仕事を点検しはじめた。夕方帰宅しようとしたら構内にざわめきがある。革マルの武装集団が五〇人ぐらい正門から学生会館に向けて進むのに出くわす。帰れなくなって学生委員会室や本部委員室に行き、経過を待つ。何でも中核全共闘系が学館の革マル集会を追い出したのに対する革マルの仕返しだそう。中核系は学館をトリデに立てこもっているというから内ゲバになろうという心配だったが、当人たちの語るところによると、今日はゲバらないらしい。機動隊が周辺を警戒している。革マルは一〇六番教室で十時頃まで集会をするといっている。武装が問題である。教養部の対応は見るに見かねるお粗末さである。

9月30日（水）

社会問題研究所の運営委員会（マルベニ）と第九回総会。（労済会館会議室）予算規模は年間一千万円をこえ、月報の発行部数は二八〇〇部に達した。社会主義協会の発展と歩調をそろえている。

夜、学生の母親が訪ねてきた。遊びほうけて留年を二度やり、こんどで満期というのに単位が揃わぬという学生。ノイローゼ気味なのは気の毒だがみゆきがこの話をきいて、いい加減にしろというのである。

十月予記

ユネスコ九州文化史の原稿三年がかりなので、是非今月中に形をととのえねばならぬ。

10月1日（木）

在宅して問研月報の原稿を書く。一日で書き上げた。半ぺら四八枚。人生、職業、地位、結婚、家族、老人、の問題を若者のために。

昨日から急に涼しくなった。庭の芝生を刈ったり、藤棚を刈り込んだり原稿書きのあい間に周辺をきれいにすることもできた。

10月2日（金）

前期試験二年生分の採点をすませる。一四〇名のうち九〇名が不合格。

教官会議。学長候補予備選挙選挙人の選出。

教授層から 佐々木教養部長

中村評議員

助教授層から 安東助教授

助手層から ?

全層から 白水評議員

この選挙会で多くの者はひまにまかせて昨年の今日のことを思い出して語っていた。

10月3日（土）

前期試験合格者のみ発表。再試験をもすることにした。

熊本へ。電報分会の合理化討論集会。（小野君の関係）

電通当局が電報要員二万名の合理化を計画している。七ヶ年計画をめぐる問題。

10月4日（日）

九州文化史原稿の準備。

ひまをみだしては芝の刈り込み。相変わらずの蚊の来襲には閉口。

10月5日（月）

ひる前、本部に学生部長文部辞令をもらいに行く。入江総長も退官の決意を新聞にもらしている。次は誰になるか、学内の関心が今そちらに向いている。ガンセンター所長に予定されている。いい老後だろう。

学生部で当面の問題を話し合う。

九州文化史の資料あさり。

10月6日（火）

参加会。生協、寮、九大祭など問題山積。学生部長選挙基準を検討する委員会発足。（養、法、医、薬の参与）

毎日新聞の北村氏から要請され水野学長をめぐる人物評論を茶のみばなしにする。学生部長交替問題はブンヤ仲間では全く知らなかったらしい。

10月7日（水）

高橋正雄先生から「私の造反」を送ったとの連絡。先生入院の由。

みゆき病院に行き、帰り天神で待ち合わせ、中食。大濠養魚場まで足のばし、鯉を買い足す。

先日死なせた分の補充である。一尾三〇万円とか八〇万円の鯉をみたが、要するに買手の問題。私のところはこんど五〇〇円のを三尾、三〇〇円のを四尾入れた。いまいる黒の大きい



のは五〇〇円ぐらいしかしないらしい。

植木屋の藤本さんは仕事を残したまま半月になるのにまだ来ない。

10月8日（木）

直美ちゃんに四、五日前から毎朝注意するようにとっていた木犀が美事に咲いた。教養部の校庭を歩いていてもどこからか同じ強いにおいがただよってくる。

周辺の芝生の刈り込みがやっと完了。さっぱりした。

学長候補の予備選挙で、池田（育）、入江（現）、北川（理）が選ばれた。ガンセンター長に内定したとつい最近発表された入江氏ではあったが、三人の中に入っている。池田氏が本選で決まる公算が強い。

団交を拒否され頭にきたとして寮連の方から話があるから会ってほしい旨の電話が来た。驚頭君。月曜日にあうことにする。

10月9日（金）

朝池の向うの築山の手入れをしていて枯葉が池に落ちたので取ろうとして足をすべらせ池にはまり、石で腰と背を強く打ち痛む。

降るか降らぬかの境目だが、ほぼ大丈夫だろう、直美ちゃんの運動会である。私は行くよう強く要求されたが、いろいろあって留守番に決定。

午後、部局長会議。学生部関係では生協、九大祭その他の方針を討議。

併行して拙宅では理論グループの会議。衣笠、遠山、吉瀬、大平、蔵田が来宅。

夜、まさのやに労運研グループ、合化労連の立花氏が総評の仕事で来福中、彼を迎えての乾杯。十一時半帰宅。

10月10日（土）

休日だが午前中は、ゆうべの協会各人のすすめもあり、腰が痛むので、浜の町病院に診察してもらいに行く。しかしやっぱり病院は休み。空しく午前中は経過した。

午後おそく研究室に行き、原稿を少し進める。

東京の林から電話あり、息子の進学の可能性が心配だということ。

10月11日（日）

終日在宅。原稿を少し進める。

再試の結果を出す。学生二人が来訪。

池の水がまた濁ったので部分的に水替えをする。一番小さい緋鯉がなぜか死んでいた。直美が墓を作った。

木犀が散っていく。

10月12日(月)

雨がよく降った。

浜の町病院で背中を診察してもらった。打身で骨には異常はない模様。のみ薬と湿布薬をもらって帰る。本部で生協との第二回交渉。

10月13日(火)

雨がふったりやんだり。

午前中は入試実施委。

午後は入試審議会。

これがすんだあと、寮生交渉予備折衝。

10月14日(水)

全共闘系の学生たち六、七〇教養部の校庭で一周年の式をやっている。安保反対、入管阻止、明日の学長選挙粉砕など叫んでいる。

午前中は西南大と田島寮の間で、中核と革マルの抗争があったらしい。

秋晴れ。

対馬の山代象二郎氏から若田硯を送ってきた。中村正夫氏中継で、持って帰って早速墨をすり書いてみる。

腰の痛みはほぼ解消したが、まだ朝起き上がるときが困難。サロンパスをはっていたところがかえってただれを生じている。

毎日新聞北村記者の電話で、明日の学長選の予想をきいてみると、決選持ちこみ、池田が一〇〇票差で入江に勝つのではないかという。

10月15日(木)

学長選挙。決選により池田氏が入江氏を破って当選。ハト派の勝ちといわれる。経済学部法学部に妨害あり投票箱が盗まれたり、こわされたり。反帝学評を中心にした暴力派学生の所為。本部構内にも二度乱入、開票を妨害した。

午後三時半から参与会。本日の学生の動きについて放置できないと結論。学生部長候補選出についても原案がえられたのでこれを討議。寮生が大衆団交を受けよと参与会でアピール。参与会の討議の結果はやはり大衆団交は拒否。

啓二が大学の八ミリ映写機を入質しているのが判明。夜、この件で啓二にゆっくり話す。

10月16日(金)

午後部局長会議。昨日の出来事に対する大学の態度を協議、同時に学生部長選挙基準案、昨日の参与会の成案を討議。各学部から候補適任者二名を出すことについては異論が強い。明

日又引きつづき討議することにして午後四時閉会。あとで寮生代表とあい、大衆団交はうけない旨を伝達。

一彦から長野に行ったので、リンゴを送っておいたという知らせが来た。

10月17日（土）

学生部長候補選考方針に関する部局長会議。午前十時から昨日のつづき。原案の構想ほぼまとまる。

啓二、みゆき歯の治療で浜の町病院へ。

リンゴがまだ着かないネと。

10月18日（日）

隣の谷向うでまたチェーンソーがいやな爆音を立てている。山肌が見える。緑の雑木が倒れる。自分で止めようもない。この社会の人間の欲がにくらしい。

10月19日（月）

午前中は鳥飼公民館くらしの学級。

夜拙宅で理論戦線、教育問題研究会。

原稿若干進む。

10月20日（火）

池田さんが学長就任受諾、評議会を開いてこれを了承。

午前中は後期初の講義。

一彦が送って来たリンゴ到着。

乾布摩擦を始めてから四日目。続くかどうかと話しながらやっている。

ずいぶん冷え込んできた。寒いといってよい程。

10月21日（水）

国際反戦デー。

教養部の正門は早朝から全共闘系の学生が管理している。スト決行中というが授業は行われた。門の管理はストライキのためか内ゲバにそなえて革マルを入れなかったためか。それでも革マルの大部隊が構内から入ったのか、三号館前に到着してにらみ合いの末、午後〇時二〇分頃旗竿同志の大乱闘になった。全共闘側は寸時にして敗走、学生会館内に逃げこみ立てこもった。革マルが意気揚々と引きあげたあと、また全共闘が勢ぞろいしてこんどは民青となぐり合った。そうこうしているうちにデモの時間となり、四時頃に静かになった。

安部夫妻来訪。

10月22日(木)

午後参加会。学生部長選出方法に関する案ほぼまとまる。三ブロック制、参与二人制が骨子。学友会系の妨害対策については、新学長にならないとやりにくい。参加会のあと次長、両課長と楓、小ひろに行く。帰宅は十二時近くになっていた。

10月23日(金)

失念してしまっていて講義せず。

朝から浜の町病院ゆき。薬をもらってくる。まだ腰が痛む。朝起きるときがとくに悪い。

研究室で仕事も進まず。

夕方五時五〇分の列車で東京へ。(中央常任委員会)この際あまり時間をとられたくないが仕方がない。

10月24日(土)

十時すぎ東京着。文部省斉藤学生課長を訪い、留任あいさつ。

もと九大にいた乾氏と喫茶に行く。

労働旬報社に行き佐方氏にあう。印税のことなど債権関係を明らかにするよう再度要請。

午後一時から中央常任委員会。専売ビル六階合化宿泊所談話室、夜七時まで、神奈川県支部指導部の除名問題を手続きとして決定。“すくらむ”の財政につき各支部五〇万円ずつ抛出する方針を決定。十一月党大会対策。ここでは分裂はとめられそうなので、また人事に焦点が向きそう。二ヶ年計画が計画通りっていないこと、嶋崎事務局長問題はためにしばらく棚上げ。

10月25日(日)

新幹線で静岡へ。途中、丸山中常委が同行。

清水教育会館で合化労連の豊年製油労組、反合理化の講演会。金沢君という協会員が世話をしているみんな熱心にやっていた。正午から五時頃まで。静岡の杉山君と連絡して駅でしばらく話す。

夜行列車で博多へ。

中央常任委員会に欠席したことが気がかり。

10月26日(月)

九時半頃博多駅着、そのまま教養部へ。夜おそくまで原稿を進める。治安維持法制定のあたり。

奥田八二日記（連用）（1970年）

10月27日（火）

文部省から係官が来て、大学設置基準改訂（主として人文社会自然各学科群の取得単位の問題）について講習会。朝日ビル五階ホール、午前中。あいさつに立つ。

講義。

裏の谷向うの山がまた一段と崩され何ものかに形をかえられてゆく。

出光の事務所と連絡。仙崖のカレンダーをもらってきて部屋に飾る。

よし阿しの中を流れて清水哉

という句の絵が気に入っている。

10月28日（水）

涼しさが増す。

何ごともなく原稿を進める。

労働旬報社の白石九州駐在がやってきて印税のことなど整理をしたいという。

10月29日（木）

むしろ寒い。

午後、入試実施委、参加会。

10月30日（金）

参加会できめたことによって学生部長選考に関する一連の規則改正案を部局長会議及び評議会にかける。

10月31日（土）

入江学長の送別会。本部事務官。かわさき、午後五時～七時。

教養部は九大祭の前夜祭で模擬店など大にぎわい。教養部教官が警戒に立ちまわっているが事はなかった。

十一月予記

原稿書きでてんてこまいのヶ月だろう。まだユネスコ関係の原稿が二〇日分ぐらい残っている。問研の原稿を相当早急に書かねばならないし。

学生部長の選出がうまく進むかどうか懸念される。

11月1日（日）

ゆっくり起きる。

登校。原稿を少し進める。私の誕生日だと周囲がいうので早目に帰宅。

秋晴れのよい天気です。少し暑すぎる。天気が悪くなるかも知れぬ。  
朝池の水かえ。大鉢に灰を入れるため、一彦が送ってきたリンゴ箱のスリヌカを焼く。  
買ってきた筆墨で習字してみる。満五〇歳となる。知命という言葉がよくわかるような気がする。

11月2日（月）

部局長会議。学生処分の件。

水波法学部長が入江体制の下では説得路線をすすめているので、学生処分はすべきでないと  
言明している。処分で片付くかと思ふかとの意見であるが、説得で片付くかと反論せねばなら  
ず、説得のためにも暴力には処分という力で対処するほかあるまい。説得路線が暴力には通  
用しないことをいやというほど知らされている。学生処分を避けることによって学長選挙  
管理の不十分さの責任をのがれようとしている。経済学部にとっても好都合な態度。  
本日夜拙宅で理論戦線グループの研究会。このあと、河野君の要請で、夜行列車で岡山へ出  
発。

11月3日（火）

朝八時岡山着。河野君出迎え。反安保改憲阻止青年集会が午後一時半から労働会館で開かれ  
る。その前に協会神奈川県支部関係の除名問題が、最も大きく影響する岡山で、瀬尾だけで  
なく、国労関係十一名を全部除名せざるをえないのではないかという問題について討議。名  
簿が明らかになっているなら一人一人に当たってみることを瀬尾除名の直後にやるべきだと  
の意見で一致。立山学氏も来岡してこの討議に参加。

午後、私と立山の二人で青年集会の講演。夜私は協会岡山支部の初級政治学校。協会の歴史  
について話す。夜行で博多へ。

11月4日（水）

午前六時博多着。

教授会。

問研のパンフ原稿に仕事を切りかえる。

11月5日（木）

一時半から入試審議会。入試要項を決定。新聞発表。

集会所で協会テキストに関する意見交換。（大坪、八丁、奥田、衣笠）初級政治学校テキス  
ト用の座談会を企画。私の春闘パンフ（問研発行）予備的討議。

市民会館で中野好夫（沖縄の国政参加）美濃部亮吉東京都知事（七〇年代の地方自治）の  
講演会。社党福岡主催。

奥田八二日記（連用）（1970年）

夜十一時半から旅館梅乃に來いと島津君がいうので、いやだったが行く。知事選候補に多賀谷氏がほぼ決まり、政審で作ったレジメを候補と共に審議。二時半まで。

11月6日（金）

講義。

三時から学徒援護会関係の会議（運営委員会）マルベニ。

あとで関係者の夕食会。

11月7日（土）

原稿書いたあとで学生部の職員旅行にゆく。天気よい。雲仙へ。観光バス。次長、学生課長、学生係長ら参加せず。夜記念講堂前で九大祭後夜祭としてロックフェスティバルとかオールナイトで学生がさわぐという問題をかかえている為。雲仙ニューグランドホテルが会場。

11月8日（日）

九時三〇分発、仁田峠、妙見山、ロープウエー。紅葉がとても美しい。

島原々城、キリシタン史料を見る。有明フェリー、長州へ。午後五時九大着。

猫が鯉を数尾取っている。あいそうをつかれつつある猫たちである。

11月9日（月）

在宅して原稿書き。（問研パンフ）

午後五時から龍鳳で山岡育英会の奨学生と理事長（ヤンマー社長）との面接懇談がおこなわれる会に列席。（厚生課長、清水工学部長とも）

九大関係二四名。佐大二名。育英奨学金は八千五百円から、一万三千円（十月より）額上げになったという。日本育英会よりはるかによい。（三千円、八千円）資金も貸与でなくて支給であり、ヒモツキではないという。全国で山岡奨学生が三九〇名、奨学金支給年間七千万円とかいう話だった。

池田学長初登庁とのこと。

11月10日（火）

午前中の講義をすませて帰宅。

新学長による初の部局長会議評議会ではあったが、出席するほどのテーマはないらしいので欠席した。

ツツジを玄関先の道に植えかえる。鯉は猫にとられることは確からしいが何かの原因で弱って浮き上がるせいであることがわかった。二匹を洗濯たらいにすくい上げて隔離し水を改めてみるがどうも効果があらわれず腹を上にして泳いだり、狂ったようにはねまわる。

夜、安部夫妻が来てマージャンをして遊ぶ。

秋嵐ともいうべき天気。雷、雨、風。

教養部で全共闘、民青武装衝突、数名の負傷、民青側三名逮捕さる。池田体制下初の警官導入。

11月11日（水）

ドゴール大統領がパリ時間で九日午後死去したと朝刊のニュース。

学生課長から電話があり、教養部では昨日につづき今日も全共闘対民青の衝突がおこりそうだということで、二時半に登校。九時まで。全共闘は沖縄国政参加選挙粉砕のためのストライキと同盟登校を目ざして代議員会を開いている。しめ出された民青は正門付近で授業料値上げ反対を叫んで代議員会に威圧を加えようとしている。沖縄の選挙は肯定、勝利を叫ぶ。七時半頃には民青側は西署に抗議デモをかけに出かけたので衝突懸念の山は過ぎた。こういうことに多数の教官を動員待機させるという構えはどうかと思う。万一の場合は警官を呼ぶしか能がないのに。

11月12日（木）

植木屋が来て鯉が七～八尾死んだので補充のために買いこんだ赤六尾ともう一尾がこの三四日のうちに全部死んでしまった。狂い死にである。猫の食ったのも狂っているところを捕らえたのだろう。狂う原因がわからない、大気汚染だろうか。

11月13日（金）

講義を終えて帰宅し、原稿を書く。教養部内では全共闘系の学生大会と、これに対立する民青の動きとで、教官側は緊張している。警戒体制に入りこまないで帰宅するのも気がひけるが、居残っていてもどうしようもない。教官たちはこういう体制に自己を投ずることに何の抵抗もなくなりつつあるようである。不平はあろうが、何の解決策の提案ともなってはねかえってこない。月曜日の生協交渉の下準備の意味もあって厚生課長に電話した（夜分ではあったが。）

池の鯉がその後も死んで、すでに四尾生存するだけ。

11月14日（土）

午後生協交渉のための事前打ちあわせ事務局会議。このあと生協代表と下うちあわせ。

正門前の古本屋に寄る。

博多荘で協会支局委員会。午後七時から一〇時まで。

大坪報告

八丁報告



奥田八二日記（連用）（1970年）

二ヵ年計画のびなやみ検討の課題。班協のあり方を再検討すべきであろう。

11月15日（日）

寒い一日。

支局委員会に一時間出席。中坐して中央高校で開かれている高教組教研、商業分科会に出席。午後四時まで。

植木屋の藤本氏来る。

大きな緋鯉も死んだ。あと二尾。

夜直美は七五三の着物を着せてもらってうれしがっている。

毛筆で論語の巻首を書写してみる。

11月16日（月）

鳥飼公民館婦人学級。午前中。

午後生協交渉。

あと寮生を呼び滞納督促。

理論戦線グループ研究会。（拙宅）午後六時半～十時、社会主義協会の歴史について。

真鯉の大きなのも死んだ。特別の病気のせいらしい。要するに全滅。あと錦が一尾だけ。

昨日の沖縄国政参加選挙結果、自民二、人民一、社会一、社大一。参院の方は無所属革新統一と自民二名が当選。

11月17日（火）

午前中講義。

午後胃の検診、医学部病院。

ミレー展（県文化会館）をみる。

旅館梅乃、知事選準備のための世論調査作業をしている政審、島津氏らを訪う。中央大学横山教授、党中央、自治労からの来援。

午後五時から寮生交渉。

寮生は八五万円の寮費滞納をかかえ、暖房費国庫負担を要求している。ただし、当面の斗争の重点を授業料値上阻止におき、寮交渉にこれを持ち出している。

今日の評議会では学生部長選出手続きの大綱が決定されたという。経済学部長（都留）が、学生部は学生保護の立場にありながらむしろ検察官的になっている、そのような学生部なら無用だといったという。お粗末というか軽薄というか、あわれな思想である。経済学部は学長選投票箱事件をホオカムリするだろうと私が予言した通り不問に付している。学生部はこの種事件の学生の保護者でないことは確かである。

11月18日（水）

医学部内科病棟建設につき反対派学生排除のため早朝警察隊導入。

池田学長に会見。学生部のかかえている基本問題について意見開陳。

二日市天拝荘でおこなわれている高教組教研、進路指導分科会に出席。午後四時中坐して八幡地区労働学校へ。終って渡口氏らと例によって歓談。彼は安川を退職して浪人中という。北九で生活協同組合の運動をしたらどうかという話になった。彼は乗気のように。辻君が中心になって労働学校をリードしている。渡口はサークル活動面に熱意がある模様。

11月19日（木）

高教組教研昨日のつづき。

午後二時中坐して帰福。三時からの参与会へ。次期学生部長当番ブロックは文系地区と決定。医地区、箱崎地区の順。部局長会議では医地区に一週間の警官駐留を決定。

参与会のあと寮務委員会。一昨日の寮生交渉の結果、寮生代表のアピールをきき、要求諸項目を順次審議。午後八時終了。

両課長と小ひろに行く。

この丘が切り開かれていたが、ゴルフ練習場として完成、今日から早速店開きらしい。ひまができたなら行ってもいいと思っている。

11月20日（金）

講義。

教養部長ら全共闘系学生数十名によって第三会議室に詰め込まれ、ヘルメット禁止につき難詰されること二時間余。ヘルメットは思想性をあらわすものであるならば禁止しないという結論に達し軟禁は解除。（午後六時半まで）

このあと「かわさき」に行く。文部省から乾学術課長補佐が来たので、旧交をあたためるための宴席。池田学長も列席。

11月21日（土）

勤続二〇年の表彰式に列席のため、記念講堂にスクールバスで到着したら、松原寮の強制捜査だということで、式は出席せず寮の捜査に立ち合う。若干の抵抗はあったが終ったのは十二時頃。田島寮一、松原寮二名が対象で、十一月一〇日の教養部での内ゲバの時の被逮捕に対する凶器準備集合罪その他の疑い。いずれも民青系。このあと、学生部係長らの有志で私の二〇年勤続祝賀会。（部長室）このあと拙宅に来てマージャン会。小林、千々岩、井上、谷口、高野。

次期学生部長は法学部から出すよう文系四学部の抽籤で決まったという。法学部は今回の学生部長選出手続きの改正にはことごとくに反対していたのに、運とはいえ、妙なめぐり合わ

せになったものだ。

11月22日（日）

昨日の国連総会本会議で中国復帰国府追放のアルバニア決議案が過半数をえた。重要事項指定案表決にはばまれてはいるものの、中国問題が今後国際問題に大きな影響をもたらすことは必定である。

原稿を書くため登校しがてらに近くのゴルフセンターをみて通る。ずいぶん開けたものだ。ニクソン佐藤、日米共同声明一周年で全学連系が東京に出て留守の間にカクマルが教養部校内デモ。教養部の緊張はつづいている。

午後二時から六時すぎまで白水氏関係マーじゃんにさそわれた。

夜、かなり原稿を進めた。

【「中国復帰、蔣政権追放」案評決の変遷」「重要事項指定」案評決の変遷」（掲載紙不明）の切り抜き挿入】

11月23日（月）

雨が降っているが、みゆきと直美は約束どおり浮羽に柿狩りに出かけた。私は昨日のつづきで、八月末の九重で開かれた学生部中級研修会の講義要録の原稿を書いた。午後早目に完成。雲重く雨は止む。

夜九時五二分の列車（さんべ3号）で国労米子地本のために米子に行く。

11月24日（火）

米子、皆生の弓ヶ浜荘に着いたのは七時半すぎだった。朝食をとり湯をあび原稿の整理で時間を待った。十一時すぎには国労米子地本の役員四名が来て中食の会食。午後一時から六時まで講演。私のパンフレット「体制的合理化と労働運動」を使用。国鉄一六万五千人の合理化、第二国鉄案、地方自治体への赤字路線経営移譲案など国鉄合理化をめぐる論議が盛んなのと、この米子地本は山陰左翼労組のチャンピオンであるのと、そうしたことで、二〇才を越したばかりの青年労働者たちの聴講態度は真剣だった。この付近の浜の松を觀賞したかったが時機がなかった。夕食は国鉄共済の松風荘でとり、ここでも湯をあびて、九時四八分の夜行列車で博多へ。（さんべ三号）

11月25日（水）

帰宅して朝食をすませたところで学生課長から電話あり、急ぎ本部へ行き、松原寮の第二回目の捜査に立ち合う。理学部〇〇という学生。

十二時五分の列車で次長、課長（久綱）の二人と佐賀へ。葉がくれ荘で九州地区国立大学学

生部長会議。厚生補導研究会が引きつづいておこなわれる。退屈な年中行事である。夜の懇親会も型どおりすませ、明日のこともあるので宿泊せずに帰る。

米子からみやげにもらった松葉かきを食べに来るように案内したらしく中島敏子さんが来宅していた。

三島由紀夫が十一時すぎに陸上自衛隊東部方面総監部へ五人で斬り込み割腹自殺したというニュース。

11月26日（木）

入試実施委のとき大原君の話では昨日社会科教室全員に対しておこなわれた部落問題関係者の追及はかなりはげしいものがあったそうだ。昨夜からかなり雨が降った。

新聞には三島由紀夫の狂死犯行に関する記事が多い。右翼の一部がショックをうけて上京しはじめたとの記事もある。少し大げさすぎはしないか。

今朝の池を見たら鯉がなくなっていた。みゆきの話では最後の一匹が死んだという。

みゆきの案でジュウタンを買っているので座敷にひいてみた。もう少し大きければいいのに。

11月27日（金）雨

講義。

協会事務局にゆくと、須郷君から月報新年号の名刺広告のことで九州各地の労組に電話することをたのまれた。「現代の革新」センターから嶋崎、正村、の二人がきて問研の者たちと共同討議をやった。六時～一〇時、黒田荘。

正村氏の改良闘争という問題提起に議論が集中した。参会者は四十五人ぐらいで盛会というべきだった。あとで大学関係者中心で正村氏を囲んで小ひろまで行って懇談夕食した。

社党議席の激減から問題をときおこし、自民党にも集まらぬ票を再び社会党に集めるにはどうしたらよいか（革命よりも改良を）という発想と思われるが、この発想それ自体に単に票集め的な誤りがあるように思える。資本主義は変わったとか、改良を受け入れる余地があるとか、生産力発展の可能性を以前は信じないで窮乏論のうえに革命戦略を立てていたとか、そういう反省の仕方が、かえって革新の発展を妨げることになるのではないか。改良の裏に改悪あることを忘れてはいないか。

11月28日（土）

学生相談所の勤労学徒表彰式。

あとの懇談会がすんで教養部に行ったら、結局例のメンバーでマージャンをすることになってしまった。

11月29日（日）寒波来る。風強し。

鳥栖市職の労働講座。吉井の筑水荘、賃金の話。朝迎えにきてもらって、車で行く。

午後早目に博多に着く。社会問題月報新年号の原稿に着手。

夕方、媒酌人に頼まれて、婚約者船越莞太郎君と武藤裕子君の両氏が来訪。彼氏の方は福岡中央郵便局における労働組合運動指導者として早くからの知己。媒酌依頼は二週間ほど前から芳井君から受けていた。彼女の方は知らないが、電話局勤務ということだから親近感ももちうる。二人とも二九才、二八才というところから、落付きが見える。

11月30日（月）

在宅。月報の原稿を書く。

寒波がつづき、ゆうべは雪さえちらついた。

明日、西日本地区国立大学学生会館協議会が九大の当番で開かれる。関係課長、次長、学生部長、事務局長が来福、文部省からも。平和楼で六時から八時すぎまで懇親会。

このあと、西日本新聞の古賀記者と面会の約束。喫茶店で十時まで、学生部長退任に際しての感想など話す。久綱氏とあい、流れのあとを六本松の林としているというのでそこに行く。誰もついてこなかった。久綱氏は高校、大学時代のマルクスかぶれの話をし、教壇生活に入るべきだったとつくづく述懐した。十二時帰宅。

12月1日（火）

一回目の講義だけ、それも九時四〇分頃までやって会場同窓会館にかけつけた。今日、明日は西日本国立大学学生会館協議会。五〇余名参加。私が会議の議長をつとめねばならなかった。午後四時会を閉じ原鶴へ。泰泉閣。第二会場とはいうが、要するに事務局長もまじえた会議なので、慰労会である。例によって例のごとく宴会。

局長たちとマージャンをする。一泊。

12月2日（水）風強く小雨

泰泉閣を九時に出て、都府楼、太宰府天満宮を見学。十二時少し前博多駅につき、ここでスクールバスは各大学参会者とお別れをする。

学生部に行き、明日の参与会の運び方について打ち合わせる。

午後二時半からの教養部教授会では藤本（再選）、村瀬の二名の参与を選出した。

太宰府の道は雨にぬれた。筆を大小三本買い、墨も一本買う。

12月3日（木）

参与会で法学部徳本教授を次期学生部長候補と決定。

二人制参与会のあり方を審議。

あと乾杯。——みつきに流れていく。

月報原稿を渡す。（新年号）

12月4日（金）

講義。

植木屋の藤本氏がきて松を植えかえる。

名古屋へ。金星号、午後六時五〇分発。

協会東海支局東山オルグ関係。

12月5日（土）

朝六時すぎ名古屋着。駅で読書。

午後一時、東山全国オルグに伴われて一の宮市勤労会館。稲沢国労関係、改憲阻止青年会議  
オルグ。

午後八時東海市、愛知製鋼の寮、社青同オルグ。

12月6日（日）

石川島播磨造船名古屋労組の全造船を守る会十数名に対するオルグげきれい。（午前十一時  
～午後五時）金山橋からタクシーで某旅館で。

終わって名古屋駅付近で名大学生協会員オルグ。国労協会員オルグ。

午後十時四二分特急寝台金星で博多へ。

12月7日（月）

十時すぎ予定通り博多に着く。

鳥飼公民館くらしの学級。

午後、学友会の中執反帝の奥ら二人研究室に来て九文連行事再開のための交渉にくる。努力  
はしてみると約束する。後任学生部長に対する引継事項とする。

夜、八仙閣で水曜会（九大本部職員会）の忘年会。あと小ひろ。

小林、千原の二人は、私と奥との約束は不可能事であると立腹している。

12月8日（火）

講義。

池田学長に面会を求め、学内秩序維持の方針をきめるように要望した。この方面のことは今  
までウヤムヤにされてきており、学生部長を退く際の心残りになるから。学部々局長会議の  
あと研究室に帰り「社会主義」の原稿を書く。

12月9日（水）

登校して昨日のつづき原稿を書く。

二時半、書き終わって、九大病院に行き定期健康診断を受ける。尿の検査で糖がプラス三。疲労か糖尿病か。帰りに協会に寄り、原稿を点検して投函。あと、大坪、八丁、中山らと夕食、よせ鍋をつつく。

みゆきが調子が悪いという。頭痛やら下痢やら。

一彦からハガキが来た。ボーナスが出たという手紙である。私が三〇万円で四月入社の一彦が一三万円ということになる。ボーナスが少なすぎるというボヤキが研究室できかれる。

郵便料金の値上げがある様子。

12月10日（木）

午後学生部長事務引きつぎ。

夜池田学長に西鉄グランドホテルレストランに招れた。新旧学生部長の送迎の意味。十一時半まで歓談。

慰労の意味で海外遊学に特別枠を設けようとの話が出ているとのこと。これは中村評議員からも今日の池田学長の口からももらされた。

行けるなら一家全部で行く計画を立てねばならないだろう。明年九月を目標に。

12月11日（金）

講義。

「婦人解放」の原稿を書き、渡す。

パンフの原稿点検。あと二日で書き終わらねばならぬ。一寸困難。

12月12日（土）

登校して原稿の点検。

夕方からはマージャン会になってしまった。

夜上田幾彦氏に電話。彼はベルンに行くという話。私のことも聞いたらしくて彼から留守の間に電話があっていた。ヨーロッパで教授会でも聞こうと彼はいう。緒方君もミュンヘンに行くといっているとか。

12月13日（日）

登校して原稿書き。夜九時まで精励した。ようやく見とおしがついてきた。

アラレ、雨、風。

12月14日（月）

問研パンフの原稿、およそ出来上がる。二一六枚になったが、不完全さと不足を感ずる。教授会あり。学生大会を認める。（水曜午後）学生部長退任のあいさつをする。

12月15日（火）

部局長会議、評議会で退任あいさつ。

小林、千々岩、井上の三人づれと天神センター横丁一福で最後の別れ。六本松の“はやし”に寄ったりしていると午前様になってしまった。

部局長会議では、私の海外留学の件はいい方向で決まったらしい。

12月16日（水）

問研パンフの原稿を一応渡したがあと五〇枚ほど書き足すこととなる。

十一時琥珀で船越君の母と落ちあう。みゆきも来ていて、武藤さん宅に行く日取りを二十三日（大安）の日ときめる。

新旧学生部長交替のあいさつまわり。新聞社と警察。午後たっぷりかかった。

12月17日（木）

問研パンフ原稿を進める。

在外研究の計画書を出すことになるがまだ迷いは消えない。二、三日考えてみることにしよう。

12月18日（金）

講義。

校正刷のこと、問研パンフのことで大平君が来室。

学生部忘年会。龍鳳、小ひろ、月世界。

夜行列車で静岡へ。高野君が夜半の博多駅まで送ってきてくれた。学生部の皆さんとはいよいよ最後の別れとなった。

12月19日（土）

朝名古屋のりかえ、正午頃新幹線で静岡着。桜井君の迎えで駅前、魚与旅館に休憩。

夜県評会館（駅南口）で講演。あとで杉山金夫君と酒屋（魚与の近く喜楽？）で十一時頃まで飲む。

桜井規順君は協会にも再建にもつかず何とか要領よくやっているが、このままでは民同幹部的な政治屋になってしまうのではないだろうか。



12月20日（日）

朝十時までに朝田君の案内で沼津へ。労働会館で講演。沼津では協会が伸びる。静岡県の改憲阻止青年会議の組織のあり方について講演のあとでかなり突込んだ議論をした。静岡では改憲阻止と雑多な青年の要求を実現する会とが一つ名称で組織されようとしているがこれは改めた方がよくないのかということ。改憲阻止一本でいく方がよいということ、また改憲阻止は社青同そのものとも同一ではないことなどを力説した。再建派が無原則なのでこういう問題がおこるのである。

12月21日（月）

午後三時まで問研パンフの最終部分の原稿書き書き終る。  
秋沢先生を宅に訪問、朝田君随伴。夕食ごちそうになる。  
午後七桜井君の迎えの車で清水市教育会館着。  
こんどの静岡旅行はかなりの収穫があったと思う。社会主義運動なるものをしっかり主張した。とくに清水の市議候補浅沼氏を囲むグループには発車の時間まで運動論を十分に説くことができた。  
清水は静岡県協会の中心地豊年製油の金沢君がよくやっている。だが、静岡県にはもう一つ力のある中心人物が見あたらない。

12月22日（火）小雨

一時限目に間にあうように全日空大阪発第一便で板付着。  
講義。  
問研パンフの原稿最終部分の点検を終る。二六五枚。  
夜年賀状を書こうとしていたら中島敏子さん来訪。  
在外研究について、最後をストックホルム一五日、とすることにして書類提出を決定した。

12月23日（水）

船越君の結婚につき花嫁のうち武藤家を訪う。（倉瀬戸）こじんまりしたきれいなうちで裕子君と両親が迎えてくれ、同伴のみゆき、それと本人の彼。午後一時半頃から三時すぎまで話をした。式は明年三月七日の予定。  
教授会。あとで教養部長のイニシヤでみんな一ぱいやったようだ。職組はクリスマスパーティーを一日早く、つづきとしてやった。その流れが六本松付近を夜おそくまでにきわした。私は教授会を途中で切り上げ「すくらむ」の原稿を書いた。書き上げて投函し、六本松付近の二次会、三次会とおつきあいをした。  
年賀状書きが気がかり。

12月24日(木)

年賀状書き。

何のへんてつもないクリスマスイヴ。

労働旬報社の川崎氏から電話あり。印税の支払いは三九万円あるが本月から三万円ずつ月賦で払いたいと申入れてきた。異論をとнаえてみても仕方がないので、しっかりやれというはげましの言葉を与えて条件をOKした。明けたら中央常任委があるときに東京でよく話し合ってみることとする。

他方、生協は理事長手当の残額を支払うとって倉富氏が三万円もって来た。全くいい加減なことだったので三万円は受取った上で、従来の未払いの内容をよく伝えた。三万円に二万円を追加し五万円にして書籍部の未納分の内金を払った。

12月25日(金)

みゆき、直美、天神に中食に伴う。

年賀状投函。

豊和相互銀行の返済残金一〇万円を立替え支払う。協会に立ち寄ったら八丁君が日放労ストライキ団の教育会館三階大ホールでの決起大会における講演に、身代わりになってくれとのことなので、飛入りの的に演壇に立つ。所得政策を中心にしたテーマ。

一年中の切手を整理。夜おそくなった。

12月26日(土)

教養部社会科教官の忘年会。須恵町の割烹大間。欠席者は外遊中の深山のほか、川口、中村、衣笠、斎藤。教室の大西、城戸の二女性が特別参加。マイクロバスで迎送してくれた。二次会は天神の「赤とんぼ」。

一日中強い冷い風が吹いた。

年末には毎日が急ぎ足で去ってゆく感じ。

朝教養部から電話あり、外遊の国をどこにするかでまた訂正。こんどはスウェーデンをやめて英一独一仏一伊とする、あとの三国は各々一〇日ずつ。

吉村君がまだ赤ちゃんが生まれないとっていたとか。歳暮にビールと鮭をもってきている。大へんな気のつかいよう。

12月27日(日)

社会タイムスから依頼の所得政策論議をめぐる問題についての原稿、一日がかりで書く。(日曜日の研究室)夜九時に中央郵便局に投函。

12月28日（月）

問研事務局は月報一月号の発送でごったがえしている。大坪、西川の両君と田川へ。朝鮮人国籍書きかえ問題取材のための座談会をこちらが企画、午後三時半から五時半まで。現地は滝井、倉重、白石、高村、梅崎、それに問題の焦点に立っている李氏。社会党、共産党、地区労、市職労の四者共闘が部落解放同盟、朝鮮総連の二者を加えた六者に発展している。県は田川市長を相手どって訴訟をおこしている。滝井氏はやればやるほど根の深い問題だといいい、白石氏はとことんやらないと展望は開けないといいい、高村氏は革命的運動とはこういう運動をさす、と張り切っている。協会員の活動として括目しなければならぬ運動である。田川から帰福したら七時四〇分だったが、すぐ、福新楼で開かれている問研の忘年会に参加。二次会は吉瀬君と小ひろに行き、結構午前さまになってしまった。家に着いたら一彦が帰省していた。直美がエンピツ削り機を買ってもらったとか、カラーテレビを発注してしまったとか、話し込んでいると、就寝は午前三時になってしまった。大会社の労務管理、組合対策の話をきいていると、産報化している様子がうかがえて興味深いものがあった。

12月29日（火）

東条夫妻がくるというので、島津、阿部両氏に連絡して今晚は三家族がやってくることにした。スキヤキをつつく忘年会。マージャン会になってにぎやかなことだった。

中西忍君のところに寿美子さんが行って、同家店舗完成の内祝コーヒ茶碗セットをことずかって来てくれた。

午前中はうちの周囲のゴミを焼く。午後は研究室に行き、ユネスコ関係の仕事をもう一度出して来て、これまで書いた原稿を読みかえしてみる仕事をする。中断のブランクを埋める時間的ロスは大い。

前期の試験の採点も残っているし周辺の仕事はなかなか多い。

カラーテレビが好調そうである。

12月30日（水）

研究室に来て、書きかけた九州文化史の原稿一〇〇枚ほどを読みかえただけで、誘われてマージャンをすることになってしまった。

午前中は藤本氏が石を運んできて、庭石で手洗遣水を作る作業をするのにつきあった。みゆきが職人はカネを取って仕事はしないとプリプリいっていた。一〇時頃にきて四時頃には仕事を残したまま帰ったから。しかし、そんなことだろうと言っておいた。池を作りかえる方向でやっている。

中西忍君に電話した。何だか営業の方でキリキリ舞いをしている様子。道路端の店舗がかなり売上げにプラスになっているような話。

法律文化社から例の手帳を送ってきた。

12月31日(木)

ともあれ暮れた。

研究室に出たが仕事ははかどらなかった。買物を若干しておそくない時間に帰宅。

補遺

原稿執筆

一九七〇年＝一四四七枚(十二月一日)

1. 繁栄のなかの貧困(問研パンフ) 二〇〇字×約三八〇枚 二月七日
2. 春闘(社会タイムス連載)三回分 二五枚 二月三日
3. 右に同じ 八枚 二月二二日
4. 七〇年国家予算の特徴と性格 四八枚 二月二三日
5. 問研パンフ 1の「はしがき」 二〇〇×一五枚 二月二七日
6. 社タイ連載 第五回 二〇〇×八枚 二月二八日
7. 「社会主義」四月号原稿 二〇〇×五〇 三月一〇日
8. 福祉国家論 合化労連 二〇〇×五〇 三月一三日
9. 社タイ連載 第六回 三月一六日 二〇〇×八枚
10. 社会タイムス(第八回) 二〇〇×八枚 三月三〇日
11. 「すくらむ」安保物価 二〇〇×一五枚 四月七日
12. 学生部 新入生におくる 二〇〇×六枚 四月六日
13. 協会大会議案一部担当 二〇〇×二〇枚 四月一〇日
14. 社会タイムス 一〇回目 二〇〇×八枚 四月一日
15. 社会タイムス 一一、一二回 二〇〇×一六枚 四月一九日
16. 学生部厚生補導研究会事業報告書まえがき、昨年と同じ 二〇〇×一〇枚 四月二四日
17. 「社会主義」赤軍派日航機乗取り学生の手記に対する匿名原稿 二〇〇×二〇枚 四月二四日
18. 七〇年代体制的合理化の特徴 問研月報 二〇〇×五四枚 五月二〇日
19. 運動論の現状とレーニンの労働組合論 月刊「こくろう」 二〇〇×六四枚 六月一日
20. 七〇年春闘の経過と総括 労旬、賃金と社会保障誌 二〇〇字×九六枚 六月十二日
21. 口述、地方自治体斗争 「社会主義」 二〇〇×五〇枚 六月六日
22. 七〇年公務員賃斗の課題 月報 二〇〇×四九枚 六月一八日
23. 三池争議仮処分判決について、毎日新聞、西日本新聞 六月二七日  
同、社会タイムス 二〇〇×六枚 六月二八日
24. 社会保障政策の基調と斗争の方向 月報八月号 二〇〇×六六枚 七月一五日
25. 福祉国家論批判、社会主義九月号 二〇〇×一〇一枚 八月五日

26. 人事院勧告について 月報九月号 32枚 八月十六日
27. 一億総責任論？ 一〇枚 八月十六日 （月報に寄せるつもりである）
28. 最近の教育動向と婦人 “婦人解放” 二〇〇×一七枚 八月一八日
29. 青年労働者のための人生観 月報 二〇〇×四八枚 十月一日
30. 大学と学生問題 十一月二三日（八月末九重にておこなった研修会講演要旨）二〇〇字  
×三七枚
31. 新しい窮乏と春斗 十二月三日 月報 二〇〇×五三枚
32. 社会主義協会の発展のために、社会主義一月号 二〇〇×五八枚 十二月九日
33. 二重価格について、 “婦人解放” 二〇〇×一一枚 十二月一日
34. 新しい窮乏と所得政策 二〇〇×二六五枚 問研パンフ 十二月二十二日
35. 大幅賃金と賃金合理化 “すくらむ” 二月号 十二月二十三日 二〇〇×三〇枚
36. 所得政策 社会タイムス、三回分 二〇〇×三〇枚 十二月二十七日

重要事項

45年

|  |         |
|--|---------|
| ○松原寮医学部学生秦君リンチ事件に関する現場検証                 | 一月十三日   |
| ○田島寮反帝派学生に対する革マル派学生の奪還襲撃破壊事件             | 一月十四日   |
| ○東大「安田城」解放一周年、教養部中央掲示板前で革マルをめぐる乱闘、学生市内デモ | 一月十九日   |
| ○教養部封鎖破壊につき告訴                            | 一月三十一日  |
| ○沖縄闘争全国統一行動、教養部一日スト                      | 二月四日    |
| ○中央常任委員会                                 | 二月十、十一日 |
| ○国産人工衛星おおすみ軌道にのる（世界第四の国という）              | 二月十二日   |
| ○代々木、反代々木学生が教養部をめぐる対立、機動隊導入              | 二月二三日   |
| ○中央常任委員会                                 | 三月二八、九日 |
| ○日航機（よど号）乗取り事件                           | 三月三十一日  |
| ○大阪市ガス爆発で七〇余名死亡                          | 四月八日    |
| ○蜷川京都府知事大勝し六選さる                          | 四月十三日   |
| ○社会党大会に反戦系乱入                             | 四月二〇日   |
| ○中共人工衛星打上げ成功                             | 四月二五日   |
| ○協会第一〇回定期全国大会                            | 五月三～五日  |
| ○鈴木茂三郎氏死去                                | 五月七日    |
| ○米軍、南ベトナム軍カンボジア侵入                        |         |

|                                     |             |
|-------------------------------------|-------------|
| ○自治研首都圏大集会                          | 五月十一～四日     |
| ○安保自動延長、安保反対の高揚                     | 六月二〇～二三日    |
| ○スカルノ死亡 六九才                         | 六月二一日       |
| ○安保条約廃棄宣言、平和中立六・二三全国統一行動中央大集会、代々木公園 | 六月二三日       |
| ○三池争議解雇地位保全仮処分判決                    | 六月二七日       |
| ○協会支局委員会                            | 六月二八日       |
| ○協会中央委員会                            | 七月四、五日      |
| 家永裁判東京地裁で勝訴                         | 七月一七日       |
| ○学長選挙 池田教授(教育学部)                    | 一〇月一五日      |
| ○学生部長二ヶ月を目途に再選を決定                   | 九月二五日       |
| ○協会神奈川県支部問題、三名を除名と決定                | 一〇月二四日      |
| ○若田硯注文品到着                           | 一〇月十四日      |
| ○西の鯉の池ですべり打撲傷をうける                   | 一〇月九日       |
| ○七大学学生部長会議(稚内市)                     | 八月二四日       |
| ○ドゴール死去                             | フランス時刻一一月九日 |
| ○乾布摩擦をはじめ                           | 一〇月一七日      |
| ○池の鯉が次々に死ぬ                          | 十一月十五日      |
| ○沖縄国政参加選挙                           | 十一月十五日      |
| ○教養部長ヘルメット禁止事件で軟禁                   | 十一月二〇日      |
| ○勤続二〇年表彰                            | 十一月二一日      |
| ○中国復帰、国府追放アルバニア決議案国連で過半数となる         | 十一月二一日      |
| ○「現代の革新」報告討論会(黒田荘)                  | 十一月二七日      |
| ○三島由紀夫自殺                            | 十一月二五日      |
| ○在外研究の件、ほぼ内定                        | 十二月十五日      |
| ○学生部長退任(発令十六日)                      | 十二月十五日      |